

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第122集

池田B遺跡

平成11年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第122集

池田B遺跡

平成11年度東駿河湾環状道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



池田B遺跡（縄文遺構面）

序

東駿河湾環状道路は沼津・三島市街地の慢性的な交通渋滞を緩和し、伊豆地方へのアクセスの迅速化を目的として建設が予定されている。一方、三島市、長泉町を中心とした道路建設予定地は、多くの埋蔵文化財の包蔵地として知られており、平成2年より当研究所によって遺跡の緊急調査がおこなわれてきた。池田B遺跡もこういった遺跡のひとつで、平成10年8・9月の確認調査によって対象地域ほぼ全域に遺跡が広がることが確認されたため、同年10月～翌平成11年5月まで本格的調査がおこなわれた。

当遺跡は縄文時代早期前半～前期末を中心とした遺跡で、早期前半では、関東の撚糸文系土器群に対比される在地の撚糸文と縄文土器が出土している。調査の際検出された集石は、これら撚糸文系土器群に伴うと考えられており、掘り込みや焼土の痕跡も残されており、保存状態も良好である。また黒蠶石の剥片約200点が出土した小穴からは、押型文土器前半期の、胎土に纖維を含む大振りの山形文（押型文）が出土した。黒蠶石の剥片は大半が伊豆柏崎産で、石器石材として使用するためか、2～3cmの大きさに削られていた。

縄文時代早期末では、下吉井式期と考えられる住居跡を9基検出した。これらは谷を望むように弧を描いて配されており、形状は橢円～長橢円と不規則である。住居跡からは下吉井式以外の土器の出土が極めて少なく、短期間に形成されたものと考えられる。また石錐が多く出土しているのも当遺跡の特徴である。この時期の集落の検出は当地域では稀少で、資料的価値も大変大きい。

縄文時代前期末では、住居跡こそ1基を検出したのみであるが、十三苦提式土器とこれに並行する大歳山式土器がまとめて出土した。大歳山式土器は近畿地方に分布の中心を持つ土器で、胎土や器形に特徴があり、明らかに搬入品と考えられる。

以上のように、当遺跡には縄文時代前半期を中心として断続的に人々が生活していた痕跡が残されている。それぞれの遺構は時期が異なるために、有機的に結びつくことはないが、遺物と炭化物の年代測定法のクロスチェックによって遺構の帰属時期が正確におさえられた意義は大きい。

さて近年、汎日本的に開発行為に伴う埋蔵文化財の発掘調査が急増し、数多くの遺跡が消滅してきた。この中で、記録という形で保存・蓄積していく龐大な資料が、遺跡の理解と保護のために十分に活用されていくことを切に願うものである。

最後になったが、調査ならびに本書の作成にあたっては建設省をはじめとした関係機関各位に多大なる援助・協力をうけた。厚くお礼を申し上げる。またこの場をお借りして、現地調査・資料整理に参加した調査員・作業員の労をねぎらいたい。

平成12年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠

例　　言

- 1 本書は静岡県駿東郡長泉町下長宿字鉄平1118に所在する池田B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は平成10年8～9月に実施した第1次調査（試掘調査）の結果を受け、平成10年東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、建設省中部建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成10年10月から平成11年5月まで現地調査を実施した。
- 3 池田B遺跡の資料整理は平成11年6月より平成12年1月まで実施した。
- 4 調査体制は以下のとおりである。

試掘調査（平成10年度）

所長 斎藤 忠、常務理事 伊藤友雄、調査研究部長 石垣英夫、調査研究1課長 佐野五十三
調査研究員 前嶋秀張、笹原千賀子

本格的調査（平成10年度）

所長 斎藤 忠、常務理事 伊藤友雄、調査研究部長 石垣英夫、調査研究1課長 佐野五十三
調査研究員 留岡崇浩、笹原千賀子、井上隆（12月より）

本格的調査（平成11年度）

所長 斎藤 忠、副所長 山下 晃、常務理事 伊藤友雄、調査研究部長 佐藤達雄、
調査研究2課長 遠藤喜和、調査研究員 笹原千賀子、鈴木武幸

資料整理（平成11年度）

所長 斎藤 忠、副所長 山下 晃、常務理事 伊藤友雄、調査研究部長 佐藤達雄、
資料課課長 佐野五十三、調査研究員 笹原千賀子

- 5 作業の迅速化を図るため、石器の実測の一部を御シン技術コンサルに委託した。
- 6 本書の作成・執筆は、第1章を技術作業員・吉村たまみと笹原が、その他の部分を笹原が担当しておこなった。
- 7 本発掘調査にかかわる記録資料については、静岡県教育委員会文化課が保管している。
- 8 本書の編集は笹原がおこなった。

凡例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 調査区の方眼設定は、国家座標（平面直角座標VII系）の軸線を基準に、国家座標（-94250.0, 35650.0）=（A, 1）と設定した。
- 2 出土遺物は5桁の通し番号を付して取り上げた。
- 3 土器挿図中のNoは同一個体の場合数字の枝番としてアルファベットを用いた。
- 4 石器の実測は原則として第三角投影法に拠った。
- 5 出土遺物の実測図の縮尺は、原則として土器1/3、石器については挿図によって異なっているため全挿図にスケールを付している。
- 6 挿図の面図は、原則として北方向を面図の上とし、特別変更のある場合は方位により北方向を示した。縮尺は各図に示すとおりである。
- 7 本文中もしくは観察表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色調』（農林水産技術会議事務局監修 1992）を使用した。
- 8 本文中の遺構・遺物に関する標記は以下のとおりである。

層名		遺構	
Ku	栗色土層	NLa	ニセロームa
FBa	富士墨土層a	NLb	ニセロームb
FBb	富士墨土層b	BB II	第Ⅱ黒色帶
Zn	漸移層	SC II	第Ⅱスコリア層
YLU	休場層上位	BB III	第Ⅲ黒色帶
YLM	休場層中位	SC III a1	第Ⅲスコリア帯スコリア1
YLL	休場層下位	SC III b1	第Ⅲスコリア帯墨色帶1
BBO	休場層底下黒色帶	SC III b2	第Ⅲスコリア帯黒色帶2
SCI	第Ⅰスコリア層	SC III a4	第Ⅲスコリア帯スコリア4
BB I	第Ⅰ黒色帶		

岩石和名	岩石英名	略語	岩石和名	岩石英名	略語
ガラス質墨色安山岩	Glassy-Black-Andesite	GAN	流紋岩	Rhyolite	Rhy
黒輝石	Obsidian	Ob	滑石	Talc	Ta
フォルンフェルス	Hornfels	Hor	軟玉	Nephrite	Nep
頁岩	Shale	Sh	粘板岩	Slate	Sl
珪質頁岩	Siliceous-Shale	SSh	輝石安山岩	Pyroxene-Andesite	An(Py)
緑色凝灰岩	Green-Tuff	GT	角閃石安山岩	Hornblende-Andesite	An(Ho)
細粒安山岩	Fine-Grain-Andesite	FAn	安山岩質溶岩	Andesitic-Lava	La(An)
玄武岩	Basalt	Ba	玄武岩質溶岩	Basaltic-Lava	La(Ba)
無斑晶質安山岩	Aphyric-Andesite	AAAn	斑樣岩	Gabbro	Gb
砂岩(細粒)	Fine-Grained-Sandstone	FSS	細粒斑樣岩	Fine-Grain-Gabbro	FG
砂岩(中粒)	Medium-Sandstone	MSS	粗粒玄武岩	Dolerite	Do
粗粒砂岩	Coarse-Sandstone	CSS	輝綠凝灰岩	Schiststein	Set
斑質粘板岩	Siliceous-Slate	SSI	火山標凝灰岩	Lapilli tuff	LT

目 次

卷頭写真	
例 言	
凡 例	
第 I 章 調査の概要	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の方法	1
第 3 節 調査の経過	3
第 II 章 遺跡の概要	5
第 1 節 地理的・歴史的環境	5
第 2 節 基本土層と遺跡の土層堆積状況	8
第 III 章 旧石器時代の遺構と遺物	11
第 1 節 休場層直下黒色帶直上の遺構と遺物	12
第 2 節 休場層中の遺物	19
第 IV 章 縄文時代の遺構と遺物	23
第 1 節 遺構	23
第 2 節 遺構外出土の遺物	54
第 V 章 その他の時代の遺構と遺物	124
第 VI 章 調査の成果	127
黒耀石原産地分析計測結果一覧表	130
旧石器時代の出土石器一覧表	131
付録 静岡県池田 B 遺跡における放射性炭素年代測定	133
写真図版	

挿図目次

第1図 遺跡と周辺の地形	2	第39図 9号住居跡床面直上の遺物	38
第2図 グリッド配置と調査深度	3	第40図 9号住居跡覆土中の遺物	38
第3図 遺跡の位置	6	第41図 10号住居跡床面直上の遺物	38
第4図 地形と周辺の遺跡	7	第42図 10号住居跡覆土中の遺物	39
第5図 土層堆積状況	8	第43図 11号住居跡実測図(1/40)	40
第6図 基本土層柱状図	9	第44図 11号住居跡覆土中の遺物1	40
第7図 NL層出土遺物	11	第45図 11号住居跡覆土中の遺物2	41
第8図 BB0層直上の遺物出土状況図(1/300)	12	第46図 黒耀石埋納土坑実測図	45
第9図 BB0層遺物出土状況図1	13	第47図 黒耀石埋納土坑出土遺物1	45
第10図 BB0層遺物出土状況図2	13	第48図 黒耀石埋納土坑出土遺物2	46
第11図 BB0層遺物出土状況図3	14	第49図 土坑内出土石器縦横値	47
第12図 BB0層遺物出土状況図4	15	第50図 集石実測図1	48
第13図 BB0層遺物出土状況図5	16	第51図 集石実測図2	49
第14図 BB0層遺物出土状況図6	16	第52図 土坑実測図	50
第15図 BB0層出土石器1	18	第53図 集石遺構内出土遺物	51
第16図 BB0層出土石器2	19	第54図 土坑遺構内出土遺物	51
第17図 YL層の遺物出土状況図(1/800)	20	第55図 焼土跡実測図1	52
第18図 YL層出土石器1	21	第56図 焼土跡実測図2	53
第19図 YL層出土石器2	22	第57図 I群土器出土状況(1/800)	55
第20図 織文時代の遺構配置図(1/600)	24	第58図 I群a類土器1	56
第21図 1号住居跡実測図(1/40)	25	第59図 I群a類土器2	57
第22図 1号住居跡覆土中の遺物	25	第60図 I群a・b類土器	58
第23図 2号住居跡実測図(1/40)	26	第61図 I群b類土器1	59
第24図 2号住居跡覆土中の遺物	26	第62図 I群b類土器2	60
第25図 3号住居跡実測図(1/40)・出土遺物	27	第63図 II群土器出土状況(1/800)	61
第26図 4号住居跡実測図(1/40)	28	第64図 II群a類土器	62
第27図 4号住居跡床面直上の遺物	28	第65図 II群a・b類土器	63
第28図 4号住居跡覆土中の遺物	29	第66図 II群b類土器	64
第29図 5号住居跡実測図(1/40)	30	第67図 III群土器出土状況1(1/800)	65
第30図 5号住居跡床面直上出土の遺物	31	第68図 III群土器出土状況2(1/800)	66
第31図 5号住居跡覆土中の遺物1	31	第69図 III群a類土器	68
第32図 5号住居跡覆土中の遺物2	32	第70図 III群b・c・d類土器	69
第33図 6・8号住居跡実測図(1/40)	33	第71図 III群e類土器1	70
第34図 6号住居跡覆土中の遺物	35	第72図 III群e類土器2	71
第35図 8号住居跡覆土中の遺物	35	第73図 III群e類土器3	72
第36図 7号住居跡実測図(1/40)	36	第74図 III群g類土器	73
第37図 7号住居跡覆土中の遺物	36	第75図 IV群土器出土状況(1/800)	74
第38図 9・10号住居跡実測図(1/40)	37	第76図 IV群a類土器1	75

第77図	IV群 a 類土器 2	76	第98図	搔器・楔形石器	106
第78図	IV群 a 類土器 3	77	第99図	楔形石器・石製品	107
第79図	IV群 a 類土器 4	78	第100図	石核 1	108
第80図	IV群 b 類土器 1	79	第101図	石核 2	109
第81図	IV群 b 類土器 2	80	第102図	石斧 1	110
第82図	IV群 c 類土器	81	第103図	石斧 2	111
第83図	IV群 c・d 類土器	82	第104図	石斧 3	112
第84図	草創期の石器出土状況 (1/800)	91	第105図	石錐 1	113
第85図	槍先形尖頭器	92	第106図	石錐 2	114
第86図	槍先形尖頭器・有舌尖頭器	93	第107図	石錐 3	115
第87図	有舌尖頭器	94	第108図	磨石	116
第88図	縄文時代の石器出土状況 (1/800)	95	第109図	磨石・敲石 1	117
第89図	石鐵 1	97	第110図	磨石・敲石 2	118
第90図	石鐵 2	98	第111図	磨石・敲石・圓石	119
第91図	石鐵 3	99	第112図	圓石・磨石・石皿	120
第92図	石鐵 4	100	第113図	石皿・台石・敲石	121
第93図	石鐵 5	101	第114図	古代・中近世の遺構 (1/700)	124
第94図	石鐵 6	102	第115図	方形周溝状遺構実測図	125
第95図	石匕	103	第116図	方形周溝状遺構出土遺物	125
第96図	石匕・石錐	104	第117図	中近世の土坑	126
第97図	スクレイバー類	105	第118図	石蒸し料理の作り方	128

挿表目次

表1 工程表	4	表7 土坑計測表	52
表2 BB 0文化層石器計測表	17	表8 土器観察表	83
表3 休場層出土の石器計測表	20	表9 尖頭器計測表	94
表4 住居跡計測表	41	表10 縄文時代の石器計測表	122
表5 住居跡内出土遺物一覧表	41	表11 中近世土坑計測表	126
表6 土坑内出土石器計測表	47		

写真図版

図版1 (1) 住居跡全景		図版4 (1) 5号住居跡完掘状況	
(2) 方形周溝状遺構		(2) 5号住居跡遺物出土状況 1	
図版2 (1) 1号住居跡完掘状況		(3) 5号住居跡遺物出土状況 2	
(2) 2号住居跡完掘状況		図版5 (1) 6号住居跡完掘状況	
図版3 (1) 4号住居跡完掘状況		(2) 7号住居跡完掘状況	
(2) 4号住居跡遺物出土状況		図版6 (1) 8号住居跡完掘状況	
(3) 石斧出土状況		(2) 8号住居跡遺物出土状況	
(4) 耳飾出土状況		(3) 9号住居跡完掘状況	

- (4) 9号住居跡出土状況
- 図版7 (1) 10号住居跡完掘状況
(2) 11号住居跡完掘状況
- 図版8 (1) 1号集石出土状況
(2) 1号集石完掘状況
(3) 2号集石出土状況
(4) 2号集石完掘状況
(5) 3号集石出土状況
(6) 4号集石出土状況
(7) 6号集石出土状況
(8) 8号集石出土状況
- 図版9 (1) 5号集石出土状況
(2) 5号集石完掘状況
(3) 黒耀石埋納土坑検出状況
- 図版10 (1) 1号・2号礫群出土状況
(2) 9~12号礫群出土状況
(3) 6号・7号礫群出土状況
- 図版11 (1) 休場層直下黒色帶出土遺物
(2) 休場層出土遺物
- 図版12 (1) 尖頭器・有舌尖頭器
(2) 2号住居跡出土土器
(3) 6号住居跡出土土器
- 図版13 (1) 4号住居跡出土土器
(2) 7号・10号住居跡出土土器
- 図版14 (1) 5号住居跡出土土器
- (2) 9号住居跡出土土器
- 図版15 (1) 8号住居跡出土土器
(2) 11号住居跡出土土器
(3) I群a類土器
- 図版16 (1) I群b類土器1
(2) I群b類土器2
- 図版17 (1) II群土器1
(2) II群土器2
- 図版18 (1) III群土器
(2) III群e類土器
- 図版19 (1) IV群土器
- 図版20 (1) IV群b類土器
(2) IV群土器底部
(3) IV群土器底部
(4) IV群土器
(5) IV群土器底部
- 図版21 (1) III群土器
(2) IV群土器
(3) IV群土器
(4) IV群土器
(5) 方形周溝状遺構出土土器
- 図版22 (1) 石鎌・石斧・磨石・敲石
- 図版23 (1) 石匕
(2) 作業風景

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

静岡県東部、長泉町を含む沼津・三島地域は古くから東西を結ぶ重要地点として発達・発展してきた。現在は、御殿場・箱根・伊豆といった観光地への重要なアクセスポイントとなっている。また昭和39年には東海道新幹線が開通したこともあり、通勤圏が大幅に拡大し、大企業の工場進出が盛んになったのとあいまって、人口増加を引き起こした。それに伴う交通量の増加は著しく、現在、国道や市街地の主要道路は曜日・時間を問わず連日慢性的な渋滞となっている。

このような交通環境の悪化を解決するため、また国土の主軸上に位置するこの地域と伊豆地域を、第1、第2東名高速道路と接続し、高速交通体系から取り残された伊豆地域へ高速サービスを提供するために東駿河湾環状道路の建設が計画された。この東駿河湾環状道路は、沼津市岡宮から混雑の激しい沼津・三島市街を避け、国道1号バイパスから国道246号バイパスを経由し、三島市北東部の山間部を通過、熱海函南線の函南町平井に接続する総距離15kmの自動車専用道路である。

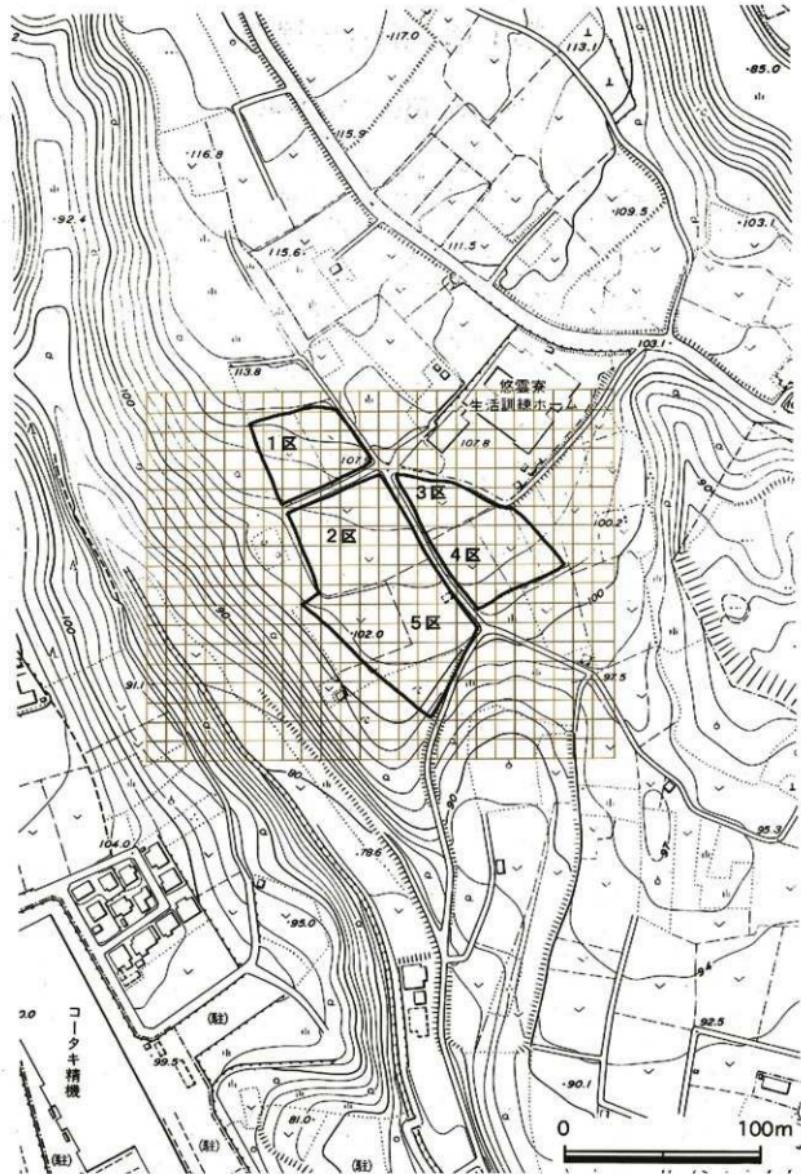
この東駿河湾環状道路建設予定地は、遺跡が点在する地域を通過する。特に愛鷹・箱根山麓は旧石器時代から弥生・古墳時代の地域史を語る上で外すことの出来ない遺跡集中地である。そのため、緊急発掘調査を行うべく、平成2年に路線予定地域の遺跡確認調査がおこなわれ、その結果周知の遺跡を含む31ヶ所が埋蔵文化財包蔵地として報告された。池田B遺跡は、周知の遺跡として報告されており平成10年8、9月に確認調査をおこない、縄文時代の遺跡範囲が確認されたため、建設省中部建設局沼津工事事務所、および静岡県教育委員会に報告し平成10年10月から翌平成11年5月まで本調査をおこなった。調査は記録保存を目的とし、調査機関として当研究所が、また指導機関として静岡県教育委員会文化課が担当した。

第2節 調査の方法

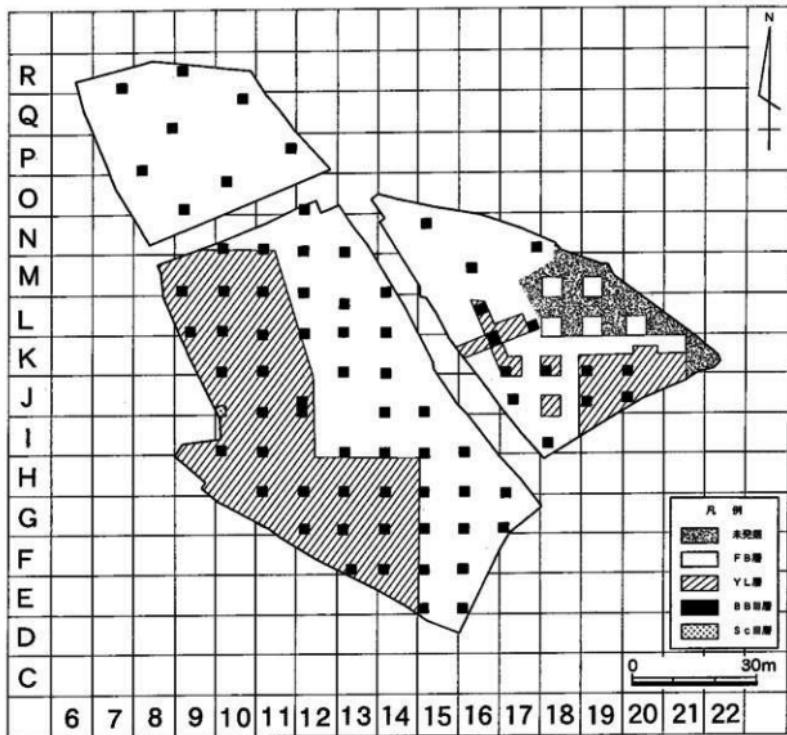
遺跡全体を把握するために、国家座標(X, Y) = (-94250.0, 35650.0) 上を(A, 0) の原点とし、X軸方向をアルファベット、Y軸方向に数字を付し遺跡全体に10mの方眼を設定してグリッドとした。地理座標に準じているため、南北方向にX軸を、東西方向にY軸をとっている。

調査区範囲には、南北方向に町道404号が、東西方向に町道405号が通っている。そのため、町道405号を境に北側を1区、町道404号を境に東側の北を2区、南を5区、西側の北を3区、南を4区とした。平成11年10月より縄文時代の調査を始めた。確認調査によって遺物はKu層・FB層から多く認められているという結果がでているため、表土のみ重機によって除去し、精査をおこなった。縄文時代の調査をした後、平成11年3月に旧石器時代の確認のため新たにテストピットを設定し調査を始めた。その結果、旧石器時代の遺物が3区西側半分と4区北西側に認められたため、2752m²を対象とし、平成11年4月からの2ヶ月間をかけて旧石器時代の調査をおこなった。

遺物の取り上げ、構造図は㈱シン技術コンサルの遺跡測量システムを用い、光波測定器によって測量をおこなった。遺物には層別に土器・石器=S, 磁=Rの略号と5桁の番号を付しX, Yの座標と標高(H)の記録とともにコンピューターに保管し、構造図も同様にコンピューター上で作成し、1/20の図面の打ち出しとともに保管している。また、断面図・細部図等については手実測でおこない、1/20~1/10の図面を保管している。



第1図 遺跡と周辺の地形(1/2500)



第2図 グリッド配置と調査深度(1/1200)

第3節 調査の経過

確認調査は平成10年8・9月の2ヶ月間、本調査は平成10年10月から翌平成11年5月まで、資料整理は本調査に引き続き平成11年6月から翌平成12年1月までおこなった。

確認調査は、池田B遺跡とその南側の鉄平遺跡の2カ所を並行しておこなった。池田B遺跡は縄文時代の遺物が非常に多く出土したため、旧石器時代の確認調査は建設省と文化課が協議した結果、本調査後おこなうことで合意した。

平成10年10月、まず表土を重機により除去した。表土除去が終わった町道405号を境に北側1区の精査に入った。西側半分は畑作により縄文層が搅乱されていたため遺物・遺構は検出されなかった。しかし、東側では少量の遺物が出土し、FB層の土坑2基が検出された。1区の縄文層の精査が終了した後、町道404号を境に西側の北2区の精査となった。その間平行して1区の旧石器時代の確認調査を始めた。2区は遺物の数が少なく遺構の検出も認められず、トレンチを設定した。FB層に若干の遺物が出土したがZn層にはほとんど出土しなかった。また、1区での旧石器時代の遺物・遺構は認められなかった。10月下旬には

旬、町道404号を境に西側の北3区の精査を始めた。多数の縄文時代早期～中期の土器が出土し、また黒曜石、磨・敲石の石器も出土した。また遺構としては集石が検出された。FB層まで精査をした後11月に入ってからは3区の南下4区の精査を始めた。4区北側は1区の西側と同様烟作により縄文層が擾乱されていたため、遺物・遺構の検出は少なかった。南側に関しては大変残りが良く、中近世のものと考えられる土坑なども検出された。また縄文時代の遺物が大変多く出土し、遺構としては住居跡・集石も検出された。4区からは1号・2号住居が検出された。12月中旬からは、3区の下層と4区の精査を平行しておこなった。遺物の出土・遺構の検出が大変多く、1日に遺物を1000点近く取り上げるという忙しい毎日だった。また4区では3号～5号住居が検出された。3号住居にはしっかりとした炉跡が、5号住居からは、床直上より下吉井式土器が出土した。平成11年1月は、引き続き3・4区の縄文層の調査を進めた。4区の6号～11号住居が検出された。6号住居には炉跡が、10号住居からは台石・柱穴が検出された。また、1月20日に3・4区の全景写真を撮影した。2月からは、2区の南下5区のテストピット掘削・精査を始め、3・4区の調査も続けられた。5区は全体に平均して少量の遺物が出土し、南側からは土坑が数基検出された。また、直径30cmほどの小ピット内より約200点の黒曜石が出土した。縄文時代前期の遺構としては11号住居が検出された。炉跡・柱穴もしっかりと検出された。3月は、3・4・5区の精査と平行してテストピットを設定し、旧石器時代の確認調査を始めた。その結果、3・4区西側より旧石器時代の遺物・遺構が認められたため、平成11年4・5月の2ヶ月をかけて旧石器時代の調査をおこなった。5区はYL層より土坑が3基検出されたが、遺物は出土しなかった。3・4区からは、遺物が少量と、礫群が9カ所、土坑・焼土跡が数多く検出された。精査はBB0層までおこなった。遺物の取り上げ、実測後5月25日をもって調査を終了した。

表1 工程表

	H10					H11					H12							
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
確認調査																		
本調査																		
資料整理																		



確認調査



表土除去作業



住居跡検出作業



礫群検出作業

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的・歴史的環境

池田B遺跡は静岡県駿東郡長泉町、愛鷹山南東麓の緩斜地に位置する。長泉町は裾野市、沼津市、清水町、三島市に囲まれた南北に長い町で、東名高速道路、国道246号バイパスが町を横断する。遺跡が立地する愛鷹山は、主峰の愛鷹岳が標高1187.5mを誇り、その裾部は裾野市、長泉町、沼津市、富士市にまたがり、西側では富士裾野が覆い、東側では長泉町を流れる黄瀬川によって分断される。長泉町内は、東側の黄瀬川扇状地を中心とする平地部分と、西側の愛鷹山の尾根にあたる丘陵部分に分かれ、この黄瀬川扇状地は箱根西麓の比較的急斜でやせ尾根のつづく山体と、愛鷹山麓のなだらかな広い山体との境界に位置している。愛鷹山と箱根山は古富士火山と新期富士火山を供給源とする火山灰で厚く覆われている。これらは愛鷹・箱根ローム層を形成し、中でも遺物を含む上部ローム層は立川ローム層に比定され、3~5mの堆積を誇る。このため旧石器時代~縄文時代の遺跡が数多く存在することが知られている。

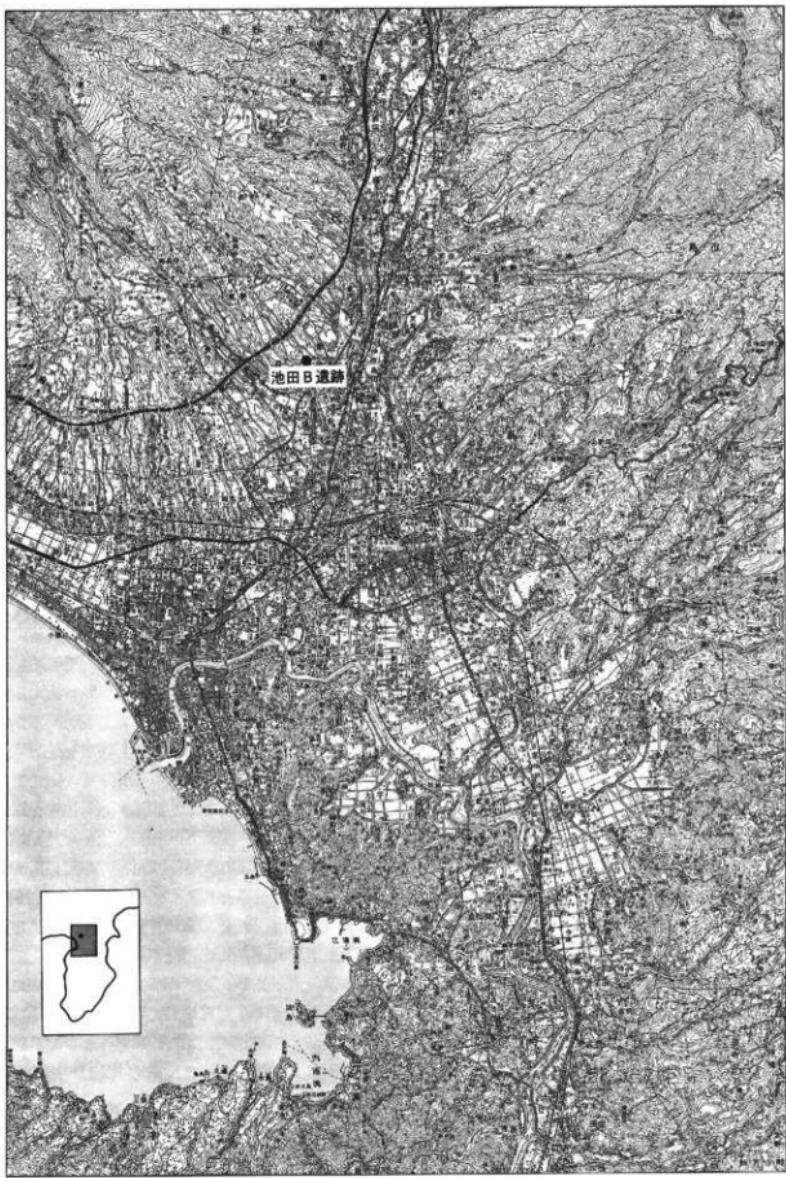
池田B遺跡の立地する尾根もまた標高約110m、尾根幅約200mのやや広い尾根で、緩やかな斜面は入り組んだU字状の小谷によって複雑に曲がり、樹根状となる。早期末の住居跡が検出された場所は遺跡の中でもこの小谷を見下ろす台地上にある。

さて、遺跡が立地する長泉町では東名高速道路、農地構造改善事業、住宅地・工業団地等の開発事業によって数多くの遺跡が発掘・消滅してきた。その中には地域史上重要なものも少なくない。

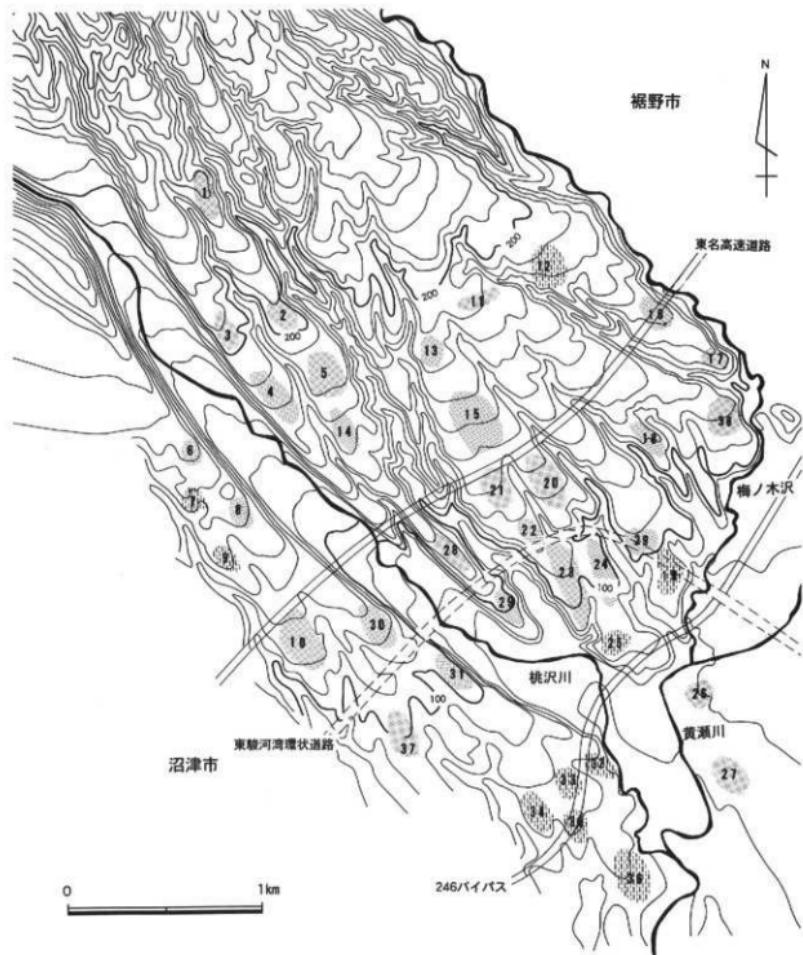
旧石器時代の遺跡としては、SCⅡ・BBⅢ層より西大曲遺跡第Ⅰ文化層、イラウネ遺跡において石刃系石器群（愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年・第2期）が出土している。BBⅠ層からは、西大曲遺跡、陣馬上B遺跡、イラウネ遺跡で尖頭器状石器、大型石刀、小型の搔器を特徴的に持つ石器群（第3期）が検出されている。休場層の石器群（第4期）としては中尾遺跡、陣馬上B遺跡、平畦遺跡、野台遺跡、八分平B遺跡があげられ、八分平B遺跡は尖頭器を主体とした石器群として知られている。また細石器文化に属する遺跡としては野台遺跡、中尾遺跡があげられ、野台遺跡では旧石器時代としては貴重な石團炉も検出された。

縄文時代の遺跡としては、尾尻遺跡と茶ノ木畑遺跡において草創期の土器が出土しているが、詳細は不明である。早期前半では中峰、陣馬上、平畦、上野、野台、イラウネ遺跡等で撚糸文系土器や押型文土器が出土しており、特に陣馬上B遺跡では口縁部裏側に文様が施される撚糸文系土器群が充実している。早期後半の条痕文系の土器群は中峰、上野、八分平、富士石、中尾、野台、イラウネ遺跡等で出土しており、中峰遺跡では入海式などの東海系の土器群も見られる。また前期の土器が出土している遺跡で代表的なものには柏窓、上野遺跡がある。特に柏窓遺跡では当遺跡でも出土している、十三菩提式、大歳山式土器が出土している。早期に比べて前期になると遺跡の占地に変わりはないが、遺跡数は減少する傾向がある。中期初頭の集落として著名なのは柏窓遺跡で、中期前半では西願寺、陣馬上、上山地、桜畑上遺跡が、後半では中峰、桜畑下、イラウネ遺跡などがある。中でも上山地遺跡では勝坂式期の住居跡が27軒検出されている。後期、晩期になると遺跡数は減少し、後期後半で池田遺跡、晩期では上野遺跡が挙げられるが、いずれも包含層の資料となり、遺物数も少ない。

当遺跡で検出された住居跡は早期末~前期初頭の下吉井式を中心としたものである。当該期の住居跡を県内で検出している遺跡は富士川町木島遺跡、沼津市清水柳北遺跡、三島市陰洞C遺跡などがあり、現在調査中の（仮称）第2東名長泉工区No.1地点でも、数件の住居跡が発見されたようである。



第3図 遺跡の位置(1/100000)



1 東細尾上	9 野台	17 手代	25 上野 B	33 平畦
2 東細尾	10 中峯	18 大峰 B	26 大久根	34 陣場上 B
3 西細尾 A	11 富士石	19 鉄平	27 山下	35 陣場上 A
4 西細尾 B	12 八分平 B	20 東野 II 橋下	28 山岸上 B	36 尾尻
5 東細尾 A	13 追平 A	21 中見代	29 山岸上 A	37 柏庄
6 上イラウネ B	14 東細尾 B	22 木戸	30 桜畠上	38 上山地
7 中尾	15 追平 B	23 茶木畠	31 桜畠下	39 池田 B
8 イラウネ	16 梅ノ木平	24 上野 E	32 西願寺	

第4図 地形と周辺の遺跡(1/25000)

第2節 基本土層と遺跡の土層堆積状況

1 概 観

愛鷹山麓を厚く覆う火山灰は富士山をその起源とし、遺跡・遺物を含む上部ローム層は古富士火山後期の活動によってもたらされた。上部ローム層は第6図で示したように、スコリア層と黒色帶の互層となって堆積しており、関東地方の立川ロームと対応する。

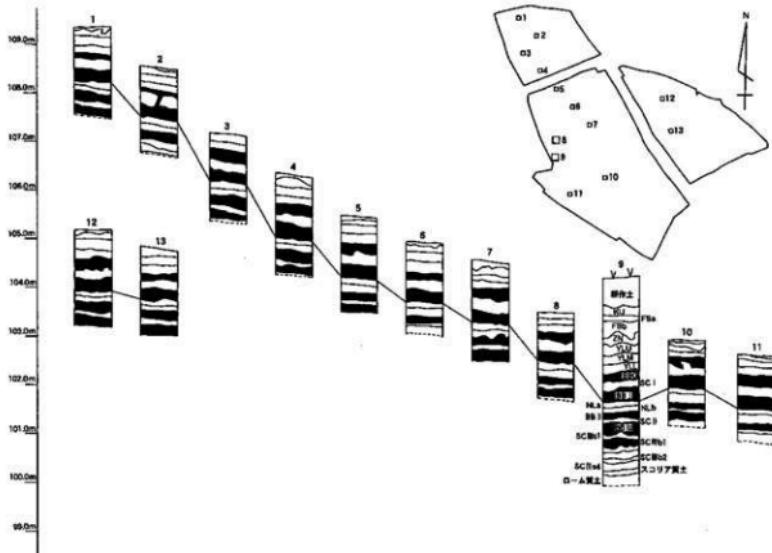
当遺跡の土層堆積状況は概ね良好であったが、後世の畑作による土地の改変で、グリッドH列は休場層の上層まで搅乱が及んでいた。また1区は富士黒土層のほとんどが失われていた。

遺跡全体は南西方向に向かって緩やかに傾斜している。土層は尾根の傾斜に沿って堆積しており、調査の結果開析作用を受けた形跡もなく、旧石器時代、縄文時代を通じて現在とほぼ同じような地形であったと考えられる。

2 基本土層と遺構・遺物

最も新しい遺構としては、中近世と考えられる土坑が検出されている。この包含層は耕作によって失われていたが、栗色土層や富士黒土層に掘り込む形で検出された。2層は栗色土層と呼ばれるもので、縄文時代前期から中期の遺物が主に出土した。この栗色土層は層全体に白色バミスを含み粘性がない。

3・4層は富士黒土層と呼ばれるもので、より黒色が強く粘性の少ないa層とやや明るく粘性のあるb層に分層が可能である。色調は漸移的に変化するが、粘性は比較的はっきりと変化するのが解る。三島市生茨沢遺跡において、上杉鶴氏より新期富士火山と古期富士火山の境界がここにあることを指摘されている。縄文時代早期の遺物が出土している。またこの富士黒土層を巻き込んだ倒木痕が調査区南半分



第5図 土層堆積状況

<柱状図>		<層名>	<色調>
0	Y Y Y		
1		1 耕作土	7.5YR2/2
2		2 栗色土層	2.5Y4/6
3		3 富士黒土層 (F B a)	2.5Y3/3
4		4 富士黒土層 (F B b)	2.5Y3/2
5		5 漸移層 (Z n)	10YR4/4
6		6 休場層上位 (Y L U)	10YR5/8
7		7 休場層中位 (Y L M)	10YR5/8
8		8 休場層下位 (Y L L)	10YR5/6
9		9 休場層底下黑色帶 (B B O)	10YR5/6
10		10 第Ⅰスコリア層 (S C I)	7.5YR5/8
11		11 第Ⅰ黑色帶 (B B I)	10YR2/3
12		12 ニセローム a (N L a)	10YR6/8
13		13 ニセローム b (N L b)	10YR6/8
14		14 第Ⅱ黑色帶 (B B II)	10YR5/6
15		15 第Ⅱスコリア層 (S C II)	5YR4/8
16		16 第Ⅲ黑色帶 (B B III)	5YR3/3
17		17 第Ⅲスコリア帶スコリア1 (S C III S 1)	5YR4/8
18		18 第Ⅲスコリア帶黑色帶1 (S C III b 1)	5YR4/8
19			
20		20 第Ⅲスコリア帶黑色帶2 (S C III b 2)	5YR4/8
21		21 第Ⅲスコリア帶スコリア4 (S C III s 4)	5YR4/6
22		22 スコリア質土	7.5YR4/6
23		23 ローム質土	7.5YR4/6

第6図 基本土層柱状図

で多く検出されている。

5層は富士黒土層から休場層に漸移的に変化していくという意味で漸移層（Zn）としてとらえた。層厚は一定せず層界は波状となる。早期の住居跡はこの漸移層に対して富士黒土層が落ち込むというかたちで検出している。

以下6～8層は休場層（YL）となる。堆積状況が良好な遺跡では、上からYLU、YLM、YLLとスコリア層を境に分層するが、当遺跡ではこのスコリア層が検出されなかっただため、層内に含まれるスコリアの多少によって3層に分層した。しかし遺跡の南側では、休場層の層厚が10～15cmと次第に薄くなり、分層が不可能となる。Zn～YLUでは有舌尖頭器や尖頭器が、YLMではナイフ形石器等が検出されている。

9・10層は非常に不安定で特に9層の休場層直下黒色帯（BB 0）は黒色の発色がなく、第Iスコリア層もブロック状にしか認められないため、一見、続く第I黒色帯に向かって休場層から漸移的に変化しているように見える。この休場層直下黒色帯の直上では礫群が検出された。

12・13層はニセローム（NL）で、始良丹沢広域火山灰を含む。層厚は約20cmで、スコリア含有量の少ないa層と多いb層に分層できる。肉眼で見える範囲ではb層に火山ガラスがより多く含まれているようである。黒曜石製の石核1点が出土した。

14層は第II黒色帯（BB II）で、層全体に第IIスコリア層（SC II）に含まれる赤色スコリアを含むため、SC II層との明瞭な区分は不可能である。

16は第III黒色帯（BB III）である。BB IIに比べると黒色が強く遠目に見ても黒い帯状に見える。

17～21は第IIIスコリア帯（SC III）である。S1、S2、S4は確認できるが、黒色帯は土色帯に違いが現れないほど微妙である。なお愛鷹山南麓では、第IIIスコリア帯下に最大4枚の黒色帯が観察されるが、当遺跡においては認められなかった。

当研究所で調査をおこなっている、第2東名関連遺跡や東駿河湾環状道路関連遺跡の土層堆積状況と比較すると、全体的に黒色帯が未発達であり、特に第IIIスコリア帯以下黒色帯が確認できないという点では、箱根西麓の堆積状況に大変類似する。

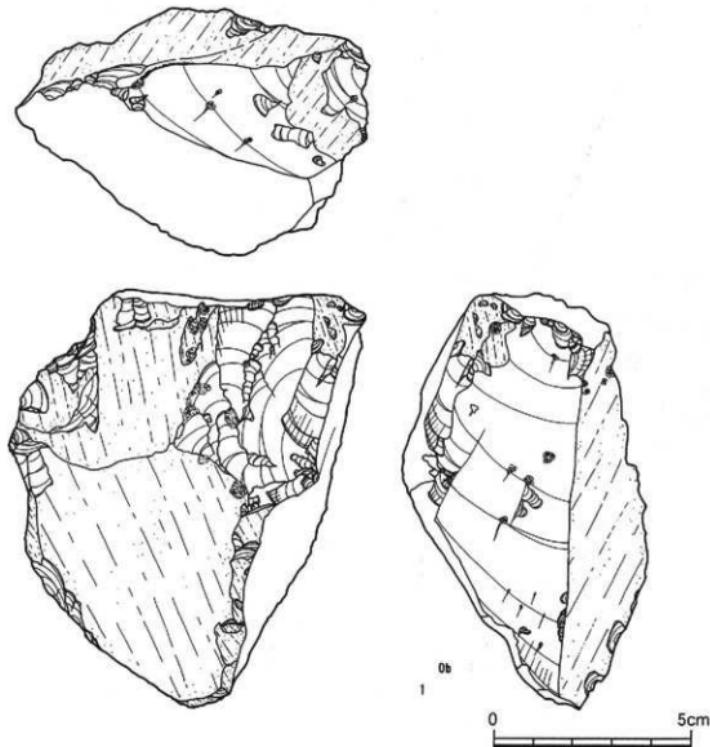
引用・参考文献

- 小野真一他 1971 「上長座遺跡群」 長泉町教育委員会
小野真一他 1979 「下長座遺跡群」 長泉町教育委員会
平川昭夫 1981 「八分平B・富士石遺跡」 長泉町教育委員会
池谷信之他 1985 「平沼吹上遺跡発掘調査報告書」 沼津市文化財調査報告書第36集
平川昭夫、廣瀬高文他 1986 「中尾・イラウネ・野台」 長泉町教育委員会
廣瀬高文他 1989 「富士石遺跡群」 長泉町教育委員会
間野哲夫 1989 「清水桜北遺跡発掘調査報告書 その1」 沼津市文化財調査報告第47集
平川昭夫 1992 「柏座遺跡」 長泉町教育委員会
廣瀬高文、片平剛他 1994 「平咲遺跡・陣馬上B遺跡」 長泉町教育委員会
静岡県考古学会 1995 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代縄文」
上杉陽、池谷信之他 1996 「静岡県愛鷹山麓、三明寺遺跡のテフラ層位」「第四期露頭集—日本のテフラ」
日本第四紀学会

第Ⅲ章 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺物は、ニセロームで石核が1点出土している他、休場層直下黒色帶（BB 0）の直上から休場層上層にかけて石器群を検出している。このニセロームで出土した石核（1）は、試掘中に出土したもので、周辺を拡張し、試掘坑を設定したがこの他の石器の出土はなかった。

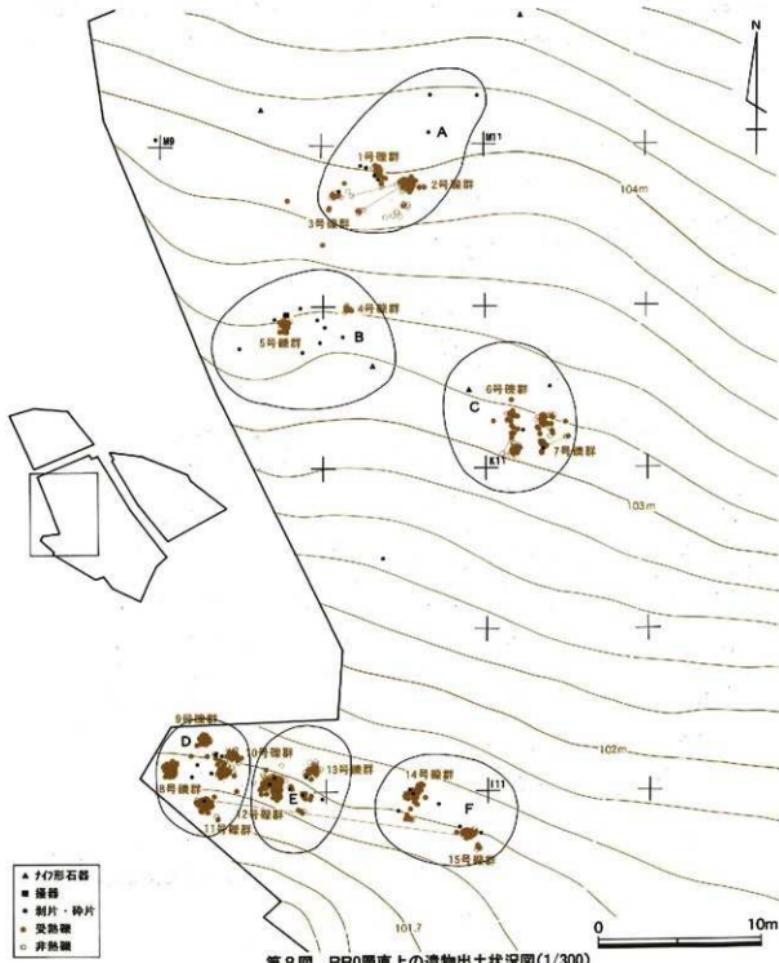
この中で文化層として把握できたものは、BB 0層直上の石器群と礫群である。この他、休場層の中位から上位にかけて出土した遺物は、調査区全体に散在しており、縄文時代の遺物も混在していることから、旧石器時代の遺物だけを分離することは不可能である。よって、第Ⅲ章ではBB 0層直上の石器群を1文化層として報告し、その他の休場層から出土した遺物は、旧石器時代の石器と確認できるものだけを報告する。

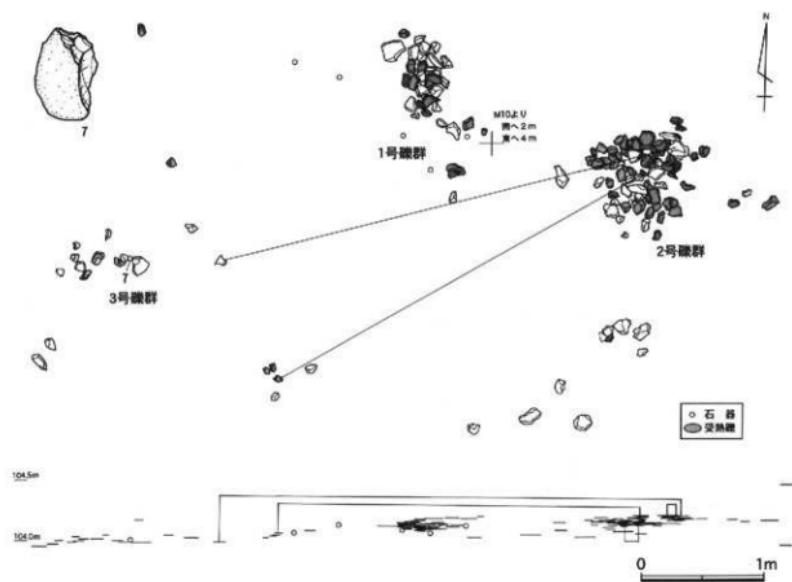


第7図 NL層出土遺物

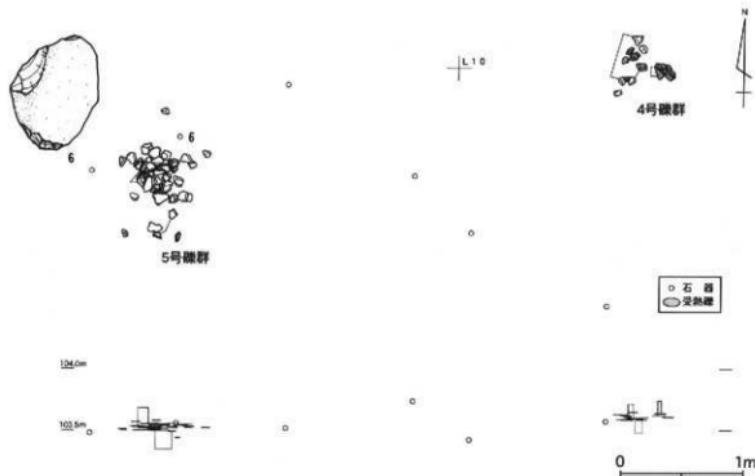
第1節 休場層直下黒色帶直上の遺構と遺物

BB 0層直上で礫群15基と石器44点が出土した。これらの石器群は、上層に十数cmの無遺物層があることから、休場層の遺物とは分けて1文化層として報告する。ただし、遺物の出土状況図を見ると、出土地点が休場層の遺物と重なる部分もあることから、BB 0層直上の石器群の浮き上がりが休場層の石器群としてカウントされている可能性もある。浮き上がりの可能性がある遺物については、休場層の遺物の項で個々に記述する。





第9図 BB0層遺物出土状況図1



第10図 BB0層遺物出土状況図2

1 石器ブロック

便宜的に A～F の 6 つのブロックに分けた。全体的に遺物分布は散漫で、出土点数も少ない。石器種は B ブロックで摺器 1 点、ナイフ形石器 1 点、C ブロックでナイフ形石器が 1 点出土している他は全て剥片である。これらの剥片は石器製作時のものというよりも、ある程度の大きさが保たれていることから、礫の使用に際して、刃器として利用され廃棄されていったもののように思われる。石材は、40 点中 38 点までがホルンフェルスであり、いずれも風化が著しい。接合関係はなかった。また、全体的な傾向としては、石器分布は礫群のそれとほぼ重なるが、厳密には決して礫群の中に石器が含まれることはない、いくつかの礫群の集中地点の、礫空白部分に単独で出土することが多い。

2 細 群

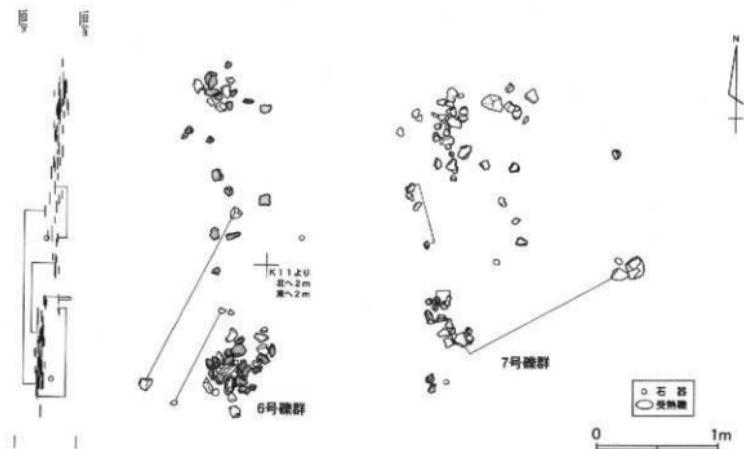
礫群は西側の谷を囲むようにして、15 基が検出された。

＜1号礫群＞ L10 グリッドに位置する。角礫 37 点から構成され、38% が受熱によって赤化している。接合関係はない。301～400 g の礫が全体の約 35% を占め、全体が密集した礫群である。同じエリアで検出されている 2 号、3 号礫群と比べると検出レベルが高く、接合関係もないことから時間差がある可能性がある。

＜2号礫群＞ L10 グリッド、1 号礫群の東側に位置する。角礫 87 点から構成され、62% が受熱によって赤化している。3 号礫群と接合関係がある。400 g 以下の礫が全体の約 60% を占める一方、1000 g 以上の礫も 5 点含まれる。

＜3号礫群＞ L10 グリッドに位置する。角礫 23 点から構成され、55% が受熱によって赤化している。散漫な分布を示し、2 号礫群と接合関係があることから、2 号礫群が拡散したものと考えられる。1～3 号礫群の分布範囲は A ブロックと重なる。

＜4号礫群＞ L10 グリッドと K10 グリッドの境界に位置する。角礫 17 点から構成され、62% が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。

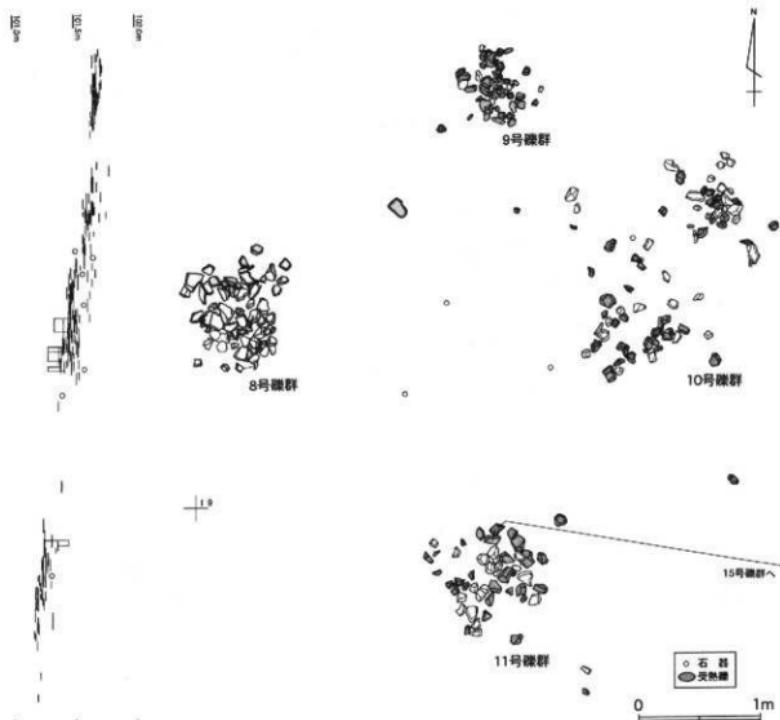


第11図 BB0層遺物出土状況図3

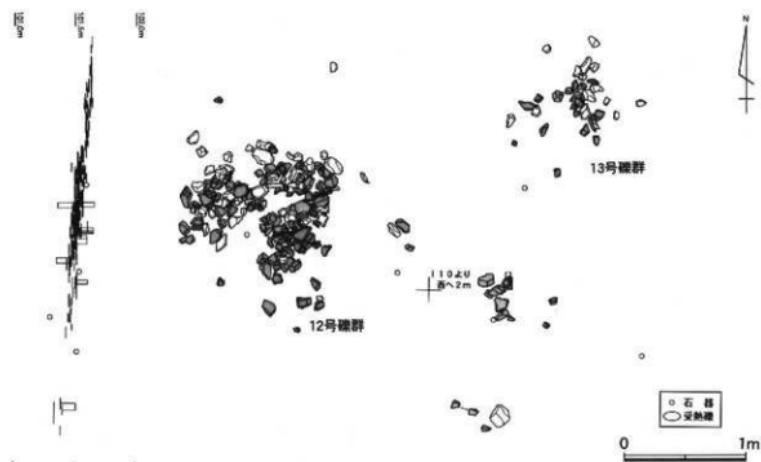
<5号礫群> K 9グリッドに位置する。角礫45点から構成され、73%が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。101~200 gの礫が全体の約40%を占め、全体が密集した礫群である。

<6号礫群> K 11グリッドに位置する。角礫72点から構成され、55%が受熱によって赤化している。南北方向に広がっているが、接合関係があるので、南側の一群を母体として北側に拡散したものと考えられる。200 g以下の礫が全体の55%を占め、割れ面も赤化していることから、繰り返し使用されたものと考えられる。他の礫群との接合関係はない。

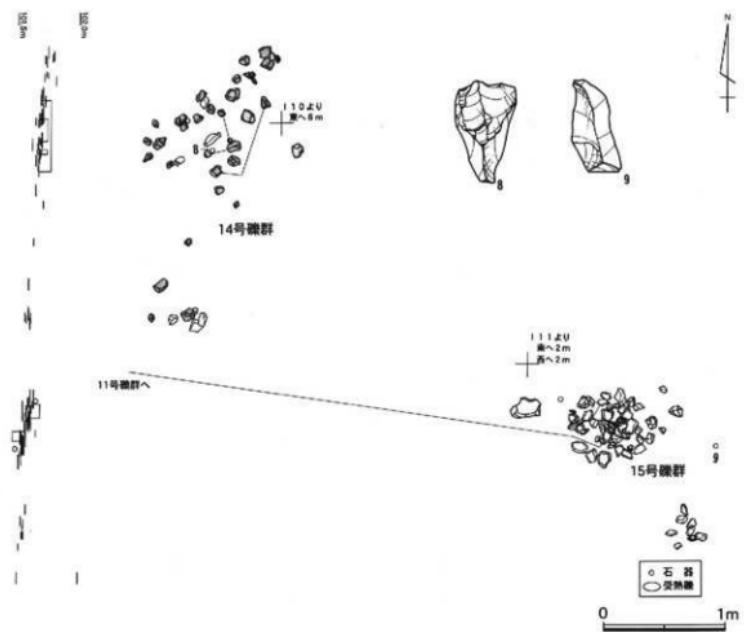
<7号礫群> K 11グリッドに位置する。角礫68点から構成され、69%が受熱によって赤化している。礫は南北方向に広がって分布しており、200 g以下の礫は全体の約70%で、赤化している礫は小さく割れて、割れ面も赤化していることから、6号礫群と同様、繰り返し使用されたものと考えられる。6・7号礫群はCブロックと分布範囲が重なる。



第12図 BB0層遺物出土状況図4



第13図 BB0層遺物出土状況図 5



第14図 BB0層遺物出土状況図 6

＜8号礫群＞ I9グリッドに位置する。角礫79点から構成され、94%が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。501g以上の大礫が全体の12%で、割れて小さくなつた礫の上に大きな礫が置かれたような状況である。礫を補給しながら繰り返し使用していたのであろう。非常に良く集中している。

＜9号礫群＞ I9グリッドに位置する。角礫60点から構成され、78%が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。200g以下の礫が全体の約68%を占め、割れ面まで赤く変色している。全体が密集した礫群である。

＜10号礫群＞ I9グリッドに位置する。角礫93点から構成され、54%が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。全体的に散漫な分布を示しており、北側の一群より南側へ擴散してしまったようだ。

＜11号礫群＞ H9グリッドに位置する。角礫61点から構成され、60%が受熱によって赤化している。15号礫群との接合資料がある。全体が密集した礫群である。

8号～11号礫群は、10号礫群の攪散部を除くと円形に配置しており、この礫群の中心に3点の剥片が分布している。

＜12号礫群＞ I9グリッドに位置する。角礫171点から構成され、当遺跡では最大の礫群である。66%が受熱によって赤化しており、割れ面も赤化が激しいことから、繰り返し使用されたものと考えられる。他の礫群との接合関係はない。200g以下の礫が全体の約52%を占め、全体が密集した礫群である。

＜13号礫群＞ I9グリッドに位置する。角礫45点から構成され、56%が受熱によって赤化している。他の礫群との接合関係はない。

＜14号礫群＞ I10グリッドに位置する。角礫57点から構成され、80%が受熱によって赤化している。全体に散漫な分布を示し、他の礫群との接合関係はない。101～200gの礫が全体の約50%を占める。

＜15号礫群＞ H10グリッドに位置する。角礫73点から構成され、53%が受熱によって赤化している。11号礫群と接合関係がある。101～200gの礫が全体の約52%を占め、全体が密集した礫群である。

以上15基の礫群は大きく北側の1～7号と、南側の8～15号にわかれれる。これらの礫群が同時期に存在したか否かは接合関係が稀薄なため不明であるが、南側の礫群は平面的にもレベル的にも密度度が高い。また礫の大きさにばらつきがあり、礫を補充しながら数回にわたって使用した様子が見て取れる。

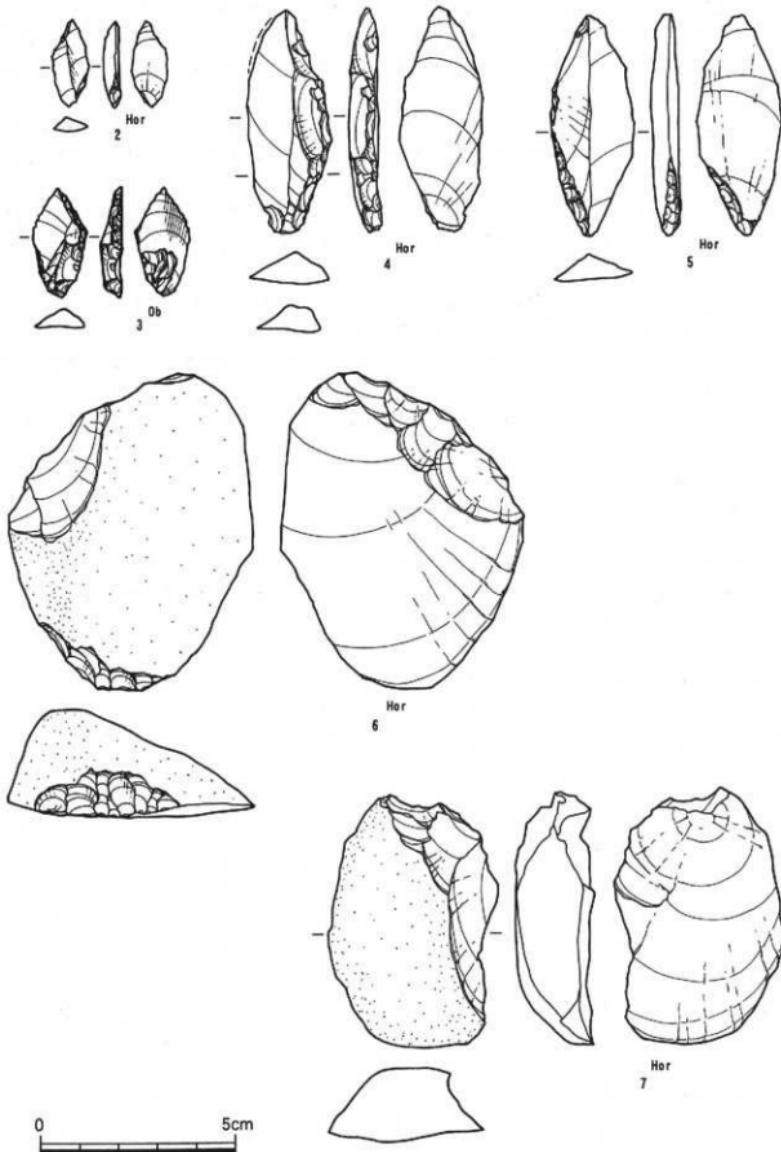
3 石 器 (2~11)

ナイフ形石器4点、搔器1点、敲石2点が出土している。2はホルンフェルスの縦長剥片の打面側を基部として、先端部と基部にプランティングを施したものである。3は黒耀石の縦長剥片の二側線にプランティングを施したもので、素材のバルブ部分は平坦剥離によって除去している。4はホルンフェルスの縦長剥片を素材とし、その一側線にプランティングを施したもので、刃部の一部が欠損している。5はホルンフェルスの縦長剥片を素材とし、基部にプランティングを施したものである。これらナイフ形石器は、素材剥片の打点側を基部としている。

6はホルンフェルスの剥片素材の搔器である。素材となる分厚い剥片には原礫面を残し、縁辺部に調整を加えて刃部とする。7～9はホルンフェルスの剥片である。刃器として使用された可能性がある。

表2 BB0文化層石器計測表

測定No.	測定方法	測定部位	時間	プロック	層位	石種	原産地	高さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	測定No.	測定方法	測定部位	時間	プロック	層位	石種	原産地	高さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	
18-1 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	22.3	9.3	3.8	18-2 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.7	9.3	3.5	
18-2 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-1 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-3 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-2 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-4 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-3 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-5 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-4 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-6 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-5 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-7 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-6 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-8 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-7 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-9 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-8 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-10 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-9 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-11 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-10 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-12 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-11 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-13 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-12 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-14 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-13 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-15 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-14 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-16 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-15 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-17 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-16 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-18 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-17 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-19 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-18 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-20 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-19 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-21 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-20 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-22 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-23 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-23 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-24 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-24 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-25 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-25 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-26 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-26 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-27 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-27 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-28 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-28 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-29 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-29 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-30 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-30 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-31 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-31 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-32 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-32 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-33 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-33 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-34 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-34 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-35 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-35 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-36 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-36 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-37 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-37 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-38 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-38 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-39 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-39 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-40 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-40 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-41 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-41 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-42 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-42 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-43 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-43 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-44 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-44 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-45 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-45 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.3	22.8	7.5	10.1	17-46 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)	21.6	14.0	2.5
18-46 9	27710 27710	0 0	10:00	Y	1/24切削面	Horn	SW(?)</															



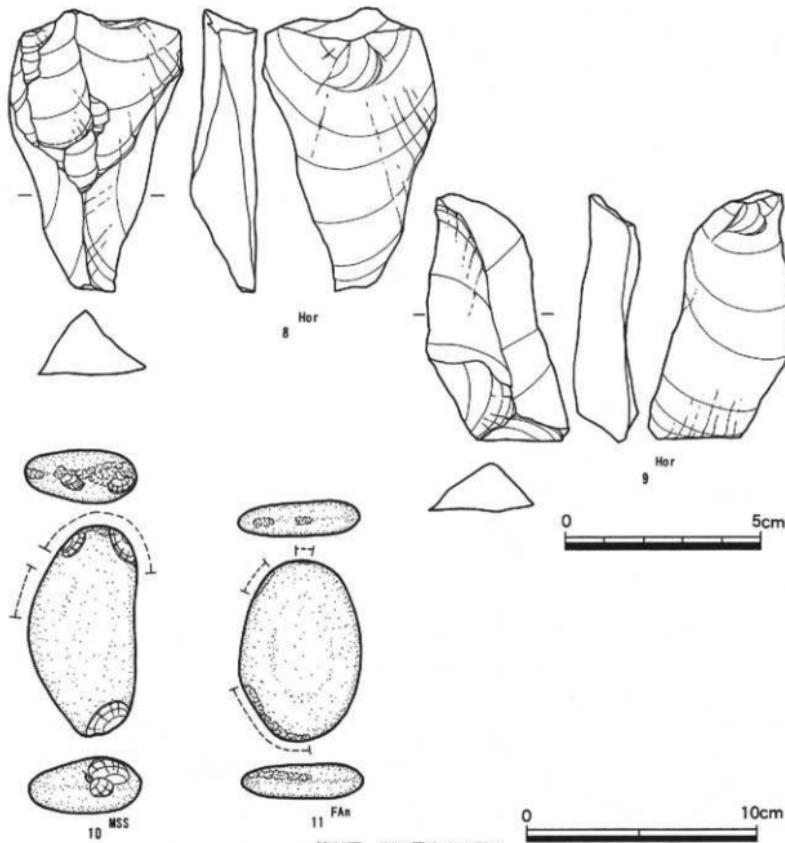
第15圖 BB0層出土石器 1

第2節 休場層中の遺物

休場層から出土した遺物は、調査区全体に散漫に分布している（第17図）。これらは、剥片のレベルでは縄文時代の遺物と混在し分離することは不可能なため、明らかに旧石器時代のものと判断できる石器のみ図化し報告する。

1 石 器 (12~32)

12~14は椎先形尖頭器である。12は黒耀石の縦長剥片を素材として、背面は面的な調整を、縁辺部にブランディングによく似た細かな加工を施す。主要剥離面は基部に打溜を除去するよう平坦剥離をおこなう。断面三角形。13はホルンフェルスの貝殻状剥片を素材として、背面は左側縁に、主要剥離面は打点を除去するよう基部を中心に平坦剥離を施すものである。14は黒耀石の剥片を素材とし、背面は

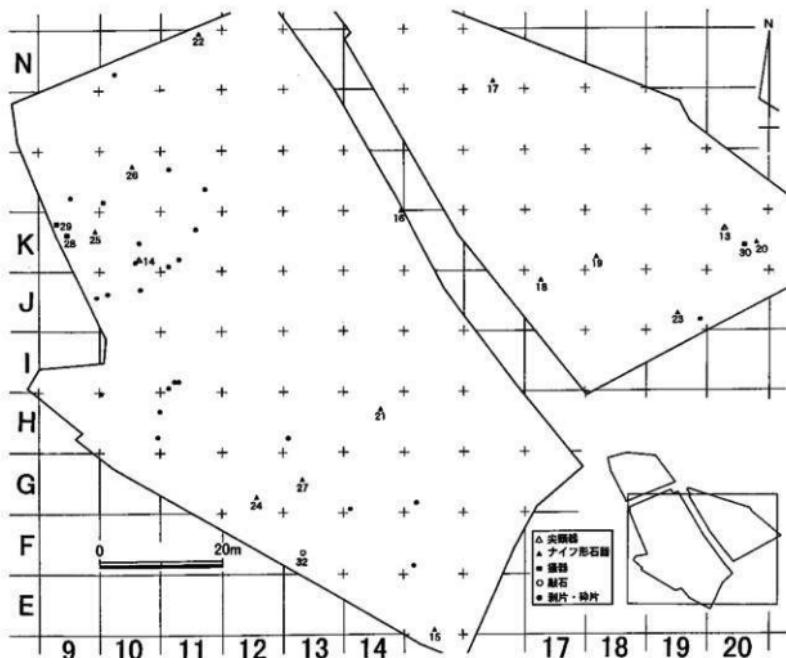


第16図 BB0層出土石器 2

全面に、主要剥離面は縁辺部を中心に平坦剥離を施す。欠損品。

15~27はナイフ形石器である。15~19は黒曜石製の石刀を素材として、二側縁に加工を施すものである。20~23は基部と先端部に加工を施すものである。素材とする剥片は、縦長の剥片が基本となるが、21や23のようにリダクションが進み、素材剥片の形状が推定できないものもある。おそらく石刀状のものであろう。24、25は二側縁に加工を施し、刃部が切出し状になるもので、24は厚みのある縦長剥片を素材として、急斜な加工を施している。休場層の遺物として取り上げたが、下層からの浮き上がりの可能性もある。27はガラス質黒色安山岩の貝殻状剥片一側縁に加工を施したものである。

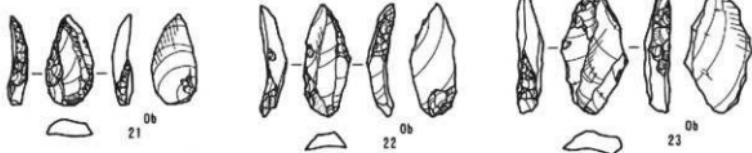
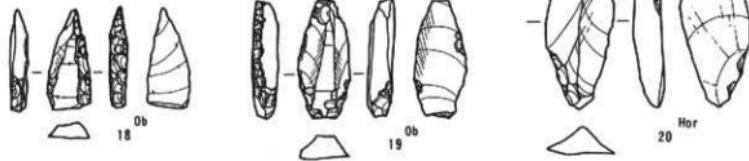
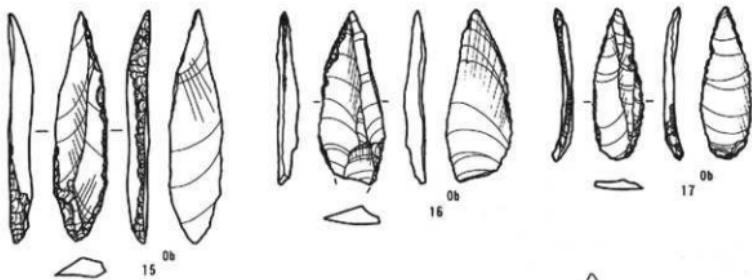
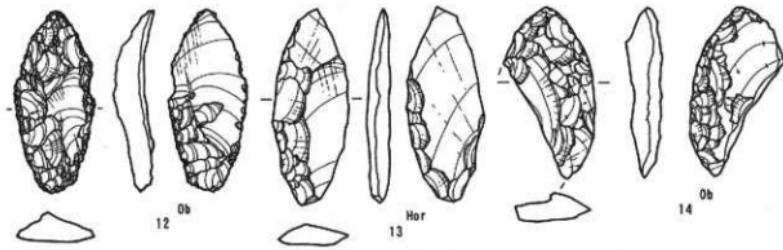
28~29は楔形石器、30は搔器である。30は烟宿産の黒曜石を素材としたもので、分厚い剥片の縁辺部を加工して刃部としたものである。これは、下層からの浮き上がりの可能性がある。31は使用痕のある剥片である。



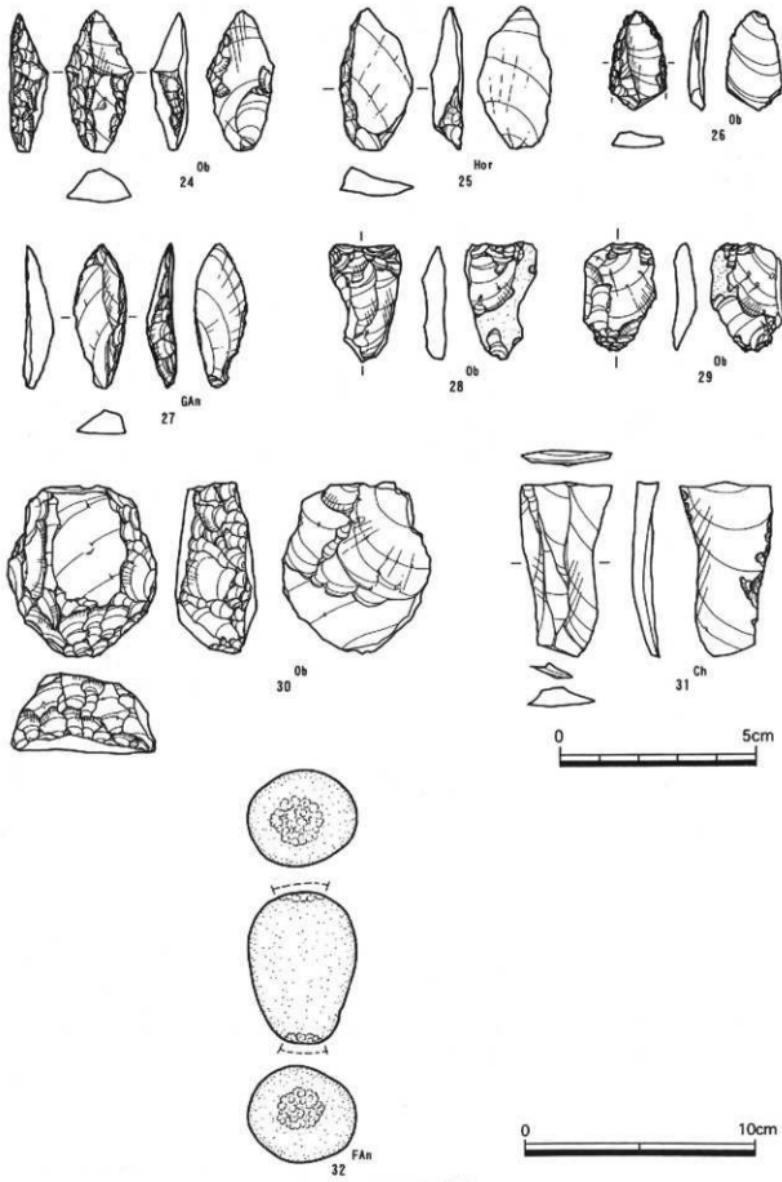
第17図 YL層の遺物出土状況図(1/800)

表3 休場層出土の石器計測表

番号	測定部位	測定値	断面	ブロック部位	断面	石材	原産地	高さ	幅	厚さ	重さ	番号	測定部位	測定値	断面	ブロック部位	断面	石材	原産地	高さ	幅	厚さ	重さ
15-13	5	19291	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	10.0	10.0	3.5	1.0	15-12	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	11.0	11.0	6.0	2.2
15-14	2	19952	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-14	4	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-15	5	19292	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-16	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-16	5	19293	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-17	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-17	2	19294	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-18	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-18	5	19295	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-19	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-19	5	19296	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-20	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-20	5	19297	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-21	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-21	5	19298	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-22	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-22	5	19299	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-23	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-23	5	19300	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-24	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-24	5	19301	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-25	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-25	5	19302	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-26	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-26	5	19303	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-27	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-27	5	19304	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-28	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-28	5	19305	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-29	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-29	5	19306	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-30	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-30	5	19307	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-31	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-31	5	19308	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-32	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-32	5	19309	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-33	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-33	5	19310	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-34	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-34	5	19311	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-35	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-35	5	19312	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-36	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-36	5	19313	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-37	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-37	5	19314	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-38	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-38	5	19315	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-39	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-39	5	19316	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-40	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-40	5	19317	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-41	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-41	5	19318	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-42	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-42	5	19319	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-43	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-43	5	19320	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-44	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-44	5	19321	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-45	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-45	5	19322	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-46	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-46	5	19323	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-47	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-47	5	19324	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-48	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-48	5	19325	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-49	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-49	5	19326	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-50	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-50	5	19327	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-51	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-51	5	19328	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-52	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-52	5	19329	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-53	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-53	5	19330	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-54	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-54	5	19331	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-55	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-55	5	19332	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-56	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-56	5	19333	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-57	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-57	5	19334	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-58	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-58	5	19335	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-59	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-59	5	19336	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-60	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-60	5	19337	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-61	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-61	5	19338	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-62	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-62	5	19339	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-63	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-63	5	19340	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-64	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-64	5	19341	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-65	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-65	5	19342	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-66	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-66	5	19343	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-67	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-67	5	19344	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-68	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-68	5	19345	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-69	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.4
15-69	5	19346	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	48.1	10.0	3.5	1.0	15-70	3	21981	正方形	底面	正方形	Ch	WHTY	85.5	11.5	10.0	3.



第18圖 YL層出土石器 1



第19圖 YL層出土石器 2

第IV章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 遺構

1 概要

縄文時代の遺構としては、早期末の住居跡10軒、前期末の住居跡1軒が検出された。その他時期が分かるものとして、早期前半の押型文土器に伴う黒耀石の埋納土坑1基、遺構の覆土から縄文時代であることは確かであるが詳細は不明なものとして、集石（おそらく早期に属す）8基、焼土50基、土坑12基がある（第20図）。これらの遺構は調査区の西南部の谷に沿うように検出されている。

2 住居

住居跡は早期後半～早期末にかけてのものが10軒（1～10号住居）、前期末に属するものが1軒（11号住居）検出された。

覆土は富士黒色土層（FB層）を主体とし、FB層や漸移層に掘り込まれる形で検出されるが、当遺跡ではFB層の黒色化が進んでいないのと、耕作による搅乱の影響から平面プランの確認が大変困難であった。また同様の理由でサブレンチによる立ち上がりの確認も難しく、炭化物や焼土粒（床面）、遺物集中地点に土層帯を設定して順次掘り下げ、平面形を確認する方法をとった。よって遺構のプランの確認面が住居の掘り方面まで下がっていることが多い。また南側の谷部に近づくにつれ、堆積状況が良好になり住居の検出状況も良くなる傾向がある。

1号住居

＜形状＞ 北一南方向に長軸を持つ長楕円形を呈し、長軸で3.5m、短軸で2.3mを測る。焼土を検出した段階ではプランは検出できず、土層帯を残し掘り下げる過程で、掘り方に近い面で確認している。

＜床＞ 不明。

＜炉＞ 2ヶ所に薄い焼土範囲を確認したが、掘り込みは確認されなかった。

＜柱穴＞ 深さ約30cmの柱穴が2本。

＜遺物＞ 焼土付近で台石検出、覆土中より土器が2点出土しているが、1は下吉井式土器、2は格子目の押型文土器である。住居の帰属時期は不明。

2号住居

＜形状＞ 北一南方向に長軸を持つ方形に近い楕円形を呈し、長軸で4.1m、短軸で3.6mを計る。南端が倒木痕を削平して作られているため、検出が困難であった。

＜炉＞ 比較的（1号より）明確な焼土集中地点を検出したが、掘り込みは認められない。

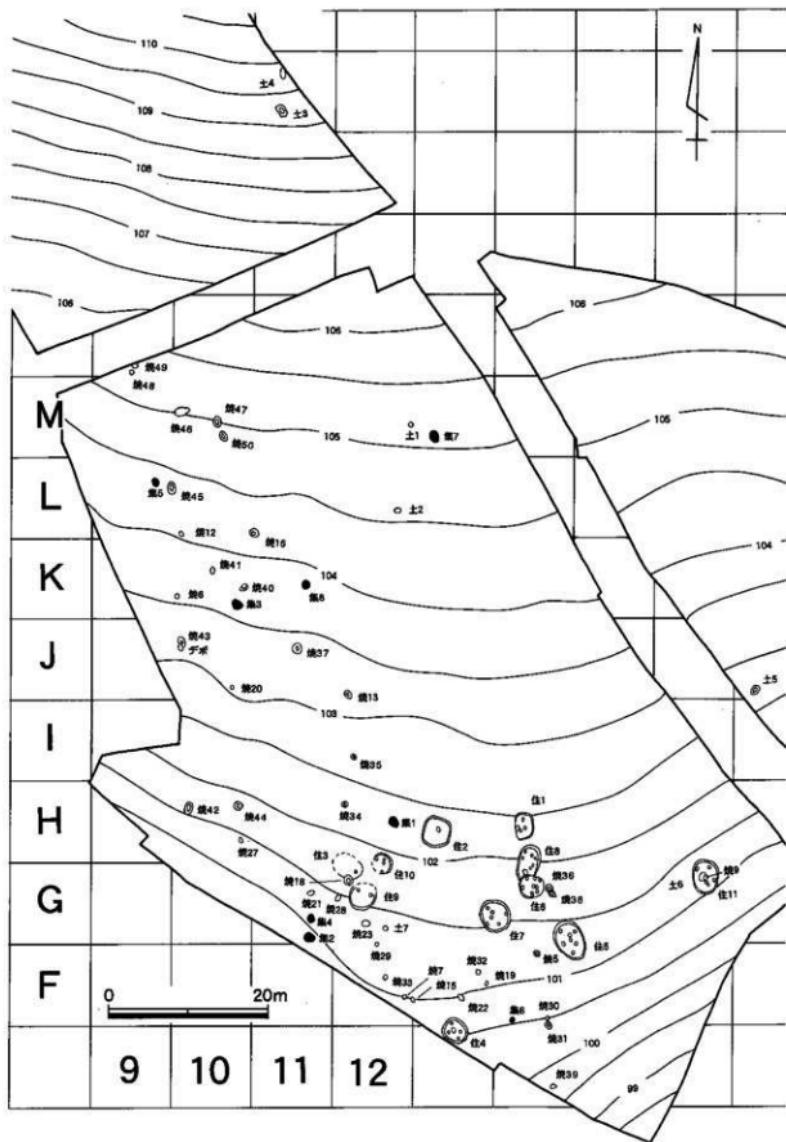
＜床＞ 炭化物が若干散る層（3層）を確認したが、硬質化は認められない。

＜柱穴＞ 検出されなかった。

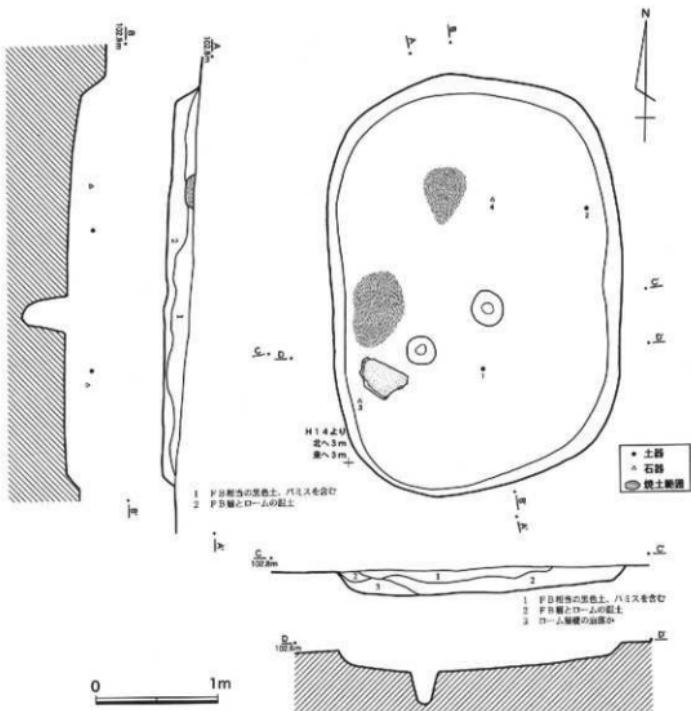
＜遺物＞ 覆土中より出土した土器は下吉井式に比定される。また石器1点、敲石5点が出土している。

3号住居

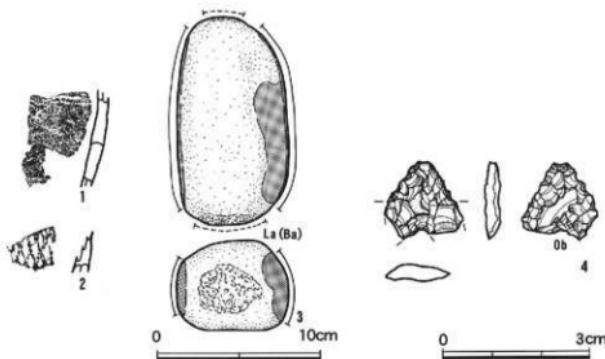
＜形状＞ 検出面が低かった事と試掘坑によって壊されていたため、正確には不明だが、楕円になるものと考えられる。



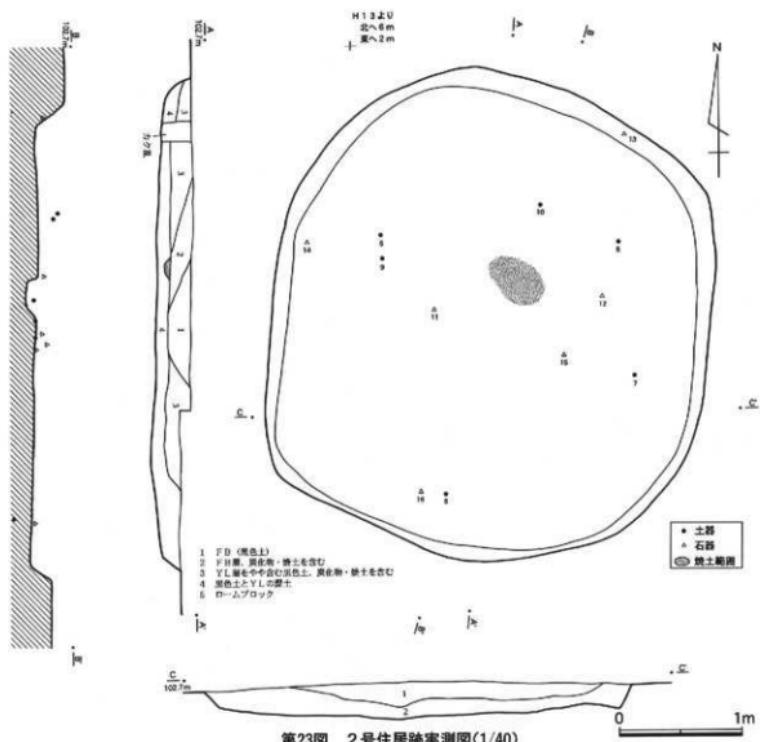
第20図 縄文時代の遺構配置図(1/600)



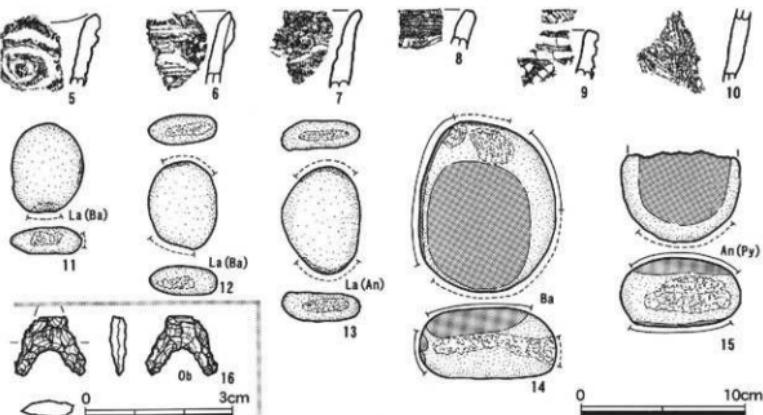
第21図 1号住居跡実測図(1/40)



第22図 1号住居跡覆土中の遺物



第23図 2号住居跡実測図(1/40)



第24図 2号住居跡覆土中の遺物

＜炉＞ 確認されず。

＜床＞ 不明。

＜柱穴＞ 1ヶ所。

＜遺物・その他＞ 住居跡覆土より3片の土器が出土している。17は小片であるため判然としないが、貝殻腹縁による波状の押圧が確認される。打越式か。18・19は表面が摩耗しているが、早期後半の条痕文系の土器である。

4号住居

谷への落ち掛けに面しているため、土層の黒色化が著しく、住居の覆土も他のものに比べて明確に認識できるため、検出状態も良好である。

＜形状＞ 北西一南東に長軸を持つ楕円形を呈し、長軸で3.3m、短軸で2.8mを測る。

＜炉＞ 浅い掘り込みを持つ。掘り込みの上面に明確な焼土範囲を確認できるが、掘り込み自体の覆土は焼土粒と炭化物を若干含んでいる程度である。

＜床＞ 焼土と炭化物の集中層を確認したが、硬質化は認められない。

＜柱穴＞ 4ヶ所、深さ約30cm。

＜遺物・その他＞ 床直上で20～27が出土した。いずれも下吉井式に比定される。また28～39は住居跡の覆土からの出土であり、28～32は下吉井式と考えられる。28は口唇部と頸部に低い隆帯を貼り、その間に2本単位の波状沈線を配するものである。口径23.5cm。33～38は胴部破片で、沈線や隆帯は見られないが、胎土より下吉井式と考えられる。39は撚糸文土器であるが、下層からの巻き上がりと考えられる。石器は石鏃が1点、楔形石器2点、敲石・磨石4点が覆土中より出土した。

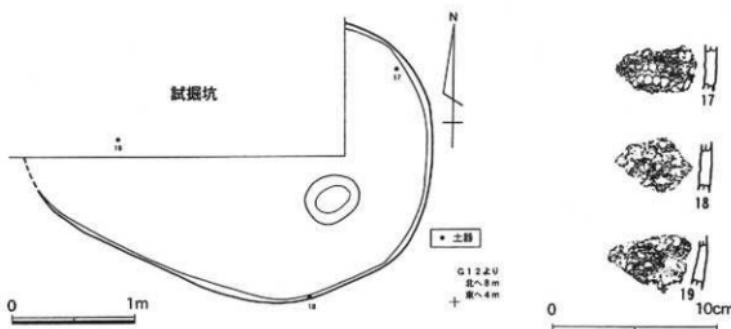
5号住居

＜形状＞ 北西一南東方向に長軸を持つ長楕円形を呈し、長軸で4.4m、短軸で3.5mを測る。

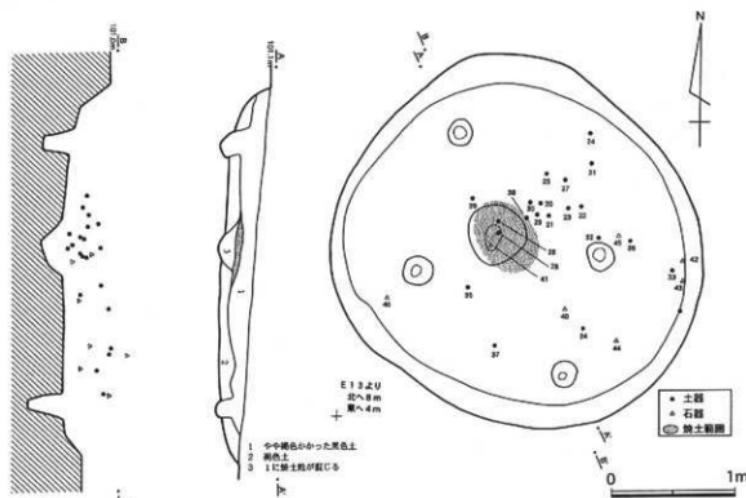
＜炉＞ 薄い焼土範囲を確認したが、掘り込みは認められない。

＜床＞ 焼土と炭化物の集中層を確認したが、硬質化は認められない。しかし、炭化物の集中層が焼土範囲と同じレベルであることから、床面であると考える。

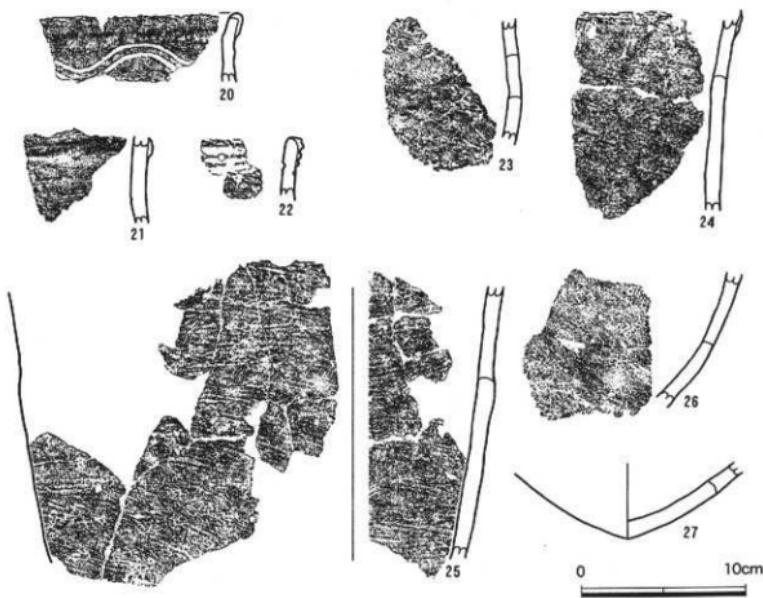
＜柱穴＞ 6ヶ所。



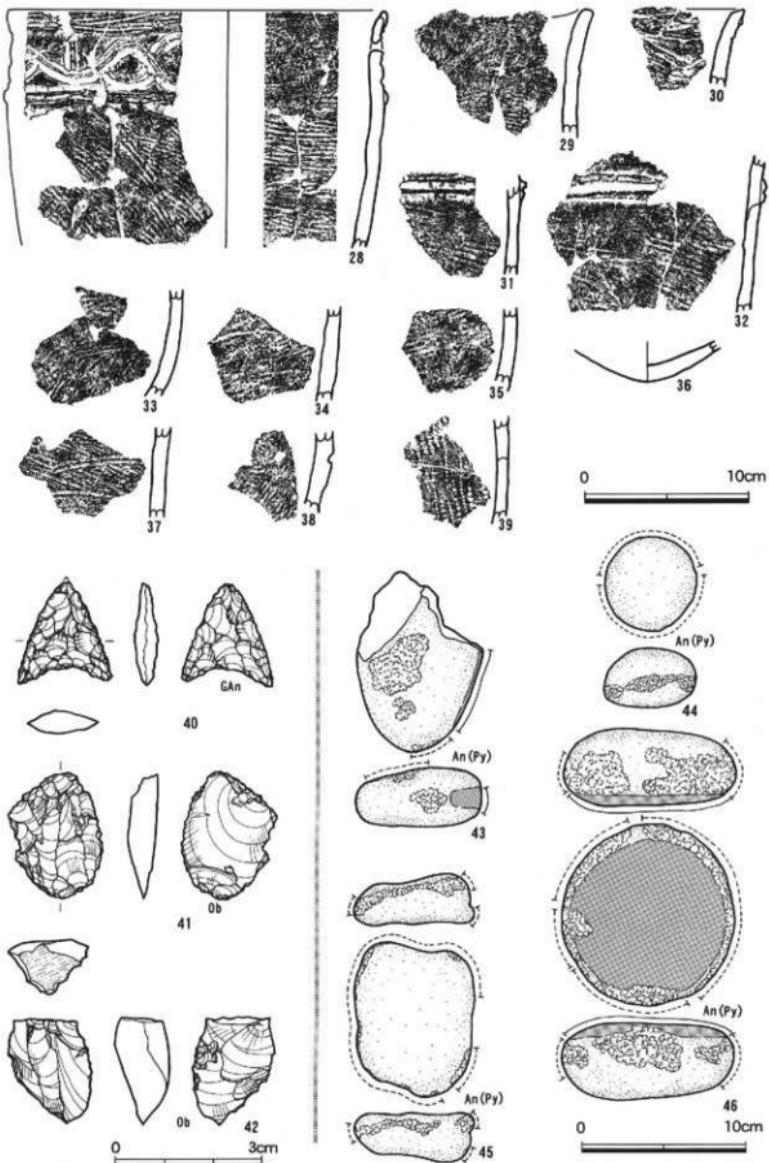
第25図 3号住居跡実測図(1/40)・出土遺物



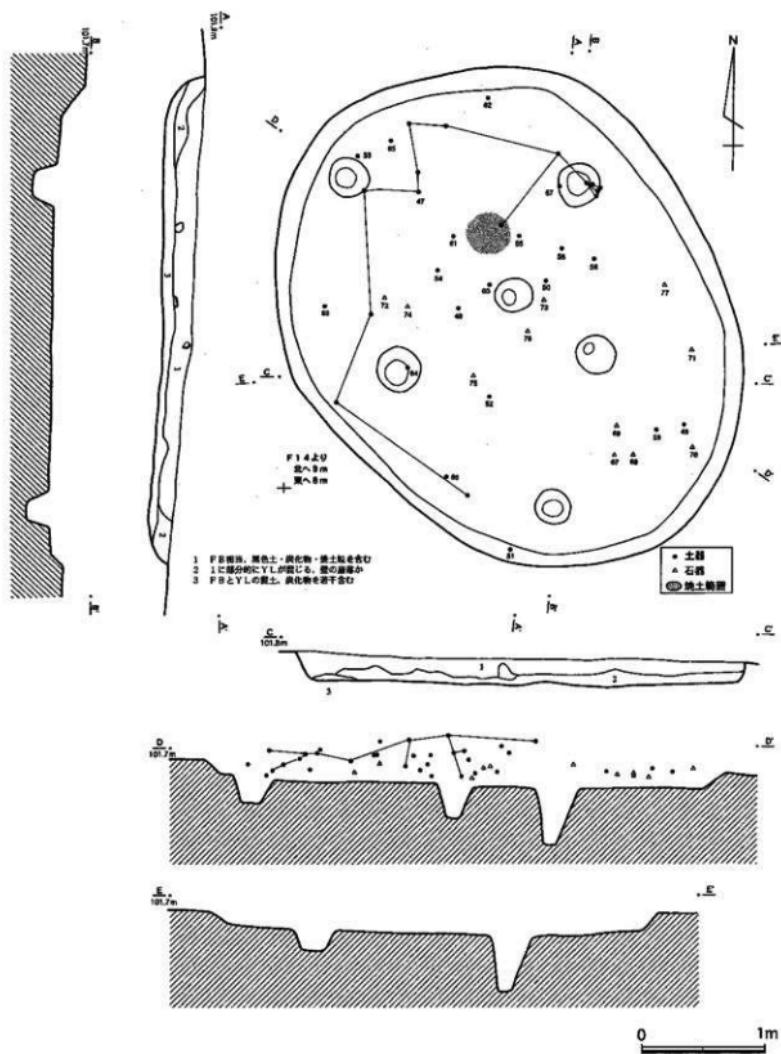
第26図 4号住居跡実測図(1/40)



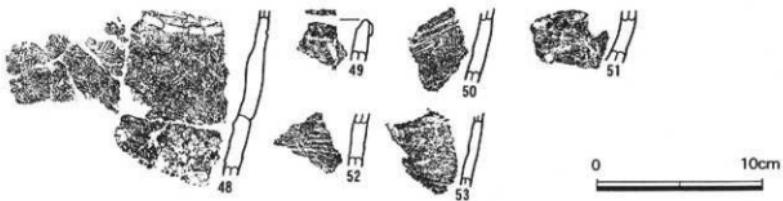
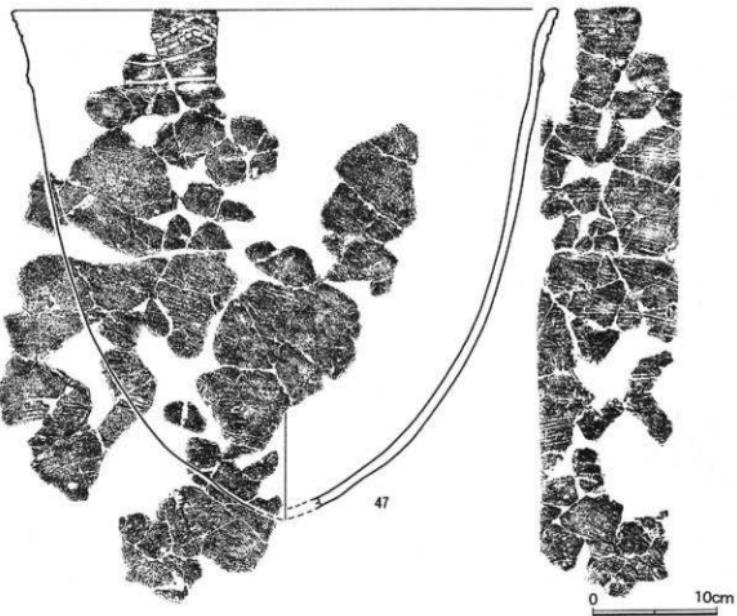
第27図 4号住居床面直上の遺物



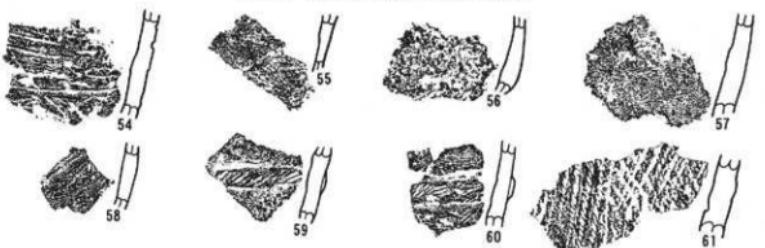
第28図 4号住居跡覆土中の遺物



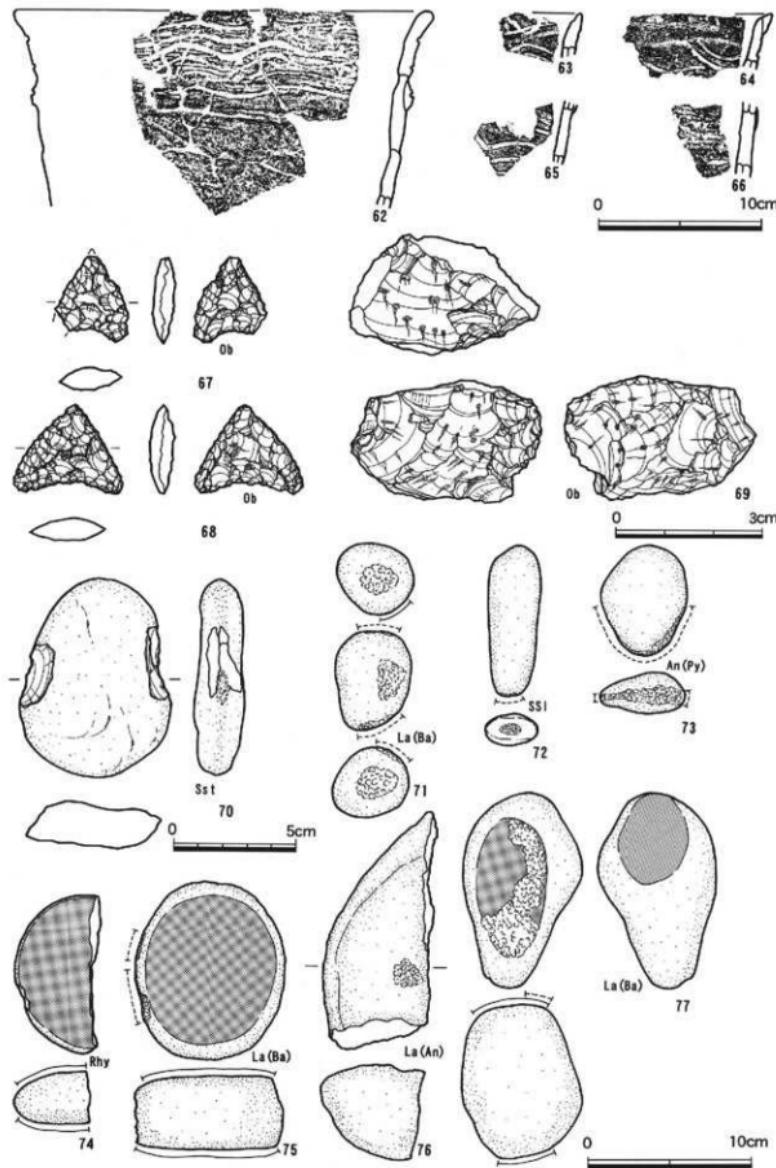
第29図 5号住居跡実測図(1/40)



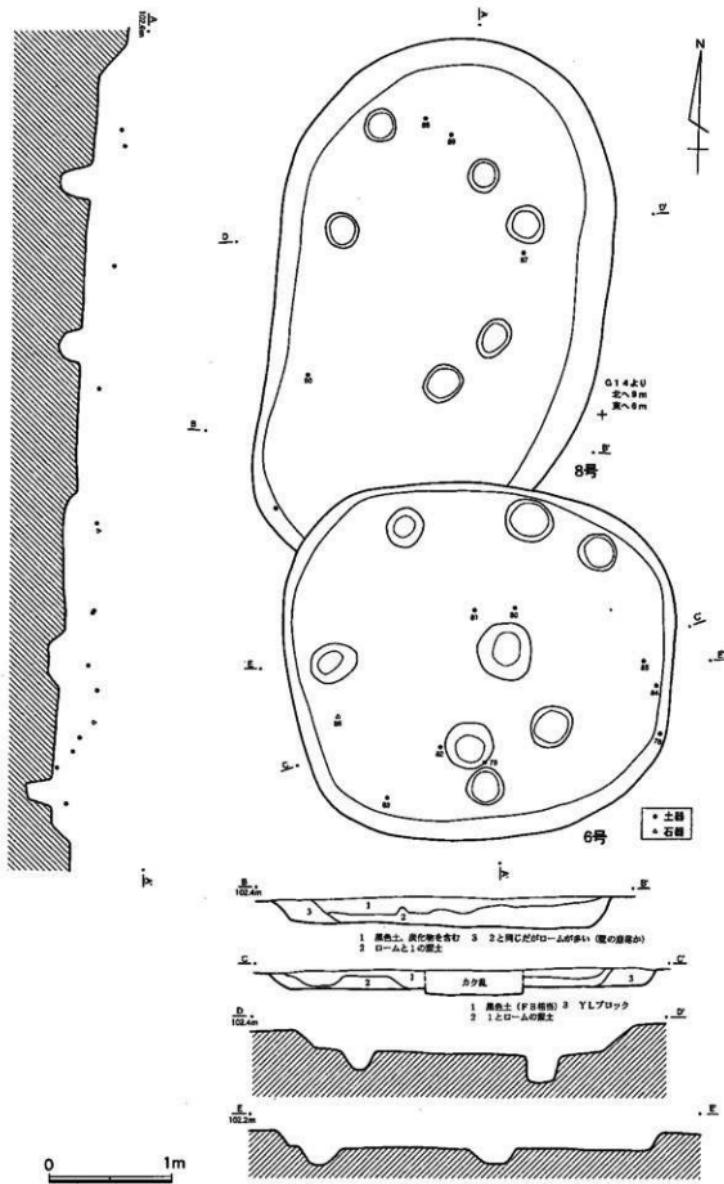
第30図 5号住居跡床面上出土の遺物



第31図 5号住居跡覆土中の遺物 1



第32図 5号住居跡覆土中の遺物 2



第33図 6・8号住居跡実測図(1/40)

＜遺物・その他＞ 床面と考えられる面で47～53が出土した。47は頸部に低い隆帯を巡らせ、口縁部にはヘラ状工具で波状の押し引きを施す。口径44.6cm。49は口縁部に低い隆帯が貼られ、口唇部は細かく刻まれている。47・48は早期末～前期初頭の下吉井式に比定され、その他の全点も、胎土が類似し条痕が観察されることから同時期のものと考えられる。覆土中から出土した54～58、62～66までは下吉井式に比定される。また、59・60は同一個体のものと考えられ、低い隆帯に貝殻による刻目が観察される。早期後半の条痕文系土器群に属する。61は撚糸文土器であるが、下層からの巻き上げであると考えている。石器は、石鎚2点と多数の黒耀石チップが検出された。また、70の石錐が覆土中より出土しているが、検出レベルがやや高いので、上層からの流れ込みの可能性がある。なお、覆土中の炭化物の¹⁴C年代測定結果は6230±50年BP。

6号住居

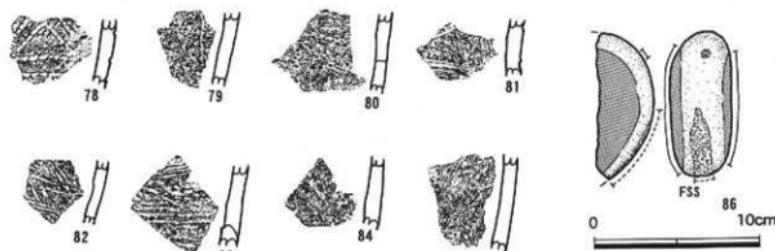
＜形状＞ 東一西に長軸を持つ楕円形を呈し、長軸で3.2m、短軸で2.9mを測る。
＜炉＞ 焼土範囲として確認した。
＜床＞ 確認面が低かったため、不明。
＜柱穴＞ 7ヶ所。
＜遺物・その他＞ 住居跡の覆土より78～85が出土した。いずれも早期末の条痕文系土器群に属するものと考えられ、78は2本単位の押し引きによる波状沈線と口縁と並行な沈線が確認できる。その他敲石・磨石類が6点出土している。

7号住居

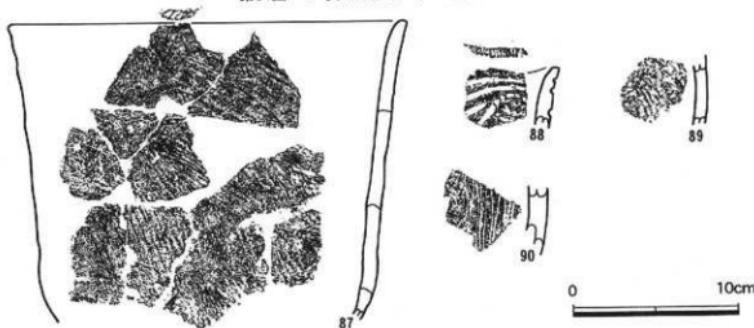
＜形状＞ 北西一南東に長軸を持つ楕円形を呈し、長軸で3.9m、短軸で3.7mを測る。
＜炉＞ 薄い焼土範囲を確認したが、掘り込みは認められない
＜床＞ 焼土と炭化物の集中層を確認したが、硬質化は認められない
＜柱穴＞ 5ヶ所。
＜遺物・その他＞ 住居跡の覆土より91～97が出土した。91は口縁端部に低い隆帯を貼ったもので、92・94・95は胎土より同一個体であると考えられる。下吉井式に比定される。93・96は灰白色を呈する薄手土器で、口縁部に3条の隆帯を巡らせた後、刻目を入れる。石器は石鎚が1点、敲石類が3点出土している。

8号住居

＜形状＞ 北一南に長軸を持つ長楕円形を呈し、長軸で4.2m、短軸で2.8mを測る。6号住居に南端を切られる。
＜炉＞ 確認されず。南端で、焼成面を持つ土坑を検出したが（第33図）、住居より古いものと判断して住居関係の施設とは捉えなかった。
＜床＞ 検出面が低かったため部分的に炭化物を含む面が残っていたのを確認したのみ。
＜柱穴＞ 6ヶ所。
＜遺物・その他＞ 87～90は住居跡の覆土より出土した。87は器面に条痕文が施されるが、その他は無文で、口唇部に刻目をもつ。88は口縁部に波状の沈線を有し、口唇部には刻目をもつ。87・88とも下吉井式土器に比定される。90は撚糸文系土器であるが、下層からの混入と考えられる。覆土中の炭化物の¹⁴C年代測定結果は6240±50年BP。



第34図 6号住居跡覆土中の遺物



第35図 8号住居跡覆土中の遺物

9号住居

土器集中地点と床面と考えられる炭化物が散る面を確認した段階で、トレンチで平面形の確認を試みたが判然とせず。土層帯を残して掘り方面まで掘削し、平面形を確認した。

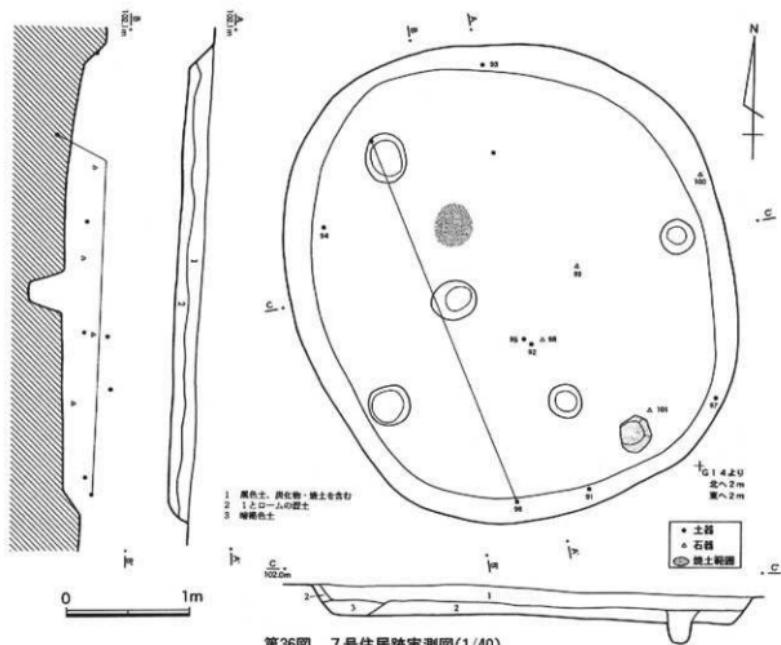
〈形状〉 直径約3.3mの不正形な円形を呈し、北壁を倒木痕によって壊されている。

〈炉〉 確認されず。

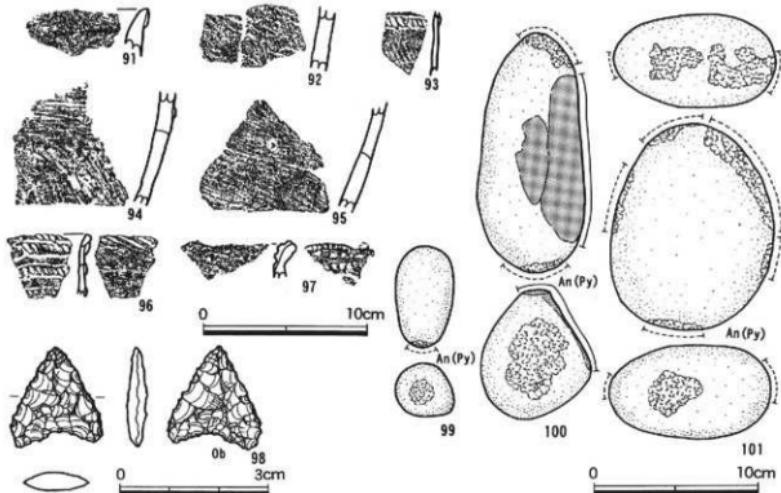
〈床〉 102、103の土器集中と同レベルで、焼土粒と炭化物の集中層を確認したが、硬化面は認められなかった。

〈柱穴〉 3ヶ所。

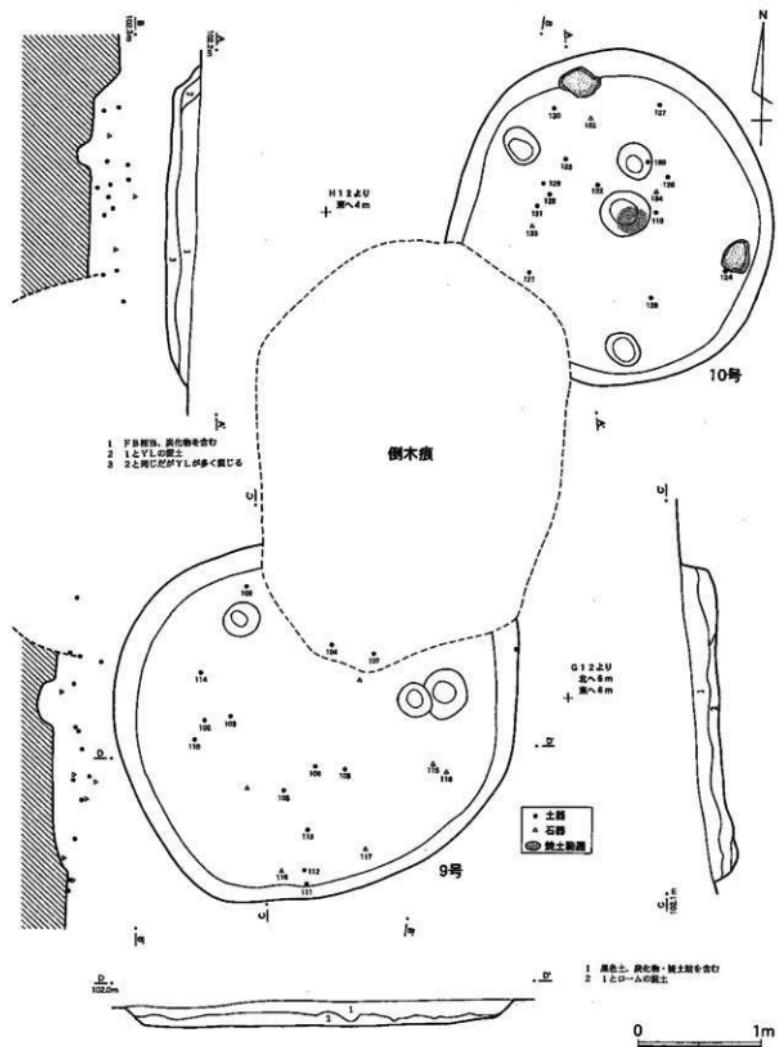
〈遺物・その他〉 102、103は床面出土の土器で、102は口縁部に2条の沈線を巡らせ、頭部の低い隆帯との間に波状の沈線を施したものである。口径27.6cm。103は口縁部に低い隆帯を巡らせ、頭部の2本単位の押し引きとの間に浅い波状の沈線を施したものである。何れも下吉井式に比定される。104~114は住居跡の覆土から出土したもので、104~113は下吉井式、114は入海式に比定される。



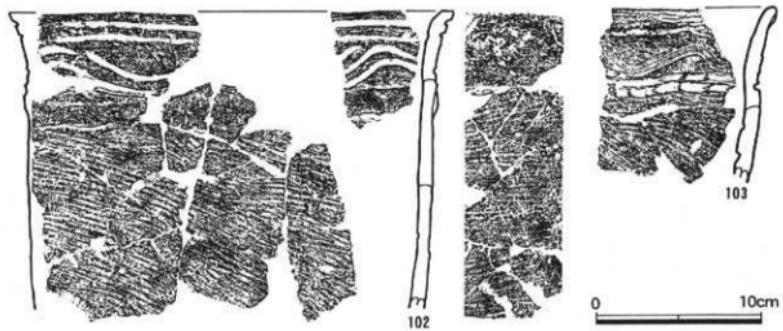
第36図 7号住居跡実測図(1/40)



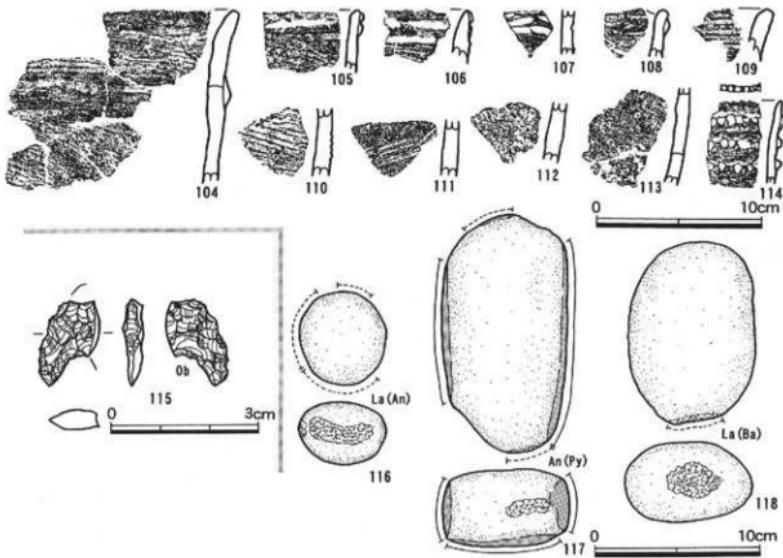
第37図 7号住居跡覆土中の遺物



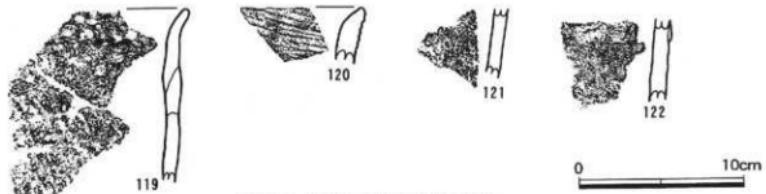
第38図 9・10号住居跡実測図(1/40)



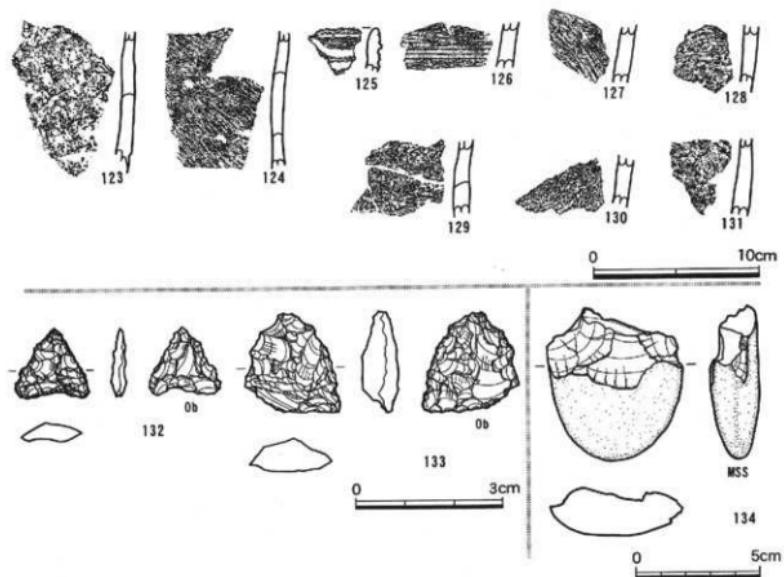
第39図 9号住居跡床面直上の遺物



第40図 9号住居跡覆土中の遺物



第41図 10号住居跡床面直上の遺物



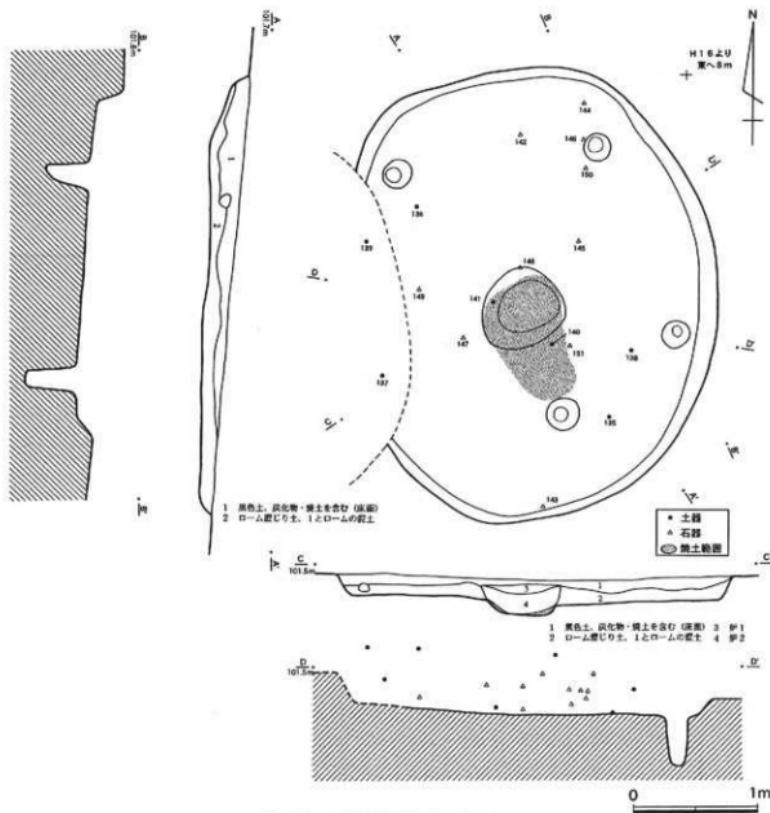
第42図 10号住居跡覆土中の遺物

10号住居

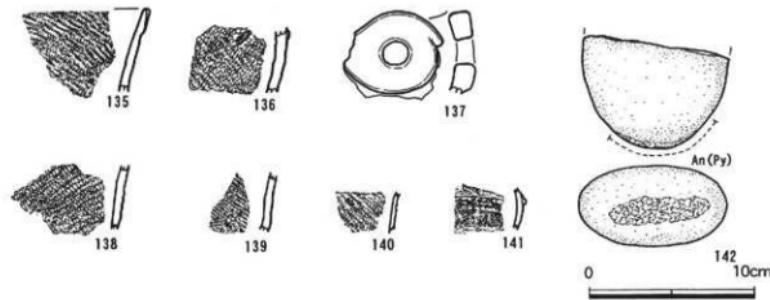
<形状> 直径約2.8mの円形で、南壁を一部倒木痕によって壊されている。
 <炉> 浅い掘り込みを持ち、覆土に焼土粒と炭化物を含む。燃焼による硬質面は確認できない。
 <床> 焼土と炭化物の集中層を確認したが、硬質化は認められない。
 <柱穴> 3ヶ所。
 <遺物・その他> 住居の壁付近に台石が出土している。また119～122は床面出土の土器で、120は下吉井式土器と考えられる。123～131は住居跡の覆土出土の土器である。122・125は下吉井式であるが、その他は胴部破片のため判然としないが、ほとんど同時期のものであろう。

11号住居

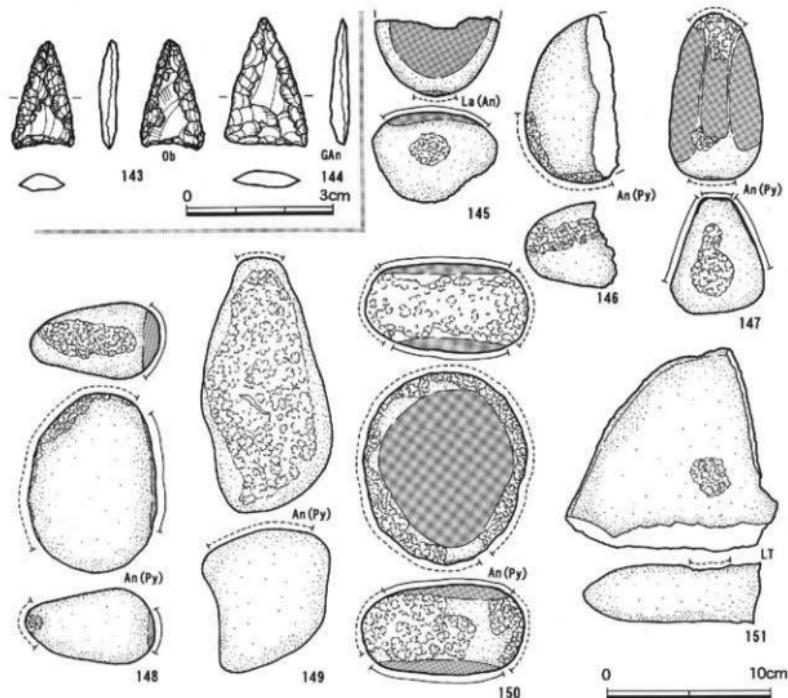
<形状> 当遺跡では比較的明確な掘り込みを持つ。北西—南東方向に長軸を持つ橢円形を呈し、長軸で3.7m、短軸で3.1mを測る。西壁は倒木痕によって破壊されており未検出。当遺跡では唯一の前期末の住居跡。
 <炉> 明確な掘り込みをもち、焼土塊を含む焼成面が確認される。
 <床> 焼土と炭化物の集中層を確認したが、硬質化は認められない。
 <柱穴> 深さ約40cmの柱穴が4本検出された。
 <遺物・その他> 135～141は前期末に属すると考えられる土器で、横方向の縄文が施される。141はΣ状工具による押し引きが特徴的な大歳山式の土器片である。石器は素材の剥離面を残す、平基の石鏃が2点、磨・蔽石類が8点出土している。炉中炭化物の¹⁴C年代測定結果は4820±50年BP。



第43図 11号住居跡実測図(1/40)



第44図 11号住居跡覆土中の遺物 1



第45図 11号住居跡覆土中の遺物2

表4 住居跡計測表

住居番号	長径(m)	短径(m)	住居番号	長径(m)	長径(m)
1号	3.5	2.3	7号	3.9	3.7
2号	4.1	3.6	8号	(4.2)	2.8
3号	(2.1)	2.5	9号	3.3	(2.8)
4号	3.0	2.8	10号	2.8	2.6
5号	4.4	3.5	11号	3.7	3.1
6号	3.2	2.9			

表5 住居跡内出土遺物一覧表

1号住居跡 土器類測定表							文様、調査等	
回収番号	遺物名	形名	序号	断面	分類	胎土		
1 3790-6B1	陶土	堅板瓦	II-a	横板	石英、隕石、長石、白色粒子、黑色粒子	墨文、次段を施す。		
2 5243-6B1	陶土	堅板瓦	II-b	隕石、金星石、白色粒子、黑色粒子		四寅切目を施し、格子目の押型文。		

1号住居跡 石器類測定表								
回収番号	遺物名	形名	序号	断面	石材	縦長	厚	重
3 5418-6B1	陶土	堅石・隕石	Ia/ba	129.0	69.0	56.0	783.2	
4 4566-1D1	陶土	石器	Ob		(18.7)	(15.5)	(2.9)	(0.3)

2. 位相別地質・土壌概要表

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等
1	65401/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	皮状凸起。半耕作面による耕作状の剥離を呈す。	
2	6774/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部に新しい穂状を呈し、その上に赤色を帯び、葉状は波状の沈積を呈す。	
3	6322/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	葉状の沈積を呈す。	
4	1877/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	葉状部は女性を表し、葉部は波状を呈す。	
5	6323/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部が円柱あり、半耕作面による耕作状を呈す。	
6	1398/S02	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	

2. 位相別地質・土壌計測表

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等
11	6336/S02	東北	隕石	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	皮状凸起。半耕作面による耕作状の剥離を呈す。	
12	5520/S02	東北	隕石	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部に新しい穂状を呈し、その上に赤色を帯び、葉状は波状の沈積を呈す。	
13	6524/S02	東北	隕石	日	地盤、石英、隕石、白色粘土、赤色粘土	葉状の沈積を呈す。	

2. 位相別地質・土壤観察表

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等
11	1107/S02	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	同時段による伸延化を呈す。	
18	5914/S02	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	全体(表面が波打つ)。	
19	5922/S02	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	全体(表面が波打つ)。	

4. 位相別地質・土壤観察表

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等
20	16100/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部から地盤を貼り付け、隕石は波状の沈積を呈す。	
21	16101/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状の沈積を呈す。隕石は波状を呈す。	
22	17165/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部に新しい穂状を呈し、その上に平行な波状を呈し、葉状は波状を呈す。	
23	16102/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
24	20649/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状を呈す。波状を呈す。	
25	15999/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
26	17156/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
27	17252/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
28	17150/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
29	16992/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
30	18809/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
31	19992/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
32	22123/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
33	16977/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
34	15955/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
35	17167/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
36	16953/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
37	16989/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
38	16990/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状。	
39	22645/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	
40	16989/S04	東北	隕石灰	日	地盤、隕石、白色粘土	波状。	

5. 位相別地質・飛行計測表

層番号	地名	地質	層序	標高	石材	縦長	横長	厚	重
40	18110/S04	東北	石礫	GaE	20.2	18.9	4.6	1.1	
41	17159/S04	東北	板状石礫	Ob	22.7	19.2	4.6	2.7	
42	16499/S04	東北	石礫	Ob	20.3	16.5	6.3	1.0	
43	26009/S04	東北	隕石	AcP	111.0	79.0	68.0	544.4	

6. 位相別地質・土壤観察表

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等
47	2153/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状凸起。波状高44.6cm、復元高41.8cm。隕石に低い穂状を貼り付け、口縫部に波状の押引を呈す。	
48	9249/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	同時段による波状の剥離を呈す。	
49	10490/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土	口縫部に新しい穂状を貼り付け。	
50	12520/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
51	84716/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
52	11224/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
53	9546/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
54	21979/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
55	9670/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
56	12521/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
57	11263/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。内部、内側に条溝を呈す。	
58	11247/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	多孔性を呈す。	
59	98972/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	低い穂状を貼り付け、その上に直角によじせた。	
60	9684/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	低い穂状を貼り付け、その上に直角によじせた。	
61	21253/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状の糸状を呈す。	
62	2174/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	波状の糸状を呈す。	
63	9554/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	2次的な波状を呈す。	
64	22056/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	口縫部に新しい穂状を貼り付け、波状の波状を呈す。	
65	9506/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	低い穂状を貼り付け、その上に直角によじせた。	
66	81811/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	低い穂状を貼り付け、その上に直角によじせた。	

6. 位相別地質・岩石剖面観

層番号	地名	地質	層序	時期	分類	地土	文様、斑駁等		
57	10423/S05	東北	石礫	Ob	11.0	(14.3)	(4.1)	(0.9)	
58	50485/S05	東北	石礫	Ob	17.3	21.4	5.5	1.4	
59	10493/S05	東北	石礫	Ob	26.8	31.6	24.7	2.7	
70	8954/S05	東北	石礫	Sct	81.0	82.0	29.0	28.6	
71	10519/S05	東北	石礫	LafIa	0.2	48.0	44.0	187.5	
72	8959/S05	東北	石礫	Ob	54.0	33.0	26.0	64.5	

6. 位相別地質・土壤計測表

層番号	地名	地質	層序	標高	石材	縦長	横長	厚	重
79	5550/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	ヘラビニ真による2本単位の削引を呈す。			
79	11259/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土	赤色。			
80	5591/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	赤色。			
81	8957/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	ヘラビニ真による削引を呈す。			
82	12326/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	赤色。			
83	11371/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	赤色。			
84	5581/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	赤色。			
85	5582/S05	東北	基盤灰	日	地盤、石英、隕石、隕石、白色粘土、赤色粘土	ナダ。			

6. 位相別地質・飛行計測表

層番号	地名	地質	層序	標高	石材	縦長	横長	厚	重
69	8901/S05	東北	基盤灰	Ob	107.0	123.0	69.0	116.0	

7号地周囲 土壌剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	時期	分類	土質	文様、調査等
91	10975	SB7		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	口縫間に低い筋条を貼り付け。
92	10976	SB7		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	表面に低い筋条、アラ。
93	20219	SB7		壤土	樹根腐半	II	石英、金星石、白色粘土、黑色粘土	表面に低い筋条を貼り付け、その上に斜面を施す。表面は水系を施す。
94	12351	SB7		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	低い筋条を貼り付け、その上に斜面を施す。
95	12350	SB7		壤土	原生木	IIe	繊維、白色粘土、黑色粘土	低め。
96	10972	SB7		壤土	樹根腐半	II	石英、金星石、白色粘土	表面を施す。薄手土質。口縫間に低い筋条を貼り付け、その上に斜面を施す。
97	99558	SB7		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	口縫間に低い筋条を貼り付け、その上に斜面を施す。

7号地周囲 石礫剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	調査等
98	11756	SB7		壤土	石礫	Qb	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	奥元口部248cm。口縫間に削り出された表面を施す。				
99	14975	SB7		壤土	石礫	Ae(Py)	62.0	37.0	33.0	118.8	口縫間に削り出された表面を施す。	

8号地周囲 土壌剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	文様、調査等
87	9448	SB8		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	奥元口部248cm。口縫間に削り出された表面を施す。				
88	15028	SB8		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	奥元口部248cm。口縫間に削り出された表面を施す。				
89	9451	SB8		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	奥元口部248cm。口縫間に削り出された表面を施す。				
90	10926	SB8		壤土	原生木半	Ia	繊維、白色粘土、黑色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。				

9号地周囲 土壌剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	文様、調査等
102	11743	SB9		壤土	草原木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土、黑色粘土	奥元口部27.8cm。口縫間に削り出された表面を施す。その間に波状の凹凸を施す。				
103	757	SB9		淤泥	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、赤色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。その間に波状の凹凸を施す。				
104	12954	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。表面には水系を施す。				
105	9800	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、白色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。表面には水系を施す。				
106	7718	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。表面には水系を施す。				
107	16914	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	口縫間に削り出された表面を施す。				
108	13546	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
109	12521	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
110	11544	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
111	10062	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
112	11644	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
113	11048	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				
114	14565	SB9		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の凹凸。口縫間に削り出された表面を施す。				

9号地周囲 石礫剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	調査等
115	12641	SB9		壤土	石礫	Qb	(16.8)	(12.4)	(3.5)	(6.6)		
116	20913	SB9		壤土	石礫	La(Au)	69.0	54.0	39.0	162.9		

10号地周囲 土壌剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	文様、調査等
120	15309	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状、傾斜ありに削り出された表面が目立つ。				
120	15420	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状。				
121	15278	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状。				
122	15413	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	低い筋条を貼り付け。				
123	15293	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状の表面。				
124	10064	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状。				
125	12979	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状の表面。				
126	9744	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状の表面。				
127	8566	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状の表面。				
128	15287	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状。				
129	871	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状。				
130	110245	SB10		壤土	原生木	IIe	繊維、石英、輝石、白色粘土	波状。				

10号地周囲 石礫剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	調査等
132	15616	SB10		壤土	石礫	Ob	15.7	14.6	3.2	0.5		
133	9781	SB10		壤土	石礫	Ob	22.3	17.7	6.5	2.0		

11号地周囲 土壌剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	文様、調査等
135	9877	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の表面を施す。				
136	15281	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の表面を施す。				
137	7916	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	波状の表面。				
138	6352	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	FU-RHの方向に沿った多孔状穴。				
139	5240	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	FU-RHの方向に沿った多孔状穴。				
140	4053	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	灰黄色を施す。第2土層、表面に波状を施す。				
141	8869	SB11		壤土	原生木	IIe	繊維、輝石、白色粘土、黑色粘土	灰黄色を施す。第2土層、表面に波状を施す。				

11号地周囲 石礫剖面図

地番	地物	通路	番号	層序	標高	時期	石材	幅長	横長	厚	重	調査等
142	7377	SB11		壤土	繊維	Am(Py)	(76.0)	(96.0)	(50.0)	(418.0)		
143	6193	SB11		壤土	石礫	Ob	21.6	12.1	3.4	0.7		
144	7981	SB11		壤土	石礫	GAn	28.5	18.0	0.6	1.5		
145	6315	SB11		壤土	繊維・石礫	La(Au)	(49.0)	(77.0)	(58.0)	(204.0)		
146	7329	SB11		壤土	繊維	Am(Py)	(101.0)	(83.0)	(53.0)	(384.0)		
147	6426	SB11		壤土	繊維・石礫	Am(Py)	104.3	87.5	73.0	581.7		
148	9214	SB11		壤土	繊維・石礫	Am(Py)	112.0	86.0	47.0	562.2		
149	7918	SB11		壤土	繊維	Am(Py)	106.0	87.0	90.0	1320.8		
150	7880	SB11		壤土	繊維・石礫	Am(Py)	120.0	102.0	68.0	1047.4		
151	9319	SB11		壤土	繊維	L.T	126.0	123.0	40.0	850.0		

3 黒耀石埋納土坑

調査区西端、J10グリッドより直径約60cm、深さ約25cmの小土坑が検出された。この小土坑の覆土はFBb層で、中からは黒耀石の剥片約220点と土器片2点が出土した。出土した土器片より、縄文時代早期前半に位置づけられる。なお第46図中において、遺物が一部土坑より広く分布しているが、これは早期後半の焼土跡に関わる搅乱の結果である。

黒耀石の剥片の中には両面加工石器（石鎚の未製品か）1点（154）、2次加工剥片1点（155）、楔形石器21点（156～175）が含まれる。また、部分的に黒耀石産地分析をおこなったところ、両面加工石器が諫訪の星ヶ台産のものだった他は全て天城の柏崎産のものであることが解った。これらの剥片は礫面を持つものが多いが、3～4cm大の剥片が多く（第49図）、大きさが選択されている可能性がある。また細かいチップやパウダーの出土がほとんどないため、石屑を集めて投棄したものとは考えられない。よってこの土坑は、石器の素材となる剥片を一時的に保管したものと考えられる。

土器は、土坑内より2点出土している。152は土坑の底部附近で出土したもので、にぶい赤褐色を呈し、横位の押型文を施した後に縱方向に磨り消しを入れる。胎土に纖維を含む。153は縦位に山形文を施したもので、明褐色を呈し、胎土に纖維を若干含む。

4 集石

集石は全部で8基が検出された。1～7号集石は富士黒色土層のa層とb層の層界附近で検出されており、ほぼ同時期のものと考えられる。8号集石は検出面が15cmほど高く、FBa層上面で検出した。やや周期的には新しくなると考えられる。

これらは、浅い掘り込みを持つもの（1～6号）と持たないもの（7・8号）があり、掘り込みを持つものの中でも火を燃やした際の熱によってロームが変化し、焼土塊の層となって残るものがある。また図中の受熱礫としたものは赤化が認められるもので、トーンの貼ってないものの中でも、実際には熱を受けているものは多いと考えられる。

<1号集石>

270個の礫から成り、掘り込みを持つもので層状に焼土塊が残る。礫はこの焼土の層より上にあがっていいるが、焼土の下にも炭化物を含む層が存在する。このことは、この集石が数度にわたって使用されており、現在残っている焼土層が最終の燃焼面であったことを示す。本集石から検出した炭化物の¹⁴C年代は9590±50年BPを示した。

<2号集石>

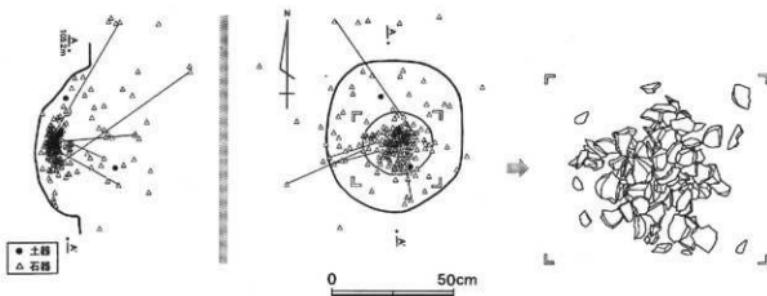
65個の礫から成り、掘り込みを持つもので土坑の底部に焼土層がある。覆土は炭化物、焼土粒混じりの富士黒土層で、出土した礫のほとんどが、受熱によって赤化している。¹⁴C年代は9480±50年BPを示した。

<3号集石>

358個の礫から成り、掘り込みを持つが焼土層はないもので、覆土は炭化物、焼土粒混じりの富士黒土層である。礫は土坑の掘り込みよりやや大きく広がり、分布は中央部がへこみ、縁辺部が土手状に盛り上がる。あたかも食物を取り出すために内部の礫を抜き取り、縁辺部へ移動させたかのようである。赤化した磨・敲石（176）が出土している。

<4号集石>

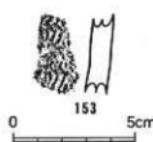
85個の礫から成り、掘り込みを持つが焼土層はないもので、覆土は炭化物、焼土粒混じりの富士黒土層である。礫は掘り込みのプラン以上に広く散らばっており、赤化している礫は全体の約半分である。赤化した磨・敲石（177, 178）が出土している。



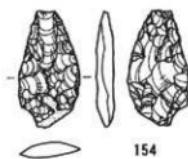
第46図 黒耀石埋納土坑実測図



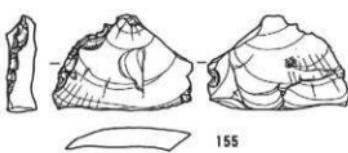
152



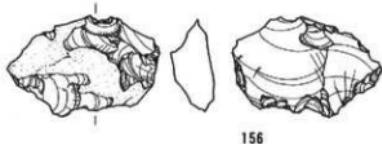
153



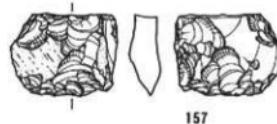
154



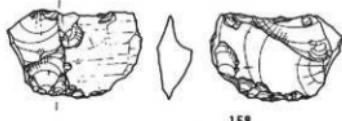
155



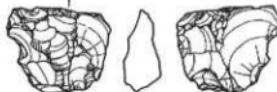
156



157



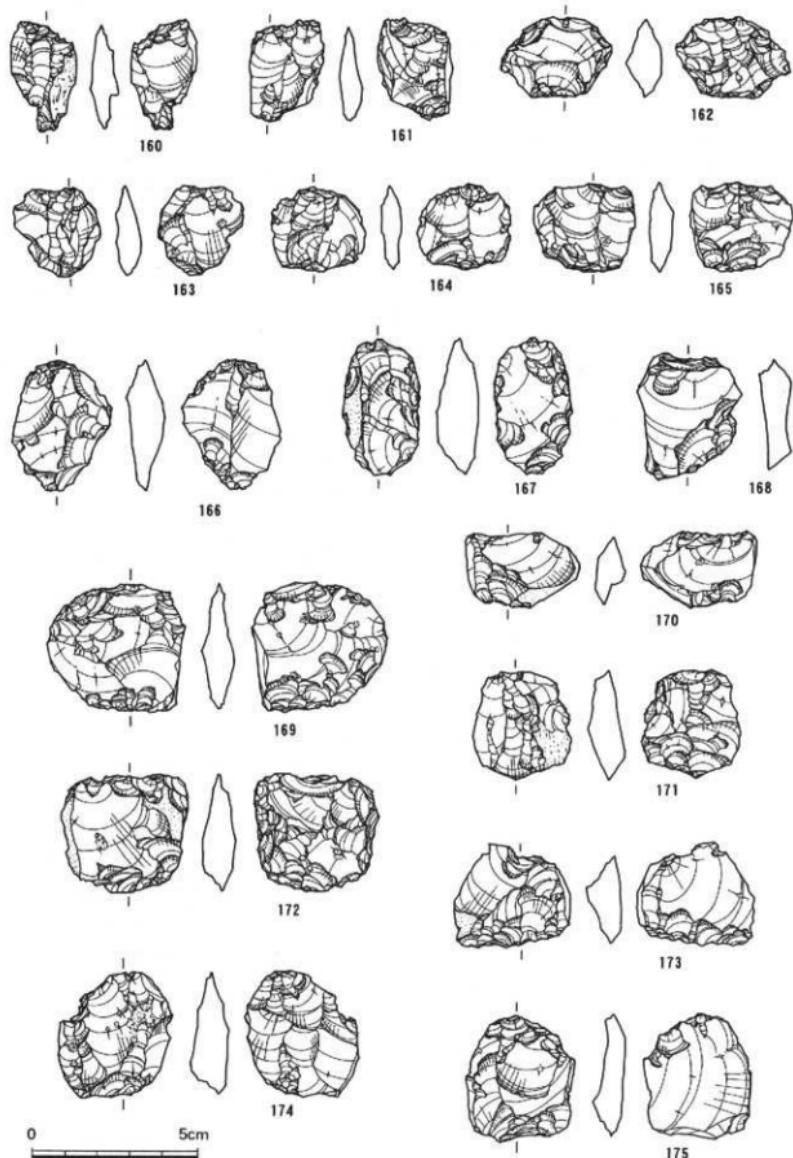
158



159

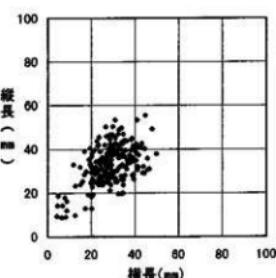
0 5cm

第47図 黒耀石埋納土坑出土遺物 1

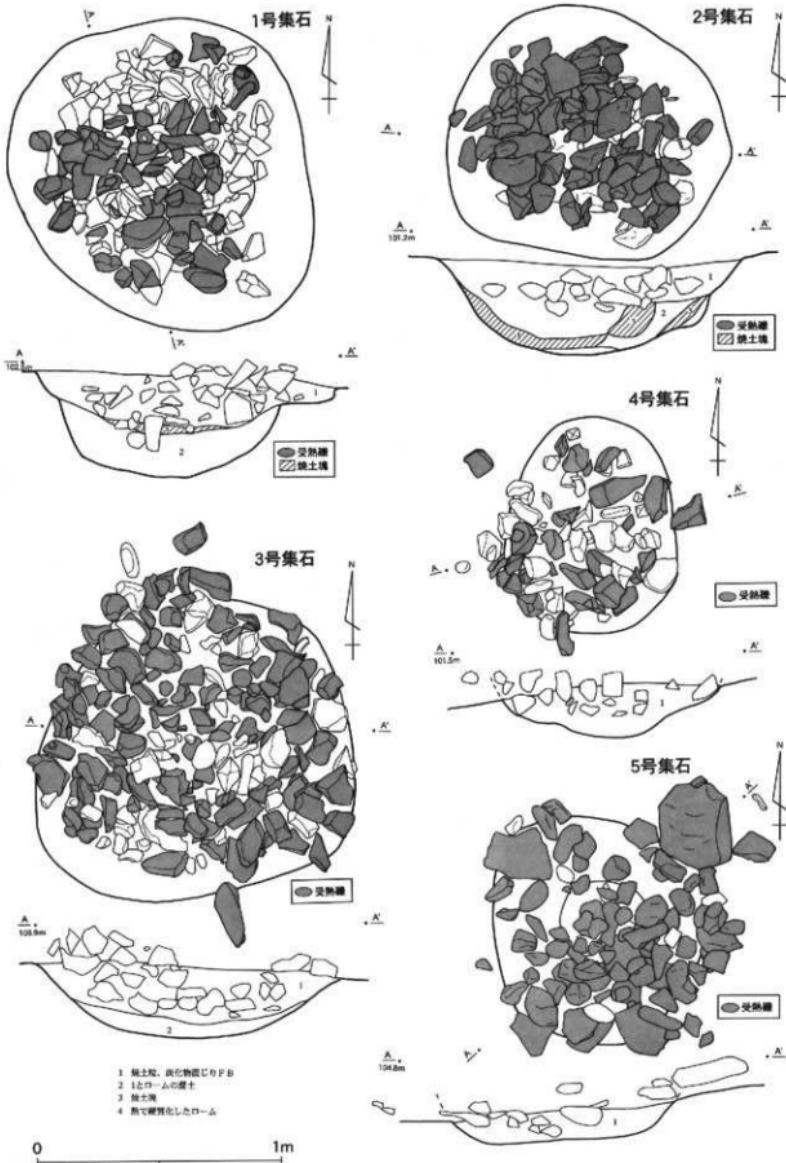


第48図 黒耀石埋納土坑出土遺物 2

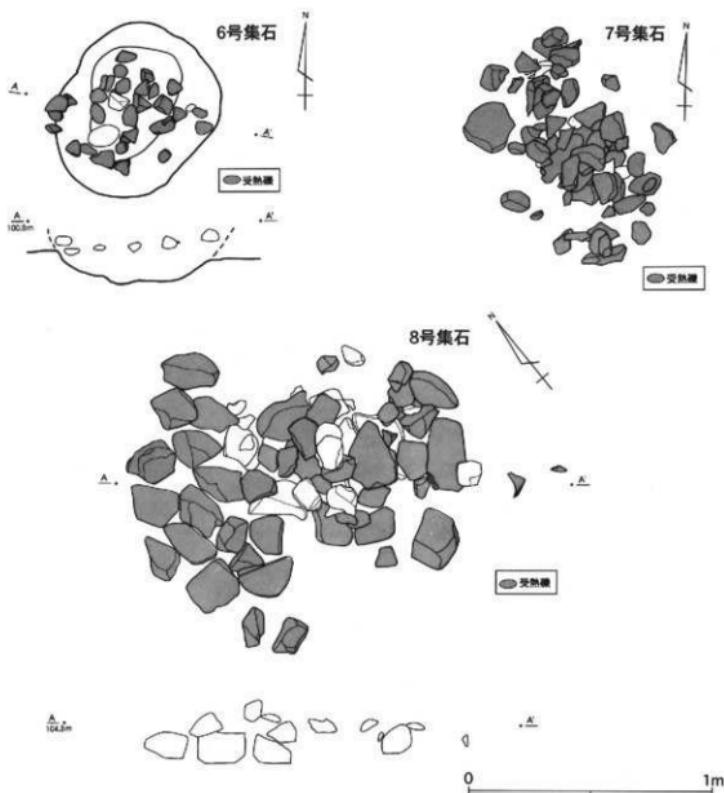
表6 土坑內出土石器計測表



第49圖 土坑內出土石器縱橫值



第50図 集石実測図1



第51図 集石実測図2

<5号集石>

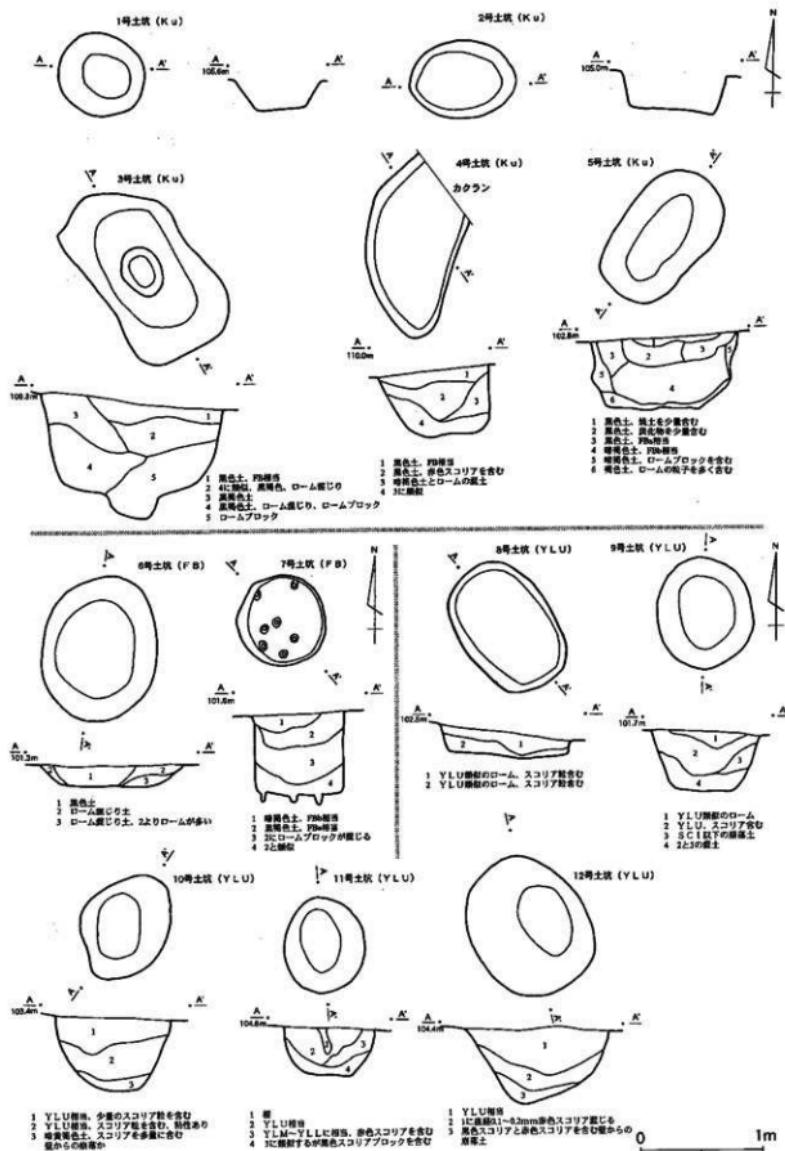
102個の礫から成り、掘り込みを持つが焼土層はないもので、覆土は炭化物、焼土粒混じりの富士黒土層である。礫の大きさにはばらつきがあり、小さいものは激しく焼け、割れ面も赤化していることから、繰り返し使われ、どこからか礫の補給もしていると考えられる。赤化した磨・敲石(179)が出土している。

<6号集石>

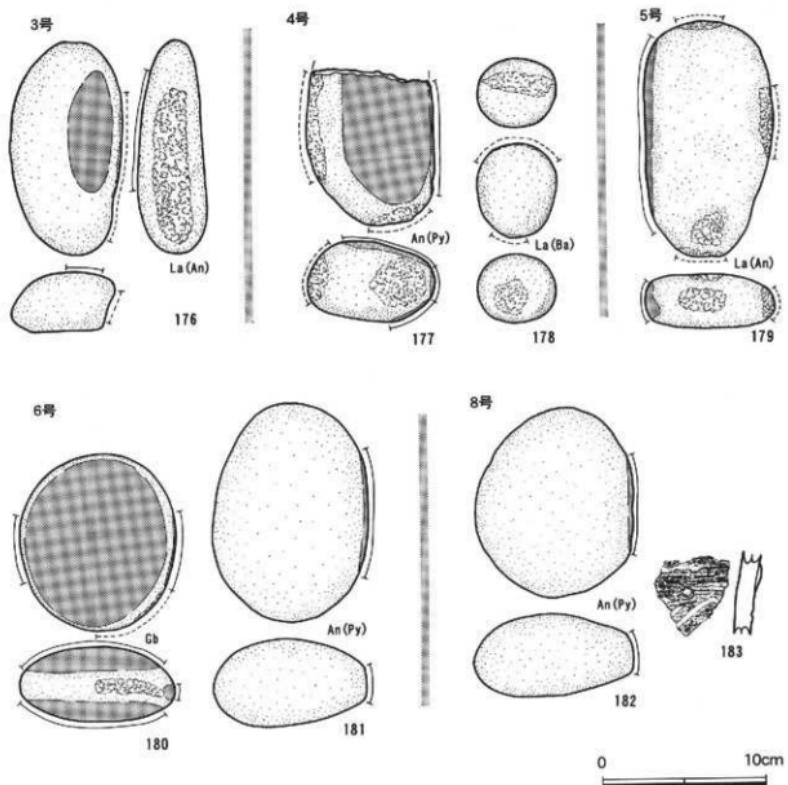
33個の礫から成り掘り込みを持つが、焼土層はないもので、覆土は炭化物、焼土粒混じりの富士黒土層である。掘り込みのプラン確認が遅れたため挿図上ではごく浅い掘り込みだけが図化されているが、実際には明確な土坑を伴っていたと考えられる。礫は小さめで、数も少ない。

<7号集石>

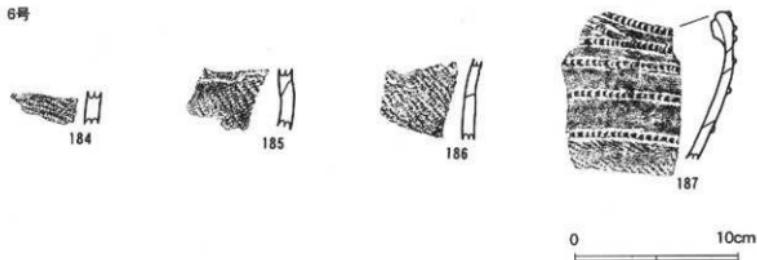
61個の礫から成り土坑や焼土を伴わない集石である。ほとんど礫が赤化しており、まわりには炭化物が僅かに認められるが、焼土粒等は検出されなかった。集石の近くからはI群土器が出土している。



第52図 土坑実測図



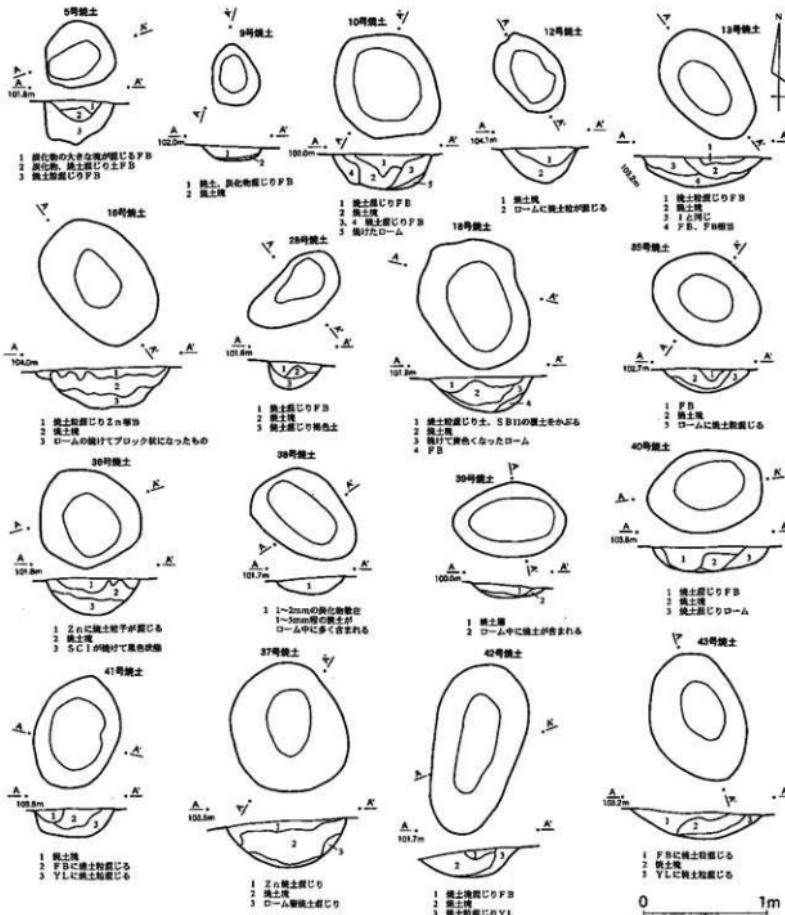
第53図 集石遺構内出土遺物



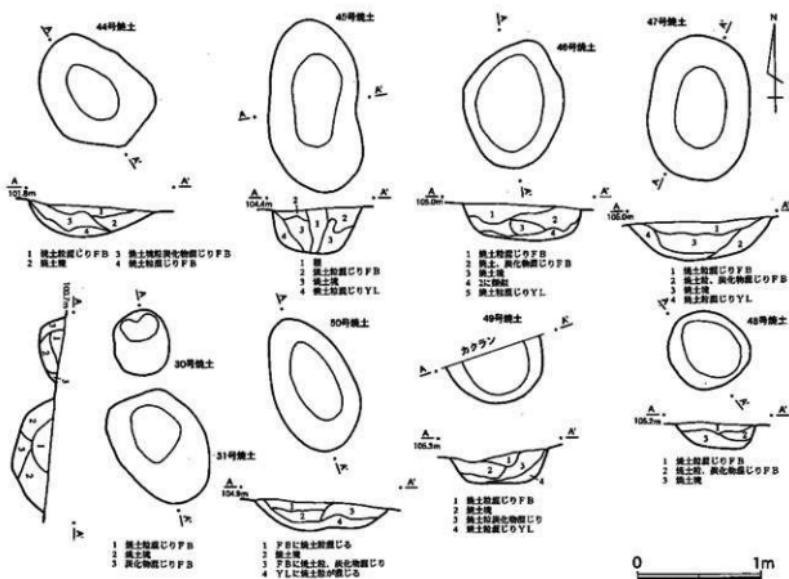
第54図 土坑遺構内出土遺物

表7 土坑計測表

土坑番号	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土坑番号	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1号	Ku	0.71	0.64	0.23	7号	FB	0.77	0.74	0.64
2号	Ku	0.86	0.63	0.30	8号	YL	1.12	0.79	0.12
3号	Ku	1.52	0.80	1.05	9号	YL	0.93	0.76	0.50
4号	Ku	(1.15)	0.76	0.60	10号	YL	0.94	0.71	0.60
5号	Ku	1.28	0.72	0.60	11号	YL	0.78	0.65	0.39
6号	FB	1.18	(0.87)	0.15	12号	YL	1.14	0.96	0.60



第55図 焼土跡実測図 1



第56図 焼土跡実測図2

<8号集石>

77個の礫から成り土坑や焼土を伴わない集石である。他の7基よりも上層で検出されており、礫が板状に剥離しており、サイズも明らかに大きいことから、所属する時期は他のものと異なると思われる。集石内より早期下吉井式の土器片(183)が出土している。

5 土 坑

栗色土層で5基(ピット状のもの2基を含む)、富士黒土層で2基、休場層上層で5基が検出された。逆茂木状の小穴が検出されたのは、3号(Ku)、7号(FB)の2基である。また6号土坑(FB)からは前期末の土器が出土している。

6 焼土跡

焼土跡は全部で50基を検出したが、このうち掘り込みが明確な26基を第55・56図で図化した。この他のものは全体図(第20図)で扱っている。また、住居跡に関連していると考えられるものは住居跡の項で扱っている。所属時期については遺物が出土していないため、覆土に頼るしかないが、16・36・37号が栗色土層に属す他は、富士黒土層を覆土に持つものである。

第2節 遺構外出土の遺物

1 土器

遺構外出土の土器は、縄文時代早期～中期にわたり、約13000点が出土した。このうち約460個体を図化し、時期別に以下のように分類し報告する。

I群 関東の撚糸文土器群に対比される撚糸文と縄文土器

II群 押型文土器

III群 早期後半の条痕文系土器

IV群 前期末～中期初頭の土器

(1) I群土器

関東の撚糸文土器群に対比される撚糸文と縄文土器である。いずれも小破片であり、復元できるような個体は出土しなかった。撚糸文を施すものをa類、縄文を施すものをb類として以下に報告する。I群の分布はa類、b類とも同様の占地傾向を示し(第57図)、層位的には富士黒土層(FBb)から出土している。

< I群 a類 > (1~88)

1~11は撚糸文を外面に縦方向に施し、口唇部と口縁部内面に横あるいは斜め方向に文様を施すもので、口縁部がやや外反するのが特徴である。胎土には纖維、灰白色砂粒を含む。口唇部の形状と施文方法は、4・5・6・10は口唇部を平坦につくり、原体自体を押しつけるようにして(絡状体压痕文)施文するが、その他のものは口縁部の器厚を徐々に薄くして立ち上げ、裏面の連続として口唇部にも施文が及んでいる。原体の撚りは4がL、10がRLの他は全てRである。また9は口縁部が曲線でできており、ゆるやかな波状を呈する可能性がある。

12~16は外面に縦方向に、口唇部は横、斜め方向に撚糸を施文するものである。13はr1条を軸に2条のrを交互に巻き付けたものを原体としている。1~16は縄の幅が4~2.5mmと比較的大く、撚りが緩いものを使用している。

17~28は土器の外面にのみ縦方向の施文があるものである。29~77は胴部破片を集めた。また78~83は網目状の撚糸文であるが、78は底部に近い破片のため撚糸が重なった可能性がある。84~88は底部破片である。やや尖った形状を示す。

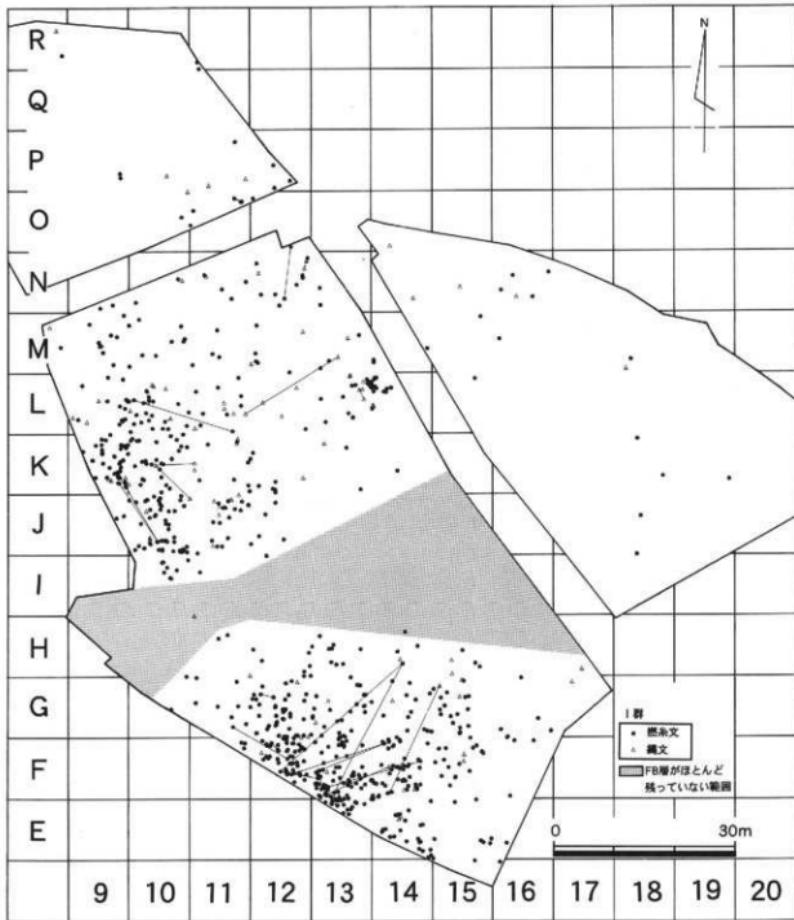
< I群 b類 > (89~161)

89~101、103・104は土器の外面と口唇部、口縁部裏側に縄文を施すものである。撚糸文と異なり、口唇部を明確に(平坦に)作り出している。よって口唇部の施文は裏面の施文と連続することなく、独立して施されている。89は口縁部が著しく外湾しており、内面は縄文施文の後、口唇部から3段ほど横方向にナデられているため穂が観察できる。外面はLRの縄文を縦方向に、内面は横方向に施す。90~94もやはり口縁部が外湾しており、口縁部裏面は縄文施文の後、施文部以下を強くナデしているために明確な穂が観察される。原体はLRの縄文で、外面を縦方向、内面と口唇部を横方向に施文する。104は口縁部が直立し口端が角張る。原体はRLの縄文で、外面は縦方向に、内面と口唇部は横方向に施す。102と105は内面に施文はないが、口唇部にあるものである。105は縦方向に施文をした後、口縁部周辺に磨り消された痕跡がある。これら(89~141)は縄文施文のち、模様の上を撚でたような痕跡があり、条間が潰れて開いている。また胎土には纖維を含み、赤褐色を呈するものが多い。

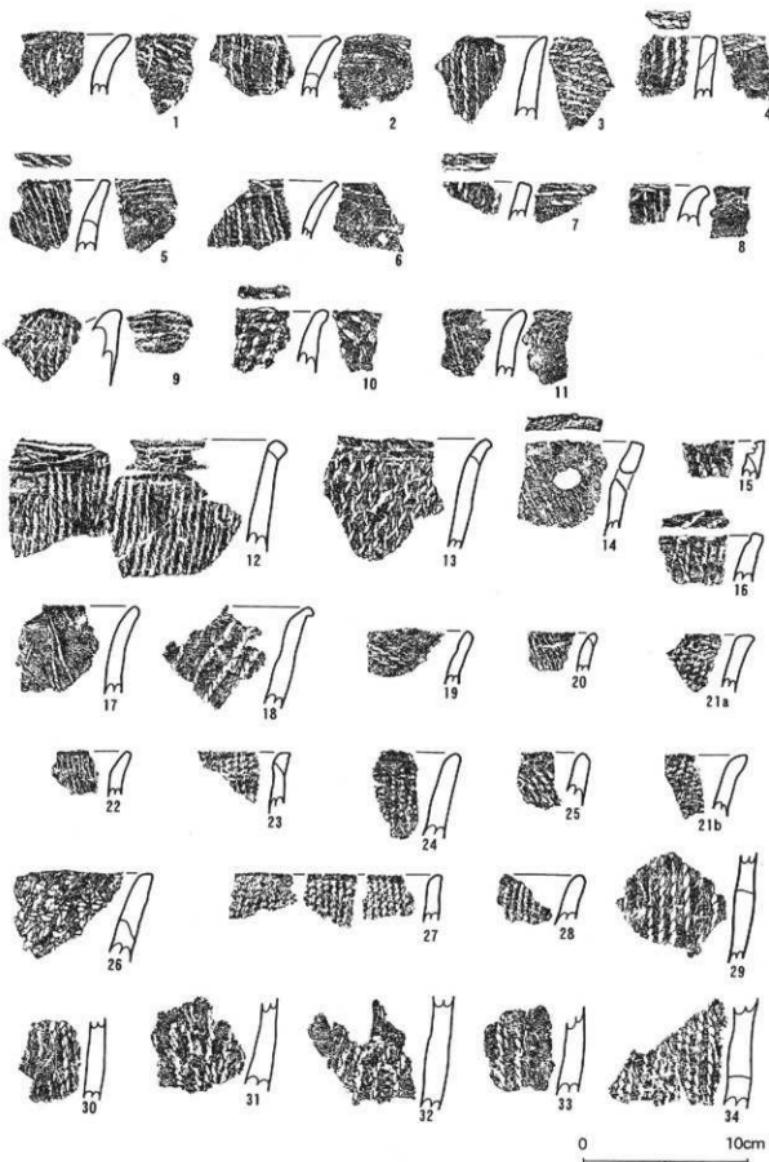
142~151は、条間が潰れていないものである。筋が比較的細かく、羽状縄文(142~144)を含む。胎

土は黄褐色がかる。

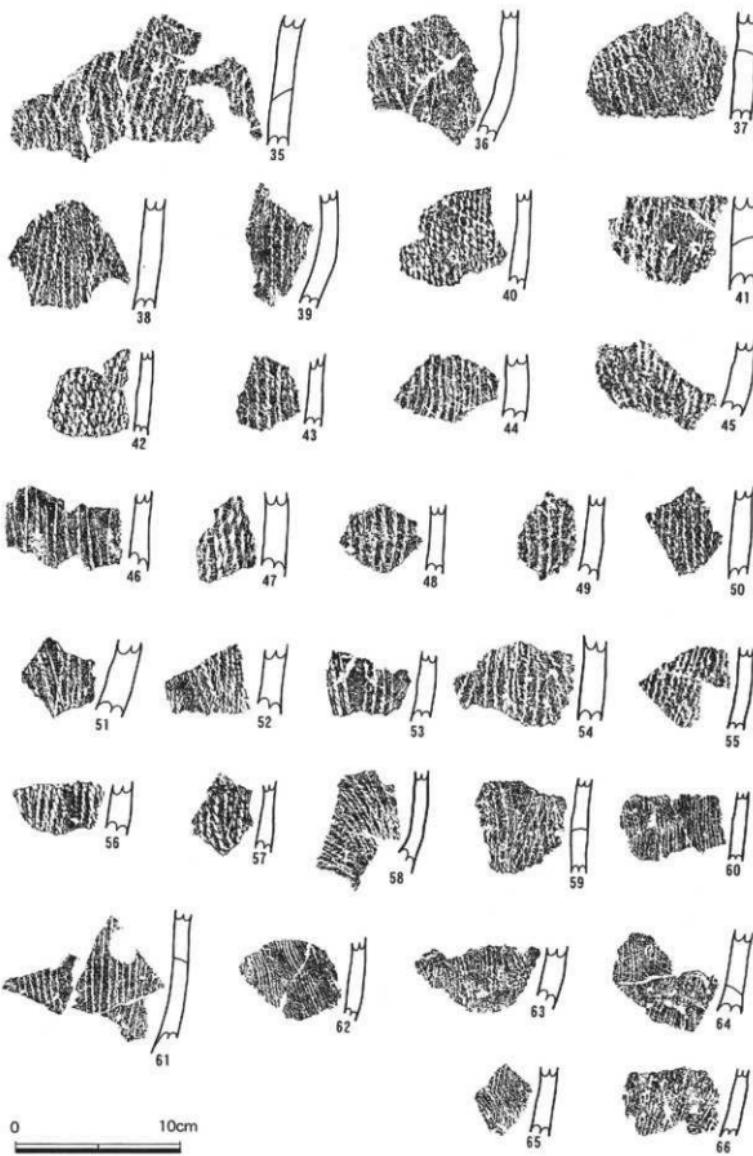
152～161は胎土が褐灰色を呈するものである。152～154はRLの縄文を外面に縦方向に施したもので、口唇部はやや肥大し横方向の縄文が施される。外面は口端部に無文部が残る。3点は同一個体の可能性がある。155・156はLRの縄文を縦方向に施したものである。節が粗大である。



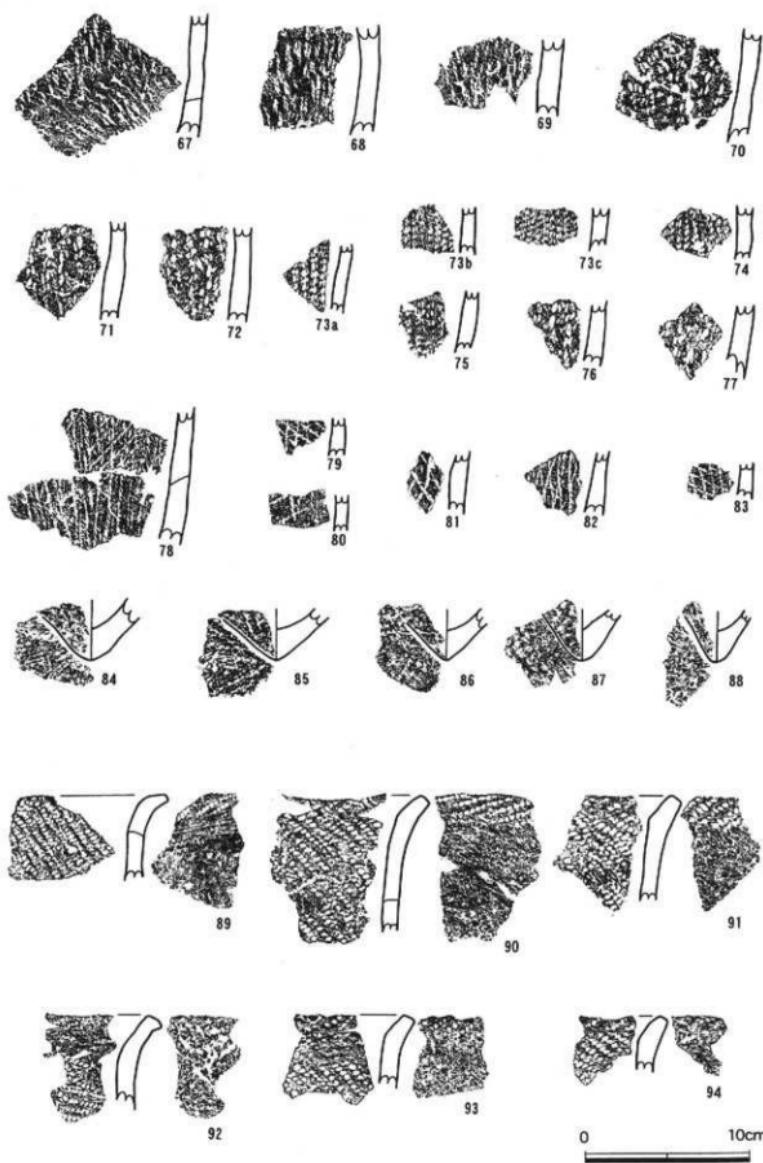
第57図 I群土器出土状況(1/800)



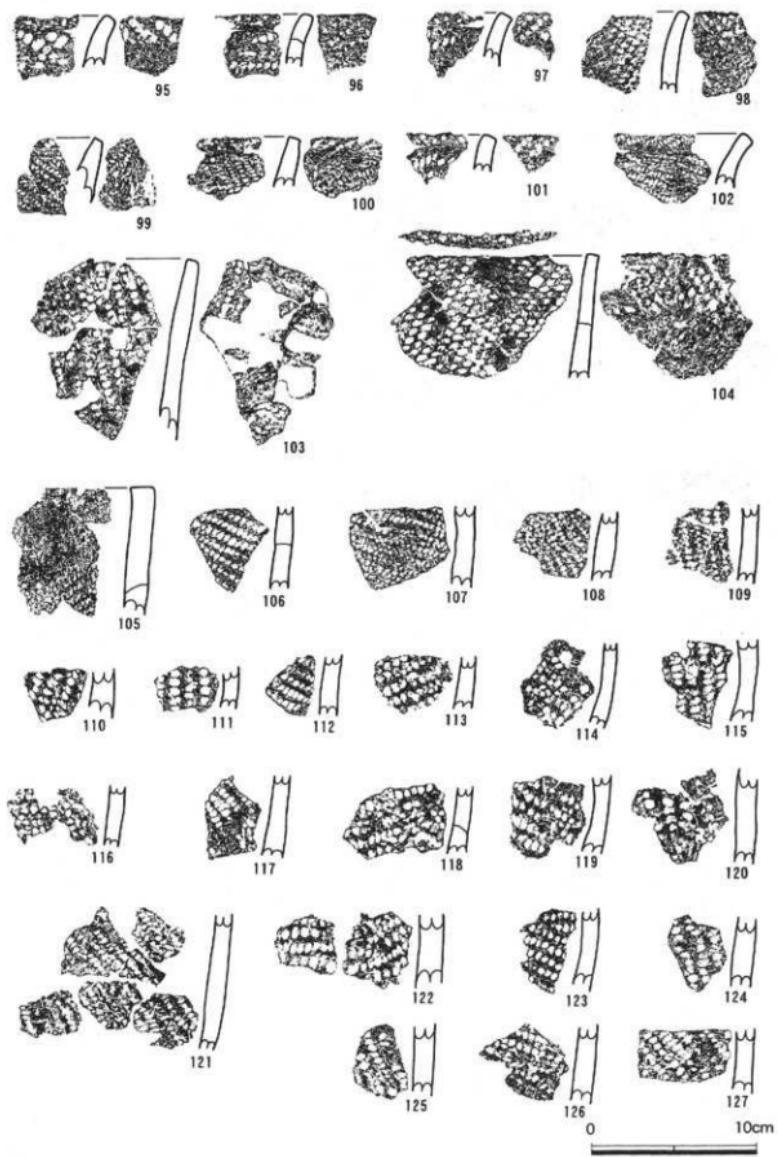
第58図 I群a類土器 1



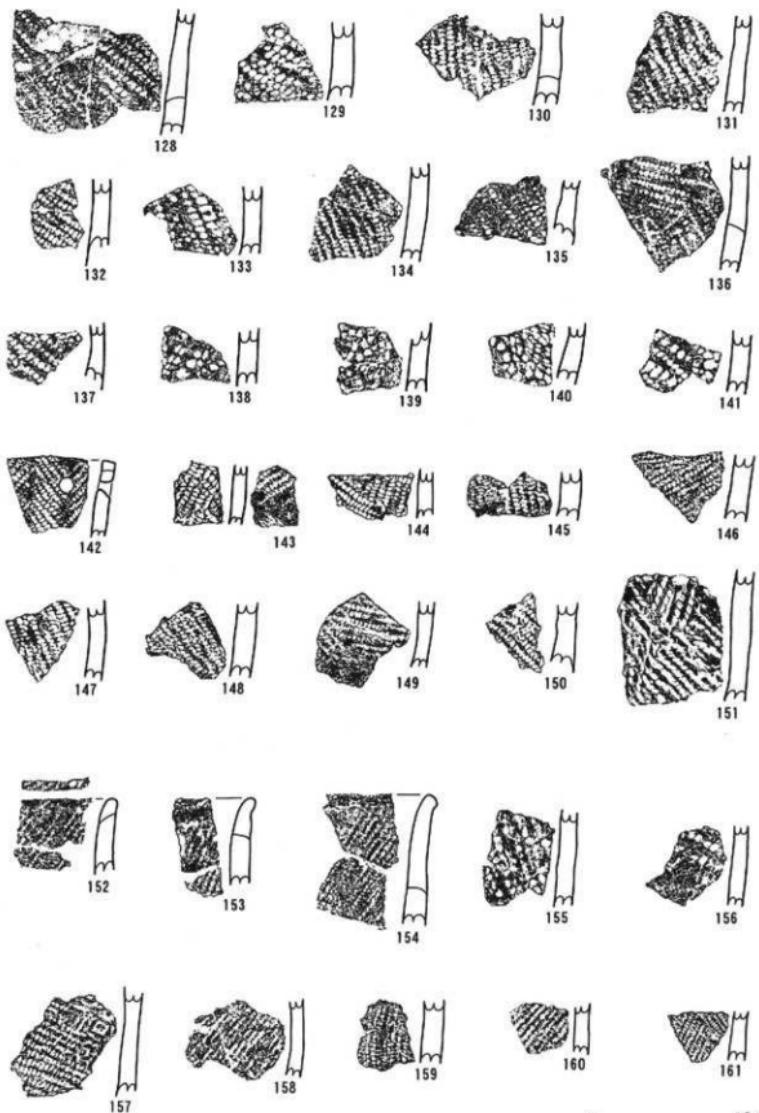
第59図 I群a類土器 2



第60図 I群a・b頸土器



第61図 I群b類土器1



0 10cm

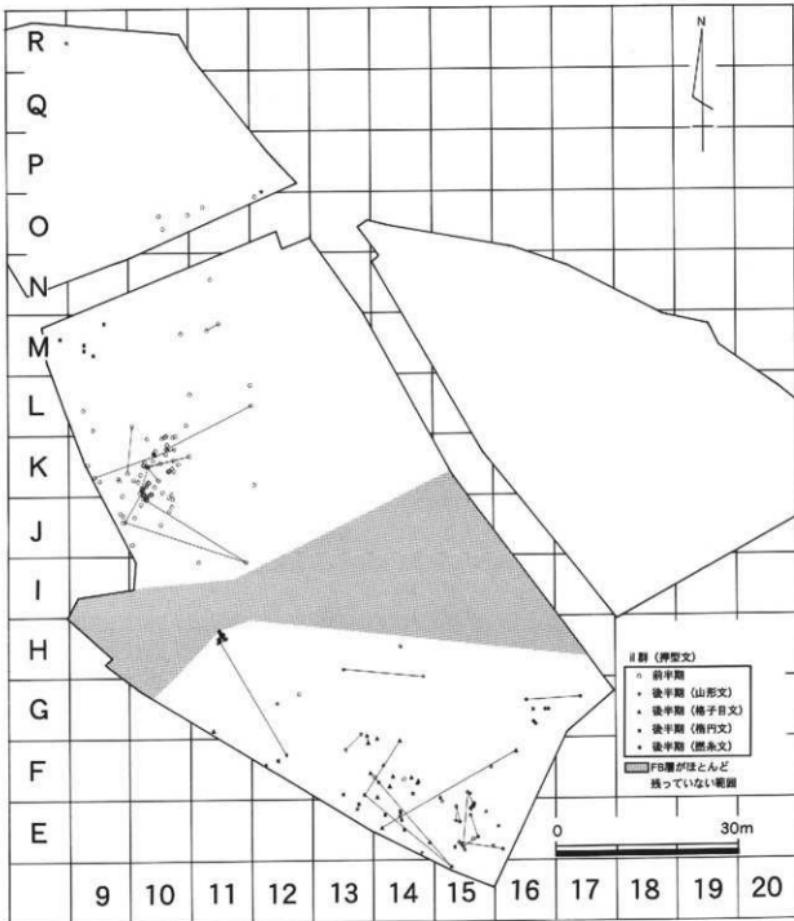
第62図 I群b類土器 2

(2) II群土器

押型文土器をII群とした。また、胎土に纖維を含み、押型文土器の前半期に属すると考えられるものをa類、胎土に纖維を含まず、雲母を含み後半期に属すると考えられるものをb類とした。a類は調査区の北半分に分布するのに対して、b類は南半分に分布しその違いは明らかである（第63図）。

<II群a類> (162~214)

162~176は胎土に纖維を含み、山形文を縦方向に施すものである。中でも162~166は口唇部裏面に横方向に施す。口唇部はナデにより平坦となり、やや外湾する。171は胎土は灰褐色を呈し、纖維を多量に含む。比重が軽く、大変脆弱である。177~187は変形の山形文を縦方向に施す。胎土には少量



第63図 II群土器出土状況(1/800)

の繊維と白色岩片を含む。188と189は山形の変形文を菱形状に施文したもので、189は口唇部にも施文が観察される。繊維を含む。

190~198は灰褐色を呈し、胎土に繊維を少量含み比重が軽い。粗大な山形文を横方向に施し、縦方向の帯状にそれを磨り消す。199~203は粗大な山形文を横方向に施すもので、胎土には繊維をほとんど含まず、白色の岩片を含む。

204~213は細かな格子目文を横方向に施したものである。204~207は赤褐色を呈し、胎土に繊維を含む。成形が粗く、器面に凹凸があり口端部も一様ではない。また208~213は胎土が褐灰色を呈し、繊維と白色岩片を含む。胎土はI群の152~161に類似する。不鮮明であるが、208・209・210に縦方向の磨り消しが観察される。214は幅広の格子目文を縦方向に帯状に施文する。胎土には繊維を含む。

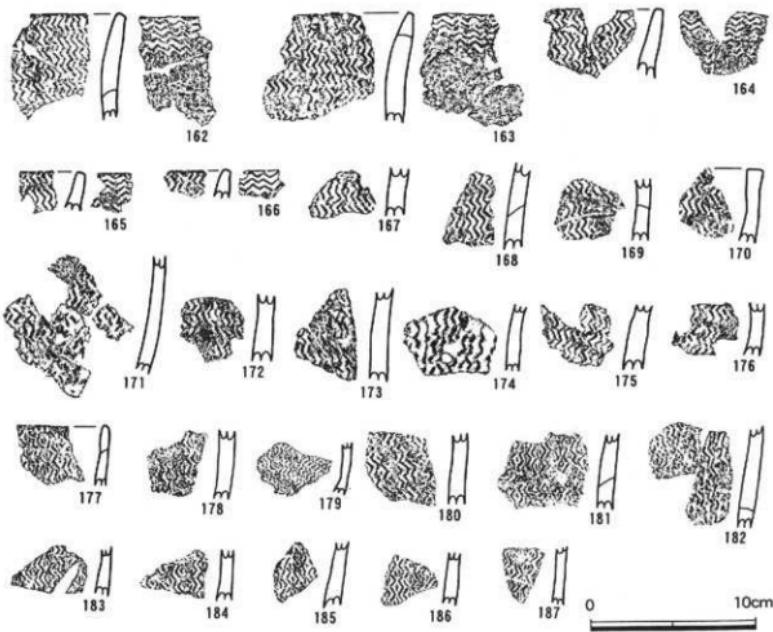
< II群 b 類 > (215~249)

215~219は胴部に山形文を縦方向に施したのち、口縁部に横方向に施文するものである。口縁部は緩やかに外反し、口唇部は平坦に整えられている。胎土には繊維を含まず、金雲母を含む。

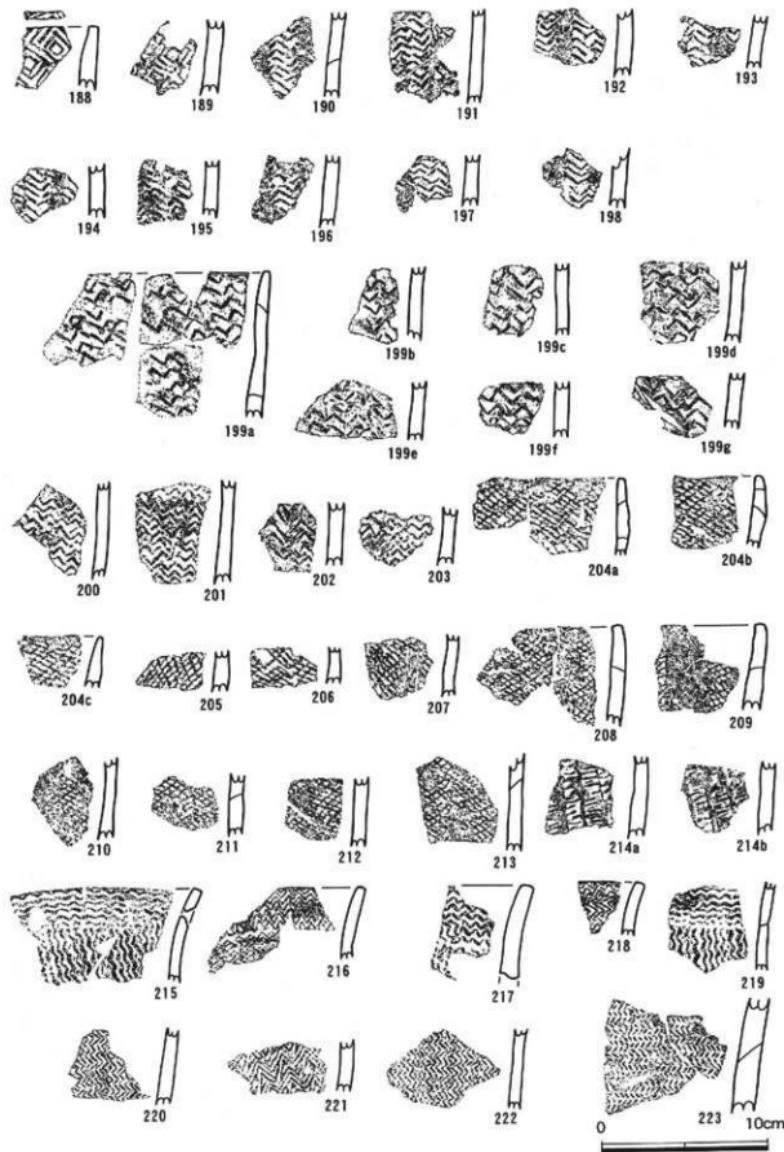
227~235は格子目文を横方向に施したもので、227・228には口縁部に刻目がある。胎土は灰褐色を呈し、砂質で繊維を含まない。

236~248は橢円文を胴部に縦方向に施したものである。236は胴部の後、口縁部に横方向に施文する。また、248には縦方向の帯状の磨り消しが観察される。

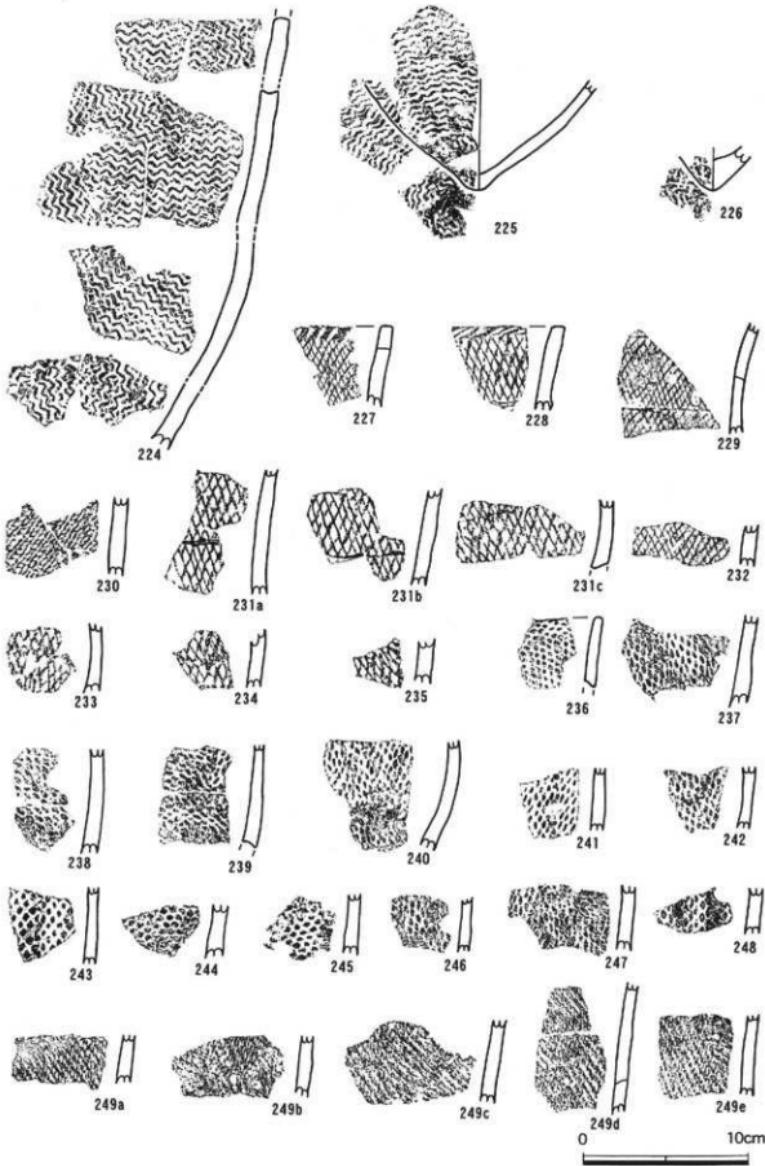
249はII群 b 類に並行すると考えられる撚糸文土器である。胎土は砂質で繊維を含まず、Lの撚糸文を斜め方向に施す。



第64図 II群a類土器



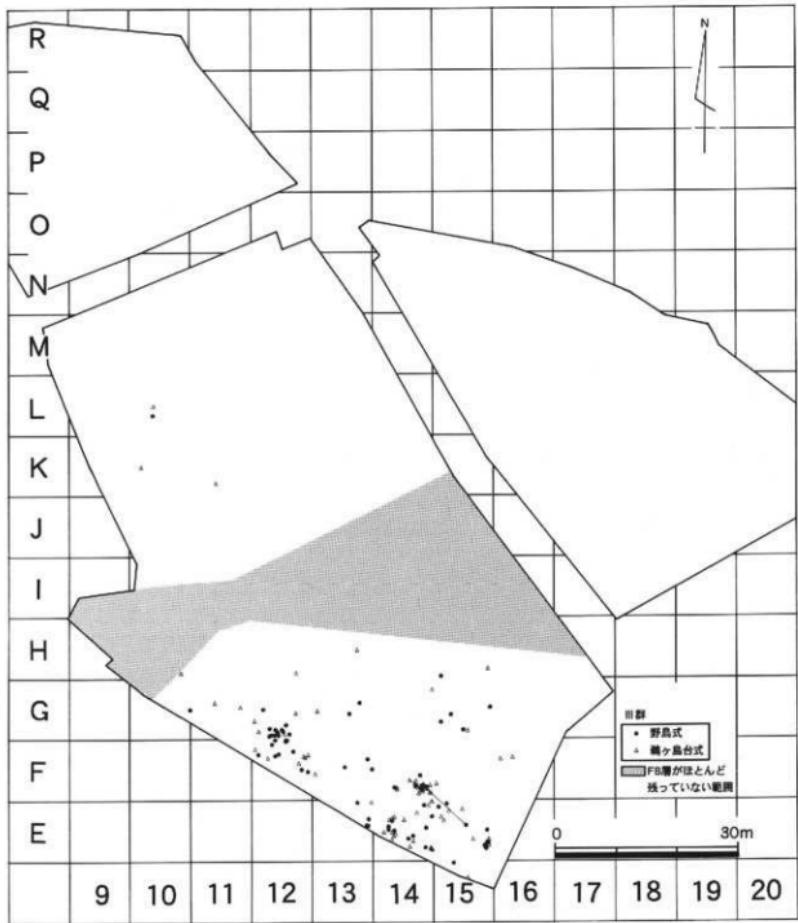
第65図 II群a・b類土器



第66図 II群b類土器

(3) III群土器

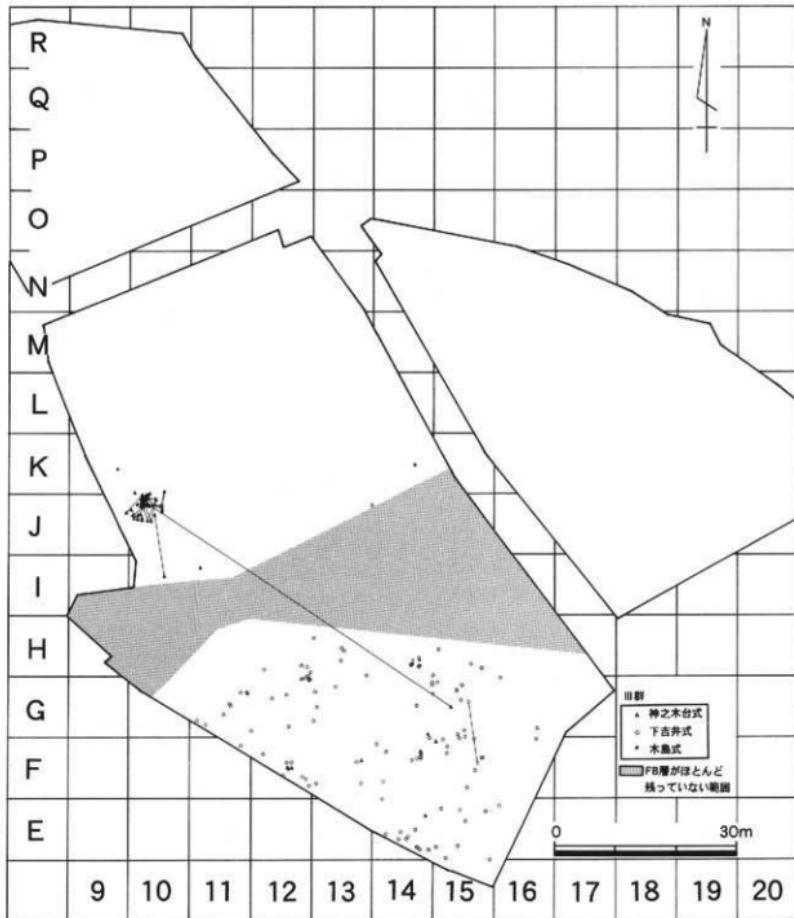
早期後半～早期末の貝殻条痕文系土器群を本群とする。これらは更に、野島式に比定されるものをa類、鵜ヶ島台式に比定されるものをb類、入海式に比定されるものをc類、神ノ木台式に比定されるものをd類、下吉井式に比定されるものをe類、木島式に比定されるものをf類、その他不明なものをg類として以下に報告する。当遺跡では本群が量的には圧倒的である。しかし、条痕文系土器群の文様帶が口縁部に集中するという特徴から、報告も口縁部資料を中心に行う。



第67図 III群土器出土状況 1 (1/800)

<III群 a 類> (250~276)

野島式と考えられるものである。遺物分布は調査区南側の谷の縁辺部に沿うように分布している。250~266は微隆起線あるいは沈線で区画された内側を沈線で充填するものである。胎土は赤褐色を呈し、纖維と白色の岩片を含む。250は微隆起線によって木葉形に区画した中を沈線で充填する。口縁部は鋸歯状に刻まれる。256は胴部の段部で、上部は沈線で充填され下部は条痕文である。261は沈線によって三角形に区画された中を並行沈線で区画する。267は細沈線によって区画された中を刺突で充填するものである。胎土は黄褐色で砂質、纖維と白色の岩片を含む。



第68図 III群土器出土状況 2 (1/800)

268～276は区画上に刺突があるか、刺突の連続自体が区画になっているものである。268～275は微隆起線上に刺突を施し、区画内を並行沈線で充填する。269は垂下する微隆起線上に刺突を入れ、一部を並行沈線で充填する。口縁部には刻目があり、波状となる。276は沈線上に連続する刺突を施し、それ 자체を区画とするものである。

<Ⅲ群 b類> (277～283)

鶴ヶ島台式と考えられるものである。遺物の分布は前述の野島式と重なる。並行する微隆起線や沈線を組み合わせて幾何形の区画とし、区画の交点に刺突が入るものと本類とした。277は垂下する微隆起線に対して斜位に細沈線で区画し、交点に刺突を入れたものである。並行線の間は地文の条痕を残す。278～281は微隆起の区画の交点に刺突を入れ、区画内をための沈線で充填するもので、平行線の間は磨り消されて無文となる。いずれも赤褐色を呈し、胎土には纖維、石英、白色岩片を含む。282は細沈線によって区画され、交点は竹管による円形の刺突を施す。器面は風化が著しく鈍い黄褐色を呈する。胎土には纖維、白色岩片を含む。283は刻みの入った垂下する隆帯に対して斜行する太い沈線によって区画され、交点には竹管による円形の刺突を施す。器面には条痕を残す。

<Ⅲ群 c類> (284・285)

入海I式と考えられるものである。284は厚めの工具で口唇部と隆帯上を刻む。胎土は灰色を呈し、纖維を僅かに含む。器厚5mm程度で、裏面には擦痕が観察される。285はへら状の工具で、3条の隆帯上に刻みを入れたもので、口唇部にも同様の刻みが見られる。胎土は灰黄色を呈し、纖維、石英、白色岩片を含む。器面は条痕が観察され、特に脣部片には顕著である。

<Ⅲ群 d類> (286)

神ノ木台式と考えられるもので、J10グリッドでまとまって、一個体が出土した。口縁は平縁で、横行する隆帯と垂下する隆帯が口辺部に施される。口唇部と隆帯上には貝殻背圧痕文が施され、胎土には纖維を含む。

<Ⅲ群 e類> (287～336)

早期末の下吉井式と考えられるものである。調査区の南側に分布している。281～324は隆帯と沈線によって口縁部文様帶を形成するものである。281～321は頸部に低い隆帯をまわし、口縁部に波状の沈線を施すものである。口縁部に低い隆帯を貼るものもあるが、ほとんどそれと解らないほどに成形されており、地文として条痕文が残る。胎土は赤褐色～暗赤褐色を呈し、纖維を含み、白色岩片が含まれる。308は口縁部の隆帯がはっきりと残っているもので、隆帶上に2条の沈線を施し、隆帶下には波状の沈線が施される。胎土は黄褐色を呈し、緻密で纖維を少量含む。322は沈線によって渦巻き文様を描くもので、緩やかな波状口縁となる。

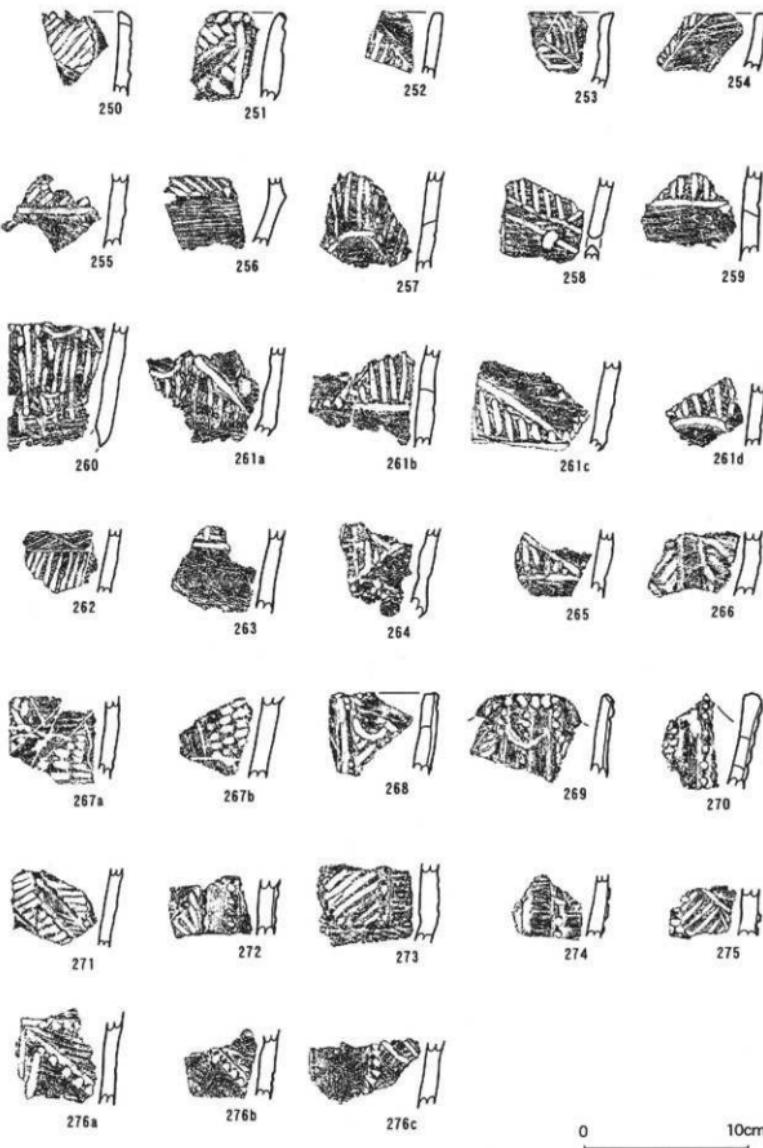
323～325は波状口縁で、口縁の頂部から沈線あるいは隆帯が垂下し、頸部の隆帯につながる。3個体ともモチーフは同様であるが、頸部の隆帯の他は323が2本単位の沈線を用い、324が隆帯を、325は押引きを用いて表現している。325は更に口縁部と頸部の隆帯の間に波状の押引き文を施す。

325～331は押引き文を用いるもので、326・327・330は破片資料のため判然としないが波状口縁となる。327は縦区画が残っているが、器形が大きく変形しているためモチーフは不明。330は口縁部の2条の押引きと頸部の隆帯の間を押引き文で三角形に区画したもので、口唇部には貝殻の押圧が施される。

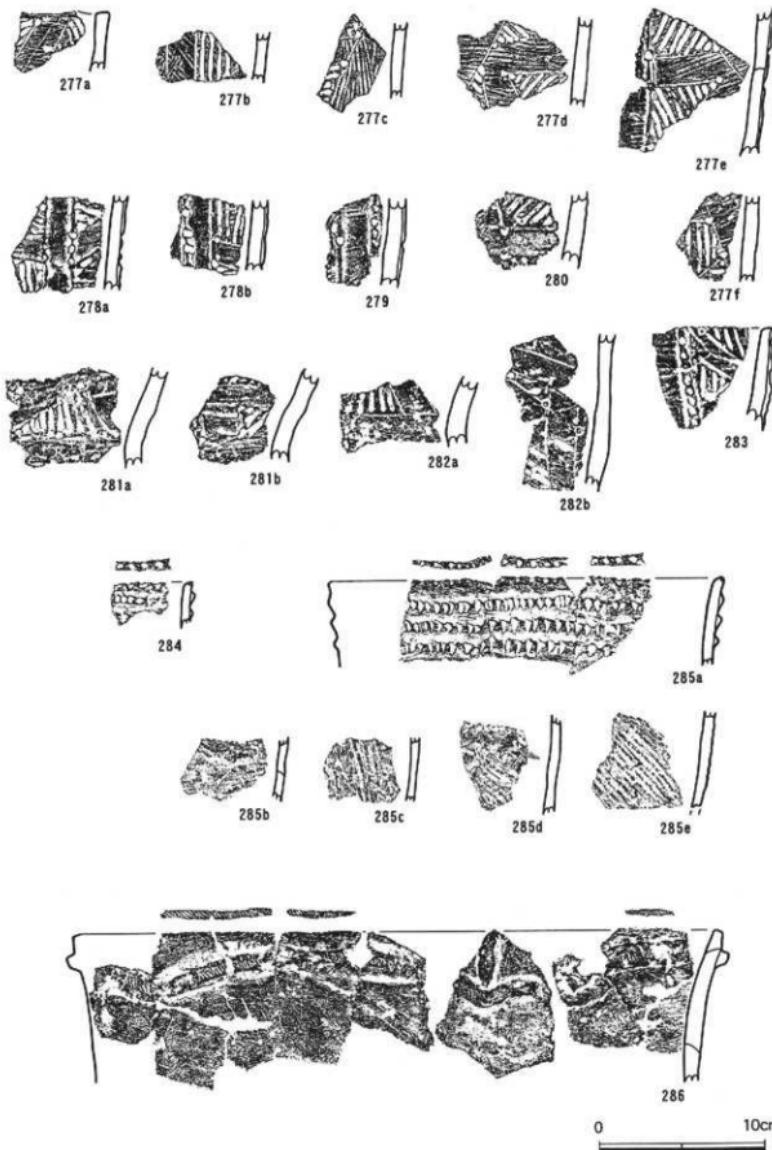
332～335は頸部に隆帯をまわすのみのもので、器面には条痕が明確に残る。336は頸部に太く浅い沈線が1条まわるもので、器面はナデによって調整され、口縁部は肥大している。

<Ⅲ群 f類> (337・338)

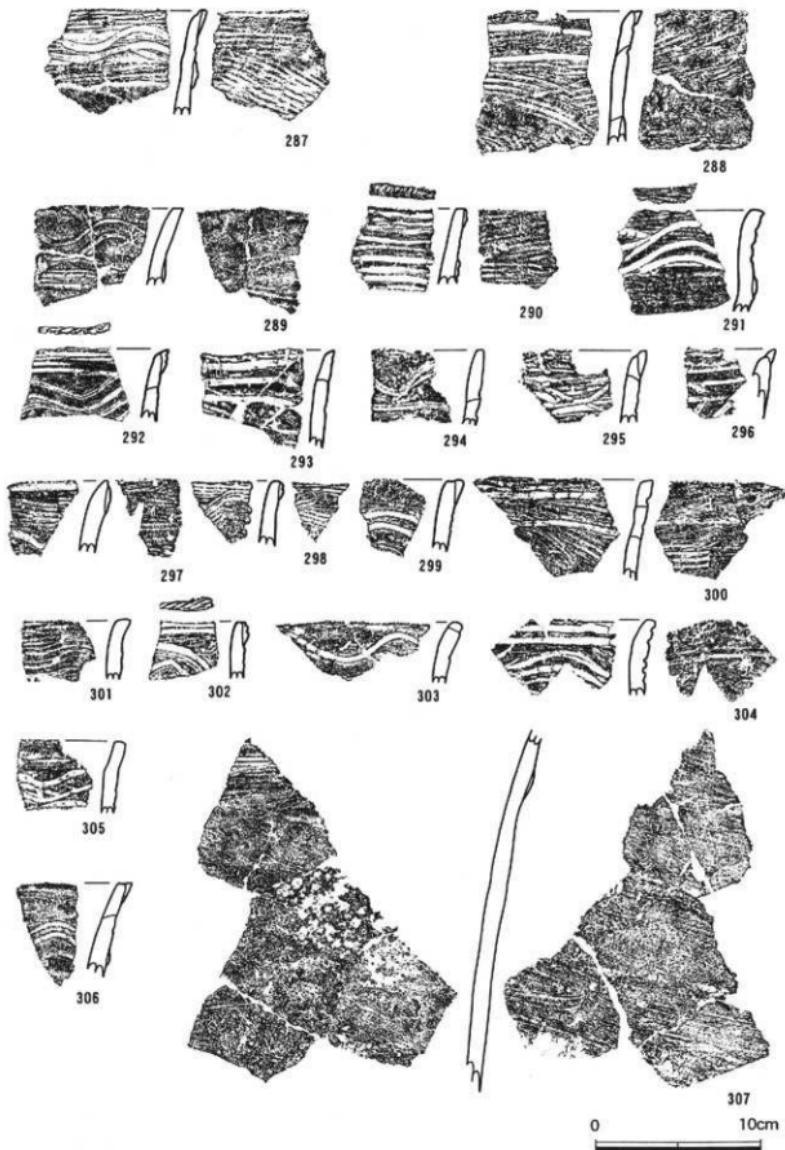
木島式と考えられるものである。337は器面に条線が施され、338は不規則な爪形が観察される。いずれも黄灰色を呈し、非常に薄手で胎土に石英の砂粒を含む。また内面には指頭痕が観察される。



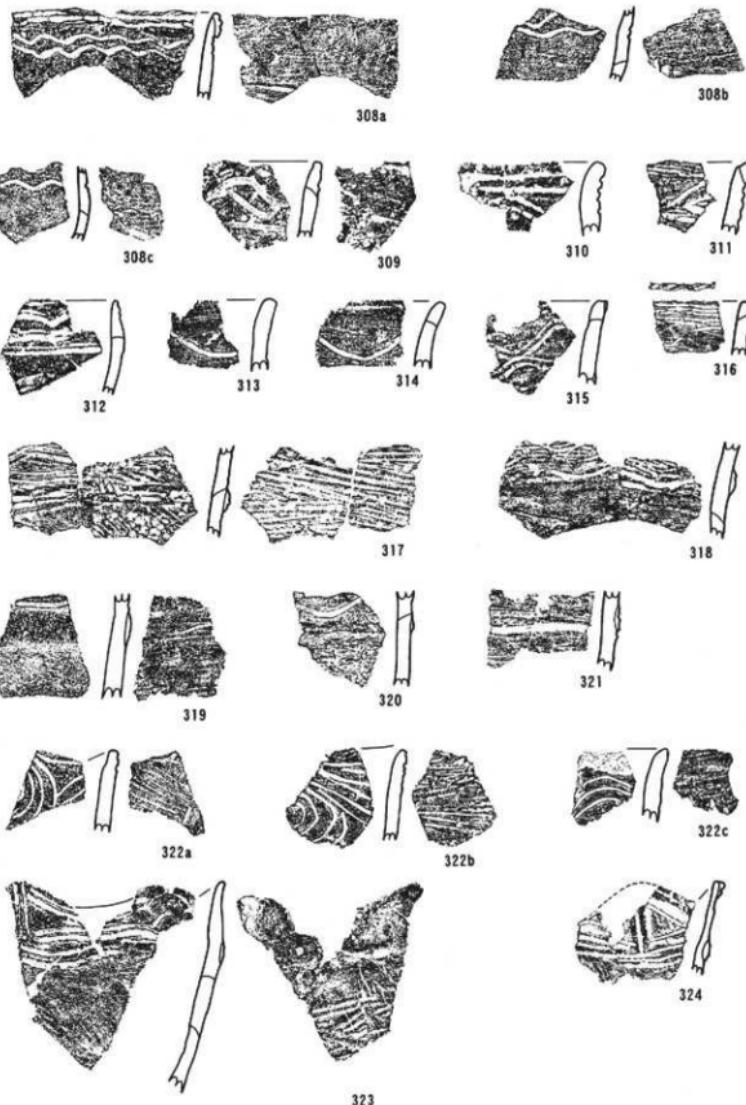
第69図 Ⅲ群a類土器



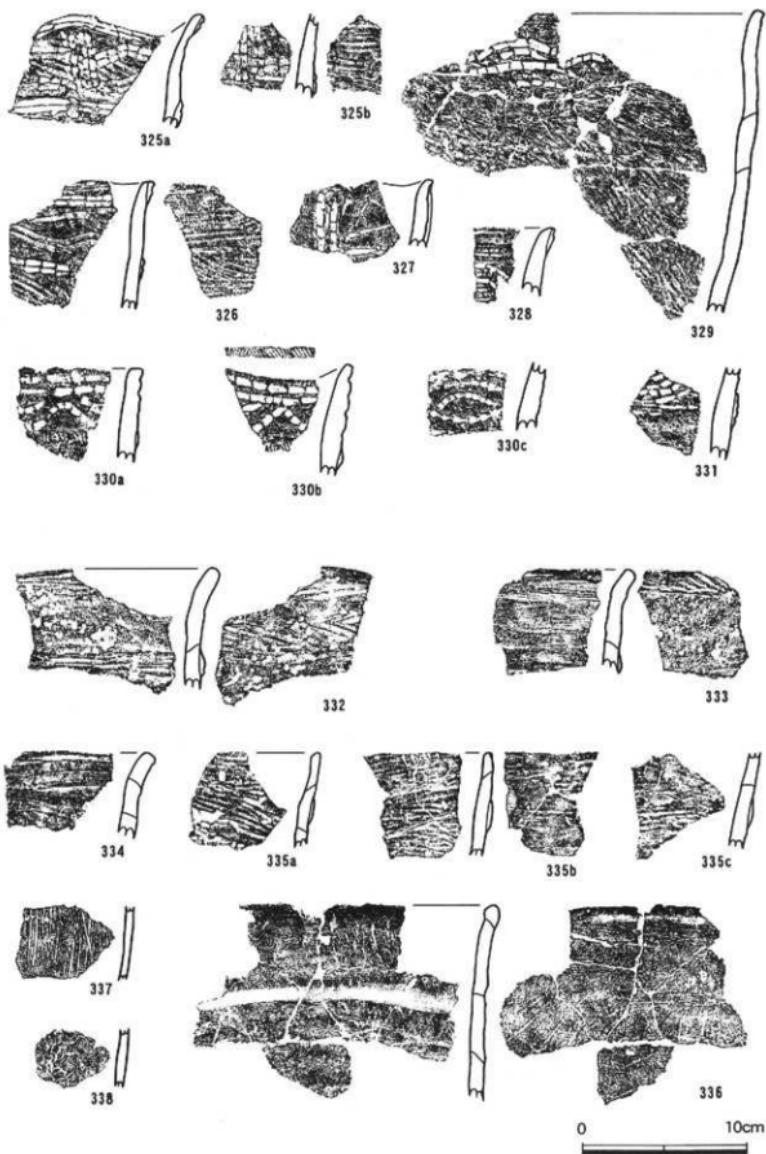
第70図 III群b・c・d類土器



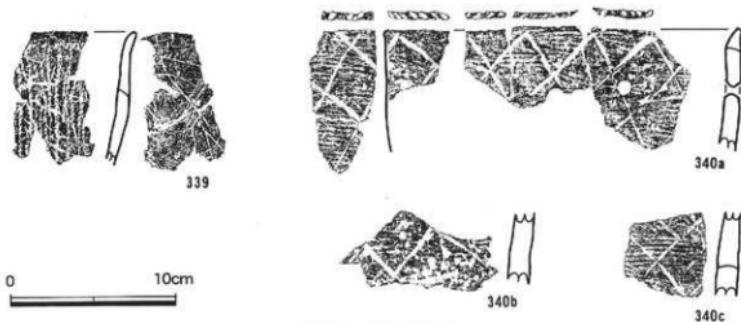
第71図 III群e類土器 1



第72図 III群e類土器2



第73図 Ⅲ群e類土器 3



第74図 III群g類土器

<III群g類> (339・340)

早期の土器と考えられるが、分類が不可能だったものである。339は胎土に纖維を非常に多く含み、内外面とも長い纖維の痕跡を明確に残す。口縁部はやや外湾しており、外面には口縁部上端に無文部を残し、Lの撚糸文を縦方向に施す。I群とは異なり、纖維の入り方が独特であり、早期以前に遡る可能性がある。340は器面に横方向の条痕文を施し、格子目状の沈線を外面に施す。口唇部に刻みがある。

(4) IV群土器

前期末～中期初頭の土器を本群とする。これらは更に十三菩提式土器に比定されるものをa類、大歳山式土器に比定されるものをb類、a類・b類に並行する縄文土器をc類、五領ヶ台式に比定されるものをd類土器として報告する。IV群の土器は、調査区の富士黒土層が堆積している地点に分布するが、b類に関しては南半に集中する傾向がある。

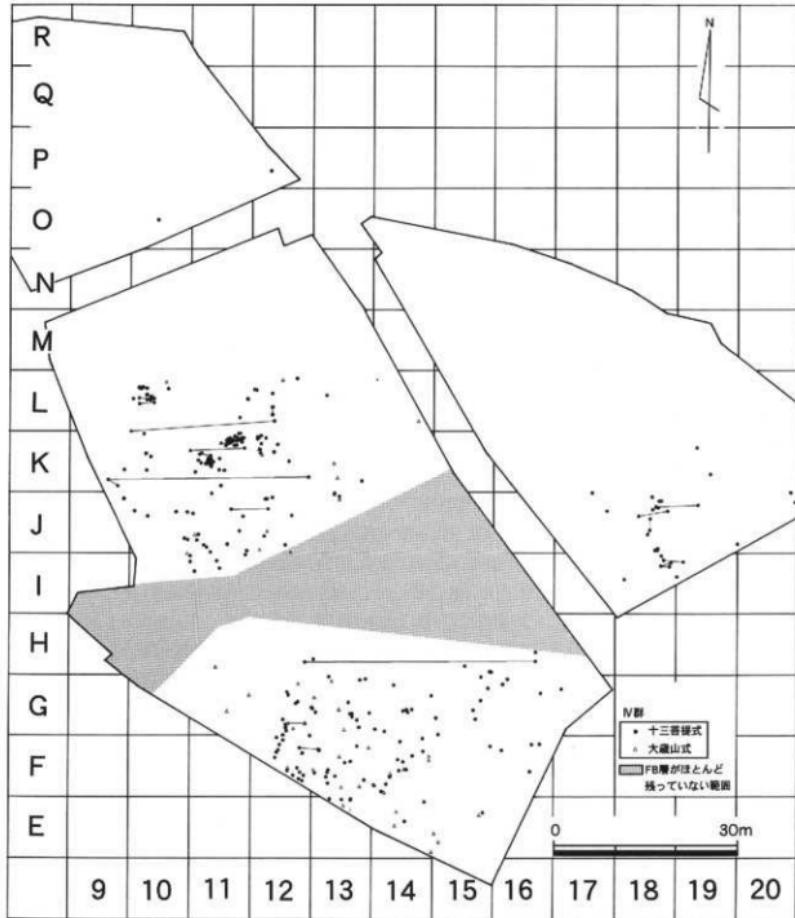
<IV群a類> (341～393)

本類は、前期末の十三菩提式土器と考えられるものである。集合沈線文系と浮線文系が主体となる。341～362は集合沈線文系のものである。341～344は口唇部に粘土帯を貼り、肥厚させて無文部を設け、縄文を地文として集合沈線文を施す。345～347は口縁部無文帯の下に帯状の集合沈線文を配するもので、347は更に直交する沈線文が入る。361は口縁部がラッパ上に開く深鉢で、復元器高25.2cm、口径24.9cmを測る。地文にRLの縄文を施し、口縁部には帯状の集合沈線と、半截竹管による鋸歯状の沈線文を施す。胴部は口縁部文様帶の文様構成をそのまま継方向にしたようなもので、口縁部には円形把手が付く。362は波状口縁を呈し、口縁部無文帯の下は、集合沈線文とそれに直交する浅い並行沈線によって描かれた鋸歯状文が帯状に配される。文様の空白部は三角形に印刻されており、頸部には縄文を施す。

363～365は範切沈線文を文様の主体とするもので、363は口唇部に円形刺突が施される。また365は三角印刻文が伴う。いずれも器厚は薄い。

366～388は浮線文系の土器で、366は横位のRLの縄文を地文として、口縁部には渦巻き状の、胴部にはT字状の結節浮線文を貼付するものである。367は肥厚させた口縁部に、橋状把手が4箇所配されているもので、RLの縄文を地文として、結節浮線文が横方向に施される。地文の縄文は、上部は磨り消されているが、頸部には残る。368、369は367と同様に、縄文を地文として、結節浮線文、押圧浮線文、素文浮線文が横方向に施されるもので、いずれも口縁部の縄文は磨り消されている。370は口縁部が緩やかな波状を呈し、横方向の水平な浮線文の間に波状の浮線文を配するもので、浮線文は貼られた後上からナ

でられており低くなっている。371～387は浮線文が細くなり、口縁部に文様が集中する。373は横方向のLRの網文を地文として、Y字状の懸垂文が脇部に貼られる。374は筒状口縁となり、口縁部には波状の素文浮線文が付き、横方向の細い結節浮線文が施される。378は口縁部の無文帯に三角形の連続した印刻が加わるもので、結節沈線文が口縁部に集中して施され、その上に円形の貼付文が並ぶ。379も378と類似するが、口縁部の三角印刻は刻みとなる。380・382・388はソーメン状浮線文が貼付された土器である。389～393は網文を地文として、半截竹管による沈線を施したものである。沈線は、上半部は横方向に、下半部は縦方向になる。またこれらは集合沈線文系の土器の下半部になることがある。

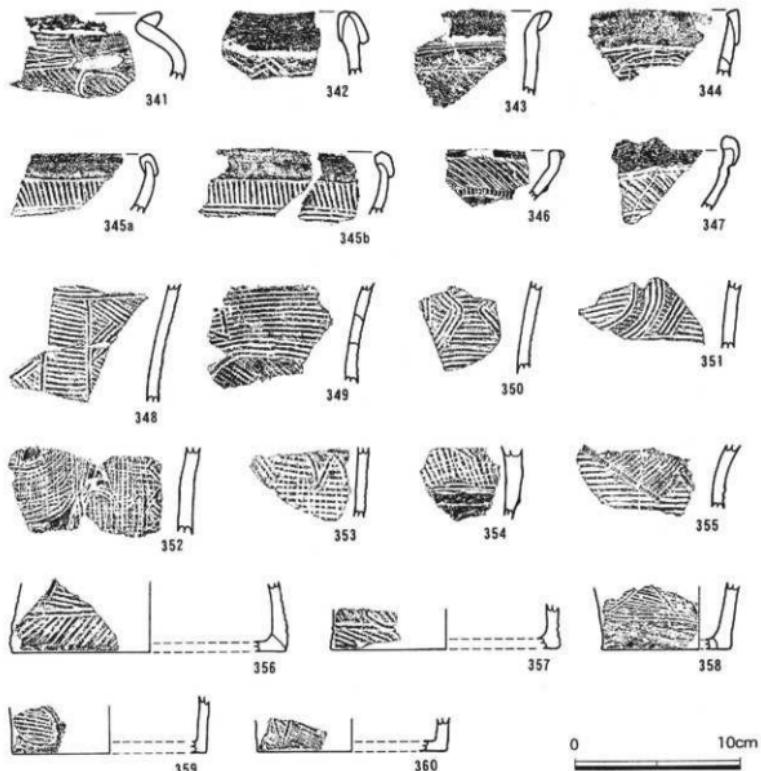


第75図 IV群土器出土状況(1/800)

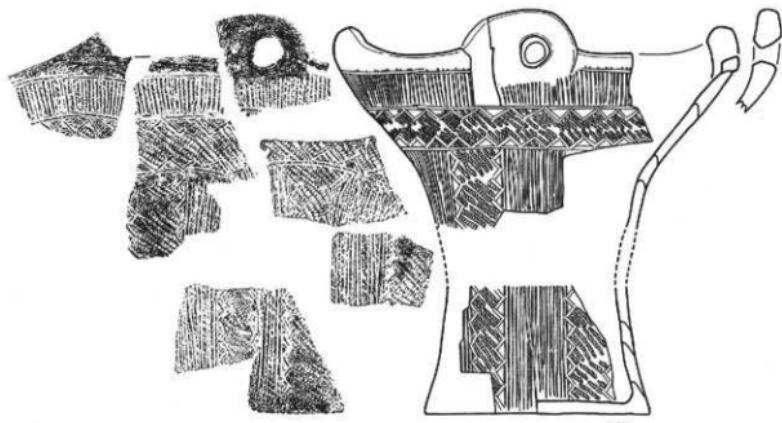
<IV群b類> (394~423)

本類は大歳山式土器と考えられるものである。器厚は3~4mmで、8mm前後ある十三菩提式土器の約50%の厚さしか持たない。色調は灰黄褐色~黒褐色を呈し、胎土には直径2mm前後の石英粒や岩片を含み、焼成は良好である。口縁部内側に文様帶を持ち、縄文が施される。底部については数カ所の抉りが入る。特徴とされるΣ状の押引きを施した突帯文については、持つものと持たないものがある。

394~407はΣ状の押引きを施した突帯文をもつものである。394は爪形の刺突が入る断面半円形の突帯文も貼付されるもので、胎土は砂粒を多く含み他のものとは異なる。365~401・403・404は口縁部破片である。縄文を地文として、口縁部裏側には突帯文を貼付した肥厚帯を設け、口縁部外面には2条のΣ状押引き突帯文を施す。波状口縁である場合が多い。器形が解る唯一の資料である402は、口縁部と胴部の約1/3と底部破片によって復元したものである。口縁部は波状を呈し大きく開口し、鋭くくびれた頸部から胴部に至って、肩が強く張る。肩部から下は急激に収束し底部へと続く。底部は径8.2cmで、6箇所に抉りの入った特徴的なものである。文様帶は口縁部に集中し、Σ状押引き突帯文が2条と口縁部裏



第76図 IV群a類土器 1



361



362



363



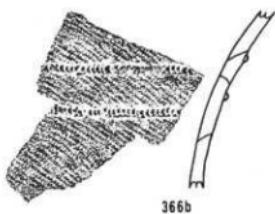
364



365



366a



366b



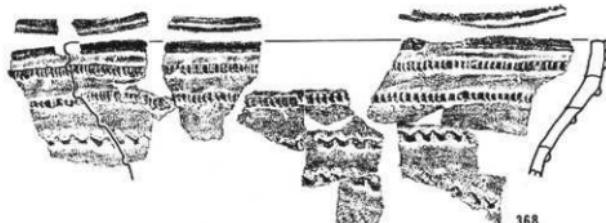
366c



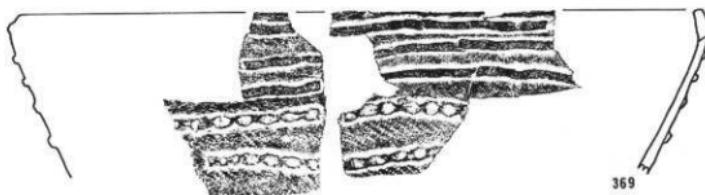
第77図 IV群a類土器 2



367



368



369



370



371



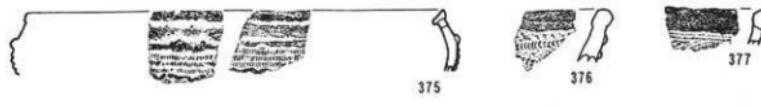
372



373



374



375



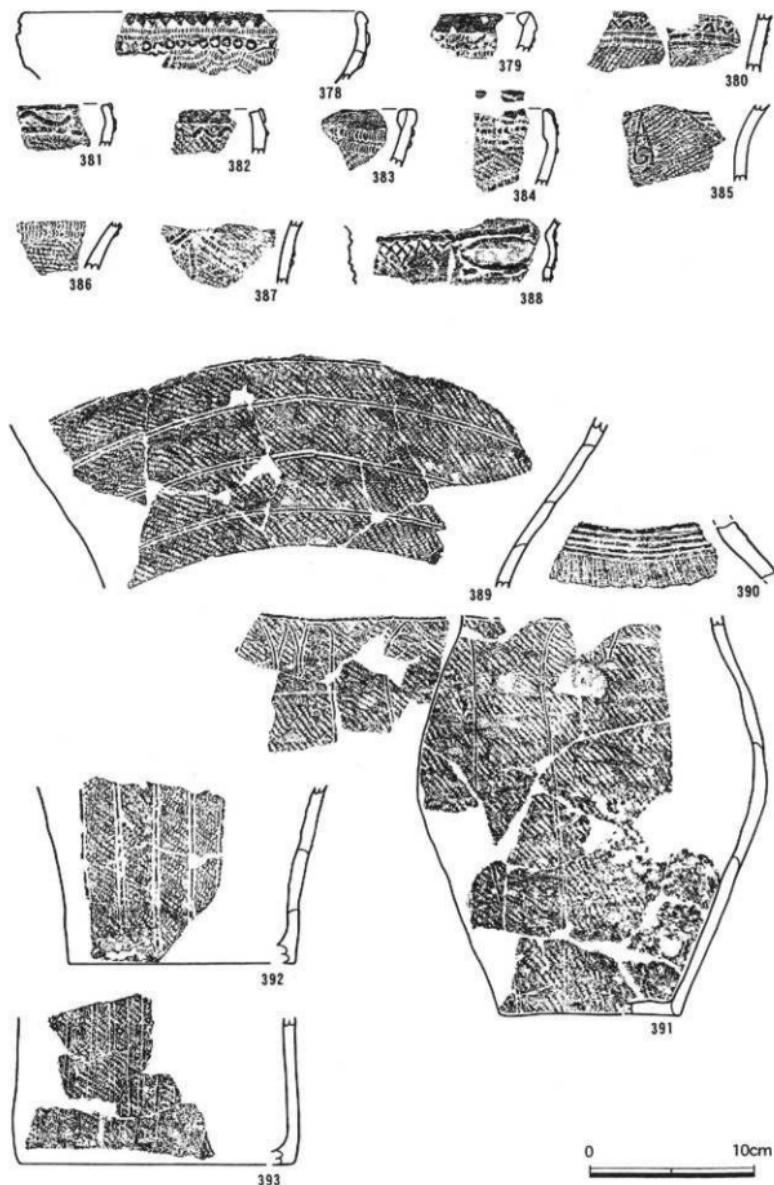
376



377

0 10cm

第78図 IV群a類土器 3



第79圖 IV群a類土器 4



394a



395



394b



396



397



398



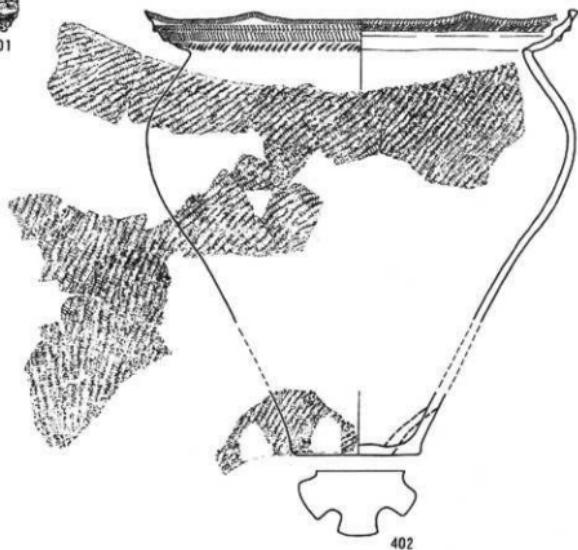
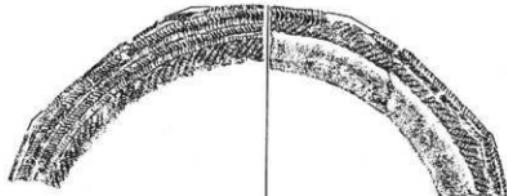
399



400



401

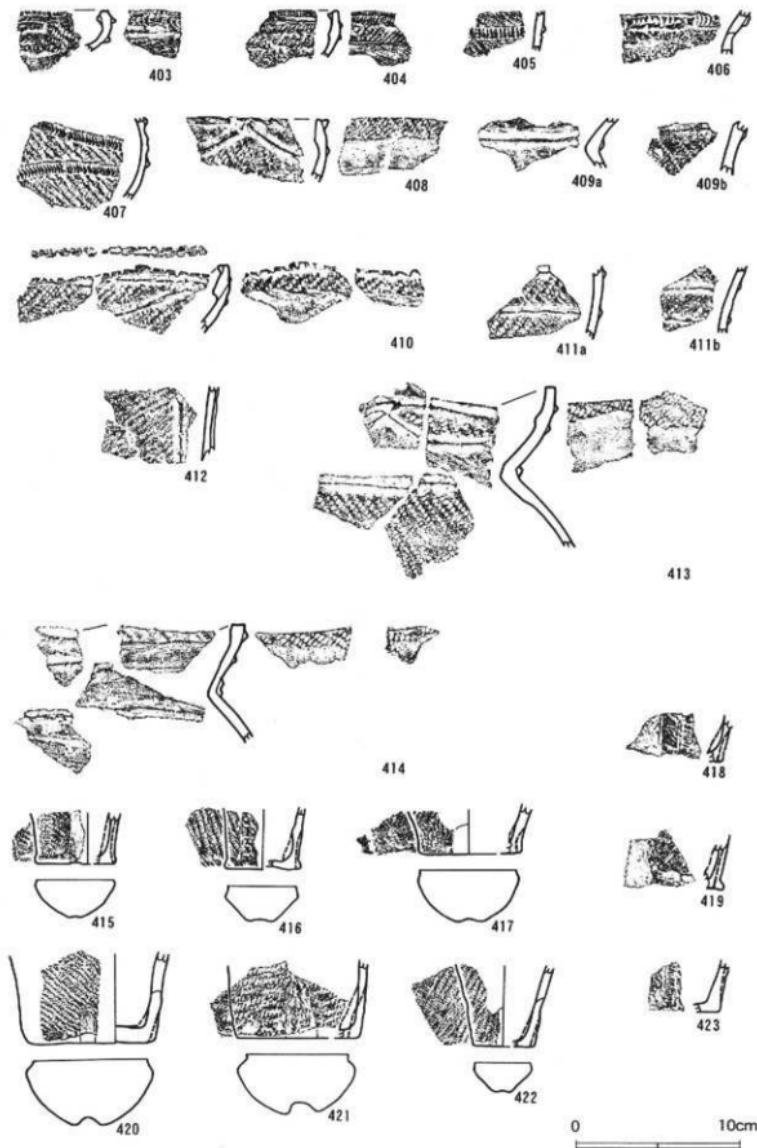


402

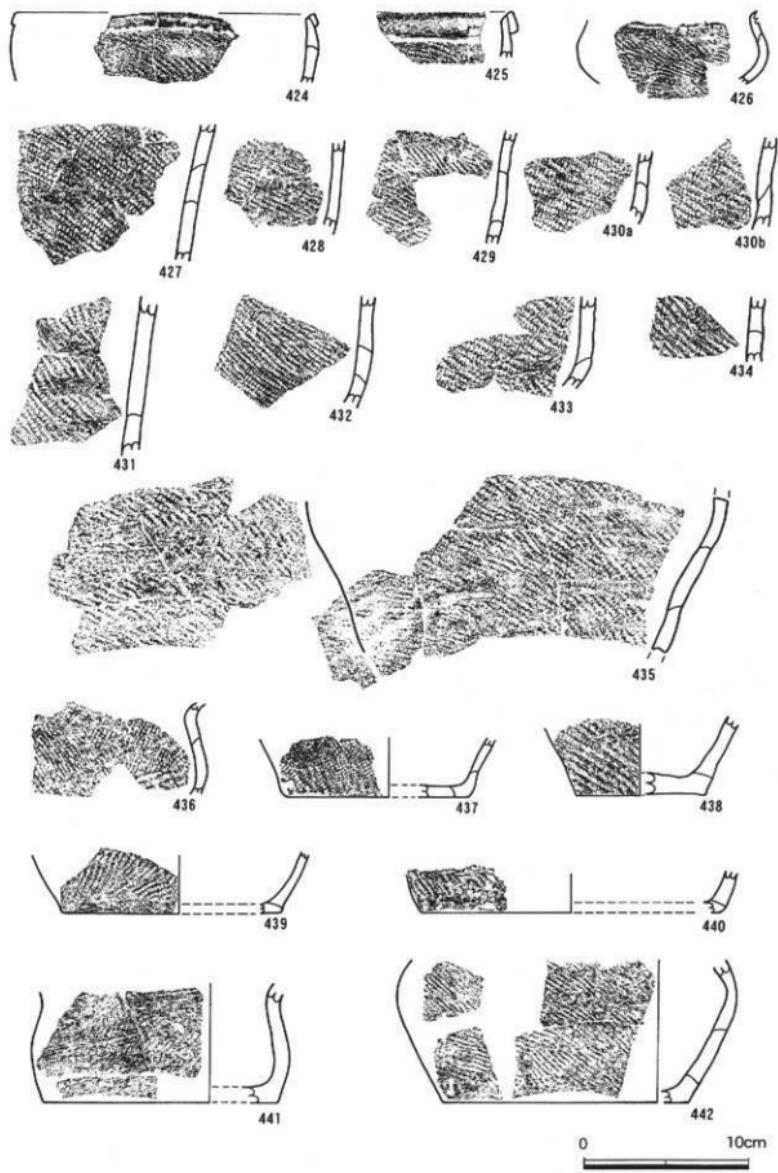
0

10cm

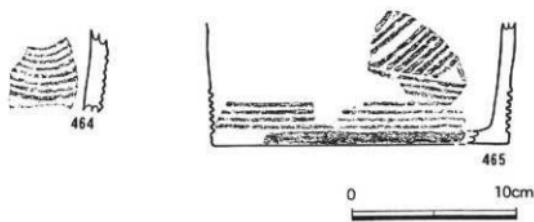
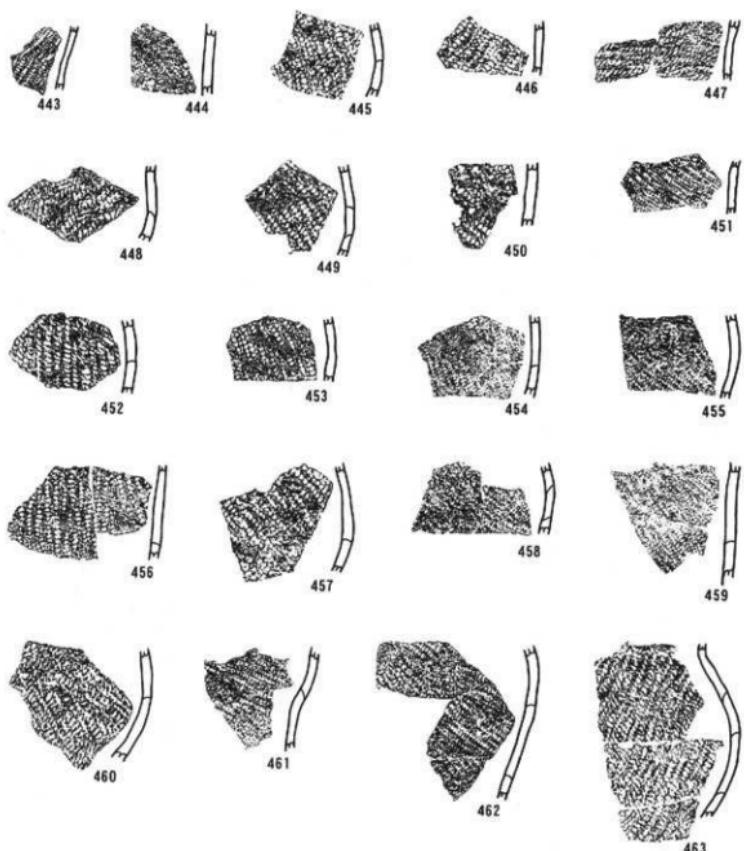
第80図 IV群b類土器 1



第81図 IV群b陶土器 2



第82図 IV群c類土器



第83図 IV群c・d類土器

側には突帯文を貼付した肥厚帯を設ける。地文となる縄文の撚りは、前段多条の LR である。口径27.2cm、器高27.5cm。

408~414は突帯文上に刻目がないものである。胎土は刻目が入ったものと類似しており、石英粒と岩片を含む。口縁部の裏側に縄文が施文された肥厚帯があることは変わらないが、肥厚帯の幅は一定しない。突帯文は素文で上下端をナデて、断面三角形に調整する。地文は縄文であるが、磨り消されて不鮮明なものがある。全体的に施文方法や突帯文の貼り方が粗雑で、全体的に稚拙な感を受ける。410は口端部に刻目を入れたものである。口縁部裏面の肥厚帯は棒状工具によって粗雑に貼り付けられている。414は縄文が施されないもので、横方向のナデが観察できるだけである。口縁部裏面の肥厚帯には RL の縄文を横方向に施す。

415~423は抉りのある底部破片を集めたものである。抉りが2単位以上残っているものは、底径から推測して抉りの数を復元し図示した。416・418・423は突帯文が垂下するものである。420は抉りが認められるが、器厚が8.2mmあり底部としても厚みがあることから、大歳山式と言えるかは検討の余地がある。
<IV群c類> (424~463)

a類、b類と並行あるいは胴部破片となる縄文土器。424~442は器厚が厚いもので、443~463は薄いものである。前者は赤褐色を呈するのに対し、後者は灰黄褐色~灰褐色を呈する。

<IV群d類> (464~465)

中期初頭の五領ヶ台式と考えられるもので、集合沈線文が施されている。

表8 土器觀察表

測定番号	遺物名	位置	時期	分類	胎土	文様、質等
1 21193	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子	FBDの器底外縫は横方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
2 10110	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	FBDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
3 9957	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、赤色粘子	RHDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
4 10741	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子	RHDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
5 15781	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	RGDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
6 8341	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	EDGの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
7 22655	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	LGの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
8 2742	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、赤色粘子	FDCの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。	
9 3408	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	FDCの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。	
10 18195	ZN	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	LNの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。	
11 18971	FB	早縄	I a1	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	FDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
12 2407	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	RHDの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。口縫部内縫、青ナメ。	
13 9993	FB	早縄	I a2	縦縫、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	I-2条の一本抜じとして本体と交互にかけようの集束を直角方向に口縫部は斜めの方向に施す。	
14 9821	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、藍色粘子	FHDの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。口縫部内縫、青ナメ。	
15 17779	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	LGの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。	
16 18612	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	RHDの器底外縫は斜めの方向に、口縫部は斜めの方向に施す。	
17 20888	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	RDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
18 13785	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	RGDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
19 10208	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	EDGの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
20 22247	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	FDの器底外縫は斜めの方向に、内縫は口縫部に斜めの方向に施す。	
21 22248	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	LGの器底外縫を斜め方向に施す。	
22 23944	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	FDの器底外縫を斜め方向に施す。	
23 3835	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	LGの器底外縫を斜め方向に施す。	
24 16243	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	LNの器底外縫を斜め方向に施す。	
25 36212	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
26 10226	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	RL-121向うに張った綱糸を斜め方向に施す。	
27 3638	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	FLの器底外縫を斜め方向に施す。	
28 19621	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	FDの器底外縫を斜め方向に施す。	
29 10466	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	LGの器底外縫を斜め方向に施す。	
30 10179	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、白色粘子、藍色粘子	LGの器底外縫を斜め方向に施す。	
31 12846	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
32 14468	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
33 18121	ZN	早縄	I a2	縦縫、押石、石英、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
34 2450	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、藍色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
35 11725	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、石英、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
36 11157	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、石英、白色粘子、藍色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
37 10630	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	
38 13066	FB	早縄	I a2	縦縫、押石、白色粘子、白色粘子、赤色粘子、藍色粘子	RDの器底外縫を斜め方向に施す。	

測量番号	測量者	層位	構造	分類	地質	文部、説明等
104	8197	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘子、黑色粘子、赤色粘子、黑色粘子	外縁はLbの綱文を縦方向に、口唇部、口縁部内面には横方向に施す。
105	18841	ZN	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文を縦方向に施す。内面に施さない。
106	17621	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
107	14465	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
108	21640	ZN	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
109	17761	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
110	3161	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子	Lbの綱文。
111	19578	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、黑色粘子	Lbの綱文。
112	16295	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
113	13081	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
114	15686	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
115	17895	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
116	13072	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
117	8595	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、赤色粘子	Lbの綱文。
118	13054	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
119	17427	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
120	12559	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、黑色粘子	Lbの綱文。
121	3924	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
122	16934	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
123	2624	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
124	3171	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
125	19106	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
126	15862	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
127	2587	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
128	1604	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
129	17273	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
130	1329	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
131	17726	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
132	3516	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
133	3162	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
134	19942	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
135	3629	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
136	20726	ZN	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
137	19118	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
138	3162	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
139	17485	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
140	3469	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
141	2640	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
142	2600	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子	LbとHbに縦方向に施した。羽状綱文。被移孔あり。
143	2531	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	LbとHbに縦方向に施した。羽状綱文。被移孔あり。
144	2280	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子	LbとHbに縦方向に施した。羽状綱文。被移孔あり。
145	19025	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
146	9175	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
147	21572	ZN	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
148	20519	ZN	單層	Ibt	礫岩、卵石、石英、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
149	10995	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
150	15179	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
151	11106	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
152	13998	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文を外縁と口唇部に横方向に施す。口唇部直下は横文筋が残る。
153	12860	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文を外縁と口唇部に横方向に施す。口唇部直下は横文筋が残る。152と同一箇所の可能性あり。
154	9879	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文を外縁と口唇部に横方向に施す。口唇部直下は横文筋が残る。
155	2637	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
156	11982	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
157	3270	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
158	3386	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
159	10965	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子	Lbの綱文。
160	5157	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、黑色粘子	Lbの綱文。
161	2430	FB	單層	Ibt	礫岩、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	LbとHbに縦方向に施した。羽状綱文。
162	16500	FB	單層	Ibt	複数、卵石、白色粘片、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	LbとHbを外面に縦方向に施す。口唇部直下は横文筋が残る。

番号	通路番	層位	時期	分類	出土	文様、書道
162	14860	FB	早晴	II-a1	織錦多、薄石、白色碎片、白色粒子、赤色粒子、多色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
164	14295	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、赤色粒子、多色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。162と163と同一箇所である可能性が高い。非常に複雑である。
1445	14286	FB	基層	II-a1	織錦、薄石、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子、多色粒子	山形文を裏面に横方向に、口縫部内面には横方向に施す。162と163と同一箇所である。
1456	14915	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に、口縫部内面には横方向に施す。
1587	14701	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に、口縫部内面には横方向に施す。
169	14905	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、赤色粒子、多色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
169	19129	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
170	19222	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色粒子、黑色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
171	19105	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、複雑な文様。山形文を裏面に施す。
172	15912	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
179	9397	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	に深い模様色を呈し、織錦、山形文を裏面に複数に施す。
174	19187	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	に深い模様色を呈し、複数の山形文を裏面に複数に施す。
175	18007	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
176	17286	FB	早晴	II-a1	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
177	16879	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
178	446	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
179	17425	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、蓝色碎片、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
180	18972	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、薄片、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
181	16734	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、薄片、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
182	18782	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色碎片、白色粒子、赤色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
183	19106	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
184	17978	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
185	16527	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
187	19111	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文の裏面を横方向に施す。
188	2466	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色碎片、白色粒子、赤色粒子	山形文の裏面を裏面状に外縫と口縫側に横方向に施す。
189	2544	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色碎片、白色粒子、赤色粒子	山形文の裏面を裏面状に横方向に施す。
190	14867	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
191	14893	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
192	14899	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
193	19174	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
194	19573	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
195	14869	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
196	19998	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
197	14900	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
198	20089	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、経少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
199	19170	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、赤色碎片、赤色粒子	模様色を呈し、絏少な紺土、粗大な山形文を横方向に施し、縫方向に巻状の縫消をおこなう。
200	13091	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を横方向に施す。
201	19098	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色碎片、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を横方向に施す。
202	18902	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模式で背面の山形文を横方向に施す。
203	16611	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、石英、白色粒子、黑色粒子	模式で背面に施す。
204	18135	FB	早晴	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	織かなる紺子目文と口縫側に横方向に施す。口縫部内面には指摸痕が確認される。
205	18920	FB	基層	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子	織かなる紺子目文を裏面に横方向に施す。
206	16748	FB	基層	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	織かなる紺子目文を裏面に横方向に施す。
207	17252	FB	基層	II-a2	織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	織かなる紺子目文と口縫側に横方向に施す。
208	16913	FB	基層	II-a2	紺糸、織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。
209	17482	ZN	早晴	II-a2	紺糸、織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。縫方向に巻状の無文部が確認されるが、黒化が疑われる。
210	18770	FB	早晴	II-a2	紺糸、織錦、薄石、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。
211	18798	FB	早晴	II-a2	紺糸、織錦、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。
212	13054	FB	早晴	II-a2	紺糸、織錦、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。
213	18549	FB	早晴	II-a2	紺糸、織錦、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	模様色を呈し、織かなる紺子目文を横方向に施す。
214	2490	FB	早晴	II-a2	織錦、赤色粒子、薄片、石英、白色粒子、赤色粒子	浅い紺子目文を無文部を得しながら縫方向に施す。
215	20676	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を口縫側に横方向に、縫側には縫方向に施す。口縫部はナラ子により平塗、被漆である。
216	16129	ZN	早晴	II-a1	紺糸、全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す後、口縫部に横方向に2条添らす。口縫部はナラ子により平塗。
217	16117	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す後、口縫部に横方向に1条添らす。
218	20778	ZN	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す後、口縫部に横方向に1条添らす。
219	20688	ZN	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す後、口縫部に横方向に施す。
220	16078	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
221	13967	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
222	17745	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
223	2656	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
224	13498	FB	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。
225	20998	ZN	早晴	II-a1	全羅海、薄石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	山形文を裏面に横方向に施す。

正規番	変形番	肩位	時間	分類	被土	文様、御番等
226	16709	FB	早朝	IIb1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子。	山砂文を被土方向に面接文、志趣。
227	16899	FB	早朝	IIb2	金黄色、石英、白色粒子、黑色粒子	口縁部に削りを入れ、削かれた部分を裏文を被土方向に施す。
228	11526	FB	早朝	IIb2	金黄色、輝石、石英、白色粒子	口縁部に削りを入れ、削かれた部分を裏文を被土方向に施す。
229	20522	ZN	早朝	IIb2	沙勿、金黄色、輝石、石英、白色粒子	灰青地を底とし、被土自文を被土方向に施す。
230	18065	FB	早朝	IIb2	金黄色、輝石、白色粒子、赤色粒子	被土自文を被土方向に施す。
231	15431	FB	早朝	IIb2	金黄色、石英、白色粒子、黑色粒子	口縁部に削りを入れ、削かれた部分を裏文を被土方向に施す。
232	10558	FB	早朝	IIb2	金黄色、輝石、石英、白色粒子、赤色粒子	灰青地を底とし、被土自文を被土方向に施す。
233	17603	ZN	早朝	IIb2	金黄色、石英、白色粒子、黑色粒子	灰青地を底とし、被土自文を被土方向に施す。
234	10619	FB	早朝	IIb2	金黄色、石英、白色粒子、赤色粒子	灰青地を底とし、被土自文を被土方向に施す。
235	10649	FB	早朝	IIb2	金黄色、石英、赤色粒子、黑色粒子	灰青地を底とし、被土自文を被土方向に施す。
236	15908	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、石英、白色粒子、赤色粒子	横内文を被土方向に面接文、志趣。口縁部に北方方向に施す。
237	15953	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、石英、白色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に面接文、志趣。
238	12626	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に面接文、志趣。
239	499	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に密接文、志趣。
240	19993	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、石英、白色粒子	横内文を被土方向に面接文。
241	13428	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子	横内文を被土方向に密接文。
242	12961	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に密接文。
243	13447	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に密接文。
244	12594	FB	早朝	IIb3	金黄色	横内文を被土方向に密接文。
245	12653	FB	早朝	IIb3	金黄色、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に密接文。
246	10519	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、赤色粒子、黑色粒子	横内文を被土方向に密接文。
247	11213	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子	横内文を被土方向に密接文。
248	12641	FB	早朝	IIb3	金黄色、輝石、白色粒子、白色粒子	横内文を被土方向に密接文。
249	527	KU	早朝	IIc4	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子	LOの本文が被土方向に施す。
250	17710	FB	早朝	IIc1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子	口縁部に削りを入れ、削かれた部分を裏文を被土方向に施す。
251	8509	KU	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子	口縁部に削りを入れ、削かれた部分を裏文を被土方向に施す。
252	12299	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子	口縁部、削りを入れて削られた内部を文字に近づけて充填する。
253	19316	ZN	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	波状口縁、削りを入れて削られた内部を文字に近づけて充填する。
254	13264	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、白色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
255	1897	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
256	17638	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、輝石、石英、白色粒子、白色粒子、赤色粒子	削り、波状上部を被土方向に充填。
257	12605	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
258	17822	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、红色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。被削材有り。
259	11159	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
260	5823	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	被方角の直行斜面。
261	5509	KU	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	波状で直角方向に削り用いた内部を波状で充填する。
262	13422	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
263	12060	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
264	7934	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
265	772	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子、黑色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
266	13165	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子、白色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
267	9118	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	波状で低張した内部を波状で充填する。
268	13956	FB	早朝後半	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	削り、波状上部を削り充填。
269	16068	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子、白色粒子	削り、削り下げる手の被削材上に削痕あり。
270	16149	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、黑色粒子	波状口縁、削巻上に削痕あり。
271	18382	ZN	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、黑色粒子	被削帶を波状した内部を波状で充填する。削巻上に削痕有り。
272	13996	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	被削帶を波状した内部を波状で充填する。削巻上に削痕有り。
273	12665	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	削巻上に削られた部分を波状で充填。削巻上に削痕有り。
274	16111	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子	削巻上に削痕有り。
275	13775	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子	削巻上に削られた部分を波状で充填する。削巻上に削痕有り。
276	14346	ZN	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	波状上に削られた直行斜面と被削材が三角形をつくる。
277	15088	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。被削材が充填する部分に削痕を入れる。
278	10268	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、赤色粒子、黑色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。被削材が充填する部分に削痕を入れる。
279	20846	ZN	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。被削材に波状で充填した内部を波状で充填する。削巻上に削痕有り。
280	15033	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子、白色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。被削材に波状で充填する。削巻上に削痕有り。
281	12556	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子、白色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。削巻上に削痕有り。表面にスズ状のものが付着。
282	10560	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子	被削材によって低張した内部を波状で充填する。被削材が充填する部分に円形削痕有り。
283	15557	FB	早朝後半	IIc2	金黄色、辉石、石英、白色粒子、赤色粒子	削巻上に削痕有り。削り削を波状で施し、波状で三角形に波状した内部を波状で充填する。立体上に削痕有り。
284	17833	FB	早朝後半	IIc3	金黄色、辉石、石英、白色粒子、黑色粒子	削巻を波状し、削巻下に削られた削巻上に削痕を入れる。
285	5542	FB	早朝後半	IIc3	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子	削巻を波状し、削手である。口縁部波下に3本の削巻を起し、へら状の工具で削削を入れる。
286	18654	FB	早朝後半	IIc3	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子	口縫40mm、半幅で口縁部に垂直に削痕を波状で施す。口縁部と被削材上に削痕を入れる。
287	12972	FB	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子	口縁部に削痕を波状で施し、削痕上に削痕を波状で施す。
288	6541	FB	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子	口縁部に削痕を波状で施し、削痕上に削痕を波状で施す。外縁の削痕は曲線を描く。
289	8134	FB	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子	削巻に削痕を波状で施し、口縁部に不規則な波状を施す。
290	12508	FB	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子	削巻を波状し、削痕を入れる。削痕上に削痕を入れる。
291	17070	ZN	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、白色粒子、白色粒子	削巻に削痕を波状で施す。削痕上に削痕を入れる。
292	2097	FB	早朝末	IIc1	金黄色、辉石、石英、白色粒子、白色粒子	削巻に削痕を波状で施す。削痕上に削痕を入れる。

版権番号	造作物	原位置	時期	分類	紹介	文様、書道等
290 13422 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部の表面を朱墨によって調節した後、波状模様を施す。	朱墨による波状模様。
254 20794 ZN	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	1枚の表紙に波状模様を施す。	朱墨による波状模様。
295 4155 T	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼り、朱墨によって表面を調節し、波状を施す。	朱墨による波状模様。
296 10100 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼り、その下に波状を施す。	朱墨による波状模様。
297 20795 ZN	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼りした後、朱墨によって表面を調節し、波状を施す。	朱墨による波状模様。
298 9104 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼りした後、朱墨によって表面を調節する。	朱墨による波状模様。
299 1479 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、赤色粘子、白色粘子	口唇部に長い繊毛を貼りした後、朱墨によって表面を調節し、波状を施す。	朱墨による波状模様。
300 8460 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	朱墨によって表面を調節し、波状を施す。	朱墨による波状模様。
301 7830 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子、赤色粘子	朱墨によって表面を調節し、波状を施す。	朱墨による波状模様。
302 3822 ZN	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼り、口唇部には波状模様を施す。口唇部に貝殻による刷込みあり。	朱墨による波状模様。
303 16229 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	朱墨による波状模様。	朱墨による波状模様。
304 13864 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	朱墨によって表面を調節したあと、口唇部に北半单位の直行模様と波状模様を施す。	朱墨による波状模様。
305 9202 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	口唇部に波状模様。	朱墨による波状模様。
306 2015 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	表面に長い繊毛を貼り、口唇部に朱墨による波状模様を施す。	朱墨による波状模様。
307 11156 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	表面に長い繊毛を貼り、朱墨によって表面を調節した後、波状を施す。	朱墨による波状模様。
308 9158 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	朱墨表面を直し、他のものと比べ薄手である。口唇部に長い繊毛を貼り、その上に2本の引け目がある。	朱墨による波状模様。
309 5465 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	注記文。	朱墨による波状模様。
310 4981 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	口唇部に2本单位の直行模様と波状模様。	朱墨による波状模様。
311 11168 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部に長い繊毛を貼り、朱墨で表面を調節したのち、波状を施す。	朱墨による波状模様。
312 42 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	波状文。	朱墨による波状模様。
313 14007 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、黑色粘子	波状文。	朱墨による波状模様。
314 15224 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	波状の文様文。	朱墨による波状模様。
315 15052 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	波状の文様文。	朱墨による波状模様。
316 16021 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	朱墨によって表面を調節し、口唇部に朱墨による刷込みがあり。	朱墨による波状模様。
317 5763 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、黑色粘子	織紋によって表面を調節し、口唇部に朱墨を貼り、その上に波状の次第を施す。	朱墨による波状模様。
318 2192 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、黑色粘子	表面に長い繊毛を貼り、以上に波状の波紋を施す。	朱墨による波状模様。
319 5449 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	表面に長い繊毛を貼り、以上に波状の波紋を施す。	朱墨による波状模様。
320 13940 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	表面に長い繊毛を貼り、以上に波状の波紋を施す。	朱墨による波状模様。
321 1794 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	表面に長い波状模様。	朱墨による波状模様。
322 13904 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	満波状の波紋。	朱墨による波状模様。
323 15902 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	波状の口唇部の底辺から長い波状(手引け音符)が廻り下し、織紋部の表面につがむ。	朱墨による波状模様。
324 11209 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	長い繊毛と薄い表面の口唇部に沿って貼り、その上に波状模様を施す。表面は薄手。	朱墨による波状模様。
325 8507 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±1	織紋、薄石、白色粘子、黑色粘子	長い繊毛と薄い表面の口唇部に沿って貼り、その上に波状模様を施す。波状部は口唇の頭より織紋部まで日本单位の引け目が廻り下し、織紋部は波状の引け目が施される。	朱墨による波状模様。
326 11474 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	波状部に長い繊毛を貼り、その上に2本单位の引け目を施す。織紋部は波状の波紋を施す。	朱墨による波状模様。
327 15900 ZN	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	口唇部が長い波状を施す。その上に引け目を施す。織紋部が波状している。	朱墨による波状模様。
328 18280 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子	口唇部に長い繊毛を貼り、頭部と尻尾との波状次第を施す。	朱墨による波状模様。
329 2066 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子	頭部に波状の波紋を施す。	朱墨による波状模様。
330 12049 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子	口唇部は貝殻模様の波紋。口唇部に本半单位の引け目、頭部には波状の引け目を施す。	朱墨による波状模様。
331 11884 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、白色粘子	頭部に長い繊毛を貼り、その上に引け目を施す。口唇部との間に波状の引け目を波状模。	朱墨による波状模様。
332 19486 ZN	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	頭部に長い繊毛を貼り、その上を朱墨で調節。	朱墨による波状模様。
333 15099 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	表面に長い繊毛を貼る。	朱墨による波状模様。
334 13941 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	0.03mmに波紋。	朱墨による波状模様。
335 624 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	表面に長い繊毛を貼り、全体を朱墨で調節。	朱墨による波状模様。
336 5676 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	頭部に長い波状模様を施す。口唇部が大きくなる。	朱墨による波状模様。
337 13994 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、黑色粘子	外側、内側に指紋模様が複数現れ、外側には複数方向の長絞が施される。	朱墨による波状模様。
338 3705 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、黑色粘子	外側、内側に指紋模様が複数現れ、外側には不規則な点絞が施す。	朱墨による波状模様。
339 10767 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、赤色粘子、黑色粘子	口唇部がやや中央に調節し、外側の波紋系を東西南北に施す。口唇部上端には無文部を施す。外側よりも長い繊毛と赤黒の長絞。	朱墨による波状模様。
340 8692 FB	草題末	口唇部	Ⅲ±2	織紋、薄石、石英、白色粘子、白色粘子、赤色粘子	表面は朱墨を波紋し、口唇部に格子状の波紋を施す。口唇部に粗目あり。	朱墨による波状模様。
341 9526 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	口唇部に表面を形成し、端に他のの横文を後縫合し、縫合針跡による横文波紋文、内側の文様を施す。	朱墨による波状模様。
342 5061 KU	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、白色粘子、黑色粘子	口唇部表面が剥離され、平行波紋による画面波紋の文様。	朱墨による波状模様。
343 8642 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	口唇部に表面を剥離し、本半单位の波紋が2条後縫合に入る。	朱墨による波状模様。
344 3844 ZN	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	口唇部に波紋を形成し、波紋文を施す。	朱墨による波状模様。
345 3819 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	口唇部に波紋を形成し、波紋文を施す。	朱墨による波状模様。
346 11057 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、白色粘子、黑色粘子	口唇部に波紋を形成し、波紋文を施す。複合波紋が斜めに施す。複合波紋上には、ヘア状工具による刺繍がある。	朱墨による波状模様。
347 21462 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	口唇部に波紋を形成し、口唇部には先端有り、口唇部は次第に長い棒子目が筋状に施される。	朱墨による波状模様。
348 2811 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、白色粘子、赤色粘子	地文に他のの横文を後縫合し、後縫合の集合波紋文、平行波紋による横内形文を施す。	朱墨による波状模様。
349 8210 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、白石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	地文に他のの横文を後縫合し、後縫合の集合波紋文、平行波紋による横内形文を施す。	朱墨による波状模様。
350 17036 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	地方に他の文様が施され、地方に三色別の角の波紋文を施す。	朱墨による波状模様。
351 3037 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、黑色粘子	地文に他の文様が施され、朱墨文によって横内形文や角の文様の文様を施す。	朱墨による波状模様。
352 20669 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、白色粘子、赤色粘子	複合波紋とそれに交叉する方舟型(浅い)波紋文が施され、三重印刷文も見られる。	朱墨による波状模様。
353 21263 FB	前題末	口唇部	Ⅳ±1	石英、薄石、金墨面、白色粘子、赤色粘子	複合波紋文とそれに交叉する方舟型(浅い)波紋文が施され、三重印刷文も見られる。	朱墨による波状模様。

番号	植物名	部位	特徴	分類	計上	文部、園芸等
354	2406	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子	集合沈鉱文に直す文の鉱文が並んで、その下に横位の浮鉱文を貼付する。
355	20762	ZN	前葉裏	IVa1	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数に貼り、横位の集合沈鉱文との境を前葉裏の鉱動沈鉱文で区切る。
356	2757	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	地文に、長合沈鉱文による文様。
357	2461	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文に、長合沈鉱文による文様と文字交代文。
358	5269	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文に、集合沈鉱文、平行注文による三角形の文様。
359	2899	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	地文に、文文による三角形の文の中央を合流して記す。
360	3018	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文に、長合沈鉱文による文様。
361	3124	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子	地文は、石英を複数に二重に貼り、底面に円錐形の凹字を記す。地文にRLの鉱文を複数に記す。口縫部には複数の鉱動沈鉱文を貼り、隙間は底方向の長合沈鉱文と三重状の平行沈鉱文によってなる。
362	3007	FB	前葉裏	IVa1	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子	口縫部に原葉裏を作り、その上に複数の貼付をし、直合沈鉱文とそれに直す長い平行沈鉱文によって窓かれと原葉裏部分を三角形に削除する。面筋はRLの鉱文。
363	15936	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子	口縫部に形の変遷を示し、口縫部はへり切沈鉱文。
364	6784	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、黑色粒子	へり切沈鉱文。
365	11103	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	へり切沈鉱文を複数し、直合部を三角形に記す。
366	3000	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、地部は原葉裏文によって口縫部には添書き文、前面にT字状の黒鉱文を記す。
367	7985	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数に記し、口縫部に直合状平手を四方に設置する。口縫部から面筋にかけて複数の鉱動沈鉱文を複数に記す。
368	18531	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	地文に、複数の鉱動沈鉱文を複数に記し、口縫部にRLの鉱文を一枚記す。口縫部には複数の地文を記す。
369	21164	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	地文に、複数の鉱動沈鉱文を複数に記し、地文に押印記を記す。
370	11423	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	地文にRLの鉱文を複数に記し、底面は原葉裏文を三条記す。この下には複数浮面文と底面文を記す。
371	14962	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子	地文に原葉裏文を記す。
372	18229	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、黑色粒子、黑色粒子	複数浮面文。
373	15917	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	複数浮面文、地文にRLの鉱文後方に施す。前葉裏は複数浮面文によるY字状態文。
374	4704	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	複数の底面口縫部、地文にLRの鉱文を複数記す。口縫部は原葉裏文と底面文と複数の鉱動沈鉱文を記す。
375	6949	KU	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	口縫部表面に貼付する者と、口縫部表面文の下に、複数浮面文とY字状態文を記す。
376	19135	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	口縫部に複数の鉱動沈鉱文が形成され、地文にRLの鉱文を複数記し、複数浮面文を記す。
377	20911	ZN	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子	口縫部に複数の鉱動沈鉱文と、複数のY字状態文を記す。
378	10765	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	口縫部に三角形の削り取りを複数的に行す。複数した結果沈鉱文以上には、ドーナツ状の鉱動沈鉱文を記す。
379	11078	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	口縫部内に複数の鉱文を記す。底面は複数浮面文を記す。
380	9782	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、複数浮面文と底面文に記す。
381	4798	KU	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、ソーン状浮面文を複数記す。
382	1502	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	口縫部に原葉裏を形成し、地文にRLの鉱文を複数記す。波状のソーン状浮面文を貼り付けける。
383	19047	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、長石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	口縫部に厚唇部を形成し、地文にRLの鉱文を複数記す。複数浮面文を貼付する。
384	9162	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、长石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	複数口縫、口縫部複数浮面文貼り付け。地文にRLの鉱文を複数記す。複数浮面文を記す。
385	8996	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、长石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記す。
386	9386	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、その上を絞り落している。複数浮面文を記す。
387	3024	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記す。複数の山形の山形沈鉱文に黒鉱文を記す。
388	6975	KU	前葉裏	IVa2	石英、輝石、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、ソーン状浮面文を複数記す。
389	13674	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、金雲母、白色粒子	地文にRLの鉱文を複数記し、半圓柱竹の痕跡を記す。
390	21506	FB	前葉裏	IVa2	石英、輝石、长石、金雲母、白色粒子、黑色粒子	地文の黒鉱文と複数のY字状記。
391	16431	FB	前葉裏	IVa3	石英、輝石、長石、金雲母、黑色粒子	面筋から更替まで複数する削除で、地文にRLの鉱文を複数記し、半圓柱竹による断続文を記す。
392	2267	FB	前葉裏	IVa3	石英、輝石、长石、金雲母、白色粒子	削除、特にこのY字の複数を複数記し、複数の平行沈鉱文を記す。
393	2298	FB	前葉裏	IVa3	石英、輝石、长石、金雲母、白色粒子、赤色粒子	削除、特に地文にRLの鉱文を複数記し、複数の平行沈鉱文を記す。
394	20724	ZN	前葉裏	IVb1	輝石、石英、黑色粒子、赤色粒子	にいく複数を記し。口縫部には複数口縫と山形の状状引抜き複数文を記す。口縫部に複数の削除記を記す。
395	5716	FB	前葉裏	IVb1	輝石、石英、白色粒子、黑色粒子	にいく複数を記し。口縫部には複数口縫と山形の状状引抜き複数文を記す。口縫部に複数の削除記を記す。
396	9996	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子、黑色粒子、赤色粒子	複数色で、口縫部を記すと、口縫上部に三重口縫を貼付し、口縫部に複数口縫を入れる。口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。口縫部には複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。
397	16015	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子、黑色粒子	複数色で、口縫部を記すと、口縫上部に三重口縫を貼付し、口縫部に複数口縫を入れる。口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。
398	15533	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子	複数色で、口縫部を記すと、口縫上部に三重口縫を貼付し、口縫部に複数口縫を入れる。口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。
399	2807	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子、赤色粒子	複数色で、RLの鉱文を複数記し、口縫上部に三重口縫を入れる。口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。
400	11687	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子、黑色粒子	複数色で、RLの鉱文を複数記し、口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。
401	14604	FB	前葉裏	IVb1	金雲母、輝石、石英、白色粒子	複数色で、複数多色のRLの鉱文を複数記し、口縫上部に三重口縫を入れる。口縫部には複数の状状引抜き複数文を記す。口縫部裏にはRLの複数の鉱文を記す。複数浮面文を記す。複数の鉱動沈鉱文を記す。複数のY字状態文を記す。

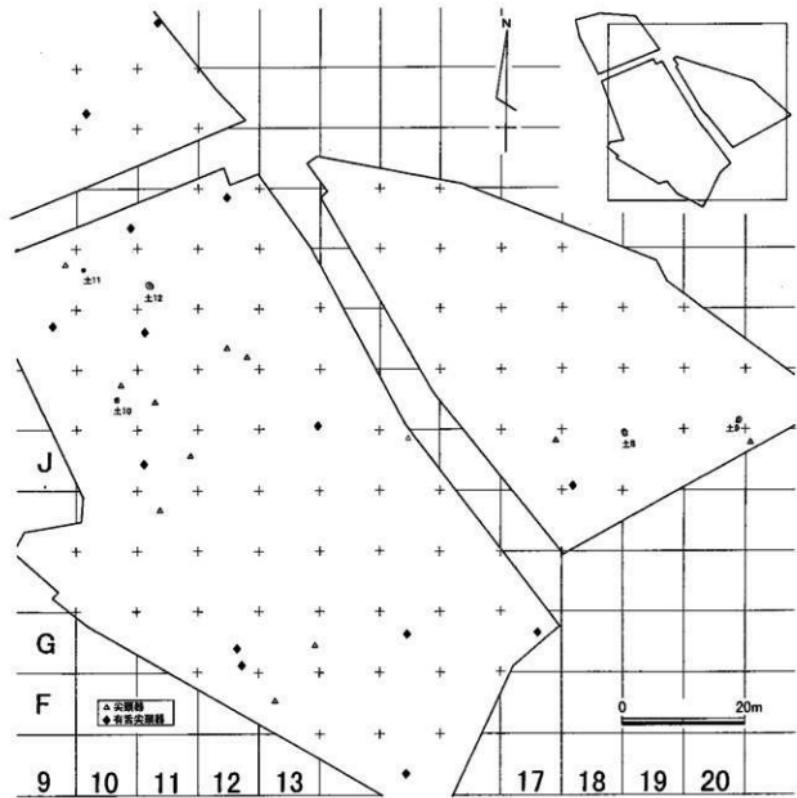
2 石器

包含層より出土した石器を器種別に分類し、以下に記述する。

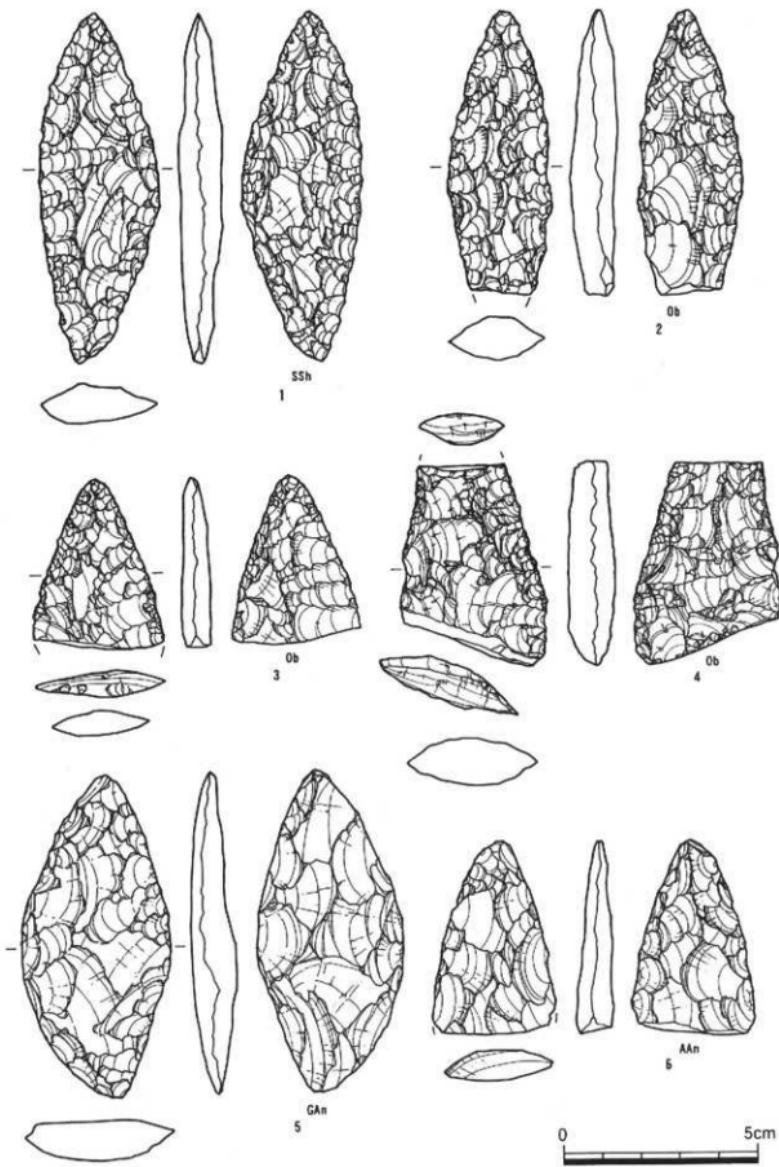
(1) 槍先形尖頭器 (1~11)

草創期に特徴的な石器である。1~11が該当する。1・3~6は大型で、石器の中央部に最大幅をもち、一辺の肩部が張り、平面形が左右非対称のものである。これらの尖頭器は縁辺部を極微細な剥離で調整し、精製品とでも言えるようなものと、やや幅の広い粗雑な作りのものがある。石材としては前者が神津島産の黒耀石や珪質岩を選ぶのに対して、後者はホルンフェルスやガラス質黒色安山岩を用いる傾向がある。

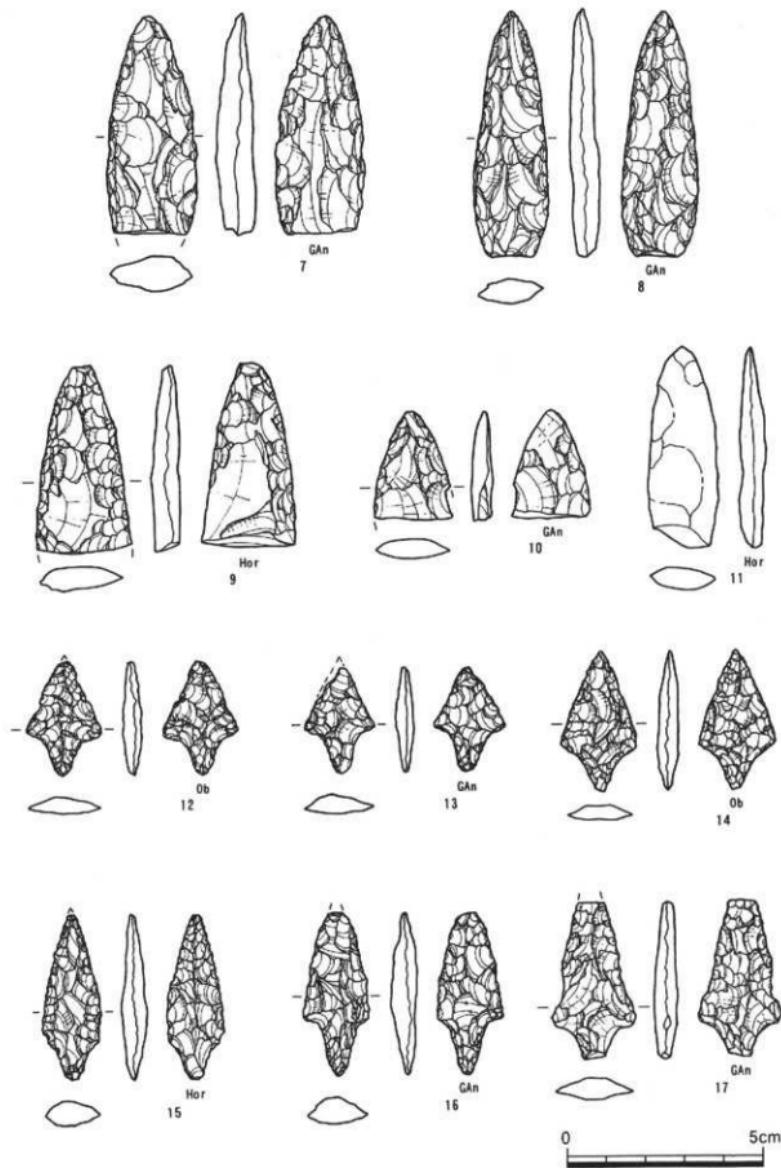
2、7~11は横幅の狭い柳葉形の尖頭器である。素材の剥離面の一部を残すことがあり、石材はホルンフェルスやガラス質黒色安山岩を用いることが多い。10は旧石器時代の遺物の可能性がある。11はホルンフェルス製の尖頭器で、風化が著しくかううじて稜線が観察できる程度である。



第84図 草創期の石器出土状況(1/800)



第85図 槍先形尖頭器

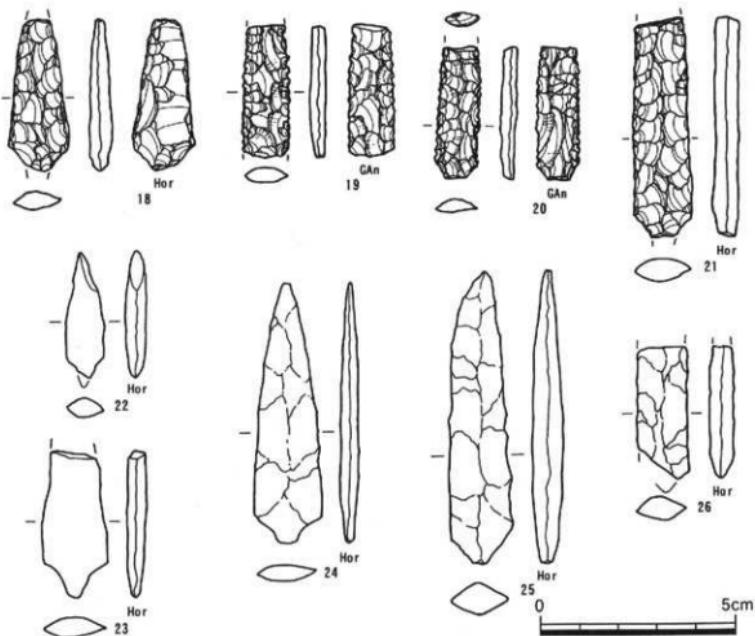


第86圖 檜先形尖頭器・有舌尖頭器

(2) 有舌尖頭器 (12~26)

草創期に特徴的な石器である。12~16が該当する。12~17は舌部と返刺が発達しており、特に12・13はほぼ正三角形の身に舌部が付くような状態である。

18~26は小瀬ヶ沢式と呼ばれる、身が長いタイプのもので、縁辺部が鋸歯状になるのが特徴である。18は裏面に素材剥片の剥離面を残し、断面形も一様でないことから、未製品と考えられる。22~26はホルンフェルスを石材としたもので、風化が著しく、稜線が観察されるのみであるが、本来縁辺部は細かな調整によって鋸歯状になっていたものと考えられる。これらは、通常地元の石材であるホルンフェルスやガラス質黒色安山岩を使って作られることが多い。



第87図 有舌尖頭器

表9 尖頭器計測表

回数 遺物 番号	時期	層位	器種	石材	幅長 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	回数 No.	遺物 番号	時期	層位	器種	石材	幅長 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
85-1 19725 草創期 FB 矛頭器	Sdb	90.1	30.7	11.8	27.9				86-14 16169 草創期 ZH 有舌尖頭器	Cb	36.2	19.0	5.5	2.0				
85-2 20168 草創期 ZH 丸頭器	Ob	(72.7)	(26.6)	(12.1)	(16.6)				86-15 6380 草創期 FB 有舌尖頭器	Ob	42.6	14.5	4.0	2.5				
85-3 20526 草創期 ZH 丸頭器	Ob	(49.9)	(35.1)	(7.6)	(6.9)				86-16 3451 草創期 FB 有舌尖頭器	Gan	41.8	14.5	4.0	2.7				
85-4 10882 草創期 FB 丸頭器	Ob	(59.1)	(37.4)	(10.1)	(28.9)				86-17 20170 草創期 ZH 有舌尖頭器	Ob	(49.4)	(21.2)	(6.6)	(3.8)				
85-5 21548 丸頭器	ZH	65.1	25.0	11.8	27.2				87-18 3680 草創期 FB 有舌尖頭器	Gan	39.4	14.5	4.0	2.0				
85-6 21549 丸頭器	ZH	65.1	25.0	11.8	27.2				87-19 118 草創期 FD 有舌尖頭器	GAn	(32.4)	(11.4)	(4.1)	(2.2)				
86-7 3775 丸頭器	GAn	(56.7)	(23.4)	(18.7)	(12.4)				87-20 13056 草創期 FR 有舌尖頭器	GAn	(34.0)	(10.5)	(4.1)	(1.8)				
86-8 5229 矛頭器	Ob	(55.2)	(19.5)	(7.6)	(9.2)				87-21 10952 草創期 FD 有舌尖頭器	Hor	(56.3)	(14.0)	(6.0)	(1.0)				
86-9 12669 矛頭器	FB 丸頭器	Hor	(48.2)	(24.3)	(3.7)	(8.0)			87-22 13642 草創期 FR 有舌尖頭器	Hor	(56.3)	(14.0)	(6.0)	(1.0)				
86-10 21134 矛頭器	FB 丸頭器	Hor	(28.4)	(20.0)	(3.0)	(7.0)			87-23 13643 草創期 FR 有舌尖頭器	Hor	(57.2)	(15.2)	(6.0)	(1.0)				
86-11 20877 矛頭器	FB 丸頭器	Hor	(28.4)	(20.0)	(3.0)	(7.0)			87-24 19716 矛頭器 FD 有舌尖頭器	Hor	66.8	17.4	5.1	5.6				
86-12 6465 矛頭器	FB 有舌尖頭器	GAn	29.5	19.1	4.8	1.8			87-25 21747 矛頭器 ZH 有舌尖頭器	Hor	(74.7)	(15.5)	(8.9)	(10.9)				
86-13 6465 矛頭器	FB 有舌尖頭器	GAn	27.2	18.1	4.2	1.4			87-26 18257 矛頭器 FR 有舌尖頭器	Hor	(32.9)	(13.0)	(6.2)	(3.9)				

(3) 石 鐵 (27~156)

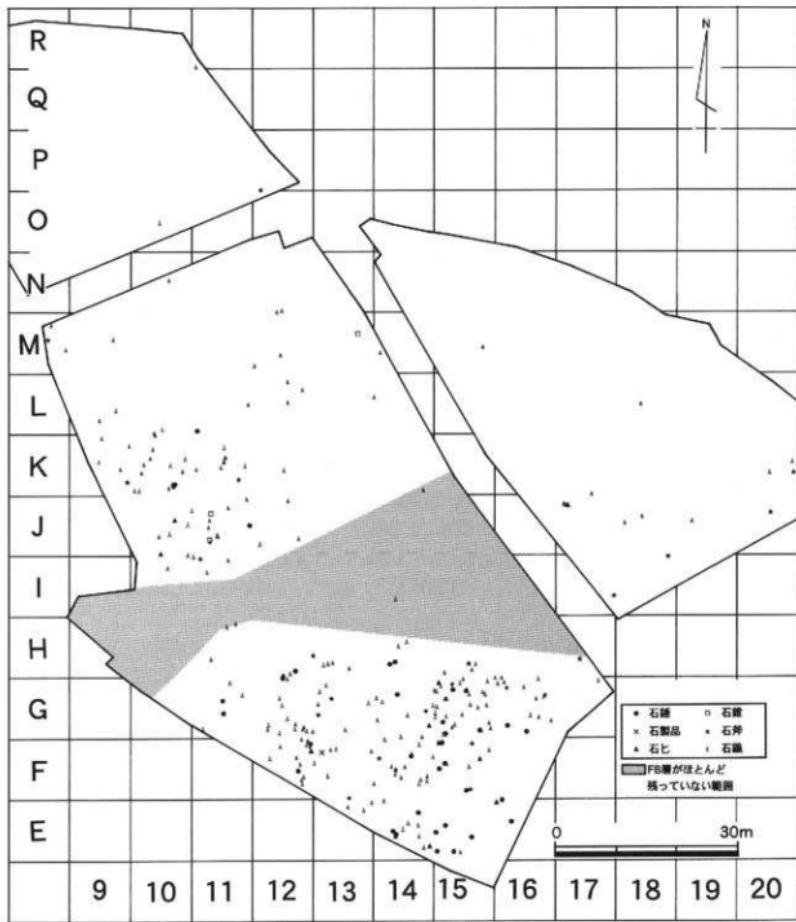
未製品、欠損品を含めて217点が出土しており、130点を図示した。時期的には縄文時代早期～中期にかけてのものが混在していると考えられるが、出土状態では時期をわけることが不可能なので、基部形状からⅠ～Ⅲ群に分類した。

Ⅰ群 (平基無茎鐵) 基部が平坦なもの。

Ⅱ群 (凹基無茎鐵) a類 基部の抉りが緩やかな弧状を呈するもの。

b類 基部の抉りが明確なV字状を呈するもの。

Ⅲ群 その他の未製品、欠損品。



第88図 縄文時代の石器出土状況(1/800)

＜I群＞ 基部が平坦なものは、15点図示した（27～41）。全体の12%を占める。これらは更に、平面形が正三角形のもの（27～34）と二等辺三角形のもの（35～41）に分けられる。27は非常に小型で、貝殻状剥片の端部を折り取り基部として、2側線に多少の調整を加えたものである。素材剥片の剥離面をそのまま残す。

＜II群＞ 凹基縁、基部の抉りが緩やかな弧状を呈すものをa類、基部の抉りが明確なV字状を呈するものをb類とする。

a類は42～74の33点で、42～74は平面形が正三角形に近い。75～79の全点は、平面形が二等辺三角形に近く、特に78・79は平坦な剥片の縁辺部に調整を加えるもので、押型文土器に伴う可能性がある。

b類は、59点図示している（80～138）。脚部の作り出しは様々であるが、125と126は大きく横に開脚し、全体形は縦長より横長のほうが長くなる。また130～134は、側縁肩部に張り出しを持つ。

135～138は、角状の大きな脚を持つものである。この形態のものは部分的に擦痕が観察される場合があるが、当遺跡のものはなかった。

＜III群＞ 未製品、欠損品を集めた。

I群～III群を通して、小型のものに扁平な剥片の縁辺部を加工して、「石鎚形」にしているものが多い（27・30・32・43・45・50・59・60・65・80・82・90）。よって素材剥片の剥離面や原様面、筋理面が多く残る。

（4）石七（157～166）

11点出土しており、風化著しい1点を除いて10点を図示した（157～166）。157は縦型の石七で、貝殻状の剥片を素材として、縁辺部に剥離を加えることで、刃部と突起部分を作り出している。158～166は横型の石七である。161は未製品であると考えられ、分厚い剥片の縁辺部に調整が見られる。下縁部にノッチ状の抉りが観察される。166はホルンフェルスの剥片を素材としており、風化によって細かな剥離は観察されないが、平面三角形の石七である。

（5）石錐（167～171）

5点出土している（167～171）。167は石鎚の未製品の可能性があるが、全体的に厚みがあるのでここでは石錐として扱った。168は平坦剥離が全面に及ぶもので、翼部分まで丁寧な調整が施される。着柄を意識したこととも考えられる。169は縦長の剥片を素材としたもので、縁辺部を加工し末端部にはノッチ状の抉りをいれて、錐部分を削出する。先端部は鈍く、軸が曲がっていることから未製品であると考えられる。171は先端部欠損。

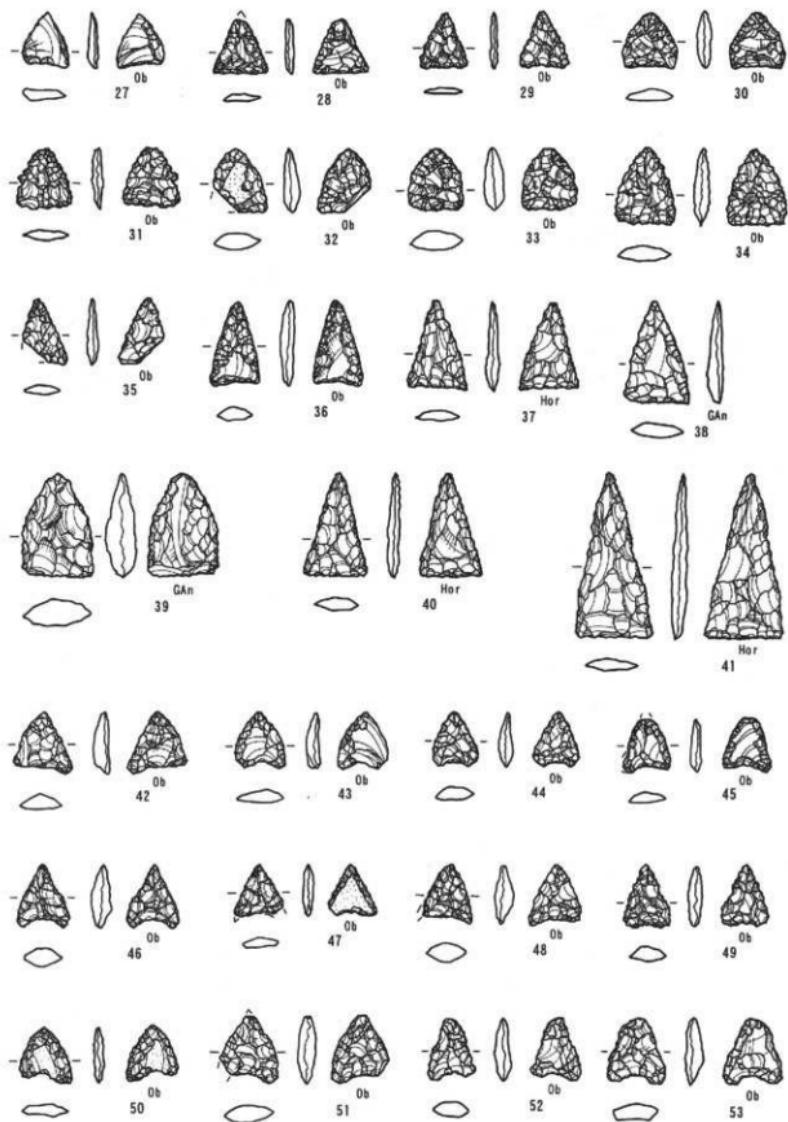
（6）スクレイバー類（172～177）

削器4点、抉入削器1点、搔器1点が出土している（172～177）。172はホルンフェルス製の剥片を素材としたもので、板状の石斧とも考えられるが、縁辺部の加工が整い石斧と考えるには器厚が薄いことから削器として分類した。176はホルンフェルスの剥片の縁辺部に調整をくわえたもので、穂面を残している。175は黒耀石の不定形な剥片を用いた抉入削器と考えられる。177は搔器の刃部の一部である。

（7）楔形石器（178～194）

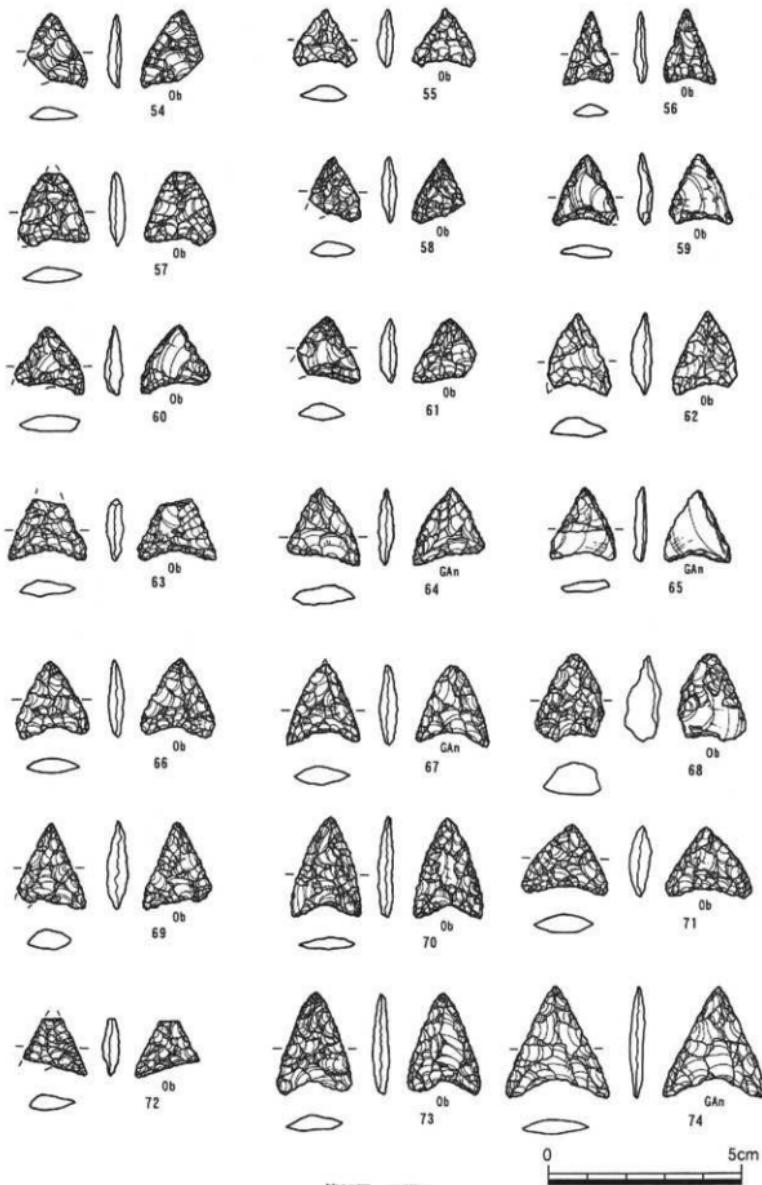
20点出土しており、17点を図示した。（178～194）

剥片の上下に打撃痕、あるいは打撃による潰れ、剥離等が観察できるものを楔形石器とした。

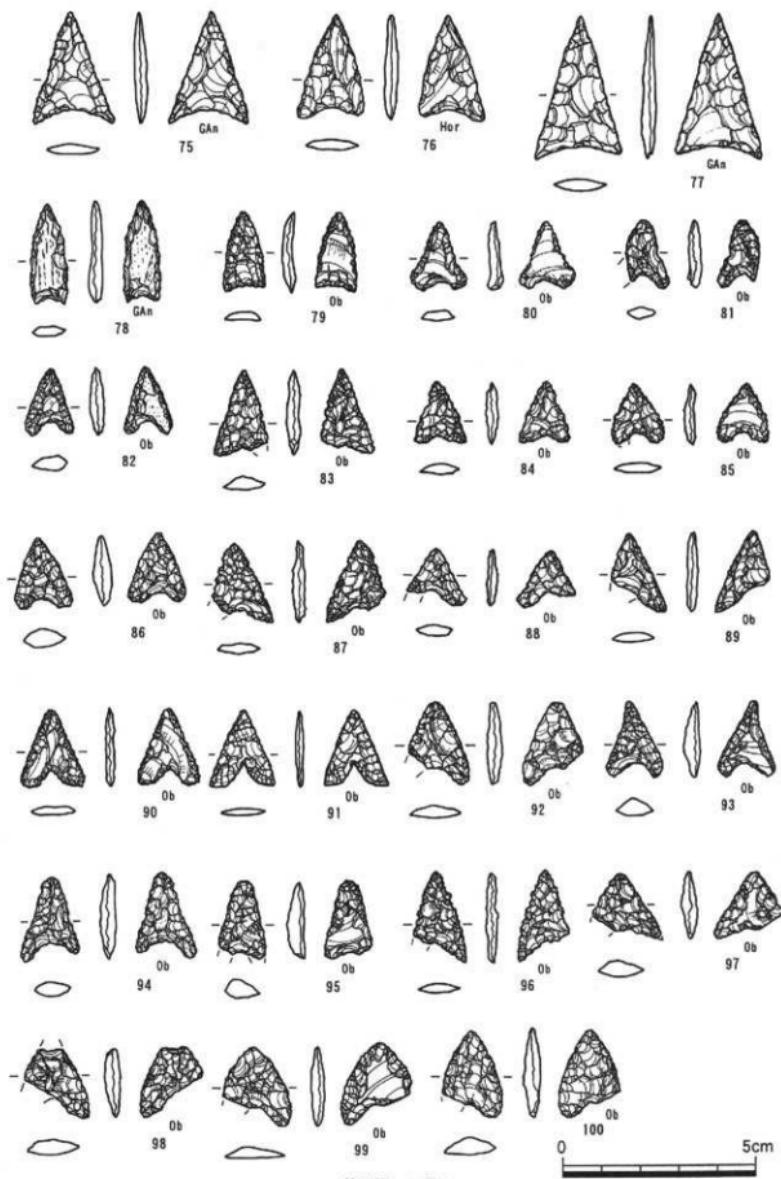


第89図 石巖1

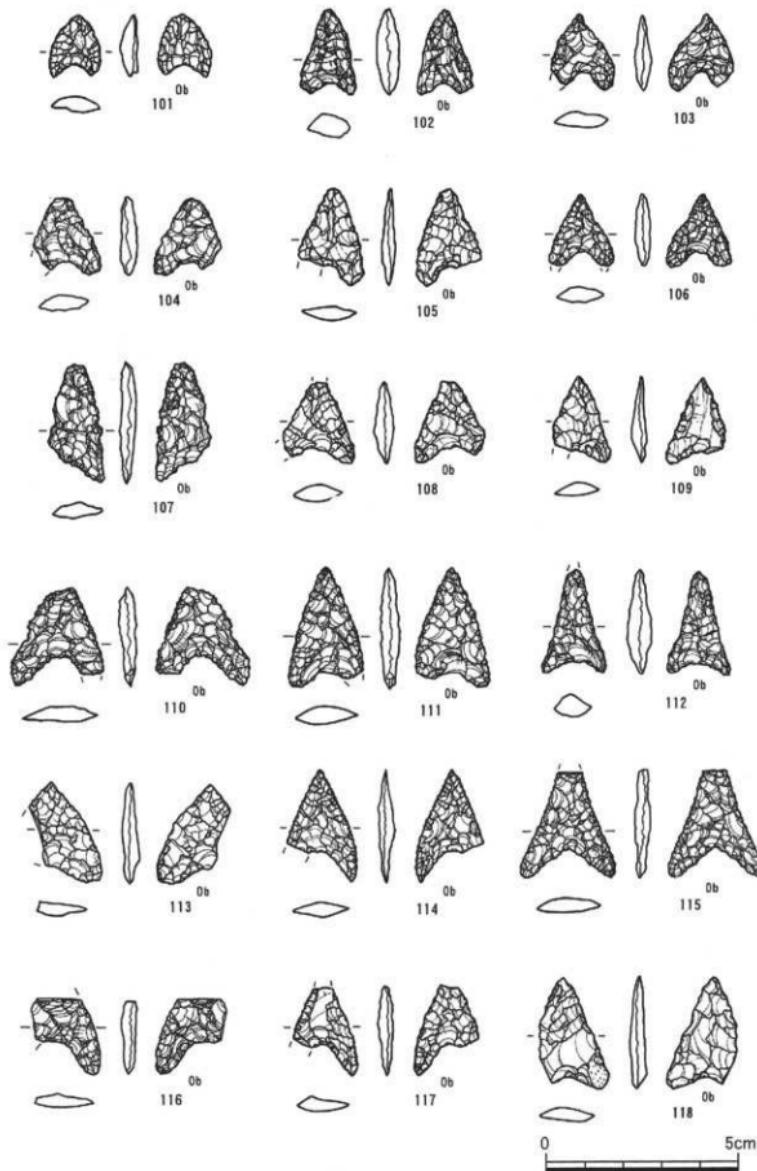




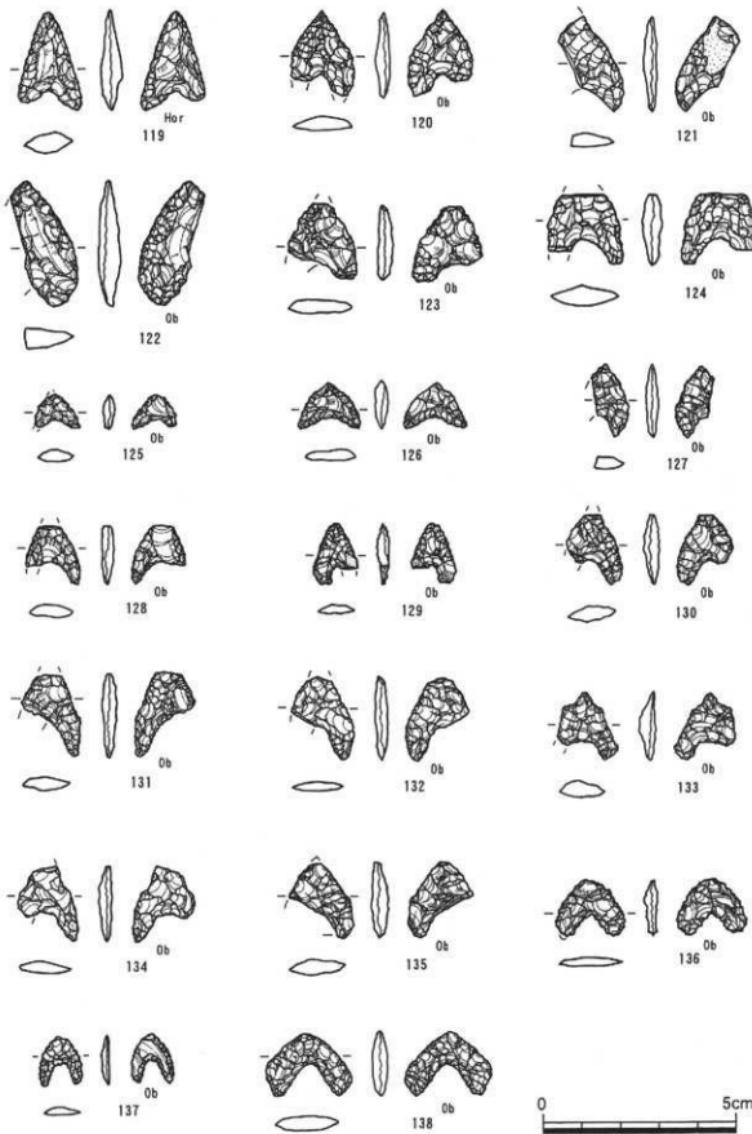
第90図 石鱗2



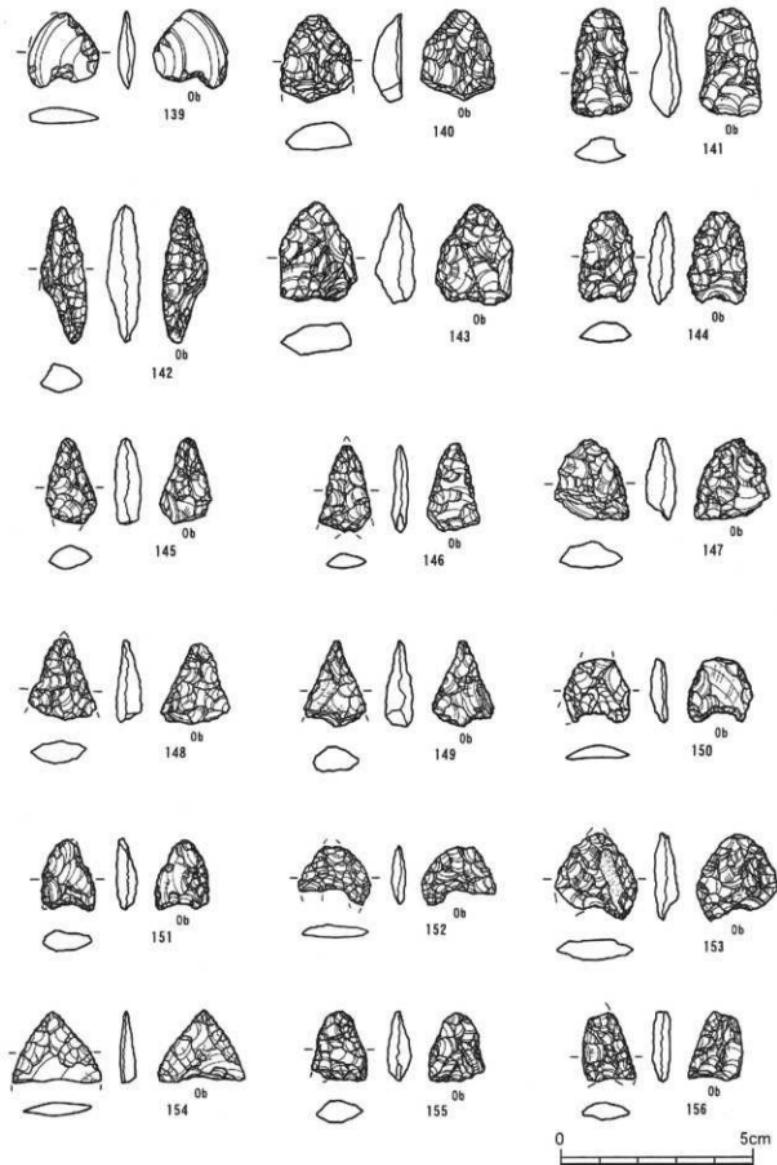
第91図 石鏃3



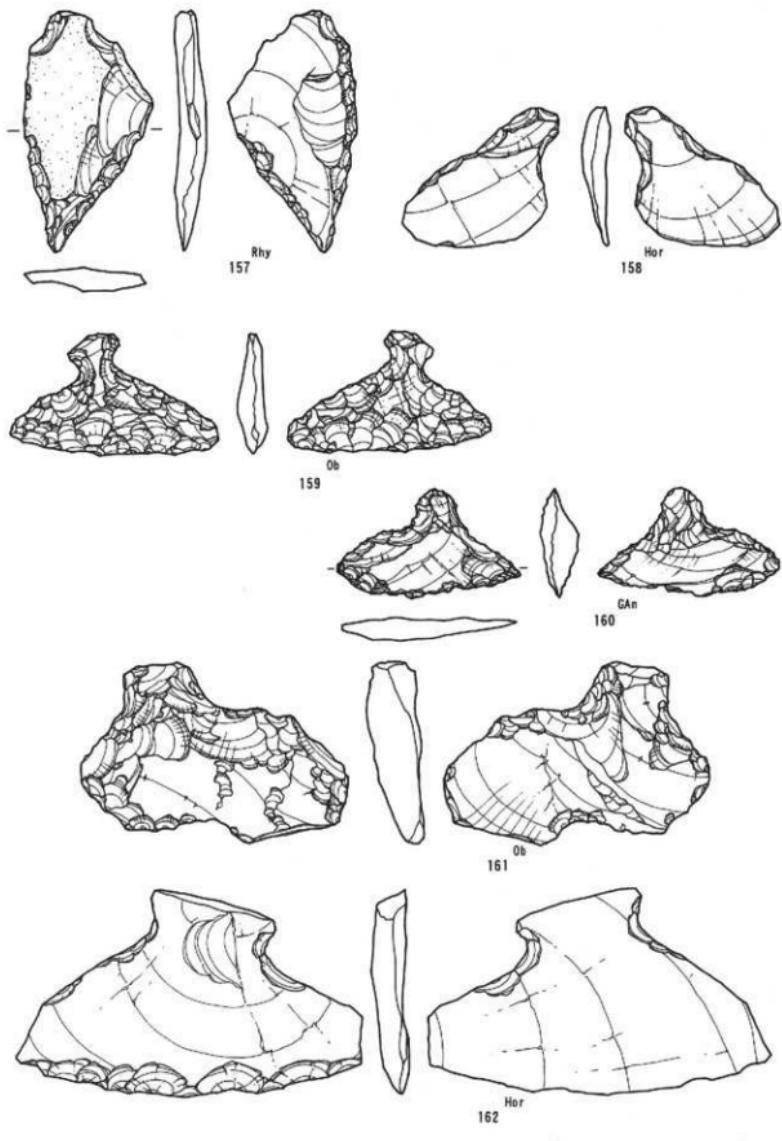
第92図 石器4



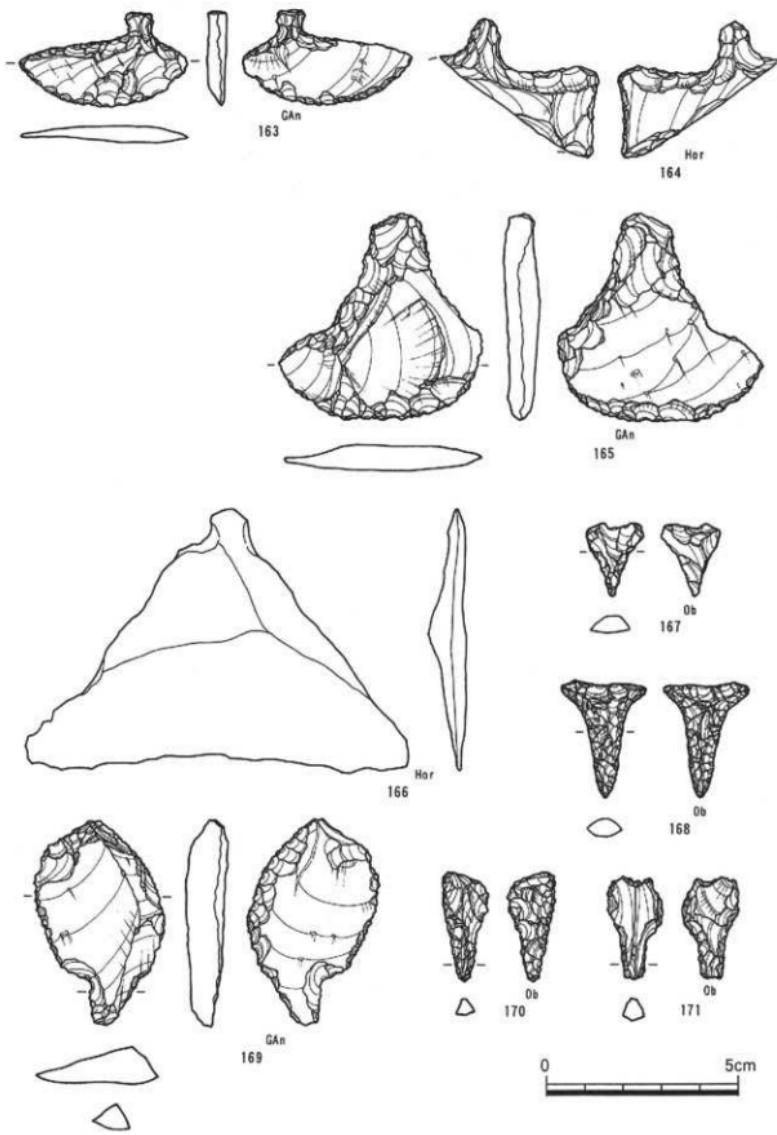
第93図 石巻5



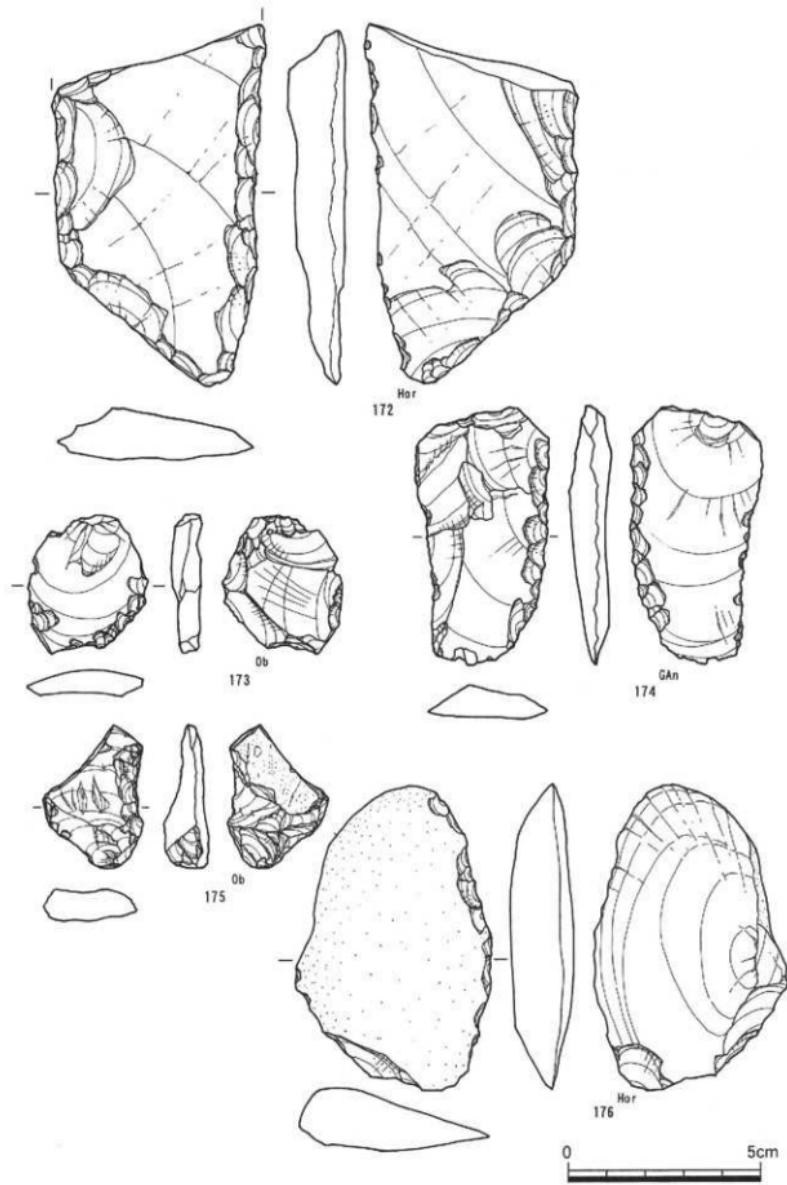
第94図 石器 6



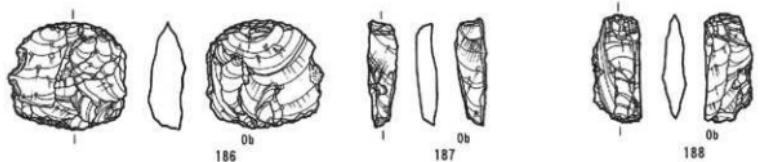
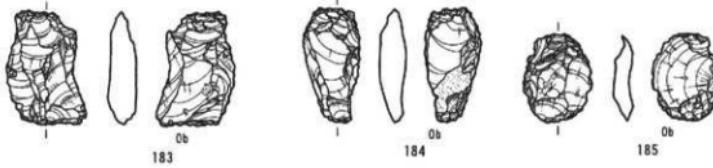
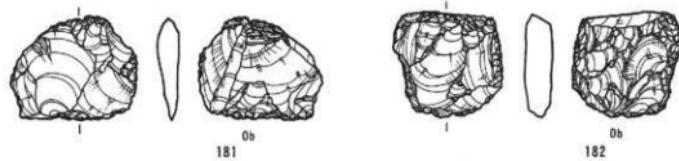
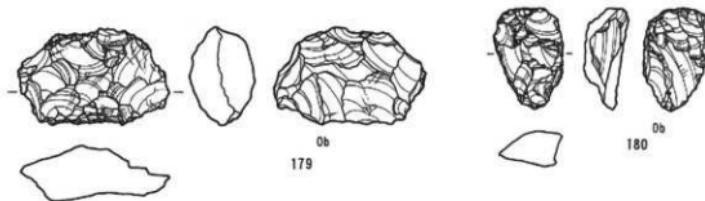
第95圖 石七



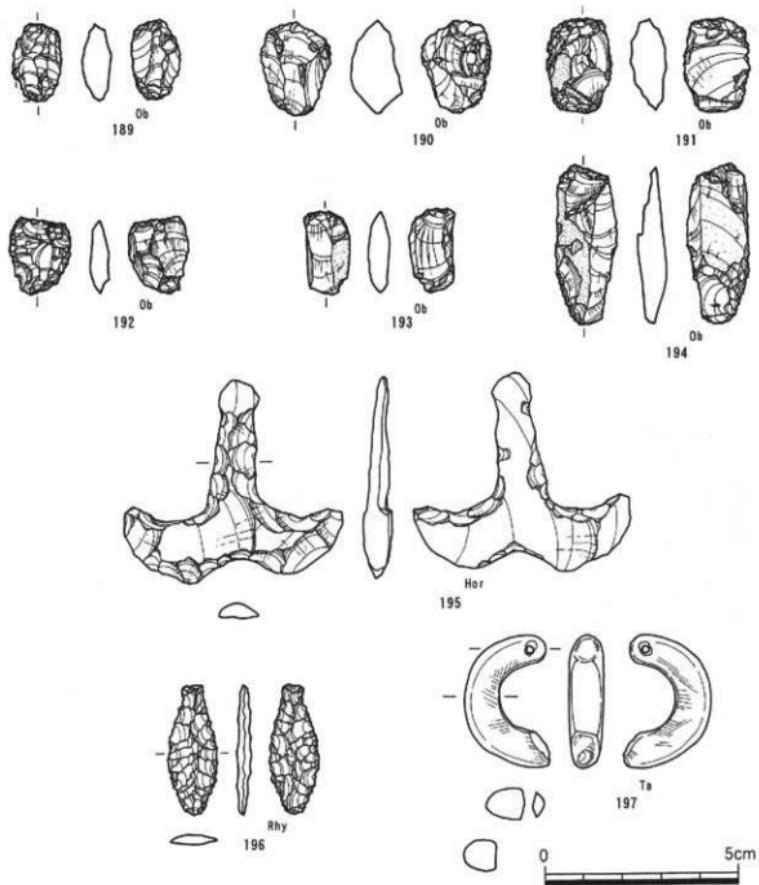
第96図 石七・石鮫



第97図 スクレイバー類



第98図 搤器・楔形石器



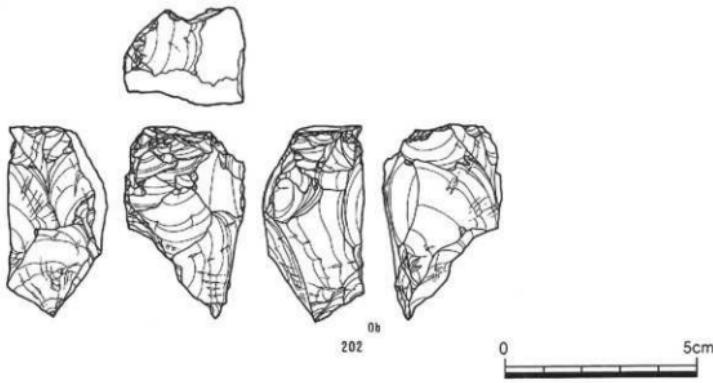
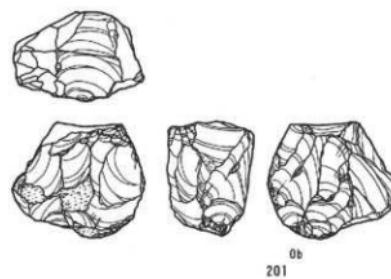
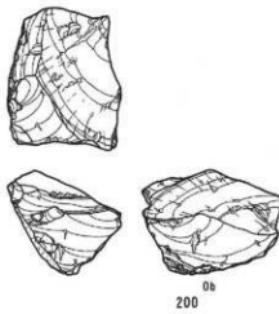
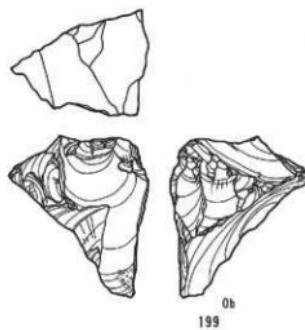
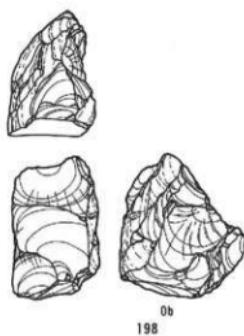
第99図 模形石器・石製品

(8) 石製品 (195~197)

用途不明品が2点と耳飾りが1点出土した。195はホルンフェルス製のもので、錫形を呈する。剥片を素材とし、縁辺部に調整を加えて成形しているため、断面は半円形を呈する。同様のものが長泉町柏原遺跡で出土している。196は小型の分銅形を呈し、全面に平坦剥離が及んでいる。197は滑石製の環状の耳飾りの一部である。欠損後修復をおこなったようで、欠損部には研磨痕が観察される。

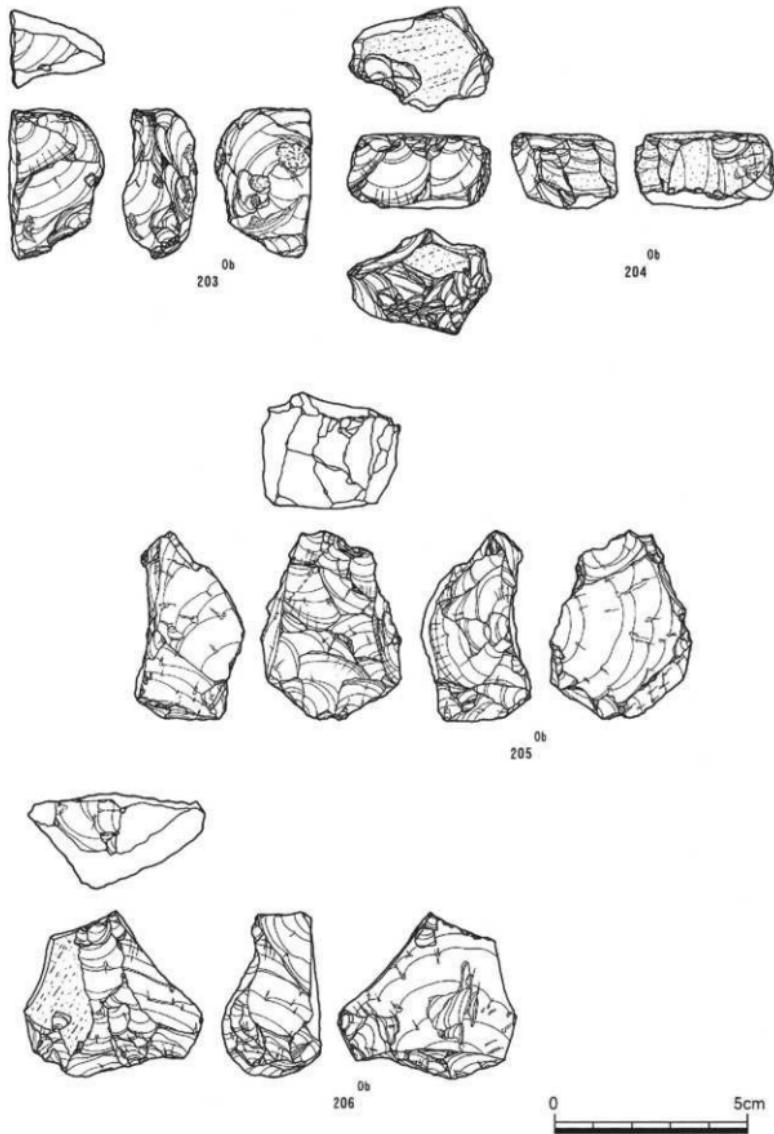
(9) 石核 (198~206)

9点を図示した。いずれも打面転移を頻繁に繰り返し、寸つまりの不定形剥片を剥取したものと考えられる。ただし204は上設の打面より貝殻状の剥片を連続して剥離している。

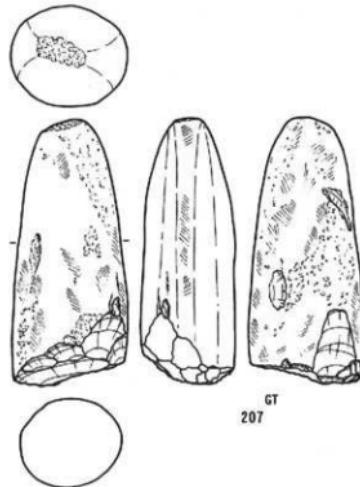


0 5cm

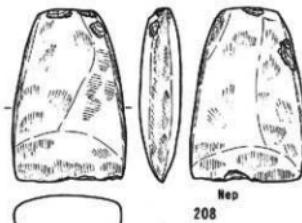
第100図 石核 1



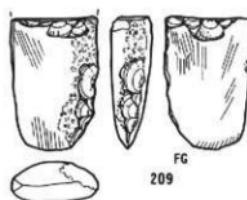
第101図 石核2



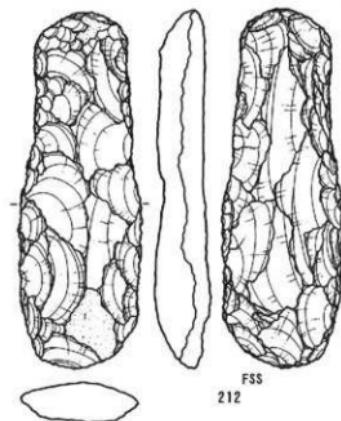
GT
207



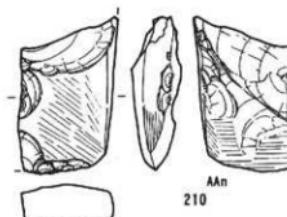
NeP
208



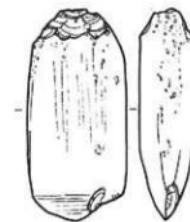
FG
209



FSS
212



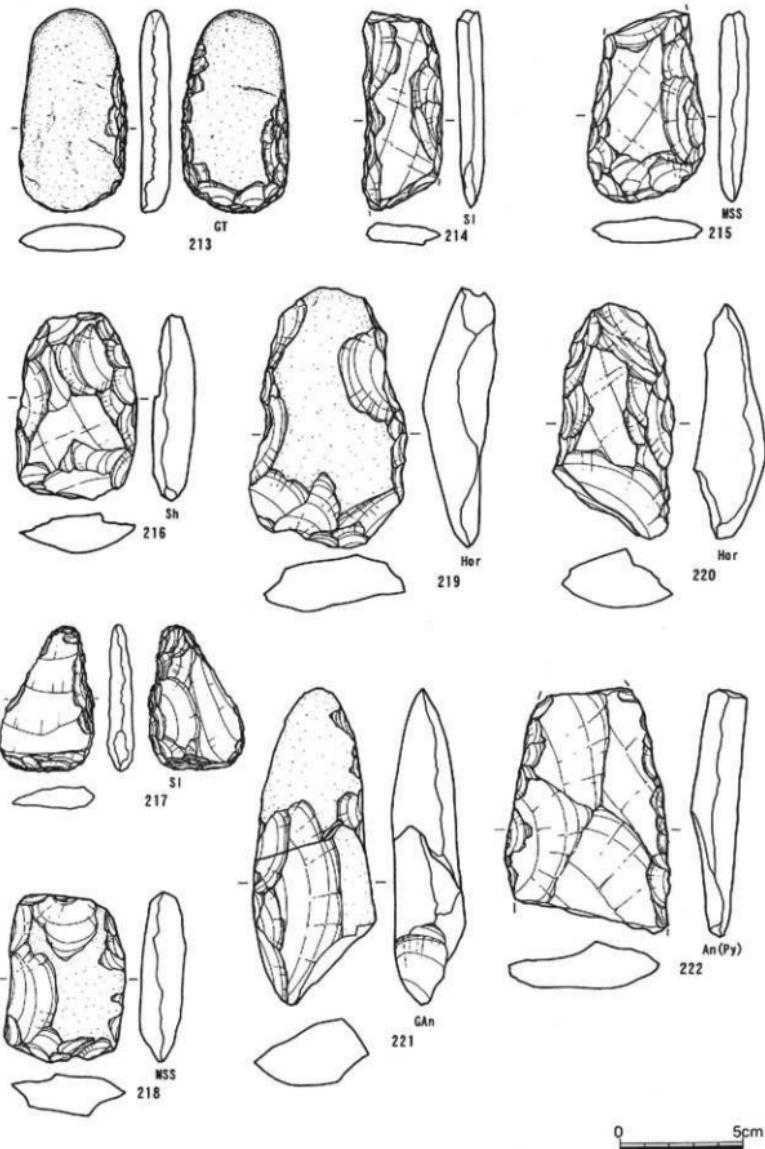
AAn
210



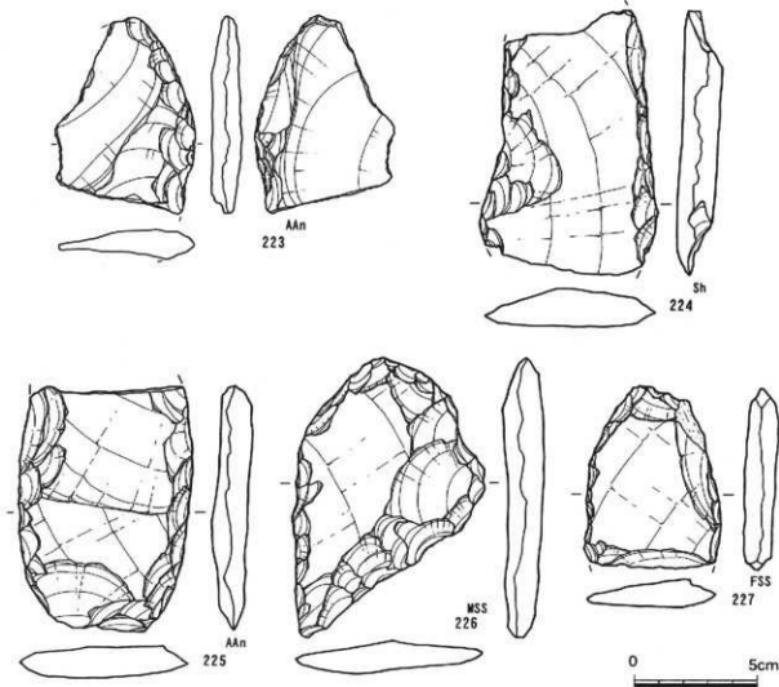
GT
211

0 5cm

第102圖 石斧 1



第103図 石斧 2



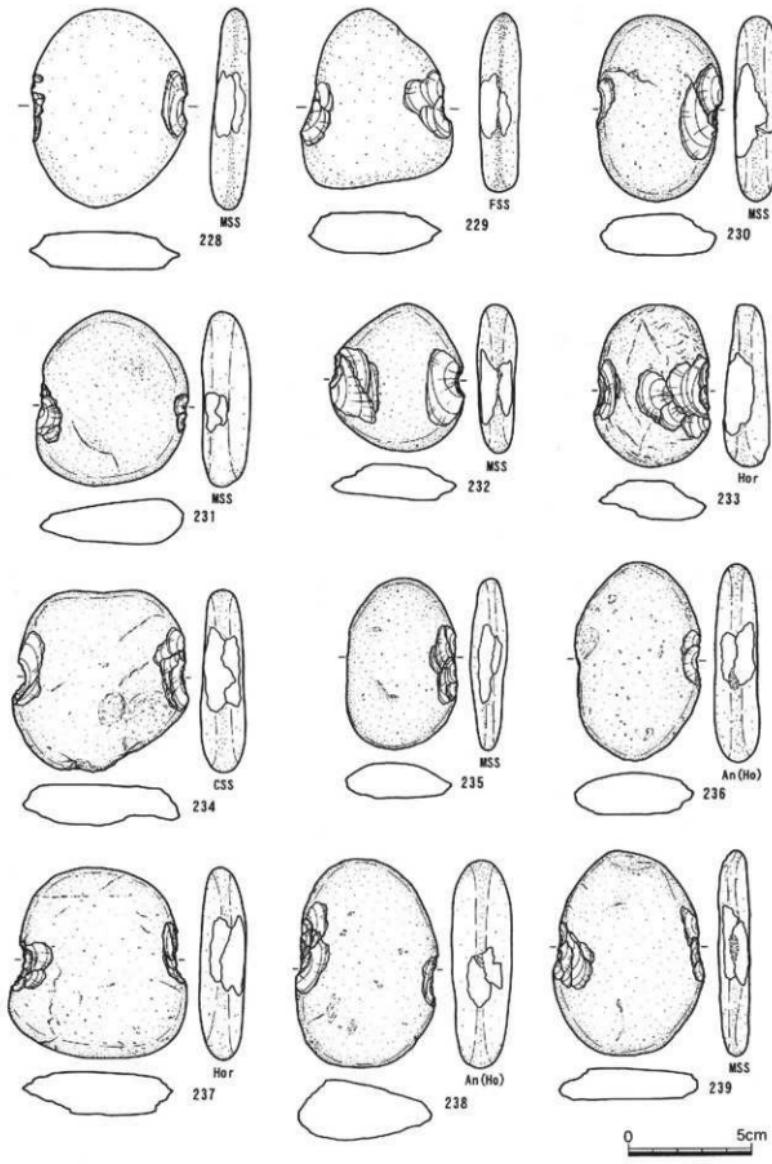
第104図 石斧 3

(10) 石斧 (207~227)

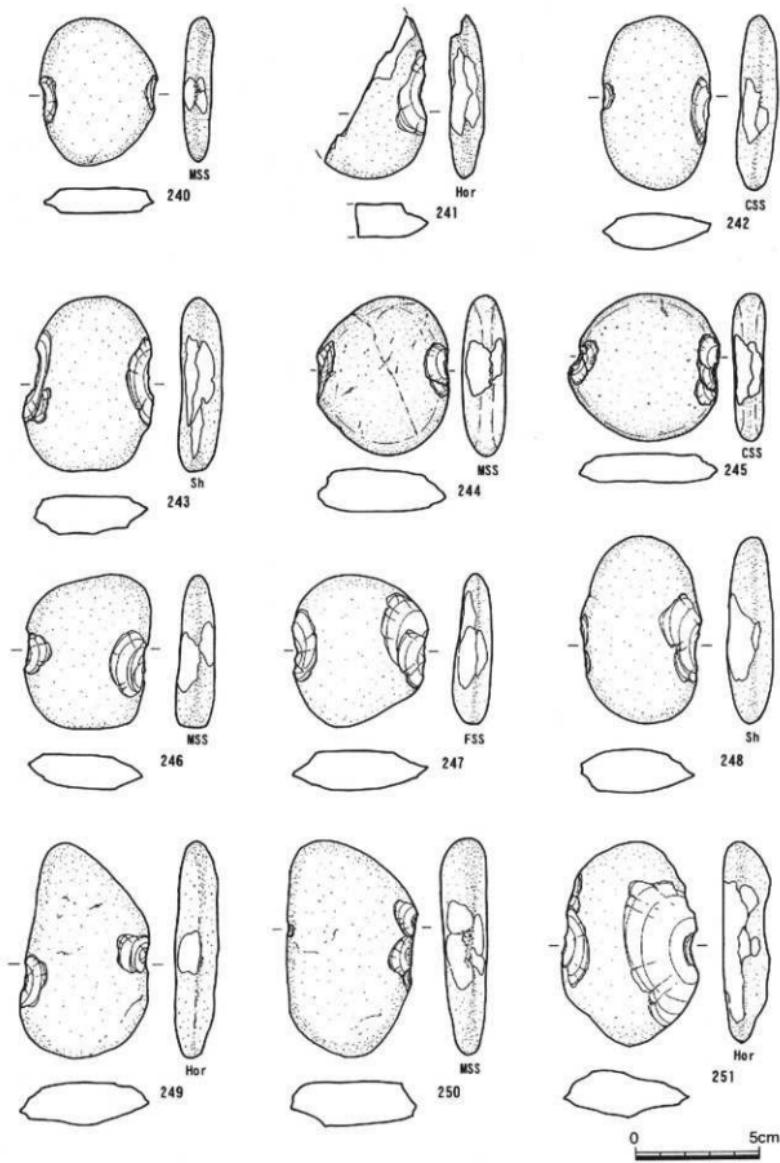
磨製石斧5点(207~211)と、打製石斧16点(212~227)を図示した。207は乳棒状の磨製石斧で断面が楕円形であり、頭部の細い棒状の石斧である。研磨面には加工時の打痕が観察される。欠損後敲石に転用されていたようで、上下にも打痕がみられる。208~210は扁平な磨製石斧で、加工斧と考えられる。211は緑色凝灰岩の自然縫一部を加工して石斧としたものである。打製石斧は幅の狭い短冊形のもの(212~218・220)と、比較的厚みがあり、大型のもの(219・221~227)がある。短冊形のものは、欠損後も刃部を再調整しながら使用しているようであり(214~217)、212が最初の姿であれば、214や215は最終的なものと考えることが出来る。222~227は板状に剥離した大型剥片の縁辺部を剥離して石斧としたものである。

(11) 石錘 (228~261)

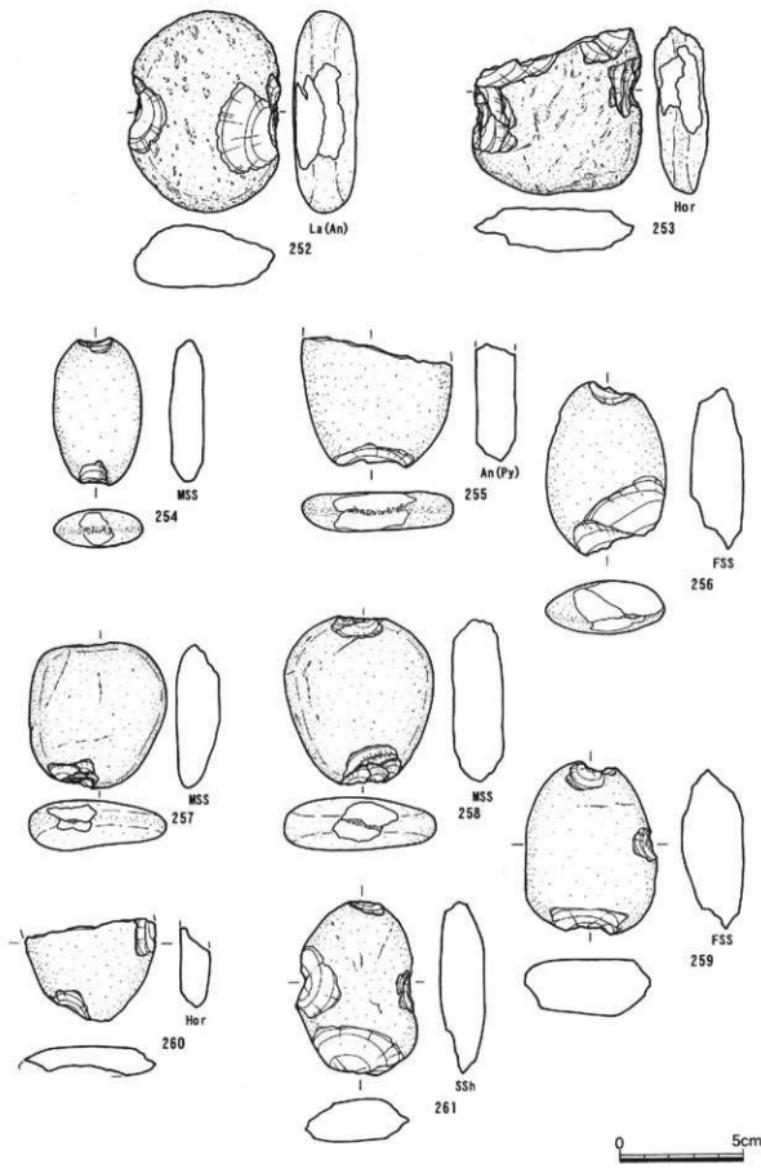
扁平な円錐の端部を打ち欠き緊縛できるようにしたもので、完形に近い34点を図化した。これらの中には、縁辺部に渦れ状の緊縛痕が観察できるものがある(232・236・238・239・244・250・254・255・257・258)。素材となる円錐の長軸を縦方向に置いたとき、横位置に緊縛部分があるものは228~253、縦位置にあるものは254~258、四方にあるものは259~261である。重さは37g~165gまで様々である。石器の出土位置は、早期末の下吉井式土器の分布と重なる。



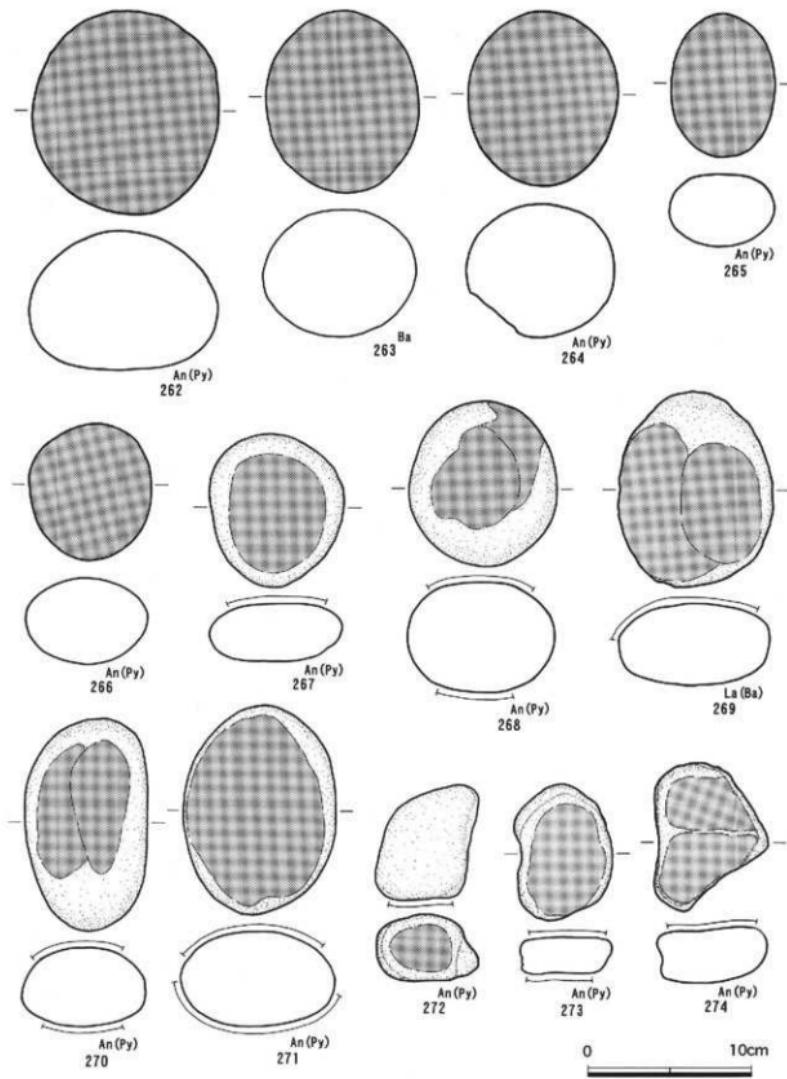
第105図 石鍊1



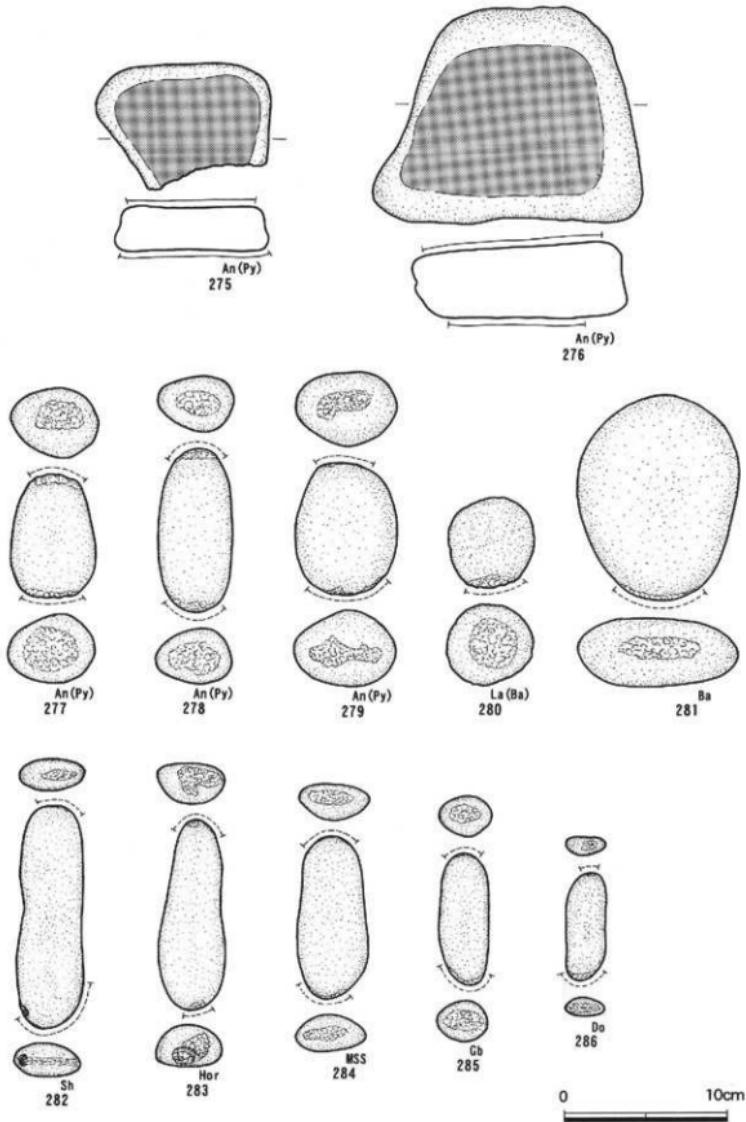
第106図 石鍬 2



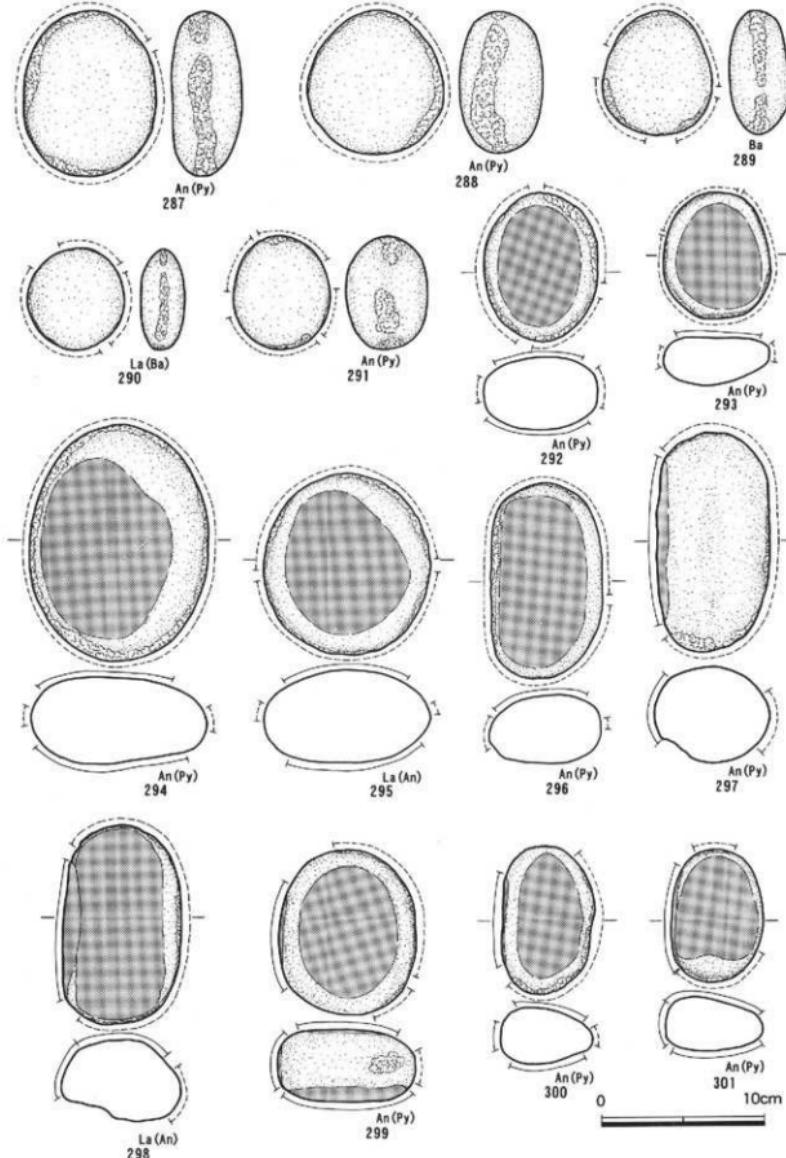
第107圖 石錘 3



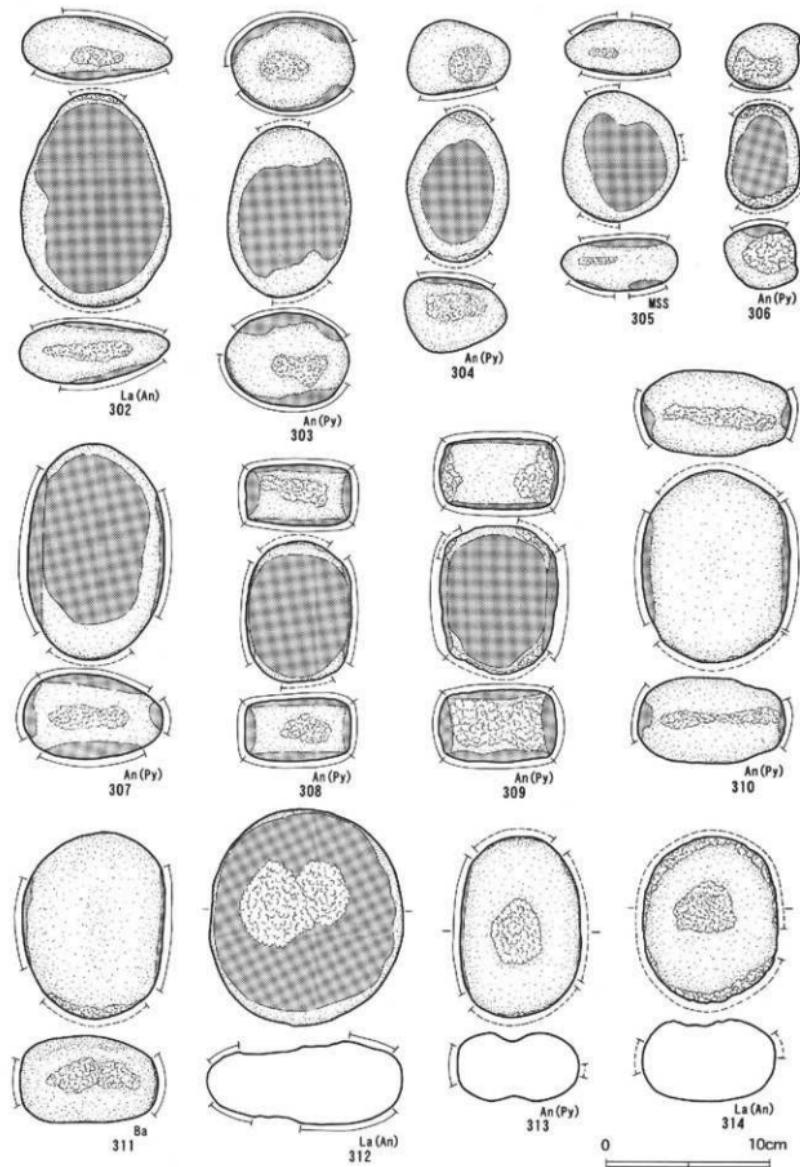
第108図 磨石



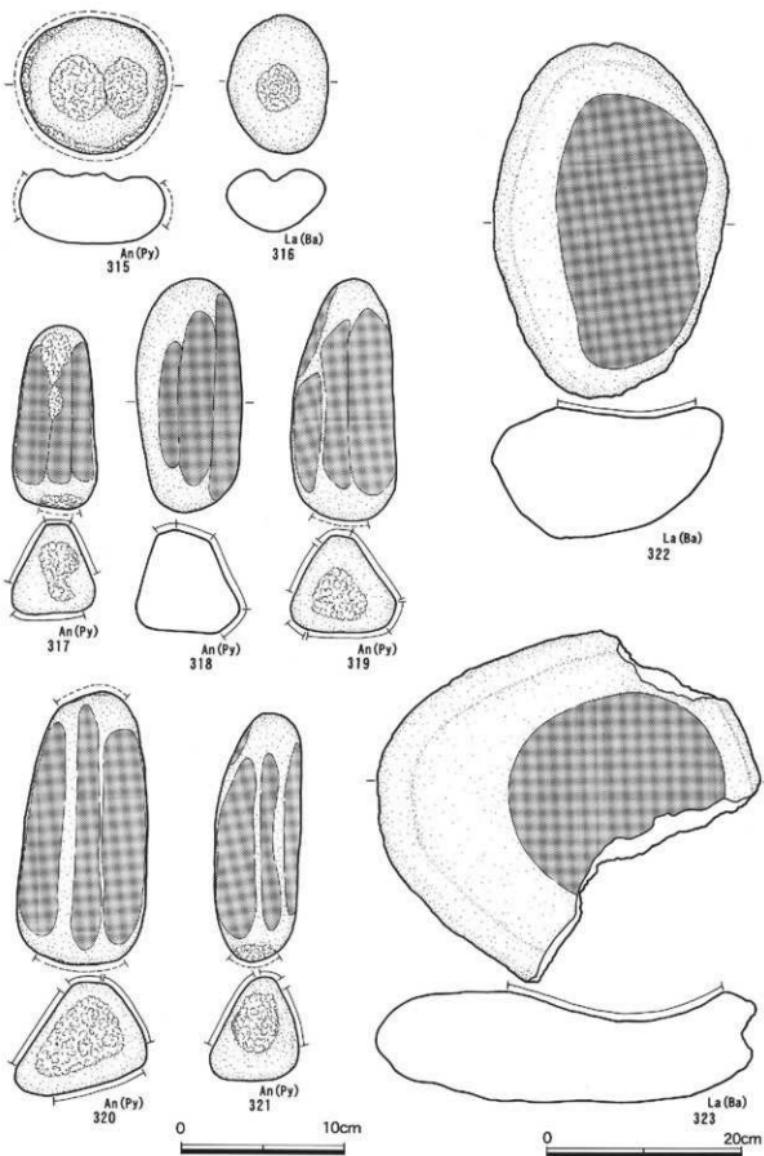
第109図 磨石・敲石1



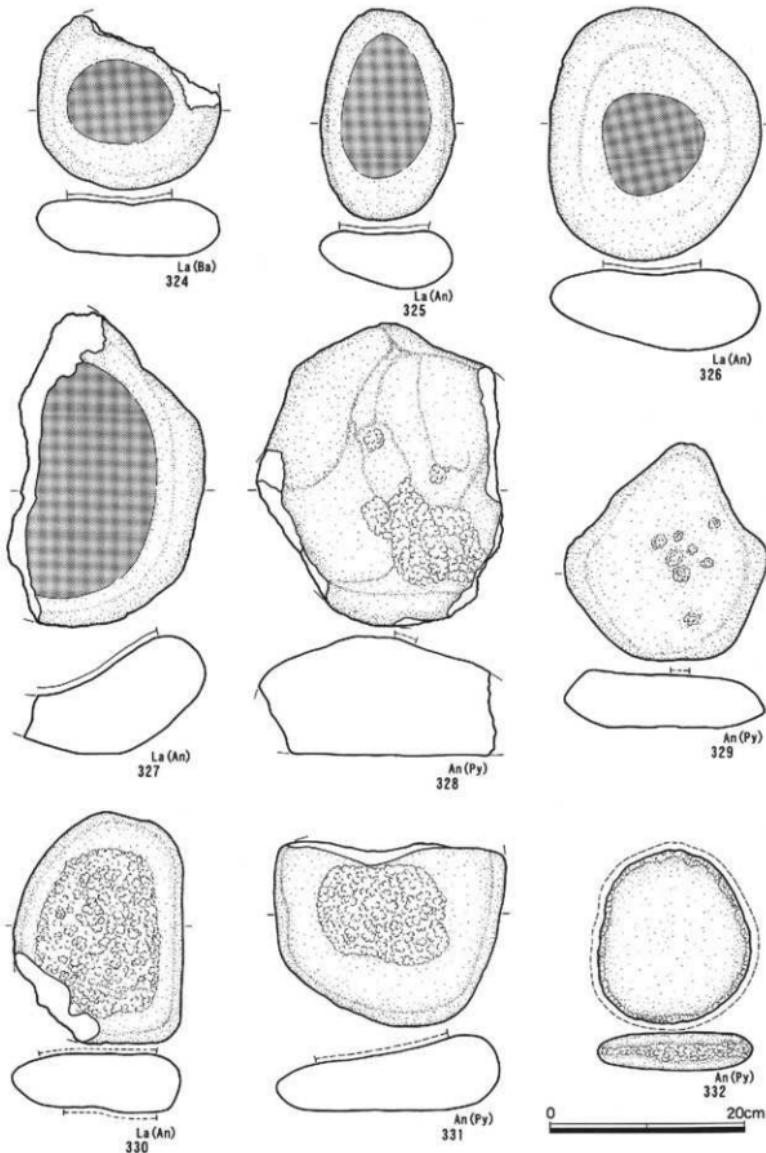
第110図 磨石・敲石 2



第111図 磨石・敲石・凹石



第112図 凹石・磨石・石皿



第113図 石皿・台石・敲石

(12) 磨石・敲石類 (262~332)

磨石・敲石類は欠損品を含めて約400点が出土したが、紙面の制約上全点を掲載することは不可能なので残存状態の良い以下の71点を図化した。262~276は磨石である。277~291、332は敲石で、277~280、282~286の棒状のものは、上下端に打痕が観察される。石器製作のための敲打具と考えられる。292~311は磨石と敲石の複合石器で、正面、側面などの広い面に磨痕が、端部に敲打痕が観察される。一つの道具で連続した作業をおこなうことで最終的にこのような状態になっていくのは、至極当然のことである。312~316は凹石、317~321は断面が三角形を呈したいわゆる特殊磨石である。322~327は石皿、328~331は台石である。

表10 縄文時代の石器計測表

番号 番号	時代	層位	種類	石材	縦長 (mm)	横真 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	番号 No.	時代	層位	種類	石材	縦長 (mm)	横真 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
89-27 10255 縄文 FB 磨石	Gn	15.8	11.7	2.5	0.5	81-100 4100 縄文 FB 磨石	Gn	12.0	10.0	1.0	0.5	81-101 7710 縄文 FB 磨石	Gn	15.2	13.0	1.5	0.7
89-28 3505 縄文 FB 磨石	Gn	15.5	14.1	2.0	0.5	82-101 1000 縄文 FB 磨石	Gn	21.1	14.1	1.5	1.3	82-102 1000 縄文 FB 磨石	Gn	21.0	15.0	0.8	0.8
89-29 1125 縄文 FB 磨石	Gn	15.5	14.5	2.0	0.5	82-103 8470 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.1	1.0	0.9	82-104 4700 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.1	0.9	0.9
89-30 11665 縄文 FB 磨石	Gn	14.1	14.0	0.9	0.6	82-105 1000 縄文 FB 磨石	Gn	24.2	16.0	0.8	0.7	82-106 5597 縄文 KU 磨石	Gn	16.0	16.0	3.5	0.7
89-31 11195 縄文 FB 磨石	Gn	14.8	15.5	2.5	0.6	82-107 174064 縄文 FB 磨石	Gn	29.1	13.4	4.0	1.3	82-108 3139 縄文 FB 磨石	Gn	19.1	18.1	1.0	1.2
89-32 11255 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	12.0	3.0	0.7	82-109 13730 縄文 FB 磨石	Gn	21.0	14.5	1.0	1.0	82-110 18090 縄文 FB 磨石	Gn	24.0	16.0	0.9	1.6
89-33 1482 縄文 FB 磨石	Gn	15.7	13.3	5.0	1.1	82-111 1000 縄文 FB 磨石	Gn	24.0	16.0	0.9	0.9	82-112 1290 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	2.0
89-34 15478 縄文 FB 磨石	Gn	19.3	14.8	3.8	0.6	82-113 1000 縄文 FB 磨石	Gn	26.1	16.0	0.8	1.2	82-114 1997 縄文 FB 磨石	Gn	26.0	15.4	4.5	1.2
89-35 2854 縄文 FB 磨石	Gn	17.0	17.0	0.7	0.4	82-115 21274 縄文 FB 磨石	Gn	26.0	17.0	4.1	1.1	82-116 147030 縄文 FB 磨石	Gn	18.0	17.1	3.2	0.8
89-36 5125 縄文 FB 磨石	Gn	21.8	12.1	3.4	0.7	82-117 3763 縄文 ZN 磨石	Gn	21.7	17.1	3.6	0.8	82-118 3400 縄文 FB 磨石	Gn	26.0	17.7	3.1	1.4
89-37 17455 縄文 ZN 磨石	Hor	22.5	14.8	3.5	0.7	82-119 2568 縄文 FB 磨石	Gn	24.0	16.5	0.9	0.9	82-120 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-38 7581 縄文 FB 磨石	Gn	28.5	15.0	3.0	0.5	82-121 1290 縄文 FB 磨石	Gn	24.0	16.0	0.9	0.9	82-122 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-39 21465 縄文 ZN 磨石	Gn	21.1	17.6	3.5	0.5	82-123 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-124 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-40 12530 縄文 FB 磨石	Gn	28.1	16.7	3.1	1.1	82-125 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-126 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-41 22100 縄文 FB 磨石	Hor	41.7	19.7	3.8	2.4	82-127 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-128 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-42 11969 縄文 FB 磨石	Gn	16.5	14.7	3.3	0.5	82-129 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-130 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-43 10057 縄文 FB 磨石	Gn	14.1	12.0	3.0	0.5	82-131 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-132 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-44 1859 縄文 FB 磨石	Gn	13.6	11.8	3.4	0.5	82-133 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-134 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-45 18872 縄文 FB 磨石	Gn	19.0	11.0	2.7	0.4	82-135 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-136 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-46 5226 縄文 FB 磨石	Gn	15.8	12.8	4.7	0.7	82-137 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-138 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-47 14441 縄文 FB 磨石	Gn	15.1	12.0	3.0	0.4	82-139 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-140 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-48 12530 縄文 FB 磨石	Gn	15.5	12.5	3.0	0.5	82-141 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-142 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-49 20020 縄文 FB 磨石	Gn	15.2	11.7	3.8	0.6	82-143 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-144 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-50 20384 縄文 FB 磨石	Gn	15.9	12.6	2.8	0.4	82-145 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-146 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-51 10455 縄文 FB 磨石	Gn	16.2	14.6	4.1	0.9	82-147 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-148 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-52 7988 縄文 FB 磨石	Gn	15.0	12.0	4.0	0.6	82-149 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-150 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-53 7629 縄文 FB 磨石	Gn	15.9	14.9	3.5	0.5	82-151 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-152 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-54 12173 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	14.0	2.7	0.5	82-153 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-154 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-55 7624 縄文 FB 磨石	Gn	15.8	12.8	4.7	0.7	82-155 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-156 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-56 10581 縄文 FB 磨石	Gn	18.2	15.0	3.8	0.6	82-157 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-158 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-57 10070 縄文 FB 磨石	Gn	17.3	14.0	3.0	0.5	82-159 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-160 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-58 4009 縄文 FB 磨石	Gn	16.7	13.6	3.0	0.4	82-161 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-162 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-59 6220 縄文 FB 磨石	Gn	17.4	15.7	3.0	0.6	82-163 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-164 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-60 6459 縄文 FB 磨石	Gn	18.8	17.6	4.2	0.6	82-165 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-166 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-61 6446 縄文 FB 磨石	Gn	15.9	16.0	3.5	0.5	82-167 1000 縄文 ZN 磨石	Gn	23.0	16.0	4.7	0.7	82-168 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-62 6877 縄文 KU 磨石	Gn	17.5	14.0	3.0	0.5	82-169 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-170 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-63 4786 縄文 FB 磨石	Gn	16.5	13.0	3.0	0.5	82-171 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-172 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-64 17191 縄文 ZN 磨石	Gn	16.5	12.8	4.1	1.1	82-173 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-174 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-65 10485 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	13.0	3.0	0.5	82-175 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-176 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-66 12530 縄文 FB 磨石	Gn	16.2	15.9	3.7	0.7	82-177 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-178 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-67 16100 縄文 FB 磨石	Gn	20.2	18.9	4.8	1.1	82-179 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-180 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-68 11198 縄文 FB 磨石	Gn	21.1	17.1	7.6	2.1	82-181 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-182 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-69 5624 縄文 KU 磨石	Gn	20.7	16.9	5.0	1.0	82-183 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-184 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-70 7529 縄文 FB 磨石	Gn	28.0	17.0	3.8	0.6	82-185 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-186 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-71 3446 縄文 FB 磨石	Gn	25.8	22.1	3.8	2.1	82-187 1000 縄文 KU 磨石	Gn	21.7	16.0	4.0	1.6	82-188 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-72 5199 縄文 FB 磨石	Gn	25.2	24.6	3.0	1.0	82-189 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-190 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-73 18407 縄文 ZN 磨石	Gn	18.8	10.2	3.2	0.4	82-191 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-192 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-74 6046 縄文 KU 磨石	Gn	17.1	13.0	3.0	0.4	82-193 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-194 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-75 16123 縄文 ZN 磨石	Gn	16.9	11.7	3.0	0.5	82-195 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-196 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-76 10070 縄文 FB 磨石	Gn	17.6	16.2	3.0	0.5	82-197 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-198 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-77 11398 縄文 FB 磨石	Gn	12.4	14.5	4.0	0.8	82-199 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-200 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-78 21591 縄文 ZN 磨石	Gn	18.0	14.0	3.2	0.6	82-201 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-202 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-79 15721 縄文 FB 磨石	Gn	20.0	13.2	2.7	0.4	82-203 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-204 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-80 16123 縄文 FB 磨石	Gn	18.4	15.5	2.0	0.6	82-205 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-206 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-81 91-2348 縄文 FB 磨石	Gn	18.6	16.2	2.0	0.4	82-207 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-208 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-82 342 縄文 FB 磨石	Gn	12.1	12.1	3.4	0.4	82-209 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-210 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-83 10070 縄文 FB 磨石	Gn	12.7	12.7	3.0	0.4	82-211 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8	82-212 1000 縄文 FB 磨石	Gn	16.0	16.0	4.0	0.8
89-84 12527 縄文 FB 磨石	Gn	12.5	12.5	3.0	0.4	82-213 1000 縄文 FB 磨石	Gn</										

番号 No.	遺物 番号	時期	層位	種類	石材	幅員 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
97-179	15667	新文	FB	斜面	Ob	35.5	31.0	7.2	7.6
97-174	13253	新文	FB	斜面	GAn	61.3	33.5	9.3	21.8
97-175	13757	新文	FB	嵌入耐候		66.6	25.0	10.6	7.1
97-176	15463	新文	FB	斜面	Hor	76.2	80.5	17.1	83.6
98-177	11222	新文	FB	斜面	Ob	16.7	44.7	12.5	16.7
98-178	8465	新文	FB	斜面石板	Ob	20.2	10.0	1.5	1.5
98-179	14562	新文	FB	斜面	Ob	14.4	37.8	15.5	13.4
98-180	2116	新文	FB	斜面石板	Ob	26.6	17.2	15.0	3.9
98-181	14655	新文	FB	斜面石板	Ob	26.7	32.0	7.1	6.7
98-182	19718	新文	FB	斜面石板	Ob	26.0	28.7	8.2	7.3
98-183	15344	新文	FB	斜面石板	Ob	28.5	20.1	9.1	4.5
98-185	19509	新文	FB	斜面石板	Ob	26.8	12.7	6.2	2.1
98-185	14740	新文	FB	斜面石板	Ob	21.8	17.4	6.5	2.3
98-186	18523	新文	FB	斜面石板	Ob	27.3	26.8	10.7	8.1
98-187	15146	新文	FB	斜面石板	Ob	26.7	8.1	7.3	1.6
98-188	19523	新文	FB	斜面石板	Ob	26.8	13.6	8.5	3.4
98-189	13983	新文	FB	斜面石板	Ob	19.8	12.1	16.4	1.7

番号 No.	遺物 番号	時期	層位	種類	石材	幅員 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
99-190	14501	新文	FB	斜面石板	Ob	24.0	17.5	3.8	4.9
99-191	16231	新文	FB	斜面石板	Ob	23.3	17.6	9.2	8.4
99-192	18526	新文	FB	斜面石板	Ob	19.0	15.4	3.6	1.7
99-193	15151	新文	FB	斜面石板	Ob	21.3	11.7	5.7	1.1
99-194	18531	新文	FB	斜面石板	Ob	20.1	13.7	2.2	0.7
99-195	15152	新文	FB	斜面石板	Hor	2.0	1.0	0.5	0.1
99-196	19551	新文	FB	斜面石板	Hor	22.9	12.9	3.5	1.3
99-197	16651	新文	FB	石塊	Ta	24.1	28.0	8.6	7.6
100-198	19576	新文	FB	石塊	Ob	36.1	28.4	31.7	20.3
100-199	2061	新文	FB	石塊	Ob	41.2	35.0	23.3	20.3
100-200	17976	新文	FB	石塊	Ob	26.0	29.0	31.1	18.8
100-201	1528	新文	FB	石塊	Ob	30.2	22.6	20.4	—
100-204	4607	新文	KU	石塊	Ob	51.2	33.7	27.7	38.4
101-203	884	新文	FB	石塊	Ob	37.7	28.6	18.5	15.5
101-204	4210	新文	FB	石塊	Ob	31.5	36.4	28.3	20.8
101-205	10934	新文	FB	石塊	Ob	47.5	35.6	26.6	44.2
101-206	4547	新文	FB	石塊	Ob	40.7	43.7	23.9	20.9

番号 No.	遺物 番号	時期	層位	種類	石材	幅員 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
102-207	5505	新文	KU	石斧	GT	(100.6)	(48.1)	(37.9)	(909.7)
102-208	4467	新文	FB	石斧	Ne	71.3	46.1	17.2	94.3
102-209	18524	新文	FB	石斧	FG	(54.9)	(36.4)	(17.0)	(52.6)
102-210	2466	新文	FB	石斧	AAn	(61.4)	(39.2)	(17.2)	(72.2)
102-211	17924	新文	FB	石斧	GT	86.2	40.9	25.5	140.8
102-212	11605	新文	FB	石斧	FBS	144.7	49.2	22.1	176.6
103-213	12580	新文	FB	石斧	GT	81.8	42.0	11.0	62.3
103-214	2046	新文	FB	石斧	S	(81.2)	(91.9)	(6.2)	(57.5)
103-215	15278	新文	FB	石斧	MSS	(79.4)	(47.0)	(10.7)	(55.6)
103-216	20726	新文	ZN	石斧	Sh	76.5	48.1	18.5	78.5
103-217	7201	新文	FB	石斧	Si	(51.0)	(32.9)	(6.1)	(16.7)

番号 No.	遺物 番号	時期	層位	種類	石材	幅員 (mm)	横長 (mm)	厚 (mm)	重 (g)
105-228	12722	新文	FB	石劍	MSS	81.0	100.0	15.0	111.0
105-229	16252	新文	FB	石劍	MSS	75.0	83.0	15.0	100.0
105-230	14705	新文	FB	石劍	MSS	75.0	83.0	16.0	92.1
105-231	4605	新文	FB	石劍	MSS	70.2	56.1	17.5	107.7
105-232	11366	新文	FB	石劍	MSS	56.4	54.0	15.1	84.8
105-233	8121	新文	FB	石劍	Hor	65.9	46.2	17.9	87.0
105-234	9301	新文	FB	石劍	Cts	78.5	70.8	17.3	74.6
105-235	5810	新文	FB	石劍	MSS	68.0	42.7	12.6	58.5
105-236	15062	新文	FB	石劍	Ar(He)	80.3	48.8	17.4	107.0
105-237	13473	新文	FB	石劍	Hor	76.2	70.2	16.5	102.0
105-238	12476	新文	FB	石劍	Ar(He)	85.8	57.2	16.5	105.5
105-239	16253	新文	FB	石劍	MSS	72.5	56.8	17.1	88.5
106-240	16122	新文	FB	石劍	MSS	56.0	46.0	17.0	47.3
106-241	5017	新文	FB	石劍	Hor	85.0	43.0	11.0	37.1
106-242	8220	新文	FB	石劍	Cts	71.0	45.0	12.0	65.7
106-243	8811	新文	FB	石劍	Sh	71.0	54.0	19.0	86.7
106-244	6111	新文	FB	石劍	MSS	62.3	51.1	15.5	87.7
106-245	11854	新文	FB	石劍	Cts	56.5	50.4	12.8	85.1
106-246	16212	新文	ZN	石劍	MSS	85.0	51.0	10.0	89.9
106-247	880	新文	FB	石劍	MSS	62.8	48.0	13.0	65.0
106-248	16254	新文	FB	石劍	Sh	72.0	50.0	19.0	105.5
106-249	16255	新文	FB	石劍	Hor	86.0	54.0	10.0	105.0
106-250	10723	新文	FB	石劍	MSS	66.0	54.0	22.0	128.5
106-251	11551	新文	FB	石劍	Hor	83.0	56.0	19.0	110.6
106-252	14504	新文	FB	石劍	Le(An)	82.0	56.0	19.0	110.6
106-253	7963	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-254	11380	新文	FB	石劍	Hor	69.3	76.9	18.8	116.0
106-254	12250	新文	FB	石劍	Le	113.0	96.0	79.0	295.0
106-255	15677	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-256	15678	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-257	15679	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-258	15680	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-259	15681	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-260	15682	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-261	15683	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-262	15684	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-263	15685	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-264	15686	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-265	15687	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-266	15688	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-267	15689	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-268	15690	新文	FB	石劍	Le(An)	81.1	59.9	24.8	163.6
106-269	2342	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	65.0	51.0	223.0
106-270	11316	新文	FB	石劍	Le(An)	152.0	77.0	49.0	816.0
106-271	4513	新文	FB	石劍	Le(An)	131.0	97.0	59.0	830.0
106-272	4762	新文	FB	石劍	Le(An)	71.0	84.0	41.0	228.0
106-273	19639	新文	FB	石劍	Le(An)	108.0	94.0	63.0	183.0
106-274	16410	新文	FB	石劍	Le(An)	91.0	84.0	51.0	183.0
106-275	5461	新文	FB	石劍	Le(An)	91.0	84.0	48.0	183.0
106-276	14767	新文	FB	石劍	Le(An)	81.0	72.0	35.0	183.0
106-277	9744	新文	FB	石劍	Le(An)	81.0	72.0	35.0	183.0
106-278	15151	新文	FB	石劍	Le(An)	103.0	92.0	54.0	183.0
106-279	8865	新文	FB	石劍	Le(An)	41.0	54.0	32.0	240.0
106-280	15152	新文	FB	石劍	Le(An)	56.0	84.0	36.0	411.6
106-281	15153	新文	FB	石劍	Le(An)	103.0	92.0	54.0	183.0
106-282	2343	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	65.0	51.0	223.0
106-283	15154	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-284	15155	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-285	15156	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-286	15157	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-287	15158	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-288	15159	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-289	15160	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-290	15161	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-291	15162	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-292	15163	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-293	15164	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-294	15165	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-295	15166	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-296	15167	新文	FB	石劍	Le(An)	122.6	55.0	51.0	223.0
106-297	3593	新文	FB	石劍	Le(An)	115.0	85.0	54.0	223.0
106-298	16003	新文	FB	石劍	Le(An)	82.0	85.0	47.0	385.0
106-299	16004	新文	FB	石劍	Le(An)	82.0	85.0	47.0	385.0
106-300	80003	新文	FB	石劍	Le(An)	82.0	85.0	47.0	385.0
106-301	15168	新文	FB	石劍	Le(An)	82.0	85.0	47.0	385.0
106-3									

第V章 その他の時代の遺構と遺物

1 方形周溝状遺構

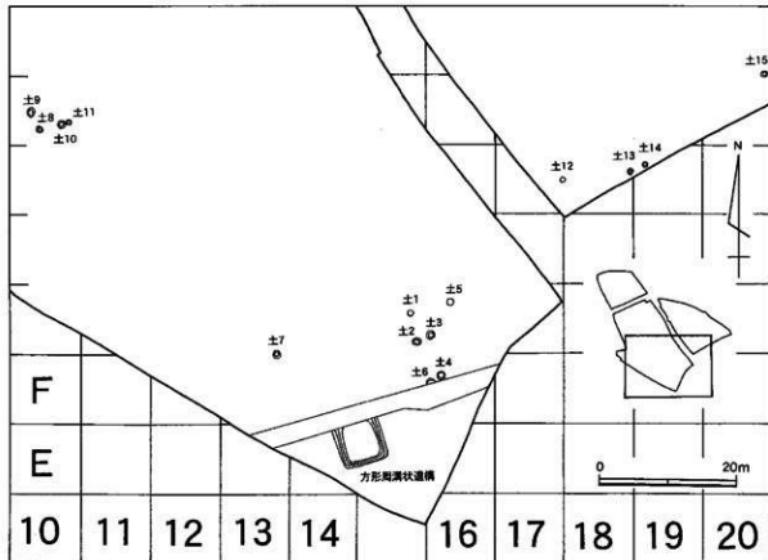
調査区の北側、E 14グリッド付近で一辺約8.5mの正方形の溝が検出された。約30cmの表土を除去した後、表土直下で確認したもので、栗色土層に掘り込むかたちで検出した。溝は確認面で幅1m~1.3m、深さ約0.7mを測る。溝に囲まれた区画の中央部より長頸壺が、溝中より須恵器の坏蓋が出土している。長頸壺の周囲には主体部と考えられる掘り込みは確認されなかったが、周辺に同時期の遺構もないことから、この溝に伴うものと考えられる。長頸壺を藏骨器と考えれば墓である可能性が高い。

坏蓋(466)は口径17.4cmで、内外面ともナデ調整。

長頸壺(467)は最大径を肩にもち、直径27.8cmを測る。頸部と高台は削取られており、丸みを持つ胴部を上半で強く屈折させて平坦に近い肩部とする。胴部下半は巻き上げ整形で、裏面には指頭痕が観察される。底部は丸みを帯びた底部と肩部で接合痕が観察される。外面は表面を叩いてから工具を使用して回転横ナデをする。さらに斜め方向に釉に類似したものを薄く塗っている。周溝から出土した坏蓋と同じく8世紀前半のものと考えられる。

このような方形の溝は千葉県で数多くの報告例がある。方形墳墓と呼ばれているもので、7世紀後半から9世紀代までつくられ、一辺20m~5mの正方形を呈する。埋葬施設は石室、石櫃、木櫃と様々であり、当遺跡のように特に施設ではなく、藏骨器のみのものもある。

*富永樹之氏の御教示による。

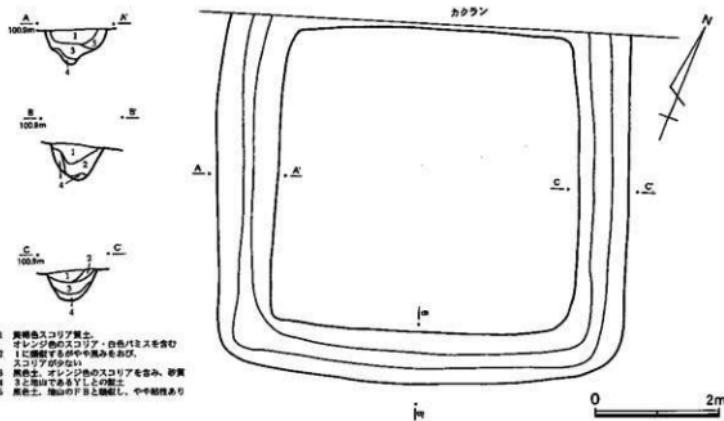


第114図 古代・中近世の遺構(1/700)

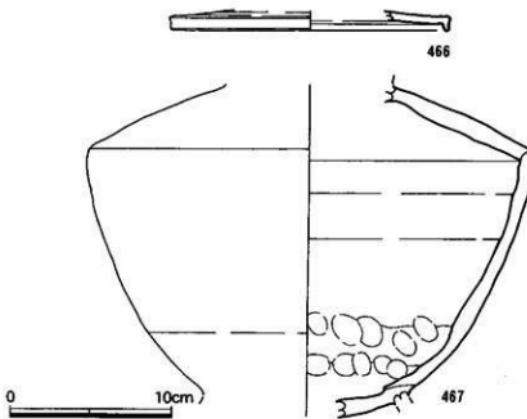
2 円形土坑

表土を除去した段階で確認したもので、15基が3ヶ所に分かれて検出された。覆土は黒色土で、栗色土層から富士黒土層に掘り込まれている。いずれも正円に近く、掘り込みは深くても30cm前後である。

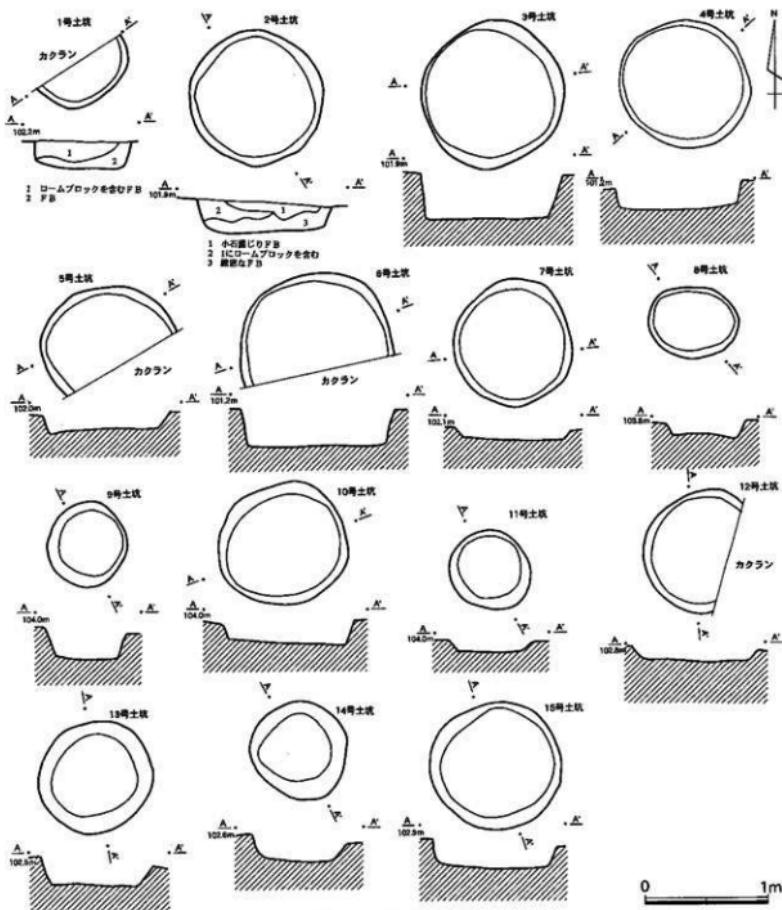
この遺構は箱根西麓から愛鷹南麓まで広く分布し、傾斜地に多い。遺物がほとんど出土しないためその性格や年代については明らかにされていないが、中近世に属し、墓壙であるという説が有力である。



第115図 方形周溝状遺構実測図



第116図 方形周溝状遺構出土遺物



第117図 中近世の土坑

表11 中近世土坑計測表

土坑番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土坑番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1号	0.80 (0.34)		0.23	9号	0.73	0.64	0.35
2号	1.10	1.07	0.26	10号	1.60	1.10	0.20
3号	1.22	1.14	0.35	11号	0.67	0.57	0.10
4号	1.06	1.04	0.16	12号	1.01	(0.69)	0.10
5号	1.00 (0.69)		0.18	13号	0.94	0.89	0.18
6号	1.25 (0.84)		0.31	14号	0.83	0.78	0.18
7号	1.01	0.97	0.07	15号	1.09	1.06	0.22
8号	0.74	0.60	0.09				

第VI章 調査の成果

1 旧石器時代

休湯層直下黒色帶より1枚の文化層を検出している。この石器群は、愛鷹・箱根縞年の第3期a段階に属し、密集した礫群を伴う。

礫群は15基が検出されており、ほとんどの礫が熱を受けて赤化し、小さなかけらに割れており、これらの礫が繰り返し使用されていたことがわかる。礫群間の接合は11号と15号間以外はない。礫群に比して、石器の出土は大変少なく、剥片・碎片をあわせても45点を数えるのみである。これらは礫群周辺で出土するのみであり、他は全くの空白地帯となる。石材としては頁岩を多用し、ナイフ形石器はホルンフェルス製縦長剥片を素材として縦長が5cmをこえるもの2点と、3cm前後の小さいもの2点が存在する。また、ホルンフェルス製の大型の剥片が伴う。本遺跡は石器の製作跡的な性格ではなく、礫群使用に際しておこなわれた、一連の作業（調理？）の結果と考えられる。

2 縄文時代・住居跡

縄文時代の遺構としては早期末の住居跡が10軒、前期末の住居が1軒検出された。早期末のものは下吉井式期のものと考えられ、住居の平面形は梢円に近い不定形なもので、屋内には炉といえるような施設は検出されず、極淡い焼土範囲が検出されるのみである。生活面と考えられる床面は、硬化面は検出されなかつたが、掘り方より十数センチ上部に炭化物や焼土粒が住居の中心付近に広がる様子がどの住居跡でも見て取れた。この炭化物混入層は、焼土範囲の検出面とほぼ同一のレベルであることから、この層を生活面と考えるのが妥当であろう。柱穴は検出が難しく、検出できたものも配置が不規則で極浅いものもあり不明な点が多い。これらの住居跡が検出されている範囲は、下吉井式土器の分布範囲とも重なり、ほぼ円形に配置する。切り合い関係もあるため、全ての住居が同時期に展開したとは考えられないが3軒前後が入れ替わり建っていたと思われる。

前期末の住居跡は1軒が検出された。長楕円形を呈し、明確な掘り込みと焼成面がある炉を持つが、壁溝や貯蔵穴などの施設は検出されなかった。土器は覆土中より十三菩提式土器の把手と考えられるものと、薄手の大歳山式土器が出土している。本遺跡では、この大歳山式土器が比較的まとまって出土しているが、この住居跡を除いては当該機の遺構とわかるものは見つかっていない。

3 縄文時代・集石

〈遺跡の様子〉

当遺跡では8基検出されており、検出面が比較的高かった8号集石を除くと他の7基はほぼ同時期のものと考えられ、遺物の出土状況や¹⁴C年代測定（加速器質量分析）の結果から、撚糸文土器群に伴う遺構であると考えられる。これらの集石は土坑との組み合わせによって以下の3種類に分類することが出来る。

A類—礫だけのもの

B類—礫の下に土坑があるもの

C類—礫の下に土坑があり、なおかつその土坑に焼成面があるもの

いずれも礫は熱を受けて赤化しており、B類、C類については土坑の覆土に炭化物を含む点が共通している。それぞれの集石が独立した単機能を示すのか、又は有機的に結びつくのかは、礫の接合状況が各々の集石の中で完結しているため定かではない。

<石蒸し料理の民族例>

焼け礫を用いた集石の機能については石蒸し料理説が有力である。しかし、石蒸し料理とはいっていい如何なるものか？どのような施設を使用するのか？具体的なイメージを知るために、以下に筆者が実際に見聞してきた石蒸し料理の民族例を図解した。場所はパプアニューギニア、ハイランド州タリ、ルーム村である。

ここでは来客があった場合や祭りなど、たくさんの人々に食物を振る舞う際にこの石蒸し料理（ムームー）をおこなう。人々は芋を中心とした農業によって自給自足の生活をしており、ブタやニワトリの飼育もおこなっている。最近では貨幣経済も浸透し、市場で食料品を買うこともできる。しかし普段の食事は、焚き火の中に芋などを投げ入れ調理する程度の簡単なもので、煮炊きをする道具として土器等の容器を使う習慣はない（ちなみに、同じニューギニア内でも、粉食をする地域では貯蔵用、調理用等の用途で土器を使用する）。石蒸し料理を作る手順は大まかに以下の通りである。

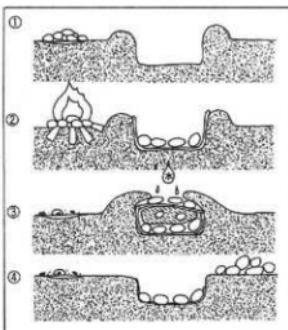
- ① 地面に穴を掘る。
- ② 穴の中にバナナの葉を敷き、その上に焼いた礫を並べる。礫を焼く際には、穴の近くに平面の焚き火を起こし、その中に礫を入れる（マウントハーゲンの村では石を焼く場合にも浅い穴を掘り中で火を焚いている）。
- ③ 食物を入れ、葉で包んで上に焼け礫を置く。この時、食物の中にも2、3個の礫を入れる。更に土で2/3程度蓋をし、上から水を掛けて蒸し焼きにする。鶏肉や野菜では1時間半、ブタを入れる際は2時間ほどで出来上がる。
- ④ 食物を取り出したあとは焼土跡と礫が敷かれた土坑、投げ捨てられ山になった礫が残る。これらの礫は穴に戻されたり、礫を焼いた場所に戻されることもある。

これらの石蒸し料理の施設は家の裏のちょっとした広場にあったり、共同の広場にあったりするが、施設そのものは個人の所有物になるようである。また施設は繰り返し使用され、用途（対象物の大きさ）によって、「ブタ用」「鳥用」に区別され大きさも異なる。もちろん礫もそれぞれに用意される。よって住居1軒がこのような調理施設を1～3箇所も所有している（来客用ムームーもある）。礫の大きさは施設によって異なり、特に選択している様子は見受けられなかった。

<まとめ>

民族例を見ていくと、石蒸し料理には、集石の他に焼土、あるいは焼土土坑が重要な構成要素となることがわかる。これを仮に前記集石分類のA～C類に続けてD類とすると、焼土を持たないA、B類と焼土を持つC、D類が組み合わさって一つの施設を示す可能性がある。これは必ずしも1:1の関係にはならない。このような観点で遺跡を振り返ると、集石4と集石2、集石3と焼土40、集石5と焼土40、集石6と焼土31は組み合わさって1施設を示している可能性がある。C類の集石が土坑内にまとまって検出されているのに対し、B類は土坑の外にまで礫が分布しているのもどこか示唆的である。

愛鷹山山麓の集石遺構で、早期前半に位置づけられているものは、沼津市大谷津遺跡、同広合遺跡、同寺林南遺跡、同中沢田集地鼻遺跡、長泉町上野遺跡、同陣馬上B遺跡などがあり、各報文では焼土（炉穴）、土坑と集石が機能的に結びつく可能性が指摘されている。また寺林



第118図 石蒸し料理の作り方

南遺跡では集石Ⅱの周辺に土坑や炉穴が点在している状況が説明され、これらの遺構の有機的つながりについて論考されている。この際に遺構の同時期性の証明が重要な問題になるが、残念ながら遺構の性格上、時期を決定できる土器の出土が少ないという点が理解を難しくしている。

静岡県東部では、焼け石集石は早期前半に検出例が多く、その後は減る傾向がある。一方、早期後半になって、当遺跡の早期末の住居跡に見られるように、住居の外に炉跡と考えられる焼土跡を数多くもつようになる。焼け石集石を調理施設と考えると、これは調理方法（対象）が変化した、あるいは調理方法に新しい要素が加わったことを示す。また、土器の出土数が増えたことと合わせて、調理道具としての土器の登場が予想できるのではないか。

＜参考文献＞

- | | | |
|-------|------|--|
| 小野真一他 | 1979 | 「下長塙植野遺跡」 長泉町教育委員会 |
| 石川治夫 | 1985 | 「寺林南遺跡発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 高尾好之他 | 1987 | 「広合遺跡発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 関野哲夫 | 1989 | 「清水柳北遺跡発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 鈴木裕教 | 1990 | 「大谷津遺跡発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 池谷信之 | 1990 | 「広合遺跡（b, c, d区）・広合南遺跡発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 池谷信之 | 1991 | 「広合遺跡（e区）・ニツ洞遺跡（a区）発掘調査報告書」 沼津市教育委員会 |
| 廣瀬高文 | 1994 | 「平畦遺跡・陣馬上B遺跡」 長泉町教育委員会 |

謝　　辞

本書をまとめるにあたり、以下の方々に御助言、御教授を賜った。また、社会福祉法人「悠雲寮」には多大なる調査協力と理解を得た。最後になったが心より感謝申し上げる。（順不同、敬称略）

池谷　信之、　鈴木　敏中、　関野　哲夫、　守屋　豊人、　廣瀬　高文、　平川　昭夫

黒耀石原産地分析計測結果一覧表

No.	遺物番号	判別図	解析1	解析2	距離1	距離2	確率1	確率2
1	18647	AGKTA	AGKTA	AGKTB	4.702	7.909	0.937163	0.062837
2	19980	AGKTA	AGKTA	AGKTB	1.477	14.138	0.999407	0.000593
3	19984	AGKTA	AGKTA	AGKTB	1.928	5.431	0.945331	0.054669
4	20472	AGKTA	AGKTA	AGKTB	1.391	9.649	0.994661	0.005339
5	20435	AGKTA	AGKTA	AGKTB	3.449	7.355	0.954861	0.045139
6	20457	AGKTA	AGKTA	AGKTB	2.492	8.531	0.983984	0.016016
7	18870	AGKTB	AGKTB	AGKTA	5.212	12.254	0.918537	0.081463
8	20451	AGKTA	AGKTA	AGKTB	2.014	10.061	0.99407	0.00593
9	20434	AGKTA	AGKTA	AGKTB	2.497	11.751	0.996749	0.003251
10	20629	AGKTA	AGKTA	AGKTB	7.004	13.532	0.987415	0.012585
11	19975	AGKTA	AGKTA	AGKTB	6.713	16.753	0.997803	0.002197
12	20546	AGKTA	AGKTA	AGKTB	0.178	13.563	0.999587	0.000413
13	18783	AGKTA	AGKTA	AGKTB	3.326	13.441	0.997884	0.002116
14	20604	AGKTA	AGKTA	AGKTB	3.011	10.351	0.991581	0.008419
15	18872	AGKTA	AGKTA	AGKTB	5.467	10.901	0.978136	0.021864
16	18648	AGKTA	AGKTA	AGKTB	0.967	11.865	0.998568	0.001432
17	20427	AGKTA	AGKTA	AGKTB	7.526	13.373	0.982399	0.017601
18	18785	AGKTA	AGKTA	AGKTB	4.85	5.044	0.731386	0.268615
19	20453	AGKTA	AGKTA	AGKTB	2.51	7.376	0.871586	0.028434
20	18984	AGKTA	AGKTA	AGKTB	11.168	12.589	0.856281	0.140719
21	13342	SWHD	SWHD	SBIY	5.389	61.004	1	0
22	20570	AGKTA	AGKTA	AGKTB	1.159	9.915	0.995834	0.004166
23	19201	AGKTB	AGKTB	AGKTA	4.146	10.842	0.895643	0.104357
24	20425	AGKTA	AGKTA	AGKTB	4.008	9.298	0.976885	0.023115
25	19198	SWHD	SWHD	SBIY	6.379	79.239	1	0
26	13200	SWHD	SWHD	WDTN	8.985	61.496	1	0
27	19313	WDTY	WDTY	WDKB	8.372	36.406	1	0
28	20951	TSTY	TSTY	TSHG	4.684	15.713	0.999709	0.000291
29	20999	SWHD	SWHD	WDTN	6.366	75.829	1	0
30	21092	WDKB	WDTK	WDKB	10.428	21.518	0.99122	0.00878
31	21211	HNHJ	HNHJ	HNKI	1.009	80.749	1	0
32	21526	HNHJ	HNHJ	HNKI	7.39	96.301	1	0
33	21718	SWHD	SWHD	SBIY	7.555	67.752	1	0
34	10885	KZOB	KZOB	KZSN	6.297	67.314	1	0
35	2633	SWHD	SWHD	SBIY	0.851	72.139	1	0
36	2662	HNHJ	HNHJ	HNKI	11.909	48.961	1	0
37	3707	SWHD	SWHD	SBIY	10.662	68.935	1	0
38	表採	WDTY	WDTY	WDKB	1.838	45.943	1	0

AGKTA—天城柏崎、AGKTB—天城柏崎、SWHD—鹿跡星ヶ台、WDTN—和田土屋横南、WDTY—和田唐山
 WDKB—和田小深沢、WDTK—和田土屋横北。TSHG—蓼科双子山、TSTY—蓼科冷山、HNKI—若根黑岩崎
 HNHJ—若根烟管、KZOB—神津島恩賜島、KZSN—神津島砂糖崎

旧石器時代の出土石器一覽表

番号	表面 仕様	プロック 番号	規格 No.	単位	規格	石材	原産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 量 (kg)	X価値		Y価値	H価値
												寸	寸		
21174	S	18- 2	ZYL ナラ木目面	枚	WD17	22.5	9.2	3.8	0.8	-	-	34127.853	55706.205	104.28	
21170	S	18- 3	ZYL ナラ木目面	枚	WD17	21.2	13.2	4.5	1.1	-	-	34122.026	55675.261	103.22	
21630	S	18- 4	ZYL ナラ木目面	枚	WD17	67.5	20.0	5.7	1.0	-	-	34123.224	55674.441	103.22	
21618	S	18- 5	ZYL ナラ木目面	枚	WD17	67.5	20.0	5.7	1.0	-	-	34124.077	55674.077	103.22	
21619	S	18- 6	ZYL ナラ木目面	枚	WD17	65.5	65.0	27.8	151.0	-	-	34105.568	55737.701	102.66	
21712	S	18- 7	ZYL 別面	枚	WD17	68.5	49.8	29.8	95.1	-	-	34125.930	55741.029	104.01	
21645	S	18- 8	ZYL 別面	枚	WD17	98.7	44.5	14.8	43.8	-	-	34110.225	55746.427	104.01	
21646	WRD3	18- 9	ZYL 別面	枚	WD17	98.7	27.0	14.8	43.8	-	-	34110.225	55746.427	104.01	
21706	S	18-10	ZYL 別面	枚	WD17	68.5	49.8	29.8	95.1	-	-	34121.367	55744.012	104.11	
21620	WRD3	18-11	ZYL 別面	枚	WD17	65.5	14.7	9.1	2.4	-	-	34105.167	55796.924	104.11	
21619	S	18- 1	ZYL 別面	枚	WD17	91.0	14.7	7.9	3.1	-	-	34114.957	55741.226	104.11	
21622	S	18- 2	ZYL 別面	枚	WD17	20.2	26.3	7.6	8.0	-	-	34104.894	55739.838	103.74	
21628	S	18- 3	ZYL 別面	枚	WD17	24.0	11.2	7.6	8.0	-	-	34104.528	55750.502	103.74	
21631	S	18- 4	ZYL 別面	枚	WD17	24.0	11.2	7.6	8.0	-	-	34104.528	55750.502	103.74	
21632	S	18- 5	ZYL 別面	枚	WD17	22.5	18.4	6.2	2.8	-	-	34114.358	55740.150	103.43	
21633	S	18- 6	ZYL 別面	枚	WD17	20.7	17.0	4.9	0.6	-	-	34120.205	55728.795	103.54	
21634	S	18- 7	ZYL 別面	枚	WD17	18.1	15.1	6.5	1.2	-	-	34114.888	55738.704	103.54	
21837	S	18- 8	ZYL 別面	枚	WD17	67.2	41.5	12.2	34.7	-	-	34105.175	55752.285	104.11	
21841	S	18- 9	ZYL 別面	枚	WD17	67.2	41.5	12.2	34.7	-	-	34110.175	55752.285	104.11	
21842	S	18-10	ZYL 別面	枚	WD17	61.5	49.8	15.6	6.2	-	-	34117.297	55746.511	104.11	
21843	WRD3	18-11	ZYL 別面	枚	WD17	37.6	14.0	7.1	4.4	-	-	34122.299	55748.279	101.65	
21844	S	18- 1	ZYL 別面	枚	WD17	62.6	47.5	29.8	47.1	-	-	34108.992	55745.219	103.74	
21845	S	18- 2	ZYL 別面	枚	WD17	21.0	10.8	6.3	1.5	-	-	34114.815	55734.563	103.74	
21847	S	18- 3	ZYL 別面	枚	WD17	21.0	10.8	6.3	1.5	-	-	34114.815	55734.563	103.74	
21848	S	18- 4	ZYL 別面	枚	WD17	30.6	16.8	12.0	12.0	-	-	34104.528	55740.150	103.43	
21849	S	18- 5	ZYL 別面	枚	WD17	18.1	15.1	6.5	1.2	-	-	34110.541	55739.785	101.65	
21850	S	18- 6	ZYL 別面	枚	WD17	28.6	18.2	7.2	4.0	-	-	34104.541	55739.785	102.54	
21851	WRD3	18- 7	ZYL 別面	枚	WD17	42.8	8.8	6.5	7.2	-	-	34109.879	55737.744	104.11	
21852	WRD3	18- 8	ZYL 別面	枚	WD17	39.9	28.0	11.6	14.0	-	-	34109.879	55737.744	104.11	
21853	WRD3	18- 9	ZYL 別面	枚	WD17	67.2	36.0	15.0	27.7	-	-	34109.076	55731.721	101.38	
21854	WRD3	18-10	ZYL 別面	枚	WD17	44.8	22.6	10.0	13.2	-	-	34109.331	55732.061	101.38	
21855	WRD3	18-11	ZYL 別面	枚	WD17	49.0	31.5	17.2	53.3	-	-	34109.709	55733.186	101.54	
21857	WRD3	18- 1	ZYL 別面	枚	WD17	36.1	26.0	8.0	5.8	-	-	34107.842	55730.502	103.09	
21858	WRD3	18- 2	ZYL 別面	枚	WD17	68.5	52.4	12.8	45.0	-	-	34107.467	55730.502	103.09	
21859	S	18- 3	ZYL 別面	枚	WD17	31.0	16.8	5.8	3.4	-	-	34104.989	55748.705	104.08	
21861	S	18- 4	ZYL 別面	枚	WD17	65.9	44.0	18.6	49.5	-	-	34109.300	55748.597	104.08	
21705	S	18- 5	ZYL 别面	枚	WD17	23.2	15.5	7.3	2.0	-	-	34107.901	55735.245	101.74	
21706	S	18- 6	ZYL 别面	枚	WD17	65.9	44.0	18.6	49.5	-	-	34107.901	55735.245	101.74	
21707	S	18- 7	ZYL 别面	枚	WD17	65.9	28.7	15.0	45.3	-	-	34109.211	55745.406	104.06	
21710	S	18- 8	ZYL 别面	枚	WD17	52.2	43.3	25.4	45.0	-	-	34109.389	55745.267	104.11	
21711	S	18- 9	ZYL 别面	枚	WD17	52.0	20.0	6.6	2.7	-	-	34109.483	55740.742	103.74	
21712	S	18-10	ZYL 别面	枚	WD17	43.8	16.7	8.0	4.0	-	-	34109.288	55740.519	103.74	
21713	S	18-11	ZYL 别面	枚	WD17	46.0	46.0	11.1	18.8	-	-	34109.288	55740.519	103.74	
21862	S	18- 1	ZYL 别面	枚	WD17	6.8	4.4	1.4	6.1	-	-	34104.966	55733.934	103.54	

付編 静岡県池田B遺跡における放射性炭素年代測定

付編 静岡県、池田B遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. 試料と方法

No.	試 料	試料の種類	前処理・調製	測定法
1	1号集石焼土	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)
2	2号集石焼土	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)
3	1号住居跡炉中	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)
4	5号住居跡覆土中	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)
5	焼土9	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)
6	8号住居跡覆土	炭化物	酸/アルカリ/酸洗浄 石墨調製	AMS法 (加速器質量分析法)

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	曆年代	測定No. Beta-
No. 1	9600±50	-25.5	9590±50	交点 BC 9125, 8990, 8910 2σ BC 9205 TO 8765 1σ BC 9160 TO 9080, BC 9035 TO 8805	127647
No. 2	9520±50	-27.7	9480±50	交点 BC 8760 2σ BC 9115 TO 8995, BC 8895 TO 8880, BC 8845 TO 8625 1σ BC 8795 TO 8720	127648
No. 3	4820±50	-29.0	4750±50	交点 BC 3620, 3590, 3525 2σ BC 3645 TO 3490, BC 3465 TO 3375 1σ BC 3635 TO 3510, BC 3420 TO 3390	127649
No. 4	6230±50	-27.0	6200±50	交点 BC 5210, 5155, 5150 2σ BC 5295 TO 5005 1σ BC 5255 TO 5060	127650
No. 5	9530±50	-26.1	9510±50	交点 BC 8780 2σ BC 9135 TO 8980, BC 8930 TO 8690 1σ BC 9105 TO 9010, BC 8820 TO 8745	127651
No. 6	6240±50	-25.3	6240±50	交点 BC 5240 2σ BC 5315 TO 5050 1σ BC 5290 TO 5205, BC 5170 TO 5085	127652

(2σ : 95% probability, 1σ : 68% probability)

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 历年代

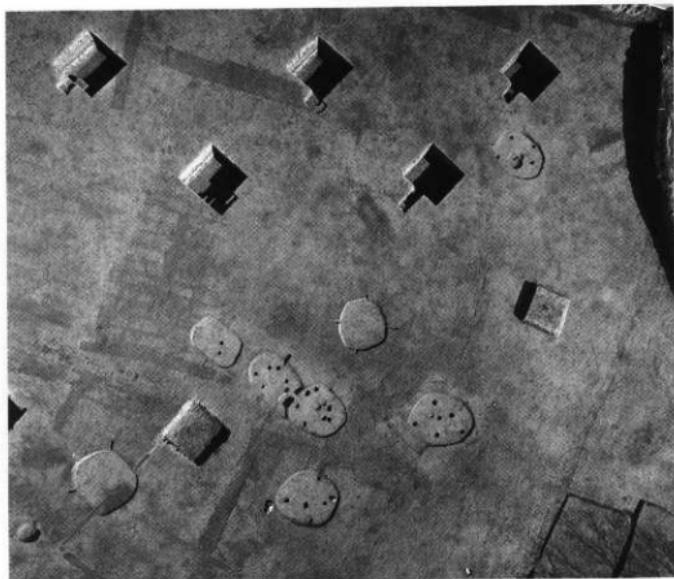
過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、歴年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年BPより古い試料には適用できない。

5) 測定Na

測定は、Beta Analytic Inc. (Florida, U.S.A)において行われた。Beta-は同社の測定Naを意味する。

写 真 図 版

図版 1

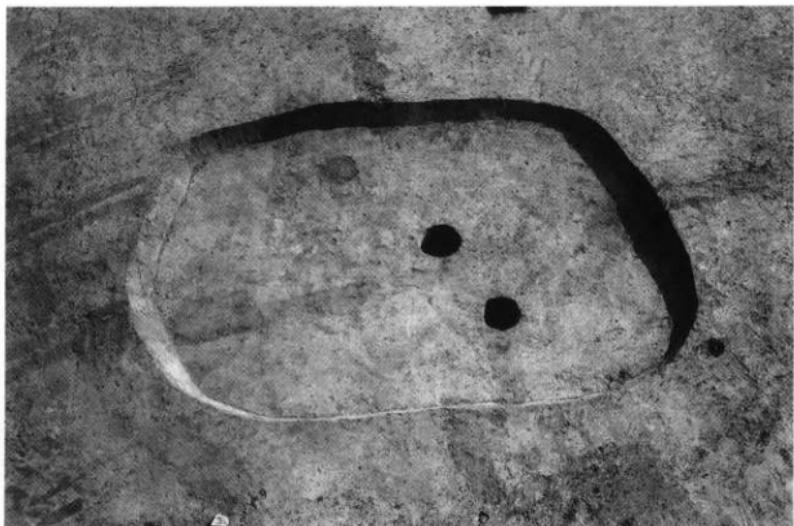


(1) 住居跡全景

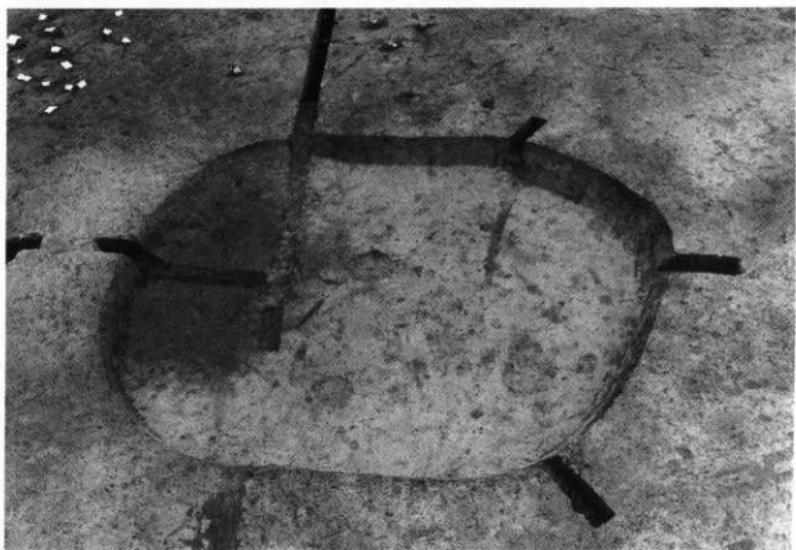


(2) 方形周溝状遺構

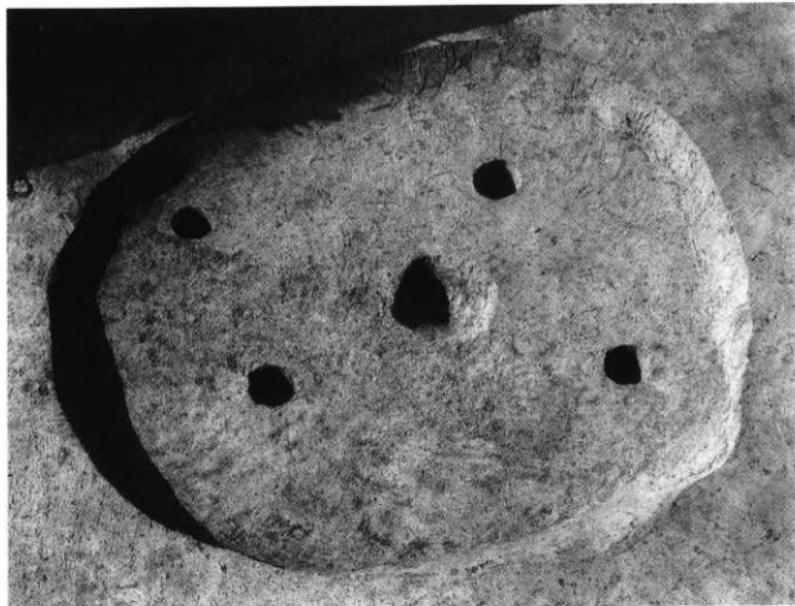
図版2



(1) 1号住居跡完掘状況



(2) 2号住居跡完掘状況



(1) 4号住居跡完掘状況



(2) 4号住居跡遺物出土状況

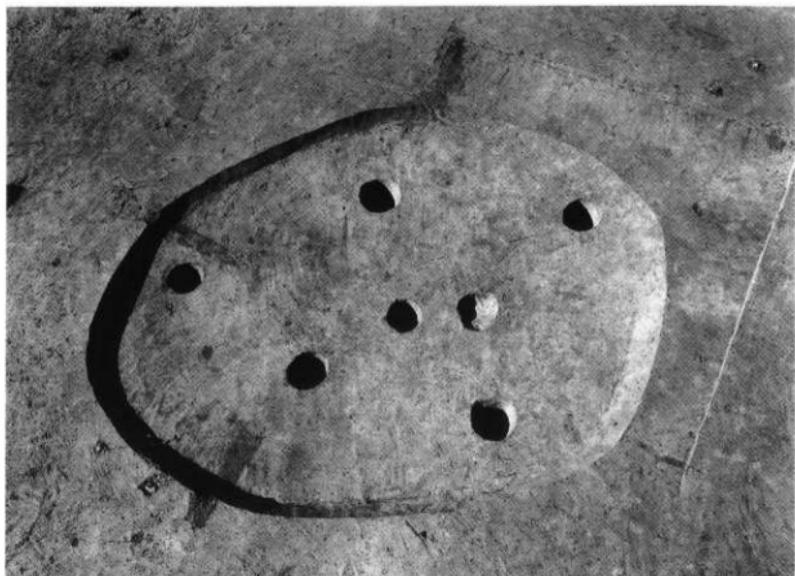


(3) 石斧出土状況

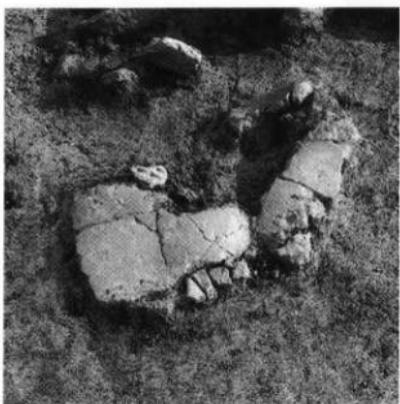


(4) 耳飾出土状況

図版4



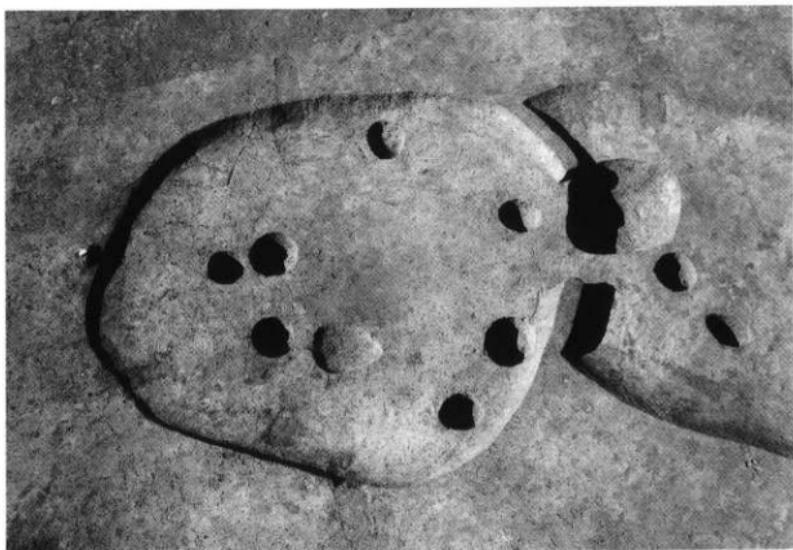
(1) 5号住居跡完掘状況



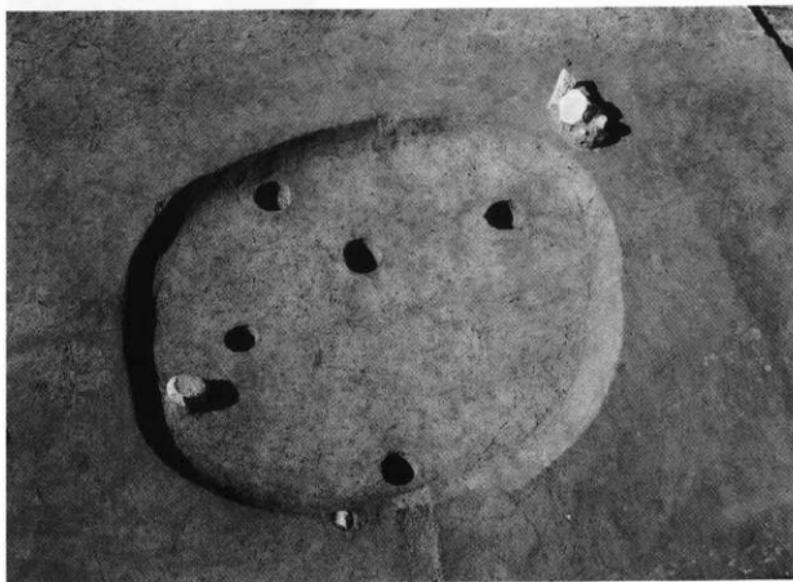
(2) 5号住居跡遺物出土状況1



(3) 5号住居跡遺物出土状況2

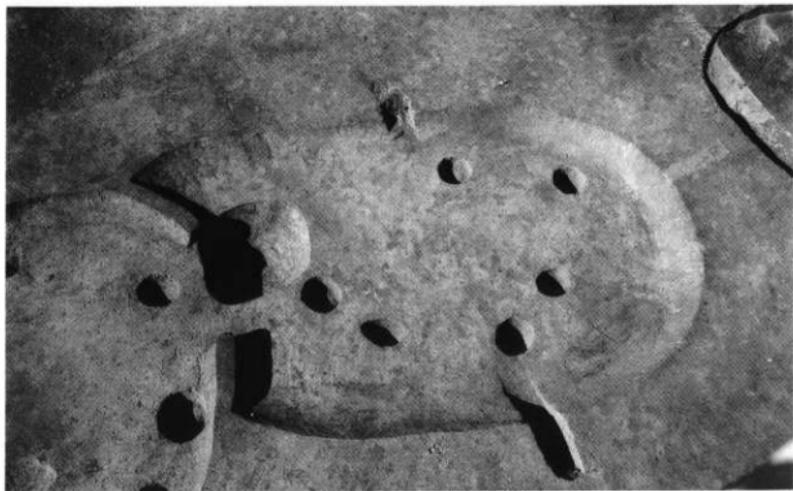


(1) 6号住居跡発掘状況

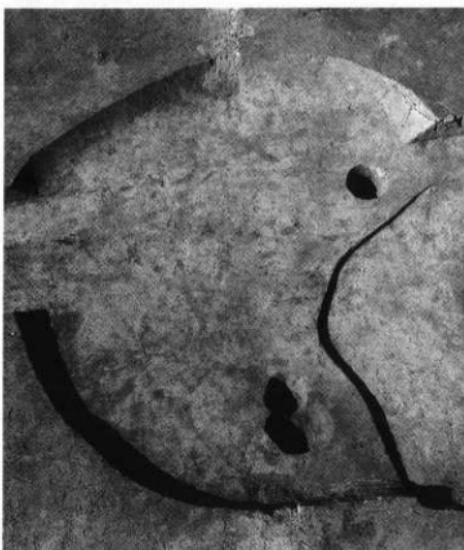


(2) 7号住居跡発掘状況

図版6



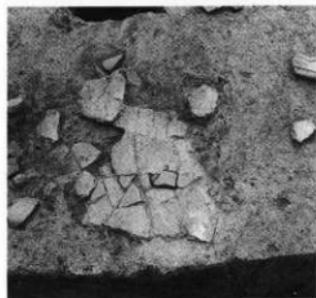
(1) 8号住居跡完掘状況



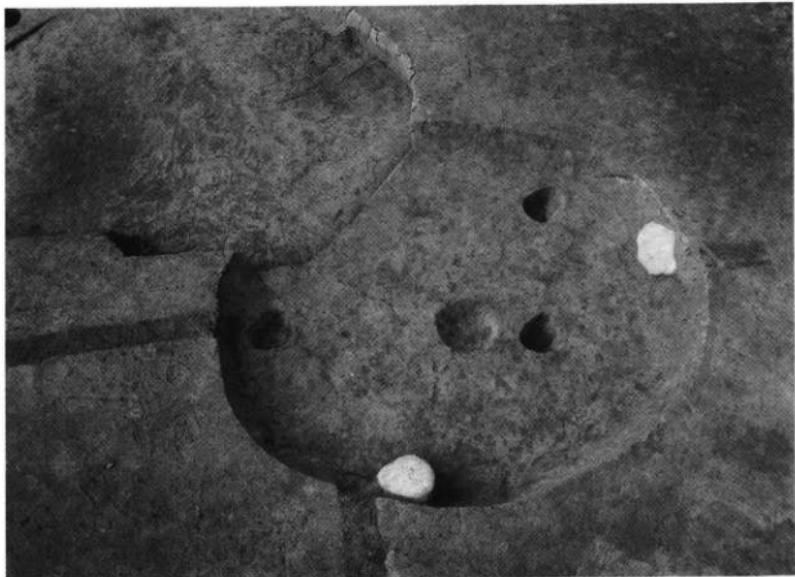
(3) 9号住居跡完掘状況



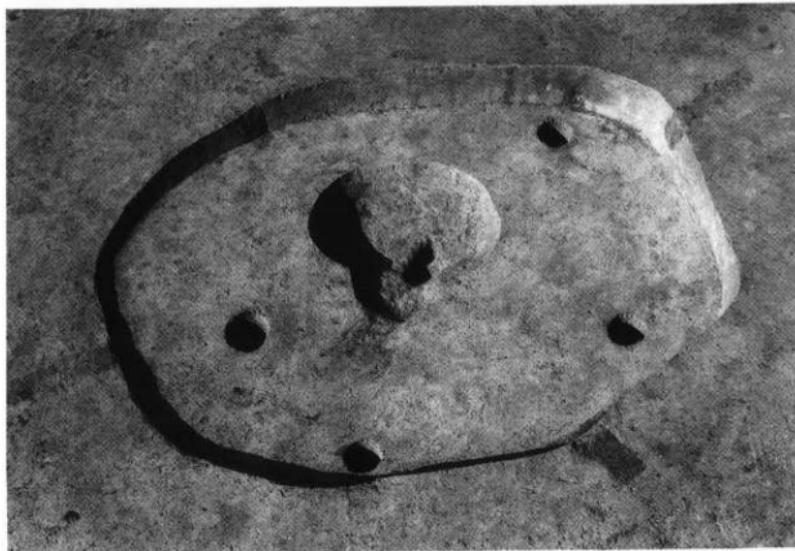
(2) 8号住居跡遺物出土状況



(4) 9号住居跡遺物出土状況



(1) 10号住居跡完掘状況

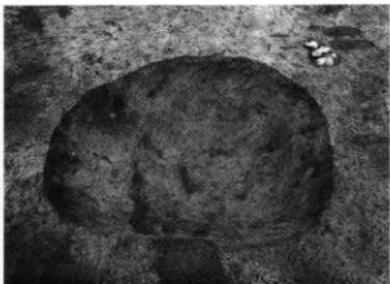


(2) 11号住居跡完掘状況

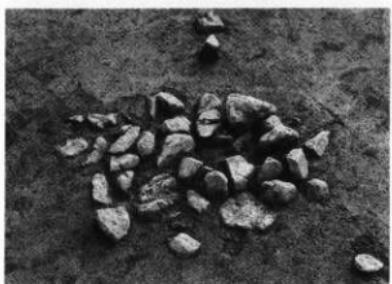
図版8



(1) 1号集石出土状況



(2) 1号集石完掘状況



(3) 2号集石出土状況



(4) 2号集石完掘状況



(5) 3号集石出土状況



(6) 4号集石出土状況



(7) 6号集石出土状況

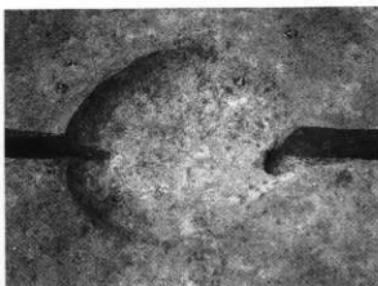


(8) 8号集石出土状況

図版9



(1) 5号集石出土状況

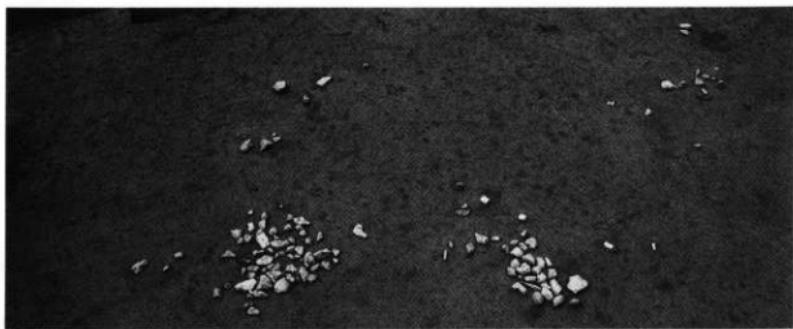


(2) 5号集石完掘状況



(3) 黒曜石埋納土坑検出状況

図版10



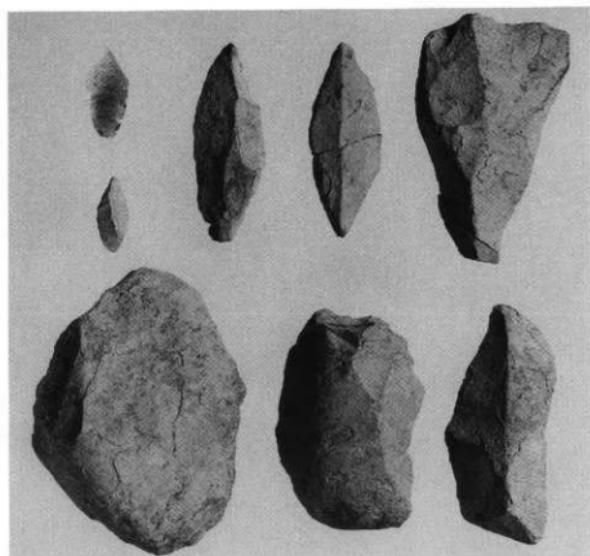
(1) 1号・2号砾群出土状況



(2) 9~12号砾群出土状況



(3) 6号・7号砾群
出土状況

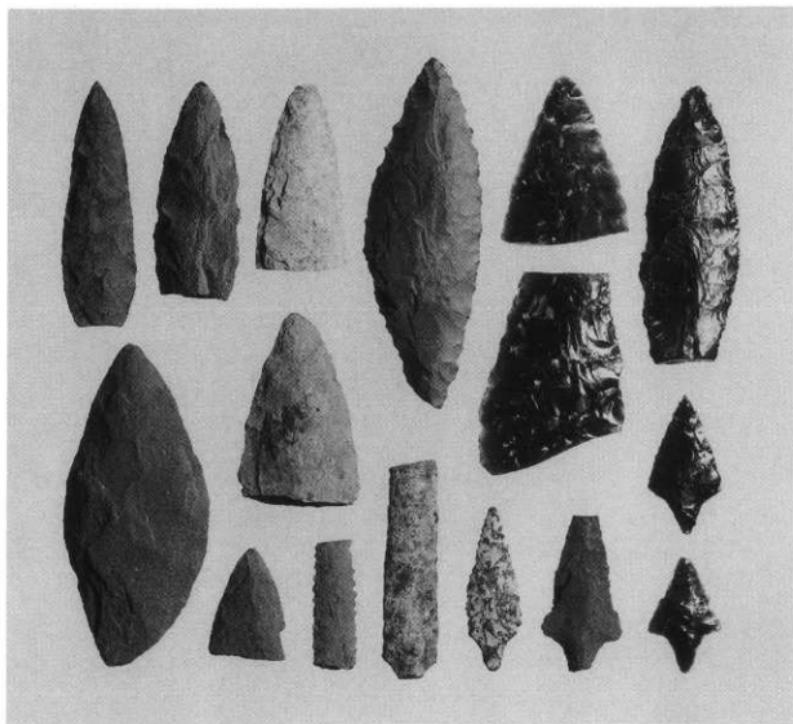


(1) 休場層直下黒色帶出土遺物

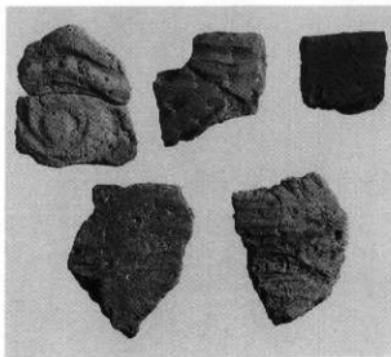


(2) 休場層出土遺物

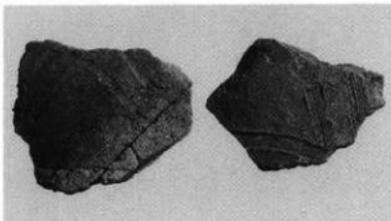
図版12



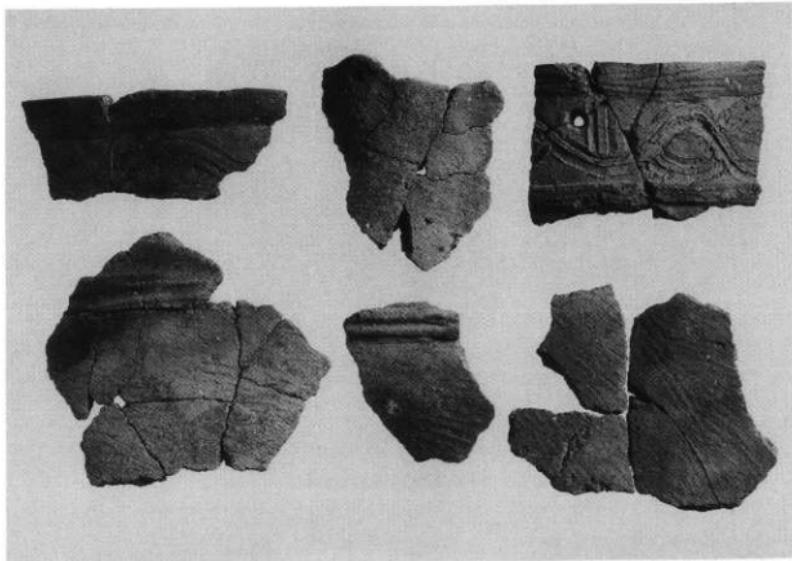
(1) 尖頭器・有舌尖頭器



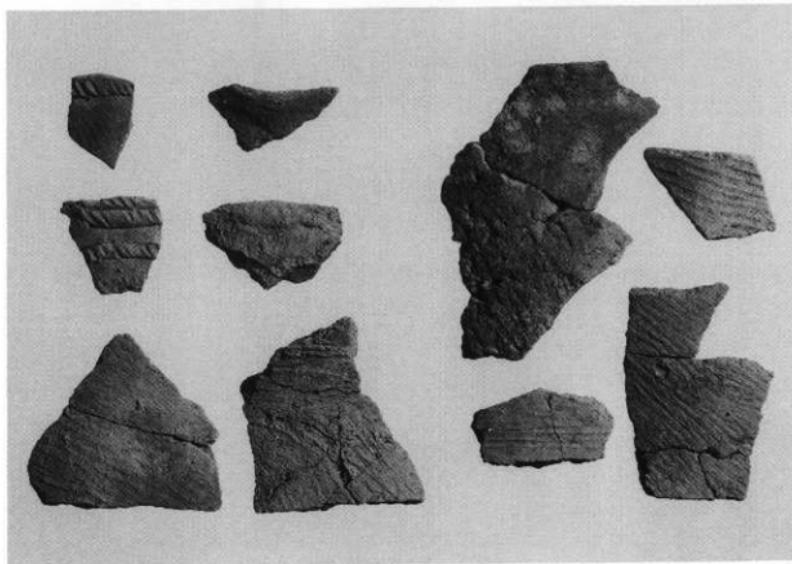
(2) 2号住居跡出土土器



(3) 6号住居跡出土土器

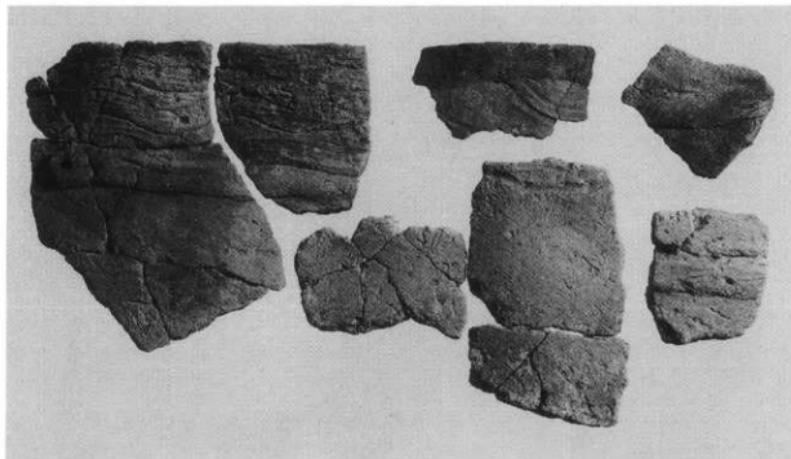


(1) 4号住居跡出土土器

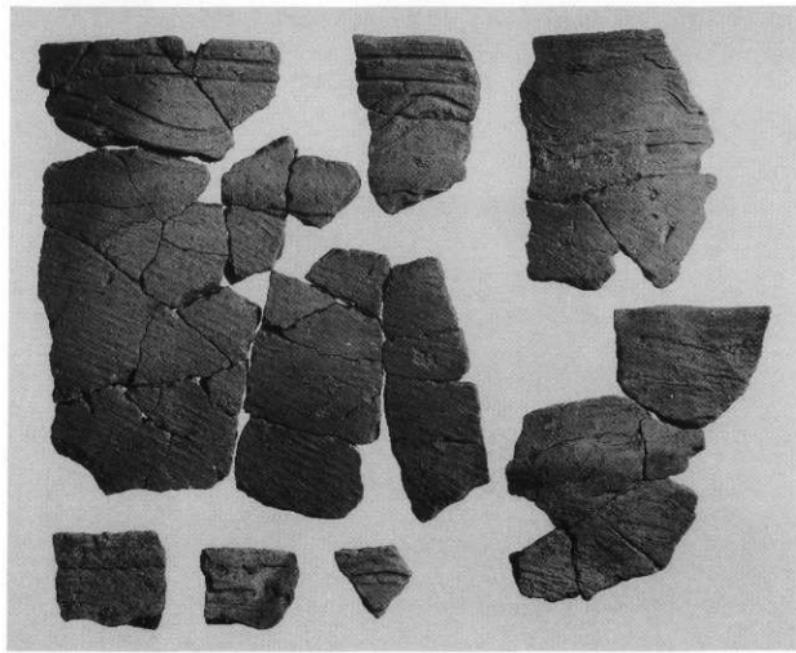


(2) 7号・10号住居跡出土土器

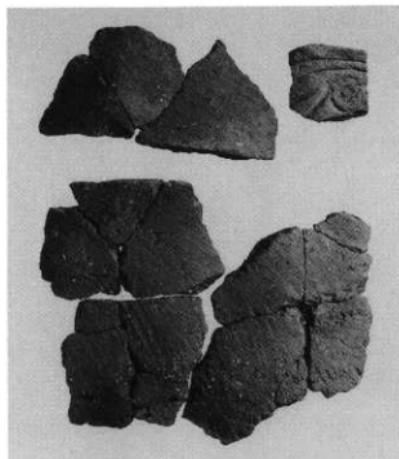
図版14



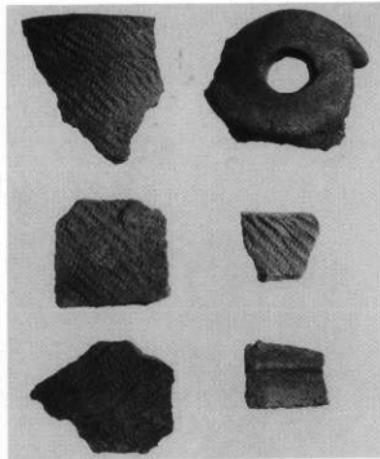
(1) 5号住居跡出土土器



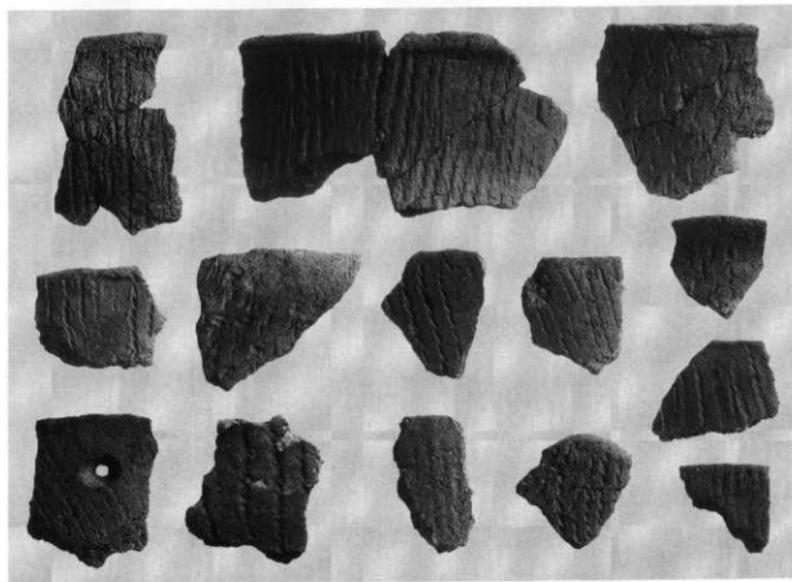
(2) 9号住居跡出土土器



(1) 8号住居跡出土土器

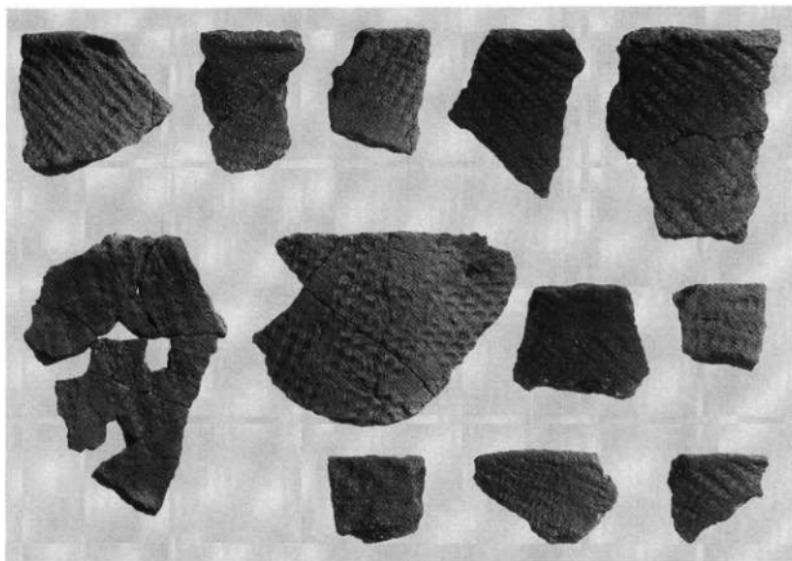


(2) 11号住居跡出土土器

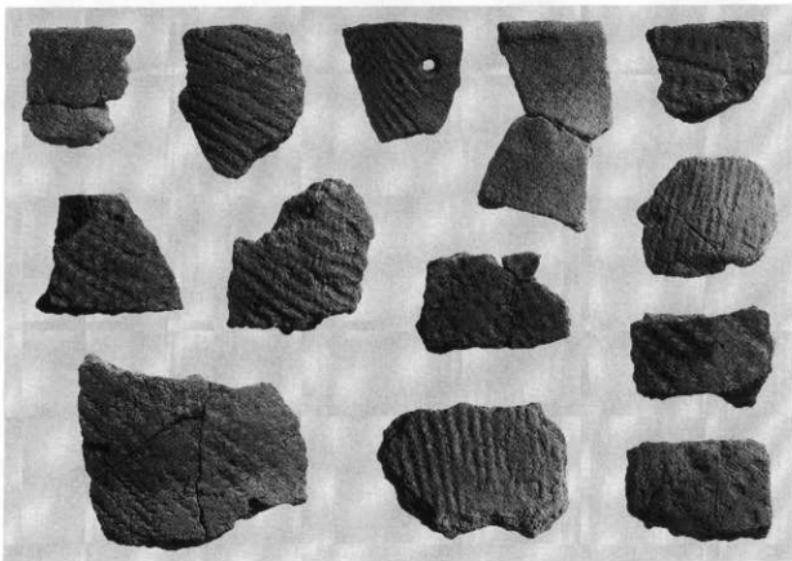


(3) I群a類土器

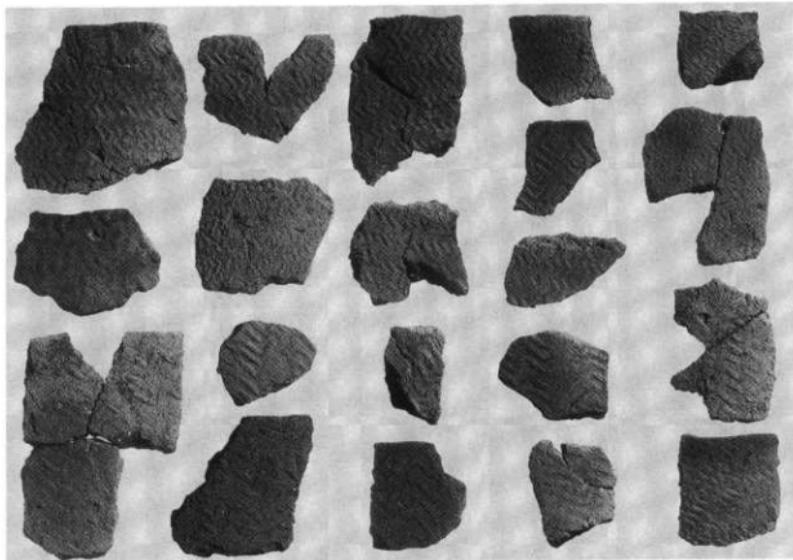
図版16



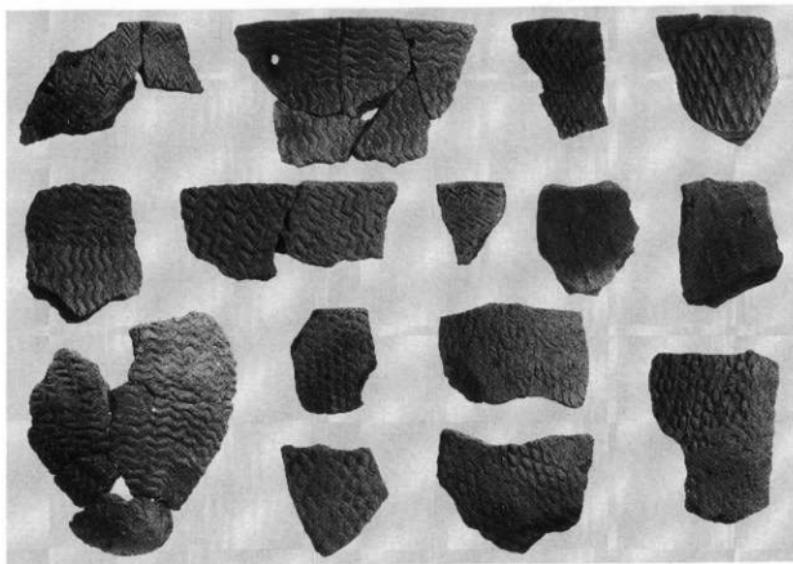
(1) I群 b 類土器 1



(2) I群 b 類土器 2

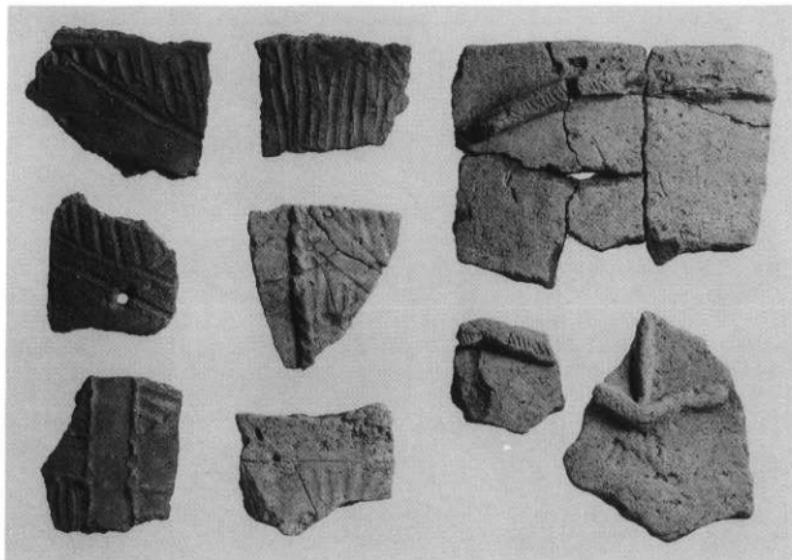


(1) II群土器1

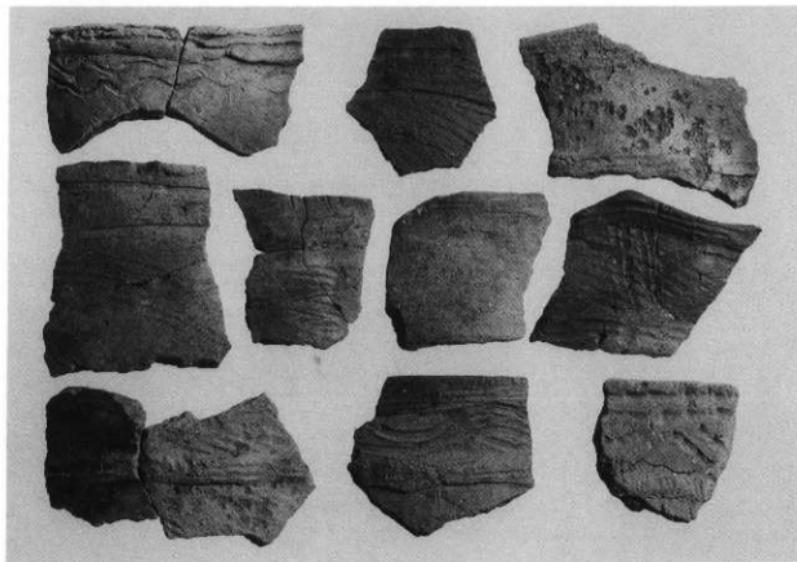


(2) II群土器2

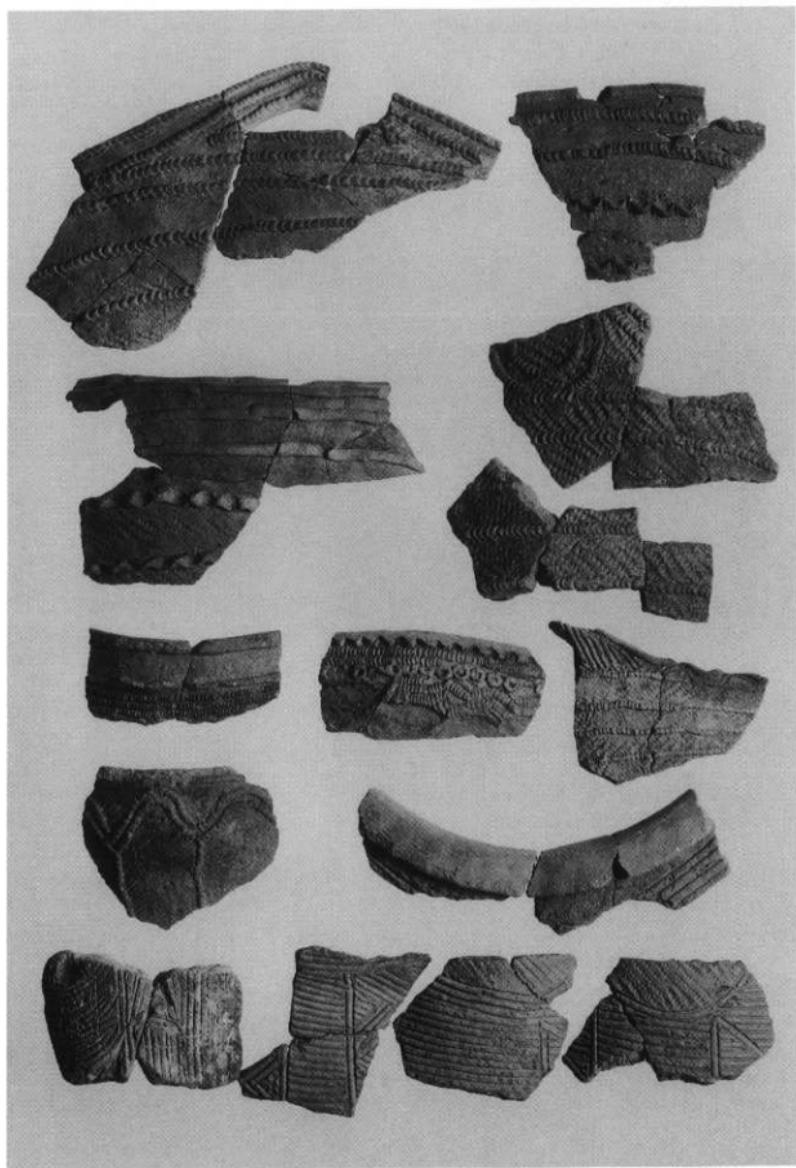
図版18



(1) III群土器

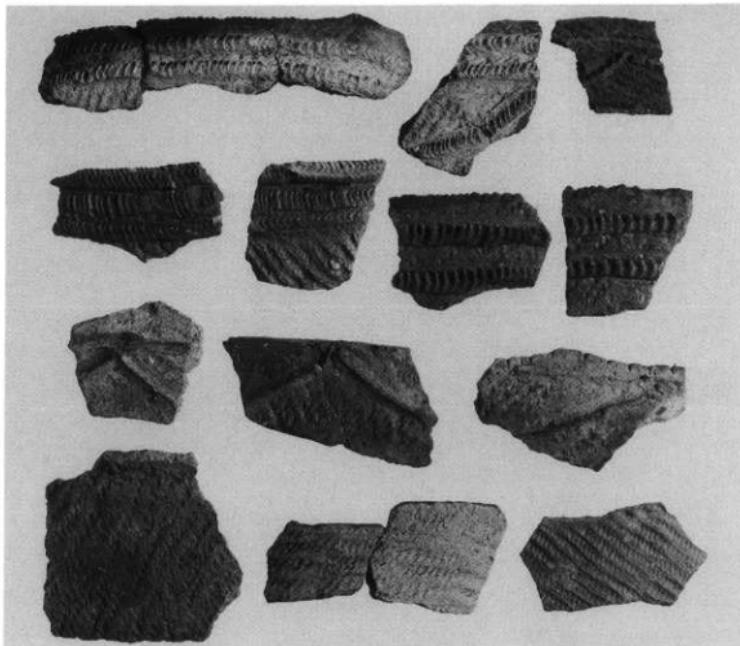


(2) III群e類土器

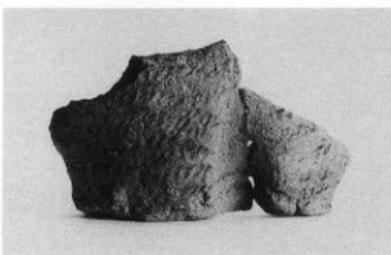


(1) IV群土器

図版20



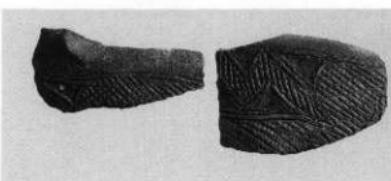
(1) IV群b類土器



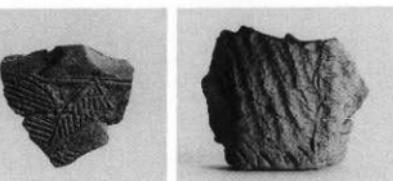
(2) IV群土器底部



(3) IV群土器底部



(4) IV群土器



(5) IV群土器底部



(1) III群土器



(2) IV群土器



(3) IV群土器

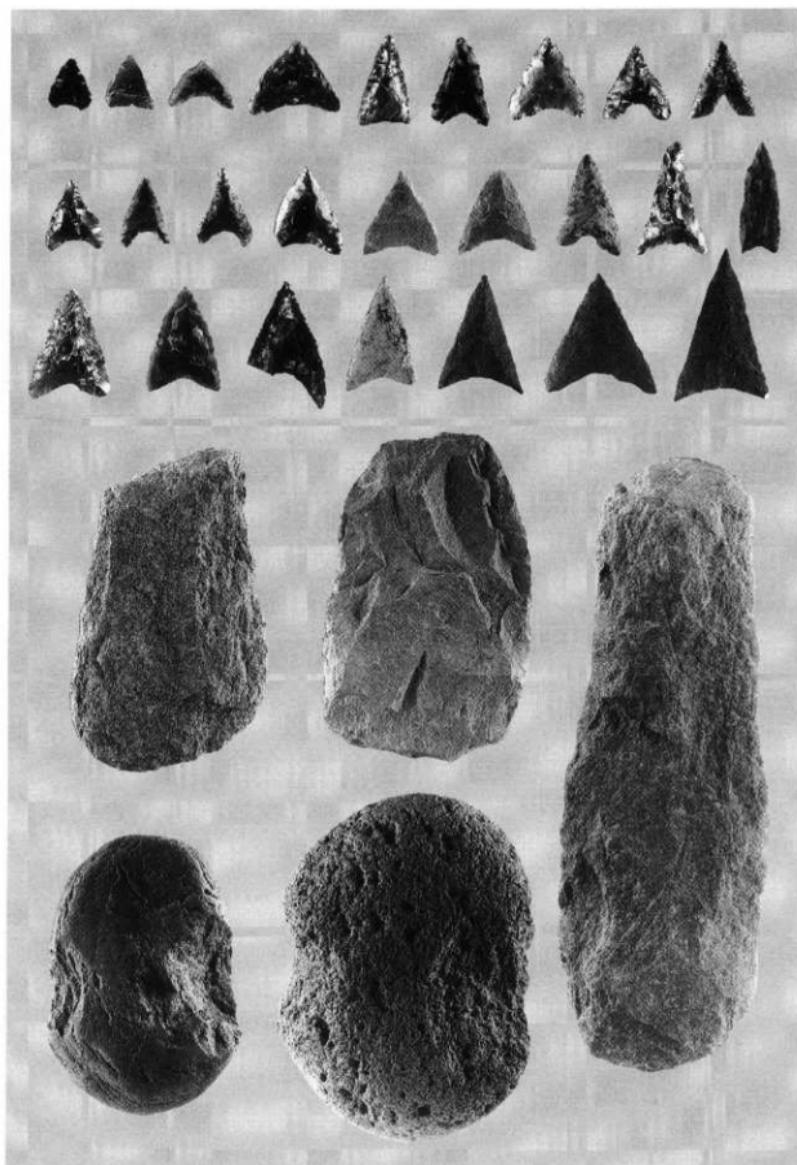


(4) IV群土器

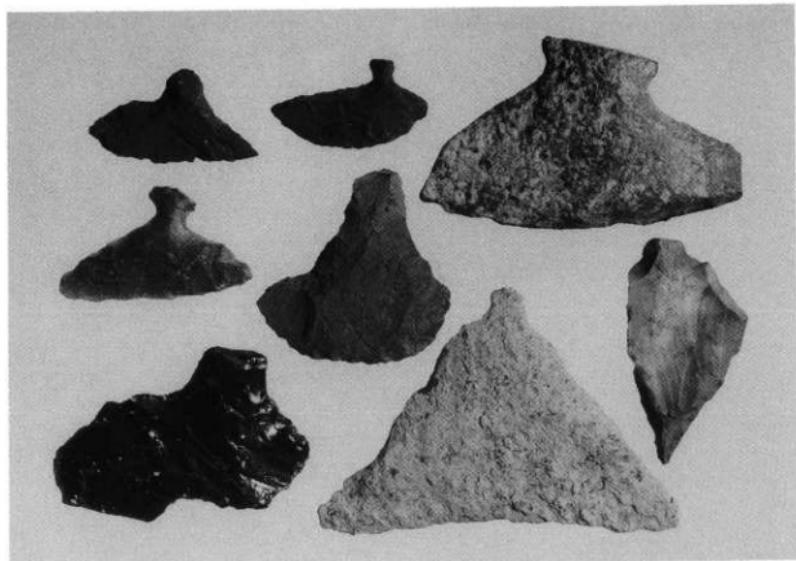


(5) 方形周溝状遺構出土土器

図版22



(1) 石鎌・石斧・磨石・敲石



(1) 石七



(2) 作業風景

<調査参加者一覧>

赤松 武	足立 信雄	阿部 正人	池田 博敏	石井 則雄	内田 長郎
太田 光次	大坪 清吉	勝又 信二	加藤 博正	金井 徹	金成 勉
木下 輝男	栗原 計二	河野 新一	小出 寛治	後藤 馨	後藤 博
齊藤 豪一	齊藤 晋	清水 福一	志村 務	下山 貢	杉山 茂夫
杉山 佳久	武士 晴信	田崎 春雄	館林 太一	鈴木 正蔵	富永 保
中津 雅俊	長澤 実雄	西島 茂	藤井 章夫	藤田 正夫	増田 寿樹
水落 安治	宮前 清一	森嶋富士夫	森田 明博	山口 博規	山本 良作
吉田 友彦	渡辺 昇	吉村たまみ	岩間 昭子	越後さつき	小川 春美
加藤 直美	神田 綾美	重信美知子	杉山 陽子	鈴木 謙美	鈴木とき江
世利三津子	高田みゆき	土屋みどり	津々野詩織	中村 秋江	藤村 明美
村川 裕子	山本 洋子	横田 瞳子			

<遺物写真撮影>

齊藤 晋

<石材同定>

森嶋富士夫

報告書抄録

ふりがな	いけだびーいせき							
書名	池田B遺跡							
副書名	平成11年度 東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告							
シリーズ番号	第122集							
編著者名	佐原千賀子 吉村たまみ							
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市谷田23-20 TEL 054-262-4261							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
池田B	静岡県東部長泉町鉄平1118	22342	37	35° 9' 10"	138° 53' 40"	1998年10月 ~ 1999年5月	11,649m ²	東駿河湾環状道路建設に伴う緊急調査
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
池田B遺跡	集落	旧石器	礫群、石器ブロック	尖頭器、ナイフ形石器、搔器				
		縄文早期	黒曜石埋納土坑住居跡、集石	撚糸文系土器、押型文土器、下吉井式土器、石器類		柏崎産黒曜石剥片200点の埋納土坑		
		縄文前末期	住居跡	十三菩提式土器、大歳山式土器				

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第122集

池田B遺跡

平成11年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成12年3月31日

発行所 財團法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
TEL (054)262-4261㈹
印刷所 みどり美術印刷株式会社
沼津市沼北町2丁目16番19号
TEL (0559)21-1839㈹